明治三十三年十二月廿五日第三種郵便物認可
明治四十二年八月一日發行毎月一回一日發行



女學世界

第九巻第十號

避暑號

博文館發行

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

美顔料として世界に名高き美顔水



淑女令嬢方は常に美顔水を愛用す

品質精良にして色を白くしきめをこまかにつやを出す効力は天下類なし又おしろいのとき水として化粧に用ゆれば巧妙なる作用にておしろい濃く淡く心の儘にのび常に用ゆれば花の顔ばせ雪の肌となる眞に美顔料として重寶なる發明品なり

定價 拾五錢、廿五錢
特別製五拾錢

○本品御購求の節は化粧用美顔水と御指名を乞ふ

▲東京市内は勿論日本全國各地到る所の有名なる化粧品小間物店にて販賣す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

三越と營業科目

一新柄呉服物類
一新流行太物類
一歐米流行洋服類
一半襟、帯揚、帯〳〵類
一香水、石鹸及化粧品類
一手巾、襟飾及シャツ類

一紙入、銀貨入等袋物類
一肩掛、羽織紐其他糸組物類
一櫛、笄、簪等小間物類
一玩具其他兒童用品類
一帽子、洋傘、履物類
一文房具及學校用品類

一時計、指輪等貴金屬類
一靴、鞄及旅行用品類
一シガア及シガレット類
一窓掛、屏風其他室内装飾品類
一繪畫、陶磁器等新美術品類
一各種新式寫眞撮影

デパアトメント、ストーア

東京日本橋

三越呉服店

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



女學世界第九巻

子供の教育に就て（三）……大山侯爵夫人
興味ある山中の避暑（五）……井深花子女史
田園趣味の家の設備（一〇）……寺田勇吉氏
新工夫の席上體操（一八）……嘉納治五郎氏
質屋のお客さん（二三）……エス、ユウネ
夏座敷（二八）……目賀田男爵夫人
福田博士の離婚事情（三八）……婦人記者
夏の新橋驛（四七）……秋雨
避暑の枝折……（五三）
△小説 暑中休暇……いさを
△小説 松風……千代子
△小説 磯のかほり……晶子
◎夏の旅……（玉井芳子）
お嬢様の品性（八八）……水島ちどり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



第拾號目次

珍しき古風な家庭（九六）……花賣女

風俗記事（九九）

△東北の雄鎮仙臺市……さみどり女

△蠻勇氣質の鹿兒島風俗……とし子

△稻荷のなき伏見町……むらさめ

◎夏の花……（らく子）

不幸なる代議士の家庭（一三〇）……月待女

婦人の姿を美しくする法（一五四）……田邊理學士

避暑する人の幸なき身の上（一六二）……昭子

◎夏の洗濯法　◎すゞみ臺　◎雲の峰　◎夏の衛生

海濱趣味生活松風料理（一七二）……玉簾

新式和歌作法（一七九）……停春

◎和歌　◎短文其他

口繪——夕ばえ（原色版）　木蔭（蘭香）　浦風（渉二）　磯い波（百穂）　繪はがき（與平）

外に寫眞版八頁



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新製

御料たつた

純無鉛白粉

◉此白粉出で、ことしの夏こそ



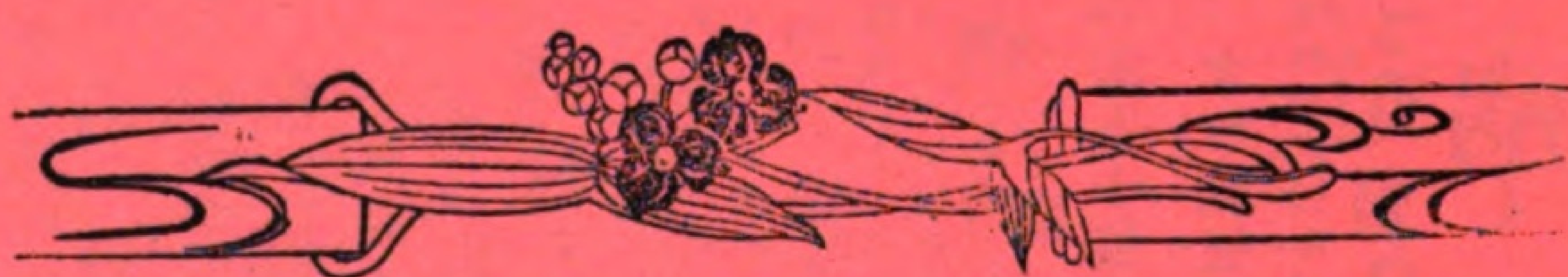
◉お顔の艶の一際見違ふべく候

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京京橋南傳馬町

電話本局三十番三千番 ◉ 振替口座九二九三番

流行の帯留　大西白牡丹



銀彫刻金色繪
澤瀉の金具付
金四圓



銀彫刻金色繪
銀杏の金具付
金四圓



十八金透し彫
金剛石一個入
金貳拾五圓



十八金西洋花
金剛石三個入
金参拾五圓

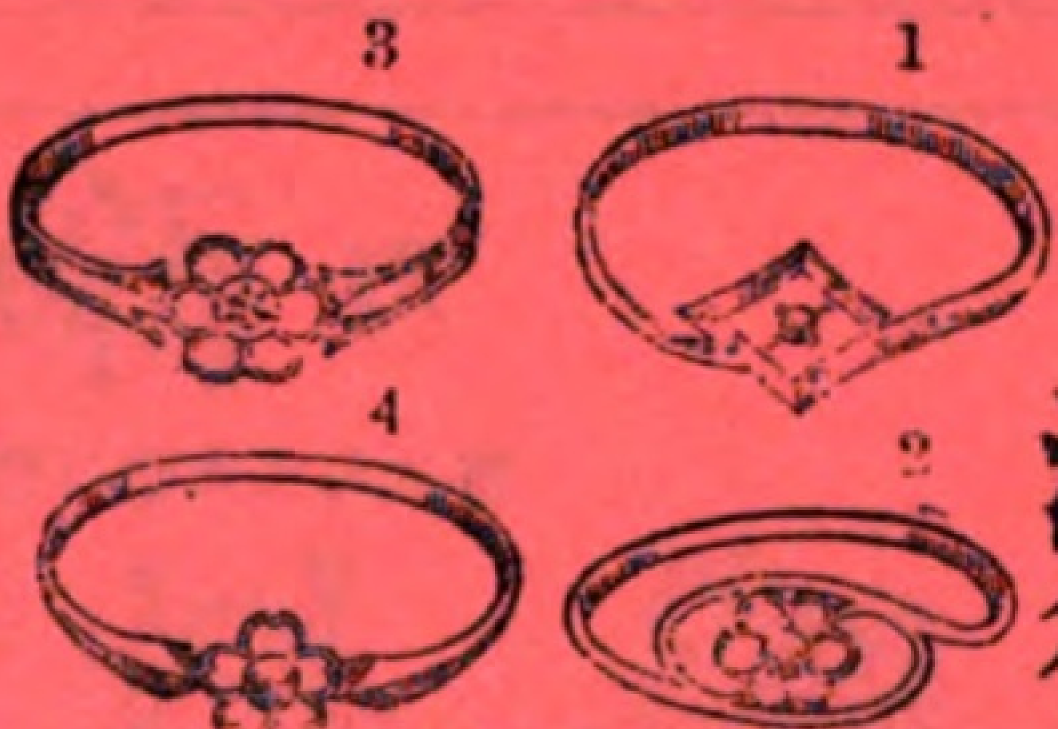


十八金彫刻
粟の圖金具付
金拾六圓半

女(いの一)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

流行時計指環類



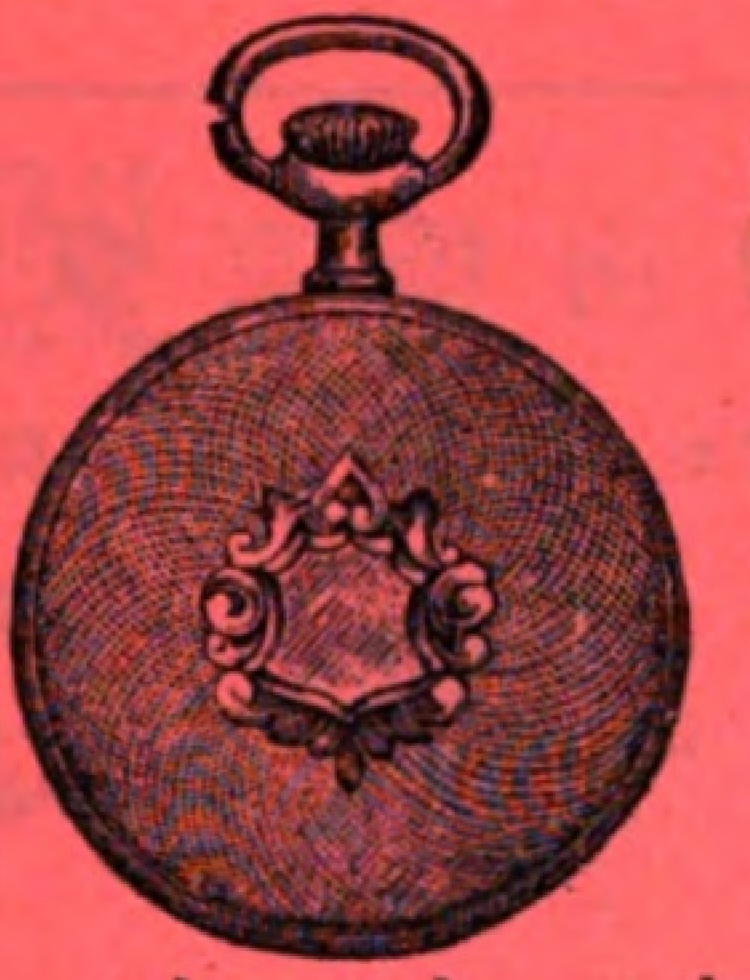
（1）十二金製電形眞珠入
指環價一圓八十錢

（2）十二金製水形眞珠入
指環價一圓四十錢

（3）十二金製中劍形光石入
指環價一圓四十錢

（4）十二金製櫻形眞珠入
指環價一圓三十錢

（但何れも絹天箱付）



十四金無地側無双十一形中蓋付器械ニッケル石入シリンドル頭引飯廻シ龍頭卷
時計　價金拾九圓五拾錢

九金斜子側無双十一形中蓋付器械ニッケル石入シリンドル頭引飯廻シ龍頭卷
時計　價金拾七圓參拾錢

九金無地側無双十一形中蓋付器械ニッケル石入シリンドル頭引飯廻シ龍頭卷
時計　價金拾七圓八拾錢

貴婦人用金着鎖り
參圓六十錢、四圓五十錢、五圓二十錢

拾八金鎖り
拾貳圓五十錢、十五圓五十錢、廿參圓

●地方御注文は郵送料拾貳錢申受候

時計眼鏡貴金屬指環類

東京淺草區茅町二丁目六番地

大隅商店

電話下谷六五七番

最上醤油

キハク印

一番

醸造元

千葉縣野田町

茂木七郎右衛門

電信略號ハク又キハク

東京支店

日本橋小網町三丁目

中野長兵衛

電話浪花百七十七番

女(いの二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼石鹼の良否を比較研究せんとする人に告ぐ▲

篤志家の紹介に依りて研究の材料にする無代價寄贈の石鹼の事を東京本所區綠町四丁目の芳誠舍に聞合せしに發表以來申込數實に數萬に達し石鹼改良上豫想外の効果を得しは本懐なりとて舍主の喜び非常なりしが何分際限なき申込にて遙に既定數を超過せしのみならず資力の耐ふべき所でないから不得止實價の**三分の二**丈け申受くる事にしたと申されました成程**無理のなき**嘶し故私も二三組買受けましたが營業品にて營業販賣でないから價格といふも**氣の毒な程**安いものです其種類及附屬書類を同好のお方に紹介します

◎第一種 純良無濺 機械煉製 ホルマリン石鹼

◎第二種 同上一號 羽車麝香石鹼

◎第三種 同上 一號虎印石鹼

◎第四種 焚製 純良 ペリカン浮石鹼

◎第五種 普通上品 機械煉製 ムラサキ石鹼

◎第六種 普通品 機械煉製 花石鹼

◎第七種 純良 焚製 羽車印絹煉石鹼

◎參考品 靈麝印麝香石鹼 小町ムスク石鹼

附屬物見本小品、說明書、趣意書

計 實價金壹圓五拾錢

（或る期間まで**金壹圓**にて買へる期間後は實價）

此石鹼は只無意味に使つて見るだけでは何にもならぬ前記の石鹼と說明書とを對照して純良品の色澤、輕量、粗惡品の色澤、重量とを會得し記憶して置けば市場にて買入れる際粗惡品や僞物を買ひ被る樣な事は決してないと思ひます而して斯る篤志工業家の製造に拘る純良品を使ふてやるは需要者の**義務同情**と思ひますから皆さんにお勸めします申込ならば電話浪花五百六十番振替口座は一八七七二番です。

石鹼改良有志の一人

女（いの三）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(いの四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

夕ばに



田中製版所三色版

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

●婦人の涙（其原因は男子の罪なり）

近來痼に苦み常に不妊を嘆つ病婦の到る處に見るが其最も多き病状は下腹痛み鼻汁の如き白帯下あり腰筋張り顔色蒼白にて從前の病歴を聞に始め必ず「せうかち」に罹たりと云ふ其病名が子宮病血の道などに云程でも皆痳毒の爲なれば現に永引て治らぬが第一の證據である殊に痳病の病原發見後婦人病の大部分は痳性疾患が其原と成る事が學者の研究に依て證明されて其治療上に一大革新を與へたれば最初「せうかち」の時に十分の手當最も肝要なり凡そ痳病梅毒を根治するには必ず唯一丸に限る唯一丸は現世唯一の驅黴藥を以て最も親切に調劑したれば實に面白き程効力ありて拭ふが如く根治すべし故に多毒質の人は是非服用の必要がある

根治完能唯一丸藥價三日分四十錢●七日分八十錢●十四日分一圓五十錢●三十日分三圓（内地遞送無料）

●本病患者の爲に其病理養生及治療法親切に詳述せる冊子無代施本送料三錢要す

發行所 東京市本郷區湯島天神表門中坂上
藥劑師 中西莊吉
（振替貯金東京口座千五百番）



女（ろの一）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



流行割貝御櫛笄





◎當時頭飾品に専ら流行を極めし物は割貝細工應用の品に御座候此割貝と申は夜光貝等の美くしき光澤ある貝を撰び圖の如く細かく割り漆に塗り研出したる物に候へば其美くしき事は申迄もなく損ずる憂更に無之候弊店こゝに之を用ひ新圖案により櫛笄束髪用櫛簪等種々調製取揃へ置候間何卒御用仰付られ度願上候

壹組之價

甲張製 二圓三圓四圓五圓六圓七圓迄

黒甲製 五圓六圓半七圓半九圓拾圓以上……拾五圓

◎市内は御一報次第店員參上仕候

營業目錄…送費四錢

東京市神田區鍛冶町

白牡丹中西

今川橋 松屋吳服店前

電話本局二〇四〇番振替口座一五三一四番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

▼大好評初版忽ち賣切れ增刷出來

時勢の要求は斯の如き小說を生む

巖谷小波題句 わらび山人著 鏑木清方挿畫 (コロタイプ寫眞版)

家庭小說 **孝女白菊**

落合直文先生の歌、井上巽軒博士の詩、とに依りて夙に喧傳せられたる、孝女白菊は著者の流麗なる筆により、清き家庭小說となりて出づ、銷夏の好讀物として切に江湖の淸鑒を待つ、

四六判美本 定價金卅五錢 郵稅金六錢

東京神田表神保町 振替一九〇四四番 福岡書店

淺草下平右衛門町 振替一九〇六五番 岡村書店

營業目錄

婦人技藝材料

造花、刺繡、袋物

摘ミ壜細工、果實、編物

右器具並に材料一式

(刺繡及摘み用絹張白無地團扇)

東京市本鄉區弓町二丁目 倉持商店 振替貯金口座壹七壹壹壹

此切取を添へ御申越しの方へは美術技藝の栞並に定價表無代進呈す (女學世界八月號)

女子美術學校教授 赤沼先生 同囑託 山本先生 共著

裹物教科書

上卷 價壹冊六十五錢 郵稅六錢

女(ろの三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

信用ある安藤井筒堂の製品

カバン形　新案特許



正價貳拾五錢

口中香水 カオール

價 箱入壹圓 五拾錢 廿錢 ◎袋入 拾錢 五錢

本品の特効は
◎口中の悪臭を去り、口熱を起すとなく
◎咽喉を能く霑はし、音響を最も美くす
◎食の中毒を除き、容易く禁烟し得る
以て交際場裡に出入する紳士淑女は必ず携帯を忘り給ふな又空氣中に浮遊して居る黴菌を殺す力を有つて居りますから學校、集會、運動會等常に多人數集會の場所に於て呼吸より感染する肺病、ペスト、其他恐るべき悪疫を豫防するには口中香水カオールを一二粒口中に含んで居るに限ります。

高等香油 ビューテー

價 大壜四十五錢 小壜二十五錢 送料八錢

椿油中に毛髮の營養となるべき多くの性分を含有するとは嘗て村井弦齋氏が說明せられたるがビューテーオイルは即ち椿油中より毛髮の營養となるべき主成分を採り之に適當の香料と油の通有性を去るべき藥劑を配合したる最も進歩せる煉香油なり

◎御注文の節は必ず本誌愛讀者たることを御申添を乞ふ………………

かほり袋

大拾五錢 小拾錢 送料貳錢

『梅の花たが袖ふれし匂ひぞと春やむかしの月にとはゞや』との昔の名歌に因みて造りたるいと も高雅の匂袋なり

本品の一度世に出づるや東京、大阪、京都、神戸の名ある呉服店より多大の御注文に接し且つ取次販賣を快諾せられたり。本品は優等なる芳香原料の外に最も有効なる殺菌、防腐、及、防蟲等の藥劑を配合せる故、客席、劇場、汽車、汽船などの旅行、簞笥の抽斗、長持、書齋、什器等の間に用ゐて大なる効あり

香水原料 オリヂナルパーヒューム

價壹圓貳拾錢

本品はハンカチーフ用として優等無比なるは勿論、御婦人方は花簪、リボン、まげ入等に其一雫を、紳士方は帽子、ネクタイ等に又は男女襟裏、扇子等に四時絶へず其一滴を潤はし給はゞ能く一週の永き間本品獨特の優高尚なる芳香は坐臥常住馥郁として恰も花園の中に居給ふ如くならん。

本品は一瓶の量は二百八十滴を充せる故一日に一滴宛を消費するも二百八十日如何に裕に使用するも一瓶にて優に半年以上の使用に堪ゆべし。

發賣元　東京市日本橋區蠣殻町水天宮前 象印齒磨本舗 安藤井筒堂
長電話浪花二九四九番 振替貯金口座二九五〇番

▲賣捌は全國至る處の賣藥化粧品店にあり

女(ろの四)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

木かげ

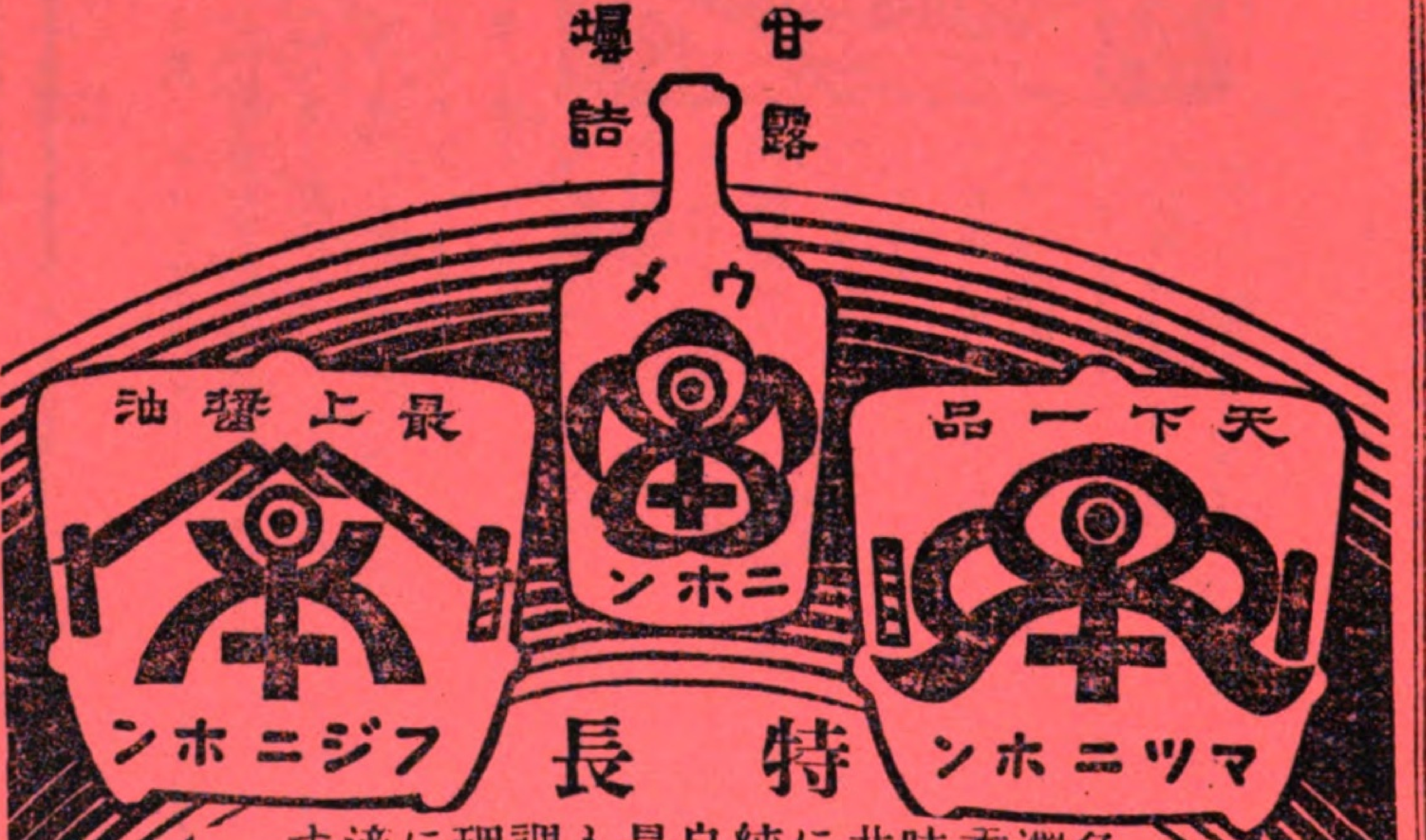


河崎蘭香筆

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日本醬油



色澤香味共に純良最も調理に適す

●ウメニホン印甘露醬油は弊社獨特の再製品にして品質濃厚、香味佳絶**生醬油**として使用するに適し又「ソース」代用として極めて妙也

●マツニホン印は品質優秀香味佳良にして滋養分に富み普通一般の最上醬油に一頭地を抜き極めて優等の品なり

●フジニホン印は品質最良比較的價格低廉にして割の利く頗る徳用向の品なり

日本醬油醸造株式會社

京橋區本八丁堀櫻橋際
東京出張所
電話新橋長三一一四、四六八、二三三五

大阪市南區新町橋東詰
大阪販賣所
電話東一三四五

(はの一)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(其の二)

ムレー及ランマン製「フロリダ、ウオーター」はハンカーチーフに撒らし又は化粧、沐浴等の使用に向つて最も高尚適當なる上品にして香氣優雅常に心身爽快を感するを以て洽く世界各國に高評を博せる香水なり

本品は芳香馥郁なる花卉及薫氣を蒸溜して採取せる純粹の原料を精選して鑒造せるものなれば四時其香氣を變ずるの憂あることなし、是れ本品が殆ど過去一百年間貴紳淑女間に其聲名を認識せられ世界的流行の高等化粧品として賞讃愛用せられし所以にして決して偶然に非るなり

近時本品の成効を羨み粗惡品を僞造し廉價を以て之を市場に販賣せんとする奸商輩出し本社が古來貼用し來れるレツテル即ち蝶と小鳥とが花の飾環に息ひ中央の花壇上に噴水奔騰し右方には一青年の音樂を奏し左方には一少女の小鳥と遊べる等の繪畫を僞造し且つ英文にて印刷しある「フロリダ、ウオーター」、ムレー及ランマン、紐育市ランマン及びケンプ特製」等の文字の配置を巧みに模倣するに至れり

之に依つて本社は前記の弊害を防がんが爲め玆に圖を以て示せる如く「ランマン及ケンプ登錄商標」と記せる白色のレツテルを各瓶毎に貼付せり御購求の際は深く御注意あらんことを希望す





本社製造の「フロリダ、ウオーター」は日本帝國の各都市に於ける化粧品販賣店及び西洋小間物店等にて販賣す

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫科大學藥學專攻 藥學得業士金澤巖著

肺病患者の福音

著者肺病全快の經驗と最近の學說に基き親切叮嚀に根治の法を詳述せし物也●郵劵二錢封入申込者に無代施本

●東京市下谷區上根岸町 〃 衞生書院

蹄鐵印

シャターリヨン葡萄酒

●藥用飲料並食卓用

進物トシテ最モ妙ナリ

●至ル處取次店アリ



發賣元 東京本町 鈴木洋酒店

おしれもくせも
もはへらけあい

二大奇法

妾の手がけ方たで此病にて諸種の買藥して癒えぬ人悉く治りし故夫れで皆樣の勸めにより世間に廣く御披露せし處一人として御喜び遊ばさぬ方なし御問合せ往復はがき

女髮結師 東京麹町區飯田町四の十六 **安部歌子**

見よ●月經な女子●病める婦人

▲勿驚……藥力最精實……効能確保……有効無害……

●本劑は專門博士が學理と實驗より發見せられたる物其主藥は最新唯一の通經藥にて帝國大學病院及各病院にて專用する最良藥なり二三月の月經閉止り月經滯り經不順は一二劑にて必ず流下し四五ヶ月又は血塊にても特製或は別製分服用せば安心に忽ち流經す女子十七八歲になり月經なき人は二劑又毎月月經困難は三日分にて通經す



藥價一劑六十錢二劑一圓十錢特製二圓廿錢別製分三圓卅錢送料各四錢

●肥滿病新藥

（米國新輸入）

子供の折美愛と賞せられし人も年頃になりてより醜ぶと／＼肉太りたる爲め上圖の如く婦となる人少なしとせず本劑は獨乙ベンツォルト氏の發見藥にて脂肪多き人●ぶと／＼ふとり●血太り●肉太り●酒太り●水太り●顏赤●にきび●ふき出物多き等輕症一二劑如何程の惡性も四劑分連服せば色は艷白となり誓て美顏窈窕たる美人となる事を保證す乞肥滿性の人は試みよ

諸孃姉の福音



藥價	一劑一圓五十錢	二劑二圓九十錢	三劑四圓卅錢	四劑五圓半	送料十錢

發賣元 東京々橋中橋和泉町 振替第壹〇六七七番 **小宮愛生堂**

女（はの三）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN





は歐米各國にて造化の妙工を奪ふの奇効ありとの賞賛好評を博したる秘密藥を當館主が醫科大學醫院在職中深奥なる學理と老練なる技術とを以て專門的に多年苦心研究の後其有効成分を檢明し之に最近の發見に係る生毛に關する新説を參考し最新藥を配合したる世界無比の學理的最新藥なれば其効能の非凡確實なる事世間に有觸れたる技術と學理に暗き賣藥が山師的に無責任の廣告を爲して販賣する踈著品の比に非らず左れば普通に醫師の處方する洗髮丁幾、レゾルチン、サリシール酸昇汞等の在來の生毛劑や粗悪の賣藥にて効なきとて落膽せず是非本劑を試みよ頭髮はへぎは、まゆげ、ひげ其他の薄きを濃くしあるべき所に毛なきを生じ禿頭病其他の病氣にて脱毛するを防止し拔毛の再生を早めヤケド、デキモノ、ハッポー、キリキズ跡の禿に生毛せしむる事請合藥價送料共一劑八十錢二劑一圓三十錢郵券代用二割增の事

●●●●●取次所ナキ地方ハ直接本舗ヘ注文アレ●●●●●

三河國碧海郡刈谷町益世館藥局主

本舗 醫科大學卒業藥劑士 從七位勳六等 中島龜之丞鑑製

●●大取次左ノ通リ●●大取次附近ノ各藥店ニアリ●●

東京市
本郷六丁目赤門前 瓜生藥局
麹町區紀尾井町三 齋藤藥局
日本橋檜物町十八 龜田藥局
京橋區八官町八 野田藥局
神田淡路町二の四 森田藥局
芝田町四の一二の四 加藤藥局
芝愛宕下町一ノ二 岩本支店
赤坂田町四の一 竹内藥局
同青山北町五 西井藥局
本所吉岡町廿五 々島藥局
四ッ谷大傳馬町二 永野藥局
高松市片原町 新明藥局
堺市大寺南門東入 一色藥局
京都市下京區寺町通り石藥師角 福知藥局
京都市下京區五條通り富小路行當り 安江洋反物店

大阪市平野町二 丹平商會
丸龜市本町 櫻井藥局
名古屋京町三丁目 飯田藤七
同 同 同 荒川長太郎
同 鐵砲町三丁目 谷田藥局
神戸元町一丁目 西村關吏局
廣島市橋本町 萬代藥堂
神奈川青木七軒町 水崎藥店
仙臺市新傳馬町 櫻井藥局
岡山市橋本町 加藤藥店
弘前市下土手町角 菊地藥店
大津市菱屋町 磯崎藥局

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

潮風



竹久夢二筆

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

荒磯



平福百穂筆

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



美術造花材料

發賣御案內

最新式染料　拾貳種及拾八種

使用法説明書添附

天野卯兵衛商店

東京市日本橋區横山町一丁目拾六番地

（電話浪花一六四三番）
（振替口座四九七〇番）

營業案內は郵送料四錢封入御申込あれ

(二の二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女(にの二)

◎産婦人科　宅診　午前
◎小兒科　往診　午後

病室並ニ産室ノ設備アリ隨時入院ノ需ニ應ズ

院長　女醫　鷲山彌生

東京市麹町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院　電話番町(二二五七)

洋畫講義錄

洋畫講義錄は水彩畫を始め其他油繪木炭畫ペン畫鉛筆畫肖像畫等すべて一切の洋畫に關する事を詳細に説述す毎號美麗なる挿畫數多あり、毎月一回發行、一年卒業、會費月卅六錢、詳細規則無料進呈

執筆畫伯
三宅克己先生
岡田三郎助先生
大下藤次郎先生
中澤弘光先生
外大家十數名

東京市麻布
飯倉四丁目　**大日本繪畫講習會**

繪畫講習錄

繪畫講習錄は日本畫の技術と之に關する各種の學科とを平易懇切に教授し如何なる初學者と雖も忽ちにして上達せしむ毎號美麗なる繪畫數葉を挿す、毎月二回發行一年卒業會費月卅六錢、詳細規則無料進呈

執筆畫伯
川端玉章先生
荒木寛畝先生
寺崎廣業先生
梶田半古先生
外大家十數名

現今各家庭ノ最大問題ハ髪ノ油ハ何ヲ用ユベキカニ在リ

みやけ油は全國中最良の純粹椿髪油にして村井弦齋先生の賞讃を博したる帝國中唯一の最優等品なり

(此の商標に御注意)

みやけ油



◎僞物四方に顯れたり

東京人形町通三宅堂本舖

電話浪花六二〇番
振替口座東京八七五一番

定價

純粹椿みやけ油
特大　八十五錢　大　四十五錢
中　二十五錢　小　十五錢

香入みやけ油精製
大　三十錢　中　二十錢
小　十三錢

高等みやけ香油
大　四十五錢　中　二十五錢
小　十五錢

◎送料孰れも十二錢郵劵代用一割増
販賣は全國重なる小間物化粧品賣藥店に有之候

みやけ油の特色

三宅油を不斷にお用になればまつ黑に光澤麗しく産後髪毛が拔ける場合等に用ゐて毛の發育を速やかにし濃い髪を得る事が出來ます。また老年になりても白髪を生じません等はみやけ油に限ります

御注意◉三美人商標の下に東京人形町通三宅堂本舖となきは僞物也

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

錆夏絶好の讀み物

婦人世界

八月一日發行 九號 一冊 拾五錢 郵稅一錢五厘 半年分郵税共一圓五錢 一年分二圓五錢

東京の**女學校**は**田舍**育ちの**娘**に**合**はず**退**學させた…前警視總監 關清英

▲初生兒が初めてお菓子を口に入れる迄のお稽古… 波多市松

◎**肺病**に**罹**りし**良人**を**看護**せし**當時** 國木田治子

◎**空中飛行**船を**發明**せし**良人**の**苦心** ハミルトン夫人

△儉約で禮儀正しい大阪の女中の特色と美點…松本貞子

△貞婦清水美代 細川風谷

△京都婦人の神たのみ……

▼**良人**の言葉を**誤解**して**不幸**を招いた婦人の**實例**…村井弦齋

▼**女學生**は**暑中休**暇を**利用**して**勉**强すべし…山脇房子

▼十人の**子女**を**健全**に**養育**せし私の**苦心**…弘田醫學博士夫人 弘田ます子

△婦人に泳ぎを教へた話 大竹森吉

△棚橋刀自のお講義を聽く 一記者

△七年前より淸國に住む 山本絹子

△弦齋夫人料理談……時節柄必讀

◎**男學生**を**監督**する米國**女學生氣質**…永井荷風

◎**實母**に**虐待**されし**幼兒**を保**護**せし**苦心** 出獄人保護主幹 原胤昭

▲佛國より歸朝せし閨秀音樂家の實歷…… 神戸絢子

婦人に多き**犯罪**と**監獄**内の**女四生活** 市ヶ谷監獄教誨師 河野純孝

東京 **實業之日本社** (郵便振替貯金 三二六番)

女(にの三)

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何の香の嬢

大阪野村製



都の花白粉

芳香の高雅にして品質の純良なるは紳士淑女の愛用と名譽の金牌とに依り知らる

▲全國到る處の化粧品雜貨店に販賣せり

女(にの四)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

菊の馨

北白川姉宮武子女王殿下



同　妹宮擴子女王殿下

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

瑞西山中の絶景



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

毛髮の艶を美しくする
椿製ランラン香油

ランラン香油は髮をさらりとして常に御使用被下候はゞ夏向臭氣發しませぬ



東京市内……到る所油店小間物店有……價（大瓶 金廿五錢／小瓶 金十八錢）

女（ほの一）

發賣元
大阪市新町
福田源次郎商店
電話……西千六百〇一番
振替……大阪一四八五番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文章世界

第四巻第十號

增刊

盛夏號

八月一日發行

本欄には、豫て募集したる青年諸君の文章詩歌を嚴密に選擇し批評したるものを掲載す。清新にして奔放なる思想と幽雋にして奇拔なる氣韻とは紙上に横溢して、讀者をして萬斛の清涼劑を得るの思ひあらしむべし。

附錄には、左記十數氏の實際の日記の一部を公けにす。諸家の僞らざる眞實の生活と感想とは讀者諸君に少からざる趣味と敎訓とを與ふることを疑はず。

長谷川天溪　西村渚山　吉江孤雁
小山内薰　蒲原有明　中村星湖
田山花袋　相馬御風　正宗白鳥
窪田空穗　柳田國男
前田木城　島崎藤村
（イロハ順）

小說には、本誌々友の中より選拔したる左記諸氏の新作あり。

橋本菱水　尾知山靜波　田中民三
上田良一　水野仙子
（イロハ順）

口繪には、橋本邦助氏の作に成る油畫『大島の海』を原色版としたるもの及び二色刷、水彩畫等の外、例に依って誌友十數氏の小照を掲載し、讀者をして諸氏と一堂の中に相會するの思ひあらしむべし。

菊判紙數二四〇頁
口繪寫眞版豐富
正價金貳拾錢
郵稅金貳錢



女（ほの二）

東京本町（振替東京二四〇）
博文館發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子宮病の夫人令孃に

全治快方の禮狀謝狀毎日來

赤白帶下
子宮內膜炎
ながちあら血

婦人向き雜誌の衞生欄を見るに此病氣にて御困りの方が大分有升が局所丈に遠慮せらるゝ夫人令孃も多數なるべし婦人科醫は患者の弱點に附込み可成長く引付け置んとして猥に夫人令孃の神聖を汚すとは東京朝日を看られよ本院は大學病院の組織同樣醫藥全く分立し本病に對しては殊に掻把タンポン挿入洗滌等の羞耻を與へず四六時中接觸する夫も知らぬ間に全治せしむる簡便秘治の自宅療法を敎ゆ頭重氣懈肩凝胸苦手足腰冷綳痛甚く惡臭液出で股爛痒痛等皆是が元なり本院は通信療法を以て天賦の快樂を得せしむ夫人令孃の喜び此上なし切手四錢送れ親切に詳報す

無限責任 震天堂醫藥院 岩代國伊達郡梁川町 製劑主任 藥劑師 海上龜壽

はい病

私儀多年肺病にて九死の際偶ま一奇藥發明の爲め全治せる故世の同病者を救ひたき志願に付望の方は郵券貳錢封入御照會あれ

東京府下大森入新井村 川名助次郞

乳の出ぬ人

私事久しく乳出ず困難の處ふしぎの療法を發見せし故必ず一人の子を養ふに充分な乳の出る法を御知せす郵券添御照會あれ 東京市麹町內幸町一丁目 森田とよ子

らい病

此のらい病藥は數科の有名なる癩病治療藥を化學的の方法にて分拆し其主成分に更に最近の發見に係る治癩新藥を加へ且つ當館主が醫科大學奉職中研究したる成績に考へ配劑したる新藥なれば一度使用して其効驗の確實なることを實驗せらるべし古來癩病は不治の病と稱し今日と雖も之を根治せしむる事は難事なれども其病勢の甚しからざる中に參圓分を四ヶ月服用するか或は病勢甚しく進みたる人にても二藥を六ヶ月併用すれば病原菌を脫力死滅せしめ漸次輕快に赴き一生醜貌を免れ得る事は確實なり本劑は安價に不幸なる病者を救護せんとする主趣に基き發賣する者にして無効なる藥品に非常なる高價を貪り大言を吐て其効能の著大なるらしく見せかけ不幸なる病者を陷れんとする矯着主義の賣藥に非ず

●醫●師●は●癩●病●者●を●診●察●せ●ば●屆●出●る●規●則●な●れ●ど●藥●劑●師●に●は●其●規●則●無●れ●ば●決●し●て●他●へ知れることなし安心服用あれ

ザノサール 一ヶ月分 貳圓
複方ザノサール 一ヶ月分 參圓

本舖 醫科大學卒業藥劑士 從七位勳六等 三河國碧海郡刈谷町益世館藥局主 中島龜之丞鑑製

● 新案特許 一〇三六二號 衞生的なる改良かもじ發賣 ●

●丸髷 十五錢より七十五錢迄 ●島田髷 三十錢より壹圓五拾錢迄 ●銀杏髷 廿錢より六十錢迄 ●送料各八錢



本品の特長

一 根元にコロップを裝置せるにより舊式のもの、如く硬からず膚ざわり軟からなり 二 皮膚を摩擦すること少なきゆゑ頭のはげる憂なし 三 頭痛癖ある婦人に用ひて爽快を覺えしむ 四 二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病媒介するの憂なし

● 諸かもじ製造販賣 東京市神田區豐島町十七番地 (振替口座東京一八一八八番) 田中金三郎

特約 京橋大西白牡丹、本郷兼康 淺草駒形百助 淺草駒形紅勘、神田須田町三井屋、日本橋通二柳屋 外到處の小間物化粧品店に有

女(ほの三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ネッスル、コンデンスミルク

育児に必要なる



最良滋養品

ネッスル、ミルクフード

女（ほの四）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

金子子爵令孃よき子



東郷伯爵令孃八千代子



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

朝と夕





女子共立會寄贈

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



女への一

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

通俗作文全書

全部廿四冊洋裝四六判
並製紙數三百頁
正價一冊三十五錢
郵稅一冊六錢宛

記事論說或は紀行叙事等の雄編大作より尺牘業書の日用文に至るまで、齊しく是れ文なる以上は、文明社會の人は皆文を以て互に意思を通じつゝある者と謂ふべし。然るに今日の狀況を見るに、百般藝術の駸々進步するに反し作文の技のみ獨り退步の觀あるは洵に痛嘆の至りといふべし。是れ多數の人士が文章に重きを置かざるに由ると雖も、從來作文法を敎ふる完全なる書籍なきもの亦其一因なりといふべし。弊館之を遺憾とし、通俗作文全書を發行し聊か以て此缺點を裨補する所あらんとす。其の目次は下に列記す。

全部完成

- 第一編 大和田建樹君著 ●文章組立法
- 第二編 大和田建樹君著 ●書簡文作法
- 第三編 田山花袋君著 ●美文作法
- 第四編 天城安政君著 ●商業作文法
- 第五編 青柳篤恒君著 ●評釋支那時文軌範
- 第六編 西村醉夢君著 ●紀行文作法
- 第七編 福田琴月君著 ●寫生文範
- 第八編 河村醉茗君編著 ●論說記事文範
- 第九編 西田敬止君著 ●女子消息文範
- 第十編 森田米松君著 ●書翰文範
- 第十一編 大和田建樹君著 ●日記文範
- 第十二編 石崎篁園君著 ●祝賀弔祭文範
- 第十三編 山川直五郎君編 ●中等學生文範
- 第十四編 生田星郊君編 ●明治時代文範
- 第十五編 堀江秀雄君編 ●言文一致文範
- 第十六編 太田才次郎君編 ●古今名家尺牘文
- 第十七編 武田櫻桃君編 ●古今名家文選
- 第十八編 河井醉茗君著 ●新體詩作法
- 第十九編 久保天隨君編 ●新體漢文軌範
- 第二十編 近藤正一君著 ●古今才媛文集
- 第廿一編 久保天隨君著 ●美辭類語集
- 第廿二編 窪田空穗君著 ●短歌作法
- 第廿三編 內藤鳴雪君著 ●俳句作法
- 第廿四編 田山花袋君著 ●小說作法

◎小說と作法●修練外三項◎私の經驗●神來と空想外三項◎初學者の爲めに●文章をかくこと外二項◎叙事、抒情、會話●結束的叙事外五項◎ローカル、カラー●地方の特色外一項◎讀者と作者●讀者外一項◎觀察と描寫●觀察外四項◎今の文藝と昔の文藝●想像と事實外三項◎明治名作解題●初期外二項◎雜文餘談●文章の調子外六項◎巻頭集、海の美外十七項

振替口座東京二百四十番號
東京本町 博文館
販賣用電話本局二六二〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

世界無比

最新發明藥

あざ

入墨は廿日 ほくろ そばかす、なまず いぼは拾日 目に必ず美麗に除去す 痕跡を殘さずること保險附

新發明藥にして患部の大小輕重を問はず容易に根治し假令顔面たりとも毫も無痛にて除去し得らるゝこと確證す故に之を用ゆべき患ひある人は速に用ひて美質を完うせよ來館者へ天然の美質は山の如き全治者の感謝狀及び除去したるあざ、ほくろ、そばかす、いぼ等の實物を示すべし實に世界唯一の新藥也但し本劑は其製劑を二種に區別し一はあざ、入墨、ほくろを除去し又一はそばかす、なまず、いぼを除去するものとす故に注文者は各自除去せんと望む所の病名及患部の模樣を詳細明記して申込あれ左すれば其症に適應する藥を送附すべし價は各一劑分壹圓拾錢參劑半分參圓拾錢六劑分五圓拾錢拾貳劑分拾圓拾錢づゝにて郵券代用貳割增し(患部の面積大なる人は大劑を求むるを德用とす)着金即刻小包郵送す

●色白特効 ペーアス石鹸

此石鹸は世界第一等の良品にして化粧品の大王たることは苟も泰西の事情に通ずる者の熟知する所なれば今更喋々贅辯を要せず會だ單に其主眼たる特効の一二を掲げん皮膚を潤澤軟密にし色を白くし、粗糙質を治するは此石鹸獨特の靈効なり且つ此石鹸は香氣頗る佳良にして使用後五時間は芳香馥郁として身體に附着し薰るは館主の實驗保證する所なり乞ふ昨今世上に續々顯出し誇大の廣告を以て世人を瞞着する内國製の粗惡品と玉瓦混同視すること勿れ(昨年輸入の五萬個は夙に賣切れ久しく品切中の處今回拾萬個着荷せり速に御注文を望む)

壹個代價送料共八拾五錢▲三個函入同上貳圓參拾錢

●毛の必ず生る確證藥

本劑は米國醫學博士の發明に依り學理實驗に徴したる世界無比の毛髪速生藥なり、即ち男女共腫物の痕、はつぽうはげの痕、やけどの痕、頭髪及はゑぎわの薄き人、其他に毛なき人、まゆげ口ひげの薄き人、其他總て毛のあるべき所に毛のなき人等本劑特別製分を用ゆれば忽ち毛髪蒼々と發生する特効あること確證す本劑は從來ありふれたる種々雜多の毛はゑ藥とは其効勿論同日に語るべきものにあらず眞に天地月鼈の大差あるに付幸に玉瓦混同視すること勿れ

藥價特別製分五圓卅錢▲大瓶貳圓卅錢▲中瓶壹圓廿錢

●奏効確證 美容新劑 やせる藥

本劑(藥名ヨードチリン錠)は學理實驗に徴したる現世紀唯一の發明劑にて血ぶとり。酒ぶとり。あぶらぶとり。顔赤くほてり。のぼせ症。卒中症等にて肥滿質多血質脂肪過多質の人用ゆれば無害にして著しく體量を減じ脂肪を適度に脱し美容健康を保ち程よくやせる特効藥なり故に彼の見苦しくふとりたるを苦にする諸君は速に本劑を用ひ其驚くべき偉大なる奇効を知られよ

壹劑分價送料共參圓廿錢貳劑分六圓廿錢特別製分九圓拾錢着金即刻送藥す

●美き聲の出る新藥

▲藥名……ウエーヌス

▲聲美くしくして…淑女は窈窕たり▲聲麗しくして…男子は威嚴あり▲聲は人格を高尚ならしむる要素なり…謠曲家、演説家、音樂家、藝人は聲音即ち其人の生命なり。發聲藥は古來世に甚だ多し然れども其確効あるものは恐らくは疑はし「獨り此「ウエーヌス」の發明者は十有餘年間發聲生理の原理を研究し初めて確實に美聲を發する方法を自得せり。「ウエーヌス」は實に無上の發聲藥として千古未曾有世界唯一の靈劑なり。特別製分を服すれば直に充分なる美聲を發すること確證す。

價送料共壹劑分壹圓拾五錢特別製參圓廿五錢

腦病を根治し記憶力を增進する靈劑

滋腎回春 記憶增進丸

本劑は獨逸大醫スクリーボワト氏の新處方に基き醫學的の元理に徴し多年實驗の上其奏効確實なるを認め今回發賣するに至りし前代未發の新劑なり故に本劑を服すれば腦病、神經病を根本的に根治し精神爽快智力活潑となり記憶力大に增進し人世百般の見聞更に忘るゝことなきに至る驚くべき峻烈なる特効ありて如何程の健忘者記憶力缺乏者にても一たび本劑を用ゆれば忽ち記憶力大に增進すること誓て確證する所なり論より證據實試一番速に其卓絶顯著なる奇効を知れ

(藥價)七週分參圓五拾錢五週分貳圓六拾錢參週分壹圓六拾錢壹週分六拾錢(送料)各拾錢宛

以上六種專賣元 東京市神田五軒町拾九番地 日新館藥房

女(への三)

夏季を利用して練習なさい

字の上手は一生の徳

速に入會して頗る能書家とならるべし

本會獨特の方法は全く好果顯著なり故に會員數拾萬を有す

書者　文部省習字檢定試驗委員　稻川雲谿先生及玉木愛石先生

女子部書者　小野鵞堂先生外講師大家數拾名

○見本詳細　會則進呈　東京市本郷森川町壹　電話下谷三〇一一壹番

帝國習字速成學會

（其の四）

繪畫速成通信教授

大好評を以て驩迎を受けたる本會獨特の教授法に依れば如何なる初學者にても直に上達する

玉章先生　玉堂先生
廣業先生　華邨先生
半古先生其他數名
執筆講義平易叮嚀

○見本詳細　會則進呈　東京本郷森川町壹　電話下谷三〇一一

帝國習字學會繪畫部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏草



木蔭



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



女(との一)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人畫報

毎月一回一日發行 **八月の巻** 八月一日發行 定價一冊二十五錢 郵稅二錢 六冊前金郵稅共一圓五十錢 十二冊二圓八十八錢

畫報

◎若き妻（岡落葉筆彩色石版美人畫）◎涼味◎埃及に於ける内田氏の一行……

◎奥様の一日（高橋義雄氏夫人の一日の仕事を撮影したるもの）◎閨秀畫家の集合◎幼稚園兒童遊戯

◎御漫遊中の梨本宮同妃兩殿下……

◎兩殿下御徒歩公園に入らせ給ふ◎數名家令孃鑑……

◎自轉車上の山階宮二王子殿下と姫宮殿下……

◎家庭に於ける跡見花蹊刀自◎米國に於る高平大使夫妻瓜生中將夫妻◎少女の水泳◎老人優待會◎ダリアの花

◎婦人の買物ぶり◎明治の子守◎伉儷◎中島女史紀念碑◎蕃人觀光◎麹町高女遠足◎京都の高女

讀物

▼心の銷夏法（鳩山春子 川脇房子）▼▼跡見花蹊刀自の一日（舊師小島歌子 三宅花圃）▼▼上毛野形名妻（遠山約子）

▼料理の羹汁（理學博士 池田菊苗）▼▼御住居拜見（婦人記者）▼▼懸賞和歌…▼女の掃除…

▼小說を讀む婦人の覺悟（文學博士 三上參次）▼▼訪問日記（棚橋刀自 ゆき子）

▼別莊生活の改良（水產講習所長 松原新之助）▼▼夏の化粧（高橋義雄氏夫人）

▼賢夫人の話（大町桂月）▼▼東京附近の海水浴場は病毒の巢窟（醫學博士 三島通良）

▼人間以上の心を有する動物……丘博士▼▼花と衣裳の趣味（石井柴子）▼▼女學生の經營になる化粧品店の客…女店員

▼歸省中の妹へ兄よりの手紙（ひまはり）▼▼小說誕生日（海賀變哲）▲▲ズボン下仕立方…秦校長▲和洋料理（龜井まき）其他滿載

東京飯田町四の四 **東京社** 電話番町二三三九

女（との二）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

若き婦人の離すとの出來ぬ雑誌

八月號發賣

女子文壇

定價拾五錢
各號好評
内容豐富

東京 京橋區大鋸町 女子文壇社發行

どこの雜誌店でも取次販賣す

『七月號』は發行旬日を出でず發行元は賣切の盛況

女子文壇定期增刊八月十五日發兌

短篇小說

出版毎に好評を博しつゝある本誌の增刊は、今又第三の定期增刊『短篇小說』を發行す附錄として島崎藤村 森田草平二氏の新作を添ゆる二氏が如何に有力なる讀物なるかは二氏平生の作に徴しても明かなるべし。

猶本誌の大部分を之に宛てたる應募の短篇小說は、其作が凡て女性の手になりしと、黒人ずれのせざる點と、無邪氣なると、一生懸命なる點とに於て他に類を見ず、其他美文、和歌、日記、書簡文、詩、俳句、論文の各項に渉りて皆現代の若き女子が全力を擧げたる思想界の產物なり、文學を愛し、文學を修めんとする者には此の如く清新なる參考はあらず、請ふ一冊を繙きて、全誌に充ちたる清新の文字を味ひ給へ。

破疊 秋葉淸子　女客 加藤貞子　町の出水 赤崎愛子　桃代 佐藤增子　朝顏 吉田駒子

全二百卅頁 口繪美麗數葉 定價貳拾錢 郵稅壹錢五厘……

發兌元 東京京橋大鋸町 女子文壇社 振替壹七貳九番

大賣捌 ○東京堂、東海堂、北隆館、至誠堂、上田屋、良明堂外各店

女(との三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



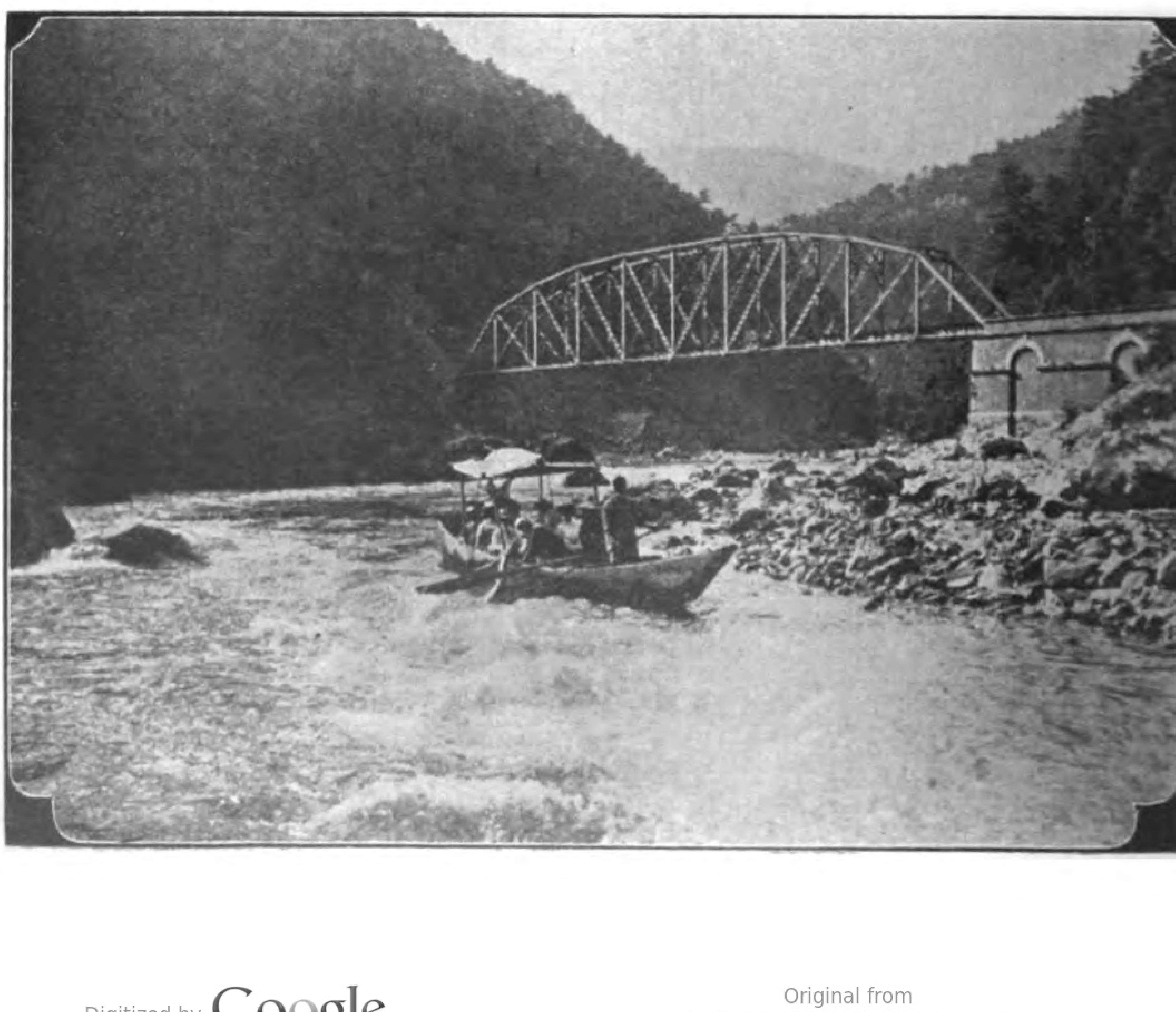
女(との日)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

水の美



佐野の瀑布（駿河）



保津川の清流（山城）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



◎最良の白髪赤毛染として賛詞を得たるは千代ぬれ羽あるのみ

◎本品は染方輕便なるが故に旅行中の使用等に最も適せり

服部松榮堂

東京日本橋區通鹽町

電話浪花二一七五番
振替口座一二八六五番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



角田竹冷君編

芭蕉句集講義

全四册

洋裝四六判並製紙數各三百餘頁
卷頭蕉翁眞筆短册寫眞版入
正價各三拾八錢郵税六錢

春の卷……既成發行
夏の卷
秋の卷……近刊
冬の卷

俳壇空前の良書出たり、之を芭蕉句集講義と爲す。實に本書は、蕉翁一代の俳句千餘句に對し、一々明解通釋を與へて、殆んど餘蘊なし。苟も俳諧に志ある者、乃至文學に趣味を有するもの、之を座右に備へずして可ならんや。…………

天生目杜南君著

評傳 芭蕉

全一册洋裝四六判
紙數約二百三十頁
正價三十五錢
郵税六錢

趣味の向上を促し、擾々の俳壇を統一し、歿後二百餘年、尚兒童走卒に其名を知らる芭蕉は。詩人と稱せんよりは寧ろ偉人たり。著者は往時を追懷し、現代を想到して、當時の社會狀態より、彼が經歷、行動、性格及日常生活に至る迄、洽博なる材料の下に、縱横論評して偉人芭蕉を究む。蓋し芭蕉傳の翹楚にして他に類なし。

東京 **博文館** 本町

振替口座東京二四〇番　販賣用電話本局二六二〇番

女（その二）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

講師 東京帝國大學 早稲田大學 日本女子大學校 各科教授 擔任
編輯 日本女子大學校內 女子大學通信教育會

日本唯一

女子大學講義

夏期休暇を利用して高潔なる趣味と實利的智識を修養するは文明婦人の特色

一般世間の輿論に依るも本講義は女子家庭修學の最好機關なり

會則進呈

郵便端書又は電話にて御申込あれば即時に送呈いたし升

家庭顧問

實用家庭百科全書

辭典に非ず最も興味あり平易明解何人も讀んで活用の出來る家政寶典

文學士 小原要逸先生
文學士 物集高量先生
醫學士 三原新太郎先生
農學士 岸伸吉先生
東京女子職業學校講師 木村俊秀先生
合著

菊判洋裝美本千三百餘頁
石版三色版アルミニュム寫眞版卅面挿畫三百餘個

第二版參萬限 特價提供 金參圓

正價三圓六十錢 送料內地十六錢 滿韓臺樺四十錢

見本進呈

發行所 東京小石川區久堅町一〇八 精美堂 電話番町九三二 振替口座二八三八

女(ちの三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

本品は畏多くも内親王殿下の御用を辱す

特効 フケ取リツヤを出しチヾレクセ毛を直す

高等煉香油

チヱリーポマード

定價 小金貳拾錢 中金參拾錢

特効 ふけを去り艶を出しちゞれ、くせを直し毛の發育を補く

高等香油

チヱリーオイル

定價 大八拾五錢 中四拾五錢 小貳拾五錢

本品は佛國製にかゝる貴重なる香料を加香せし故佳香馥郁として香水匂袋の代用となるべし

煉製美顔料

フヱスおしろい

定價 金參拾五錢 金貳拾五錢

東京市日本橋區本町二丁目

發賣本舖 **高橋初次郎**

特電話 四一三番

石油厨炉

經濟輕便之炊具

使用法及び目錄は御申越次第送呈可仕候

久能木式 **石油厨爐** 專賣特許第一〇三三二號

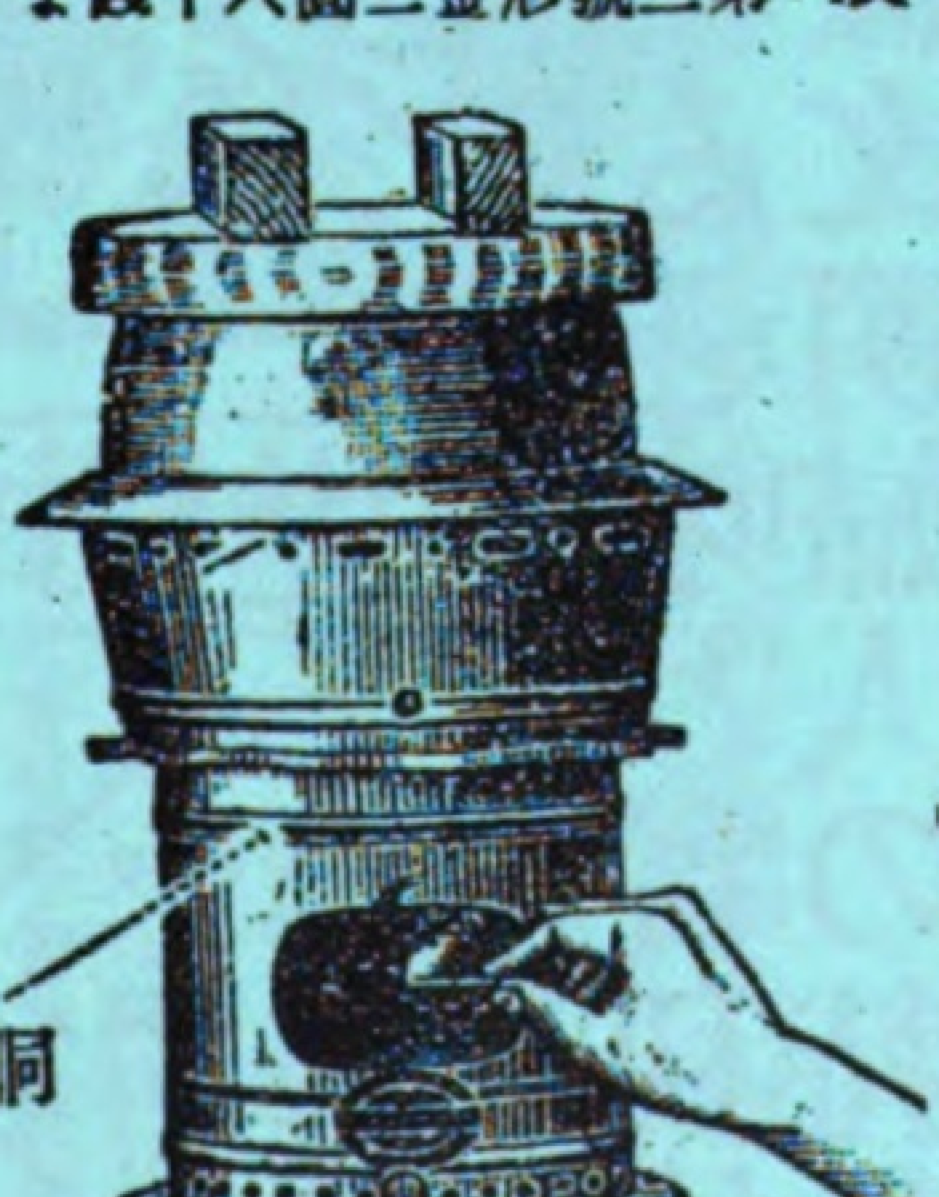
二號形厨爐にて僅二十分間に二勺の石油で一升の飯が炊け如何なる者を炭焼するも決して臭くなく石油は通常の品を使用して無烟無臭を保證す、且つ火力強大なるは實に弊店二十餘年此の業に從事研究の結果なり



久能木商標に御注意を乞ふ

定價
第一號形金二圓二十錢より
第二號形金三圓二十錢より
第三號形金三圓八十錢より

胴を取外さず點火し得るは本器の外無し



胴

製造發賣元 **久能木商店** 東京日本橋 室町三丁目 長電話本局二八九番 振替口座一四五七番

女(ちの四)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

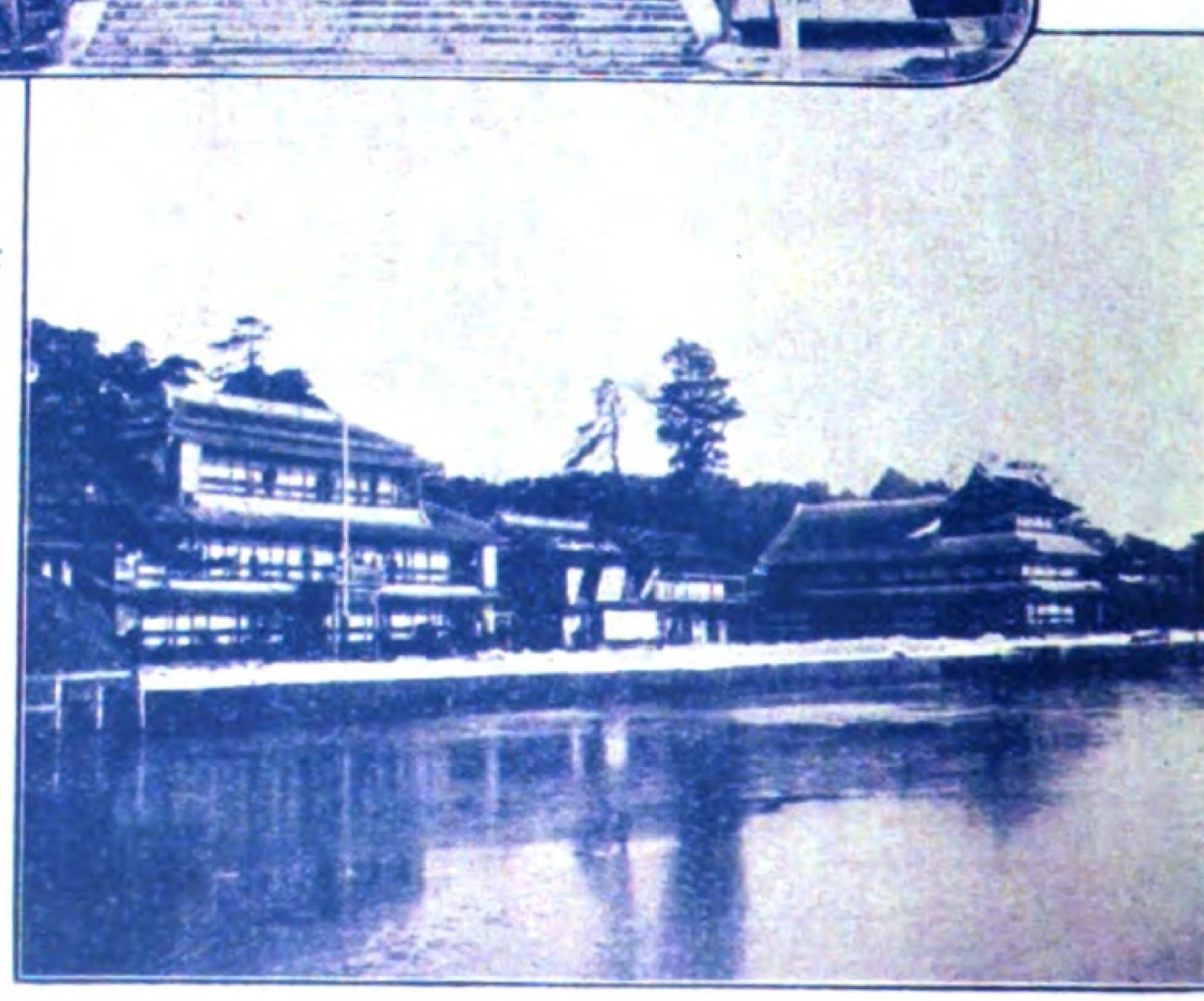
地方風俗



仙臺青葉城



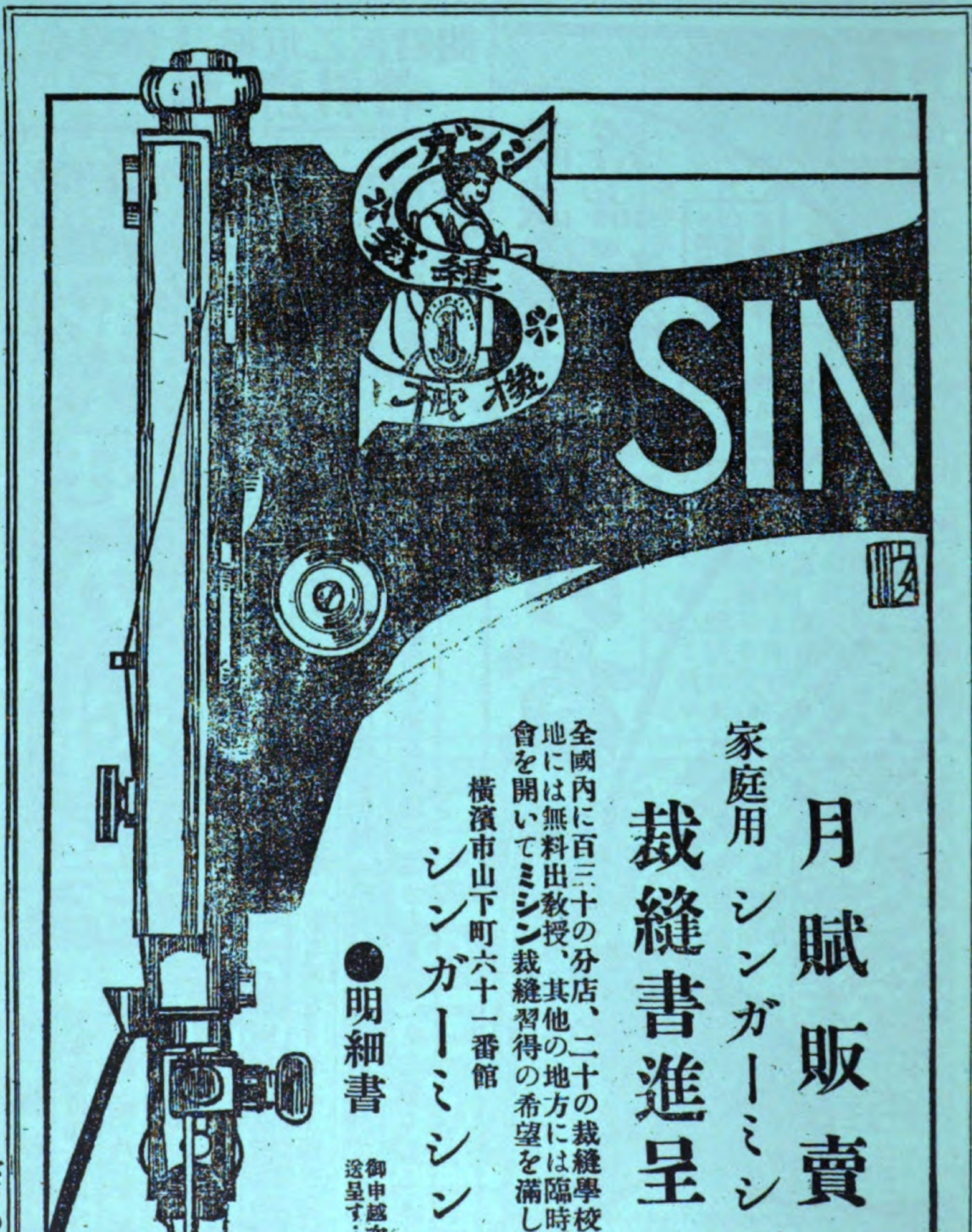
伏見稲荷社



松島の客舍

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農學博士稻垣乙丙君閲
工藤齋君著

（りの二）

新編 家庭の科學

全一冊洋裝菊判
美本紙數四百四十二頁
正價金八十五錢
郵稅十錢

抑も婦人の本務たる日常家事に於ける百般の事項は悉く科學の理に支配せられざるはなし然るに本邦婦人は概してその智識に乏しきが爲め往々妄説を信じ鑑別を過り識らず知らずの間に不經濟、不衞生の動作をなすことあるは痛歎に堪へざる所なり著者工藤齋君は高等女學校に敎鞭を執るの傍ら理科と家事科とに連絡を付し兩者共通の資料を採て本邦の主婦たる人にその智識を授け以て婦人の本務を完全圓滿に盡さしめんことを欲したるもの即ち本書なり

好評再版

講談落語 避暑の友

洋製菊判紙數三百二十頁
口繪寫眞版……豐富
正價廿五錢　郵稅八錢

▼田毎の月…（一龍齋貞山）▼百人坊主…（柳家四[illegible]）▼源[illegible]白[illegible]張扇…（神田松鯉）▼仕返へし…（三遊亭遊三）▼熱海の湯[illegible]…（[illegible]井一）▼富士詣り…（三遊亭圓右）▼夏どろ…（柳家小さん之）▼那智の[illegible]…（錦城齋典山）▼[illegible]…（都々逸[illegible]）▼名君道中記…（猫遊軒伯知）▼[illegible]間の[illegible]…（神田伯山）▼船徳…（橘家圓藏）●旅行熱參談

東京日本橋本町三丁目
博文館
振替口座東京二四〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



●佛國土産の最新白色新劑

色黒き、にきび、そばかす等にて困悶の士女よ本院特得の文明的新秘法により速に圓滿なる幸福を得られよ如何に其効能の神秘なる論より證據郵券二錢送れ美容のしるべ呈して敎ゆ

愛隣藥院

東京大森停車場上山王



にきび 吹出そばかす

絶對に全治し皮膚を艶麗ならしむる最新藥發見す

醫藥其効なき困難者は申込あれ詳細の療法書を送呈す

東京下谷區初音町日本女子美術學校前 長田

根治確証

わきが

新治療藥 ラビヨシ

必ず全治し決して再發或は他病に變ぜず速に用て苦惱を脱せよ

内價七拾錢乙價壹圓卅錢甲價特製貳圓五拾錢送料拾五錢

本劑を塗擦すれば主成分は皮膚及び肉の組織に吸收せられ其組織にある毒素を清潔驅逐し惡臭を根底より全滅せしむる作用を有する最近發見の特種の新劑にして如何程頑固劇烈の雜重症にも甲價特製を用ひよ

毛のはへる

定價壹圓卅錢特別製貳圓送料拾四錢本品は原名をベグネスと稱する現今最賞用せらるゝ有力なる最新液にて毛をはやしたき人は早く試みられよ●ぬけ毛落毛を止めはへぎわうすき人●まゆ毛●ひげ●其他の所に毛なき人用ひよ毛髪増生す◉頭などにはげのあるのは見苦しき者也

化學製品

色の白くなる

バンドコロン溶液

皮膚を漂白するを以て全身次第に白色艶美となる最も必用の品なり

價A印壹圓B印特製壹圓五拾錢送料拾五錢本劑は貴紳淑女粋士間に大高評を博し殊に愛用せらる最新流行の秘方奇劑にして本劑を塗擦すれば皮膚は次第に新陳代謝なし男女交際上の十分の力に依り 主性

最良 メソルピン

ヶ月以上のとまり又は血塊には特製を用ひよ速に流經す本劑は効能有て烈しき經に害なくたやすく下ろす

子宮より起る血の道を全治し古血を一掃す

價半劑六拾五錢壹劑壹圓貳拾錢特別製卅錢送料貳錢

メソルピン此藥は子宮を痛めず如何ほど長き月經とまりも必ず下ろす二三月位のは壹劑も用ゆればすぐ下ろ二三強なろも毫も身體ろ、月經不順より

●電下谷二五三五

專賣 東京神田區小川町東明館前

オリエンタル藥舘

女(りの三)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ワキガは全治するものにあらず

腋臭は大汗腺より分泌する脂肪酸より發する惡臭にして未だ身體の組織を變更して之を完全に治するの療法發見せられざるなり藥の力にて到底治せざるワキガを完全に止め肌着又は着物臭氣の移らず本具を用ひたるを外見より毫も他人に覺られざる歐洲交際界にて盛に用ひらるゝ男女共用伸縮自在なる獨逸新式の具日本人の體格に合て作られたるもの輸入せり本具は内部に汗を吸取る裝置ありてシャツの外に浸出さぬ故にワキガに非ざる人と雖も汗押として必要の物なり



甲號（肥た人用）金貳圓貳拾錢　**乙號**（痩た人用）金貳圓　送料甲乙共八錢

輸入元　東京市麻布區飯倉片町十九番地　**キング商會**

支店　大阪市北區曾根崎上一丁目廿二番地　**キング商會支店**

肝油ゼリー

陸軍藥劑官　清水如水氏創製

滋養　強壯

本劑は肝油を一層有効ならしむるが爲に肝油に缺如せる含水炭素屬滋養質を結合せしめ猶之に腦髓及び骨質の主要成分たる燐酸鹽類と血液の主成分たる一種の鐵劑とを加はゆると共に芳香にして美味ならしめ如何なるヒステリー性の婦人或は小兒と雖好んで服用し得べく且消化し易き様調製せる完全の滋養强壯劑なり……湯に解て用ゆれば全く飴湯に異ならず……

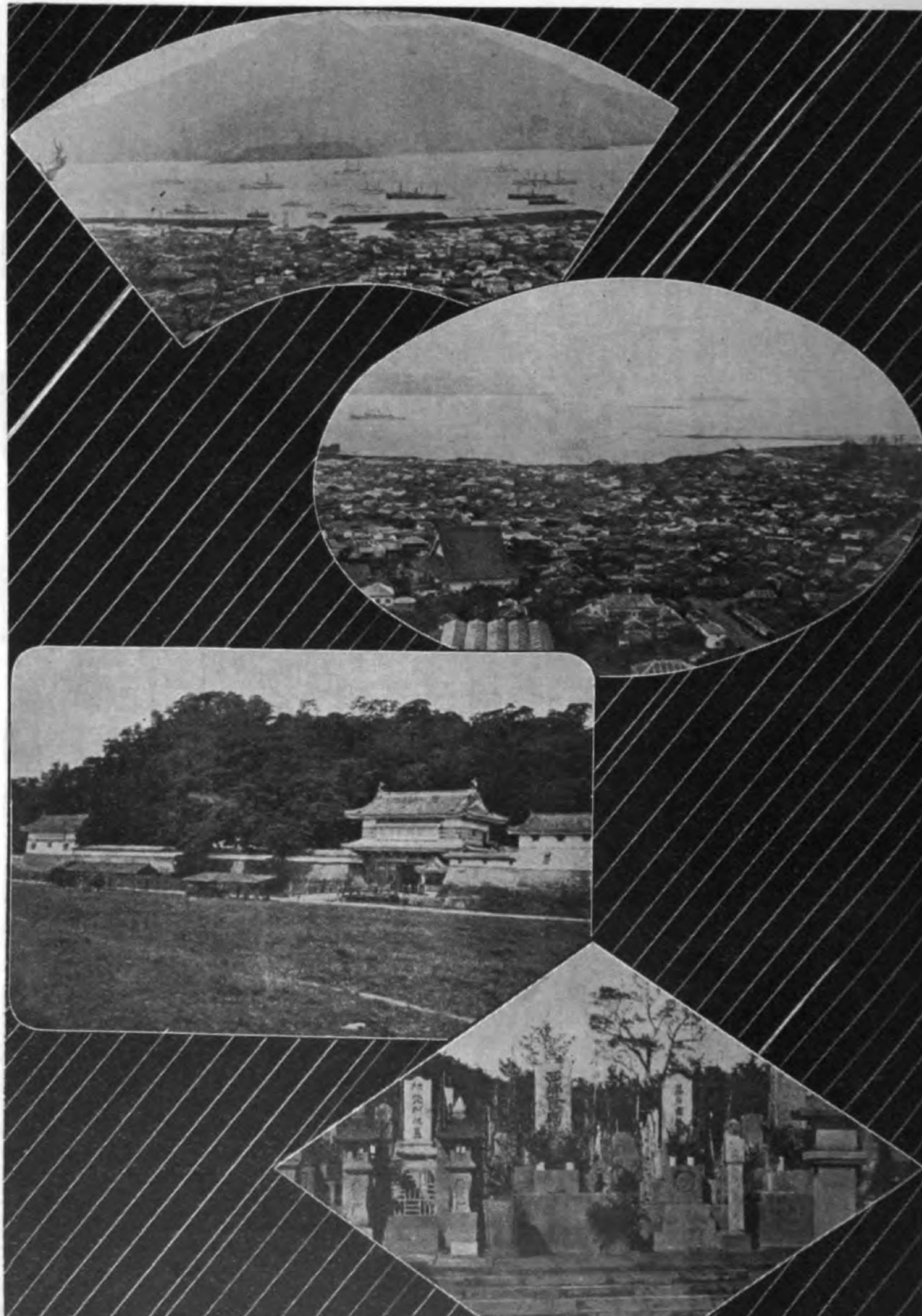
説明書無代送呈見本郵劵拾錢要す

發賣元　大阪平野町三丁目　田中商會

女へりの四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

地方風俗



1、2 鹿兒島全景

3 鹿兒島城

4 淨光明寺南洲翁の墓

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

於内外博覧會名譽大賞及金銀牌受領

元和二年創業

ヒゲタ印醤油

HIGETA SHOYU

THE CELEBRATED JAPANESE SAUCE

TRADE MARK

Patronised by the Imperial Household Awarded First Class and Gold Medals and Grand Prize at the various International Exhibitions held at home and abroad

The Oldest Establishment of its kind in Japan. Founded in 1616 by the ancestors of the present proprietor G. TANAKA Choshi, Chiba-ken, JAPAN

宮内省御用達

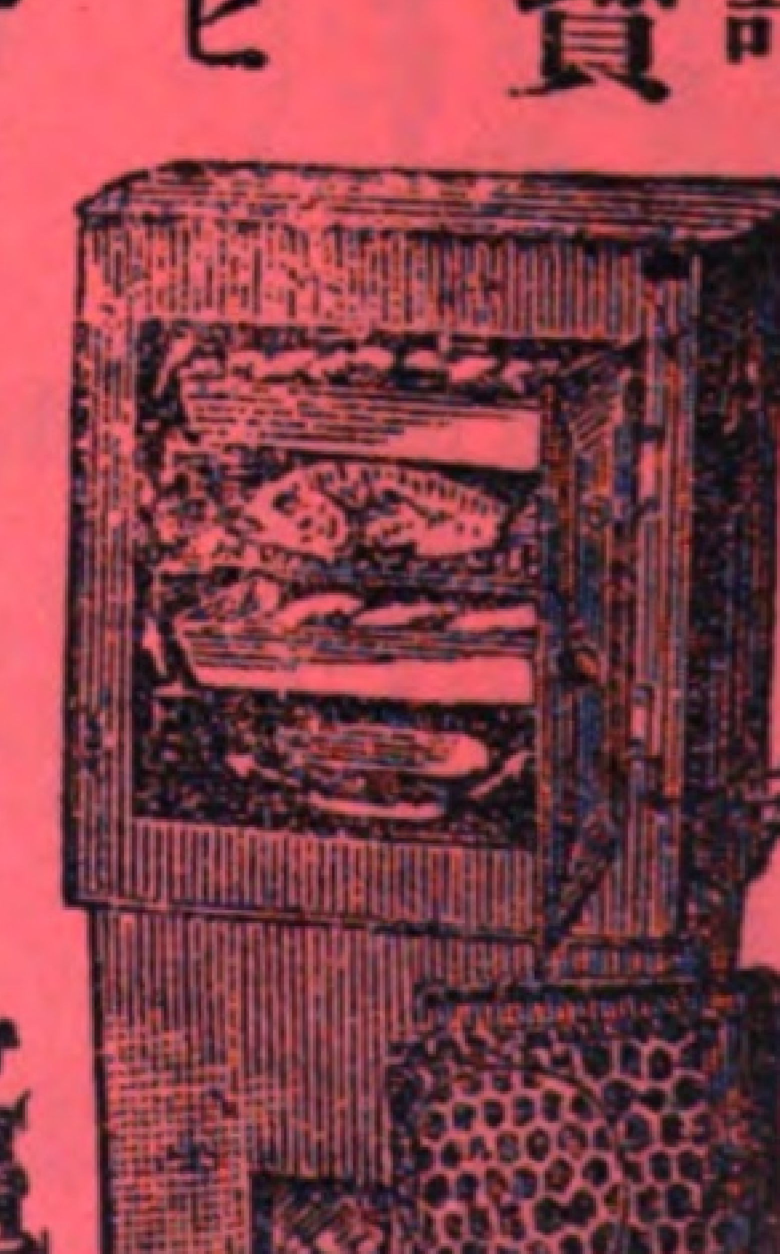
千葉縣 銚子港 田中玄蕃醸造
ヒゲタ印醤油

專賣特許

臺所重寶

名和式テンピ





大三圓●中二圓五十錢●小一圓九十錢●説明書御希望の方へは無料送呈

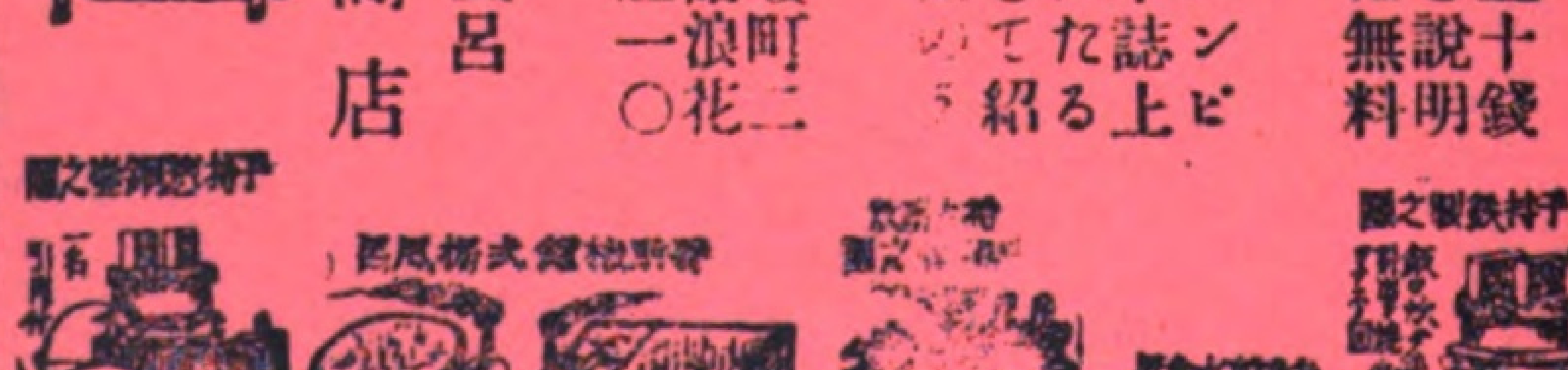
專賣特許名和式テンピは曾て實業之日本誌上に於て「改良されたる臺所重寶器」として紹介されし和洋兼用のテンピなり

東京日本橋區蠣殼町二丁目十五番地電話浪花一一七七振替口座一〇二五四番

特許カマド据風呂

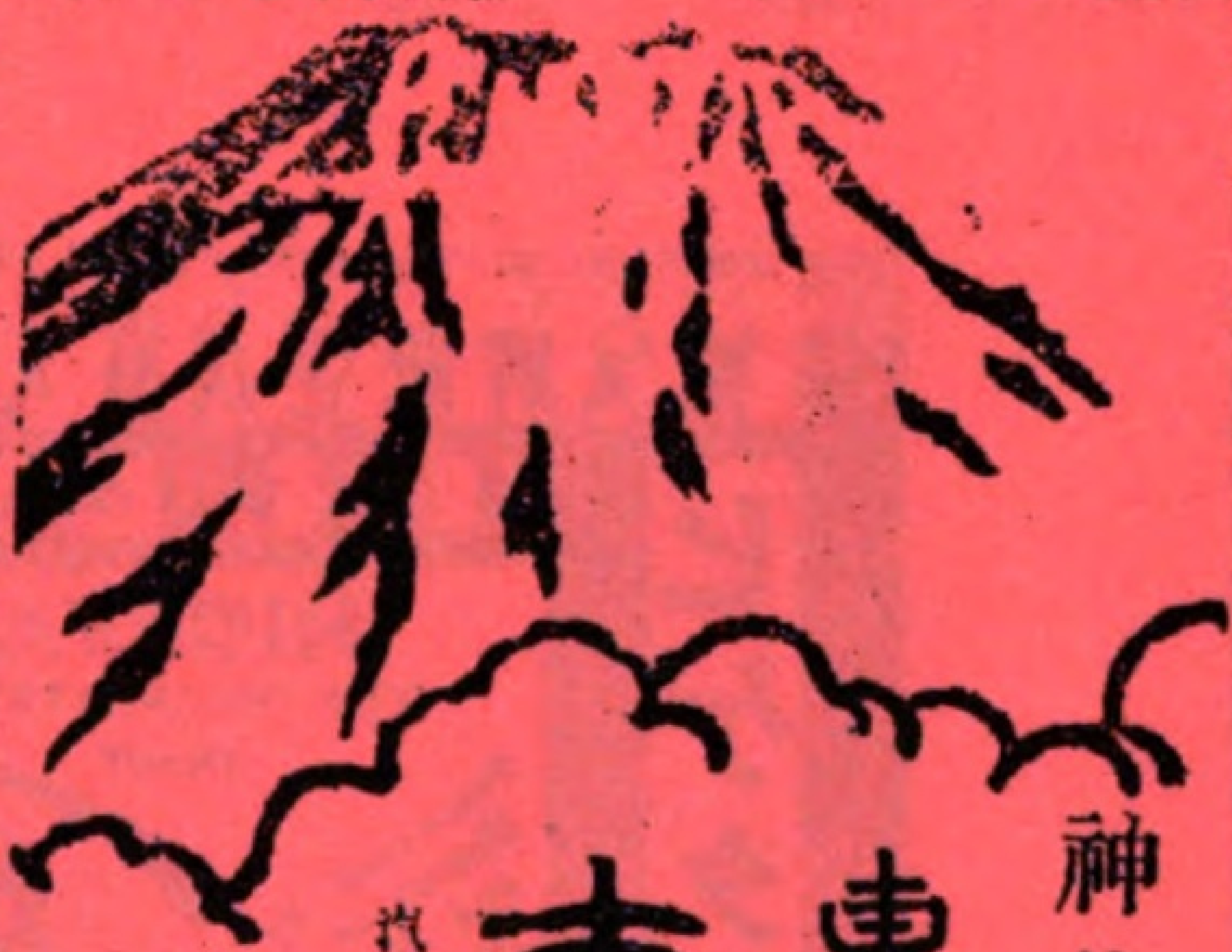
名和商店





女(ぬの二)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



神谷有終君編

東海道旅の友 車窓の名勝觀

汽車中にてあらゆる名勝舊跡を乘客に指示し、車中の興味を添へんが爲めに編纂したる者にして石版數度刷揷畫は實景を眼前に髣髴せしめ名蹟毎に對する古詩歌を揷入せる如き大に文學趣味を助け人をして旅舍に孤客たる時無聊を感ずるなきを期したり。

洋裝特製ポケット入
紙數約二百六十頁
正價四十五錢
郵税六錢



小杉未醒君著

漫畫と紀行

古今漫畫界の泰斗と稱せらるゝ小杉未醒子は昨年來其作中の氣に入つたものを精撰して一冊の書たらしめんと計畫せり、而して滯なく出版されたのが此書にして、脱俗超凡輕妙雅致の漫畫數百種を網羅せり、加ふるに漫畫相應の紀行文を添へたるは蓋し錦上の花とも謂ふべきなり、乍去百聞は一見に若かず食はざる人に其辛の如何を問ふを休めよ、無用の贅辯いふ丈け野暮、敢て江湖の諸士に對して此新來の珍友を机上に備へられんことを勸告す。

全一冊洋裝菊判
總クロース美本
紙數三百卅五頁
正價八拾錢
郵税拾錢

販賣用電話 本局二六二〇番

東京博文館本町

振替貯金口座 東京二四〇番

女(その二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新輸入 肉體美容料 色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女の間に最新流行の發明藥にして如何程色黒き男女にても特別製貳劑を用ゆれば忽ち肉體純白色に變化し艷美の容貌となるを確證す世上種々雜多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑を試み見よ眼前に峻烈なる特効を覺ゆ眞に奇効顯著の確證新劑價は並製金壹圓貳拾錢特別製金壹圓八拾錢

飲んで色白くなる特効新藥 サーサパリラ

英國ロンドン「バーゴイン」製清血劑にして頑強なる皮膚病、猛惡の「サーサパリラ」は峻烈なる慢性梅毒、痳毒リウマチス等の病毒及び男女體內の惡血毒血惡液を體外に排泄し血液を清淨にし且つ精神を爽快にし根本的に肉色を純白艷美ならしむる奇効顯著の內服水劑なり(注意)從來種々の外用塗布的化粧水及誇大廣告の洗粉白粉等を用ひ其無効に歎じつゝある各位は速に此「サーサパリラ」を試みよ奏効頗る迅速確實なり(今回英國より輸入し當館にて一手專賣候)色白新劑と「サーサパリラ」と內外双方併用せば奏効頗る迅速確實なり

價壹劑貳圓七拾錢參劑七圓五拾錢五劑拾貳圓貳拾錢也

らい病根治新劑

癩病患者の新福音――最新發見藥――(レプロイス)

癩病は不治の病にあらず又血統病にあらず一種の癩病桿狀菌の媒介による傳染症たることを發見せり、本劑は此確乎不拔の最新發見學理を基礎とし多年研究を重ね數千患者の實驗に徵し苦辛經營の末今回始て完成發明したる最新藥にして其効力の峻烈顯著百發百中悉く全治すること到底他類似藥の比にあらず、患者よ彼の十九世紀的遺物たる推量的不合理に調合せし粗雜極まる無効舊式賣藥に誤らるゝことなく又古來より傳へられたる血統病或は不治症等の惡說に迷ふことなく速に本劑を試み其病菌を撲滅して病根を斷絕し生涯永久の榮華を完ふせよ、輕症は壹貳劑重症は特別製分以上にて治癒の目的を達す。

藥價送料共壹劑九圓拾錢特別製拾圓拾錢着金即刻小包密封送る

血塊流下 通經劑

本劑は胃腸を痛めず子宮を害せず如何程長き月經閉止も必ず忽ち快通流下する特効あり本劑參劑分を用ゆれば二三ヶ月間滯りたる月經にてもキレーに流下す又特別製分を用ゆれば半年以上の月經閉止及び血塊にても必ず立處ろに流經す且つ月經不通月經不順より起る子宮病血の道を全治し多年滯りの古血及惡血毒血を一掃することを確證す但し本劑は其奏効極めて確實顯著なるも毫も衛生無害なり婦人諸君安心して試藥あれ價は壹劑分七拾錢貳劑分壹圓廿錢參劑分壹圓七拾錢特別製分貳圓參拾錢(注意)本劑及び以上各藥の大盛を羨み近時續々怪しき無効なる類似偽藥顯はる用藥者は深く注意ありて「專賣元日新館藥房」の名義に注目し購求あらんことを乞ふ



わきが 腋臭 根治確證新發見藥

從來醫療賣藥其他百方手を盡し到底不治の難症と斷念せる腋臭患者は速に當館新發見の根治藥を施し「生きながら地獄」の苦悩を永遠に脫せよ、いか程重き慢性わきがにても本劑を用ゆれば誓って根治することを確證す殊に本劑にて一旦全治せば決して再發或は他病に變ずる患ひ無く生涯再び用藥を要せず是れ他にありふれたる類藥と異なる處の本劑一種獨特の靈効なり患者よ速に此根治的新藥を一試して世人の嫌忌せる病根を斷絕せよ實に不思議の新發見奇劑なり▲根治的謝狀山の如し來りて見よ示す▲(藥價)輕症根治分價送料共六拾錢▲重症根治分同上壹圓貳拾錢▲頑固慢性症根治分同上貳圓參拾錢▲切手代用は必ず二割增しの事▲着金即刻送藥す

以上五藥 專賣元 東京市神田五軒町十九番地 日新館藥房

女(ねの三)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二回新學期開始

◉今や入會の最好機なり

此の好機を逸して悔を遺すこと勿れ

▲自宅に在りて業務の傍、高等女學校程度の學術技藝を修得せんと欲するものは速に本會に入れ、本會發行の實用女學講義錄は前記學課の外に我國家庭の事情に參酌して女子必須の諸學藝を遺憾なく講究せしむ。

▲會長 尾崎行雄氏自ら會務を監督し取扱親切也
▲講師 斯道に經驗深き專門大家拾數氏之に當る
▲組織 高女課程以外家政技藝等を加へ實用的也
▲講義 言文一致畫入れ假名付きにて誰にも判る
▲質問 不明の處は何回にても自由に質問を許す
▲雜誌 會員には講義錄の外機關雜誌を毎月進呈

實用女學講義錄

▲本會は中學講義錄を發行して成功せる深き經驗を基礎として新式の教授法により丁寧懇切に教授す、小學校卒業位の學力あらば何人にても容易に了解することを得べし

▲會員の詩歌文章俳句は添削して雜誌に掲載す
▲會費 全學期の會費は都合半月の學費にて足る
▲入會 何時入會するも講義錄は第一號より送る
▲章票 會員には會員章、修業證、卒業證を送る
▲特典 此際至急入會者には入會金を免除すべし

◉先づ規則書を要求せよ

見本付き規則書無料進呈すべし

東京神田區駿河臺
（電話本局三〇〇四番 振替東京四二〇〇番）

大日本國民中學會女學部

（その四）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



避暑

熱砂吹き捲くアラビヤの野にくらぶれば日本の夏は熱からず、氷雪閉ざすシベリヤの山にくらぶれば、日本の冬は寒からず。

窮冬にも花咲き、盛夏にも鳥歌ふ、この樂土。

天惠渥きこの郷に住む人々よ、熱さを避くるはあまりに彼れがめぐみを弄ぶに似たらずや。

適莫今は一年休養の時なり。

君が結ぼれたる心を解き君が囚はれたる身を放ちてこゝに心身の調節をはかるはむしろ夏の賚賜にあらずや。

塵の世に齷齪たる人、去つて自然の波に浮べよ。去つて自然の風に浴せよ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

お友達となりて子供を育てし經驗

公爵夫人　大山捨松子

△頭腦の固らぬ子供の性質

子供を育てるにはまだ其の體內に居る時分から十分注意をしなければならぬと言はれてゐる程で、幼い時の教育と云ふものは實に大切なもので御座います。或舊教の僧侶は、「子供が七歲になるまで、舊教信者の家庭で育つならば、その子は一生涯舊教で居る」と申しましたが、之れは實際で御座いませう。幼い時の教育は、頭腦の固らぬ所へ色々の事を注ぎ込むのですから、先入主となるとでも云ふのでせうか、一生の品性を造り、一生の運命を支配するので御座います。けれども是れ迄の私の經驗によりますと、子供が十二三歲から十五六歲迄の間も、亦親達の力を注ぐべき大切な時かと思はれます。此時代は、子供の智識、感情、其の他色々の心の作用が急に發達する時機ですから、育兒上には却々骨が折れて、少しの不注意にも遂に取返しのつかぬ様なことが出來ます。それと云ふのは、子供は、十二三歲迄は、主として家庭の感化を受けますから、教育法も、やや單調で宜しいのですが、十二三歲以後になりますと、種々外界の刺戟を受ける折が多くて却々單純な教育法ではいかぬからで御座いませう。

△急いで家へ歸へらせる習慣

此の危險を防ぐには、特に注意して家庭を樂しく面白くすることが大切で御座います。それには家の内に音樂や遊戯の器械を備へなどして母親が子供の身の上に十分同情を注ぐ事が肝腎です。斯樣にすれば、子供は外

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

よりは家の方が樂しいから何處へ行つて居ても急いで家に歸るといふ習慣がついて、自然外界の危險に近寄らぬ結果になります。昔より「父は嚴」とか申して父親は恐いものとなつて居りますから、こゝはどうしても母親が子供と一緒に遊び、一緒に勉めて、全くそれと一體になる樣に心掛けねばなりません。即ち子供が寫眞に趣味を持つて居れば、一緒になつて、寫眞を手傳ひ、テニスが好きなら、一緒にテニスをなし又書を讀んで分らぬ所あらば言つて聞かせ。例令自分にも分らぬ所があつても決して「それは分らぬ」といつて打捨らずに、何處までも同情を寄せつゝ、分るまで研究して、一緒に苦み、又算術の問題にしましても、出來れば一緒に樂み、出來なければ、一緒に考へて、何處までも子供と苦樂を倶にすると云ふ風に致したいもので御座います。

△子供は何でも言ふ事をきく

斯樣に母親が力めますと、子供は終に母親と一心同體と言つた風になり、何事につけても、母親が居なければ面白くない、母親あればこそ、この世が面白いのだと考へる樣になります。これは最も大切な事だと思ひます。單に口先ばかりで訓へて、衷心に同情もなく、何事も子供と一つになるといふことがなかつたなら、迚も子供は育てられるものではありません。母親が何事につけても子供のお友達となり、子供と一致して行つてこそ、子供は何事につけても母親の言ひなりになり、又幾歳になつても、母親の恩を忘れないので御座います。世間には、年を取ると男の子などは母親のいふことを聞かないので困ると言はれる人もありますが、このやうに致しましたなら、母親の感化は、何處までも行渡つて決してそんな心配はありません。

△母親の外出と子供の感情

子供が外に逸れて誘惑を受けるのは、主もに家庭の樂みが缺けてゐるからであらうと思はれますが、母親が右の樣な心掛でさへあれば、子供は家庭程樂しい所はない、母親位好い人はないと思ふて、外に娯樂を求めやうといふ樣な考へは起さず、外に出て居ても用が

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

濟めば速に歸宅して、容易に誘惑は受けません。

それにつけても母親は成るだけ、家庭に居らねばなりません。子供の歸宅する時分は殊にさうで御座います。日曜日や土曜日などには色々止むを得ぬ用事もありませうが、成るべくならば留守にはしたくはないものです。常の日でも、學校に出る時と、歸る時とは、必ず家に居るやうに致したいもので御座います。玄關で「お母様、只今」と言つて學校から歸つて來るのは何處の家の子供でも同じ事でありませうが、此の時に母親が家に居ないとすれば、子供はさぞ寂しいで御座いませう。恁う云ふ時には私共では成るべくそれを玄關に迎へるやうに致します。

△友達は家に迎へて遊ばせる

子供を育てるに就て、次いで大切なのは友達で御座います。幾等家庭が良くても友達が惡いと、どうしても惡い習慣をつけられます。何處の子供達でもよく他家に遊びに參りますが、多い家の中には、どんな家庭がないとも限りませぬ。從つて家で折角躾けたのを外ですつかり壞されて了ふ事があります。之を防ぐ爲に私は他家のお子達をも、我が家に呼んで、共に遊び、共に勉めるといふやうに致して居ります、そして、音樂が好きなら音樂のお相手、植木が好きなら、植木のお相手すると云ふ樣に致します。

△威嚴は決して損はれず

やゝもすると私の家は忙しいから子供を相手に遊んでゐる時間がない、さう〳〵子供に同情を表して行く餘裕がないと仰つしやる方もありますが、幾等家が忙しくても、母として二時間や三時間の隙を子供の爲につくされない事は無い筈ですから、何うか都合して子供の爲に十分盡したいもので御座います。或は又母親が餘り子供に親むと、子供は馴れきつて、母の命令を何とも思はぬやうになり、母親としての威嚴を保たれなくなると言はれる方もありませうが、私の是迄の經驗によれば、決してさうではない樣で御座います。尤も父が亡くなつて母親一人で子供を育てると云ふ場合にはいくらかそこに手加減が要りませう。（玲瓏生記）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

興味ある山中の避暑

井深花子

▲質素な避暑法

追々生存競爭が烈しくなるに從つて平常熱心に働くものは男女共夏季に腦を休養させる事が一の資本で御座いませう。私なぞも一週三度の學校勤と家事の忙しい爲に頭腦は可なり使ふ方ですから、毎年十日間位轉地をいたして參りますが、僅か十日でも餘程身體に宜いやうに思はれました。夫れで昨年の暑中休には縫物の仕末をする處を思ひ切つて鵠沼へ子供を皆連れて一ケ月程參つて居りました。其御蔭で當年は如何に忙しくても疲勞を覺えないので御座います。之れに就て米國人の避暑風を御參考に申上げませう。紐育やボストンの中央に居る下等社會になりますと、樹木はどんな物であらうと云つて居る者が在る位ですのに、暑氣も日本より甚しう御座いますから中流の人は大抵避暑轉地するので御座います。上流の贅澤連は海水浴の盛り場へ出掛てホテルに泊り込み金びらを切るのでありますが、中流社會には極便利で興味のある避暑法が行はれて居ります。私が田舍の湖水際を通りました時、對岸に白い塊が幾つも散在して居るのを見ましたが、之は避暑客の天幕で在つたのです。此天幕は自分持のもあり、貸天幕もあつて勝手な場所へ備へ付け、食料にはカン詰を用意いたし魚は湖水で釣つたので間に合せて居ります。餘り周圍へ避暑客が集つて來ますと閑靜な方へ引越して天幕を張るので、其簡易な風は丁度昔の遊牧の民のやうで御座いました。もつと面白い方法は深山轉地であります。主人が手づから粗末な小屋を組み立て、其中へ棚を拵へて寢臺に致すので、割烹道具や書物は車に乘せて家族が山中へ曳き込み一夏を此處に過ごすのです。尤も主人は時々家に歸つて用を足し其際必要品を携へて山へ上ります。一家族は山中の湖水で魚を釣り、山深く分け入つて果實をあさりますから旨い食物は充分に得られ、訪ひ來る人もありま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

せんから何様衣服でも氣樂なものです（尤も洗つて火熨斗をかける事は怠りません）但し夜分はどうかすると猛獸が來ると云ふので、小屋は必ず二階立に組み扉を堅く閉して一同二階に安眠いたします。私は一夏此山中避暑の知人の許へ參つて居た事が御座いますが、毎日緑草の敷物に寢轉んで讀書に親しみ、談話に耽る樂しさは實に仙境に遊ぶの感がありました。

▲銀行の利子で生活する人

日本では銀行の利子で四五人の家族が樂に生活し得らるゝ位の家は富者の顔で御座いますが、米國なぞでは此位の身分は金持の仲間に加へません。米國では御承知の通り生活の程度が高い上に銀行の利子が廉いのですから、餘程の預け金が無ければ暮せない筈でありますのに、夫でも金持の仲間入が出來ないのを見ましても富の程度が餘程違つて居る事が分ります。從て是等の人達の生活狀態は、日本中流の人よりズーッと質素なもので、子女の教育なぞも中學卒業程度までは親が構つて遣りますが、それ以上は當人が働いて學資を作る事に定てあります。子女の方でも中學以上親の厄介になる事は恥辱と心得て居りますから、男女共相應な稼口を見付て働きます。尤も彼地の中學卒業生は我國の中學卒業生より實用に當はまる風に教育されて居ますのと、仕事の範圍が廣いのとで、餘程便利な處が御座います。男學生は主に銀行會社の給仕となつて勤務の暇に學び、或は暑中休暇に耕作や果物採集の手間取に雇はれて學資を稼ぎます。女學生は夏休の間に避暑地のホテルへ給仕に雇はれる者もあり、行商を致す者もあります。彼地のホテルの給仕女はホンの三食の時だけ客の前へ出て周旋すれば可いので、醉客に冗談を云はれるなぞと云ふ憂もなく極安心な仕事で、世間でも事務員位に看做して居ますから、女子の正當の職業として良家の娘が從事して居るのです。日本中流の令孃方が宿屋の給仕女に出るとか、脊負商でも致したらそれこそ大變な物笑ひになりますし、第一危險が伴づて迚も良家の女子に從事させられる仕事ではあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

りません。彼地の社會の仕組は便利淡泊でありますから、子女の教育に身代を入れ上ると云ふ親が少く、子女も却つて活きた學問を修め得るのです。此點は日本の中流社會に比べると幸福だと存じます。

▲勞働の神聖を子に覺らせる

私の懇意に致した或牧師の息子は、中學の費用だけ親に出て貰つて居りましたが、學費以外の欲しい物は自分で働いた賃銀で買つて居りました。牧師と申しても中流の生活が出來る位の收入があり、田舍に在る祖父も銀行の利子で樂に暮して居ますので、何れにも此息子に小遣を與へる位の餘裕はあるのですが、働ける身體と時間がありながらノラクラと親の脛を嚙る事を非常に卑む國風ですから、子供にも此精神を善く教へ込んで御座います。それで此息子は歸校後毎日隣の友人の家へ苺採集の手傳に參り、何でも五合二錢位の割で賃銀を貰ひ、之を貯蓄して顯微鏡を買はうと樂しんで居りました。大分稼ぎ溜めました頃、父や祖父が「御前顯微鏡を買ふ積りなら最少し稼ぎ溜なさい、少し位の足し前は出して遣るから」と勵まして居りました。其後私が息子に「顯微鏡を御買ひでしたか」と尋ねましたら、「醫者に運動を勸められたから自轉車を買ひました」と話したのです。中流の子弟には斯様教育が必要であると私共も感じては居りますが、扨今日私共の子供を知己の家へ日雇取に出されるか如何かと申しますに、餘り世間並を外れて人に奇異の感を起させては――なぞと考へますと、實行して見る次第にも參らぬので御座います。

▲外見より滋養食

私は或學友の郷里へ參りました處、其友達の家は少々の預金の利子で夫婦に娘二人生活して居り極々質素な暮しを致して居りました。食堂は臺所と兼帶で、珈琲茶碗は手の取れた物ばかりと云ふ風でしたから、參りたては學校の寄宿舍よりズット殺風景な何と云ふ貧乏臭い家であらうと情なく思ひました。處が此家に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は牛二頭と、少しの野菜畑が在りまして自宅用の牛乳、バタ、馬鈴薯なぞは充分に得られますので、毎日掘立の薯と搾り立の乳との料理が何とも云へぬ風味を具へ、肉は一週に一度しか附けませんでも結構滋養のある旨しい食事が出來たのです。私は友達に經費を尋ねて見ましたら、四人家内で一週凡そ二弗半程ですと申しました。一ヶ月二拾圓餘で斯樣滋養食が出來ると云ふのは實に羨しい生活の仕方だと思つた事が御座いました。

▲衣服より燃料

彼地の婦人の中にも虛榮にばかり憧れて流行の服裝に贅を盡し、良人は妻君に意氣地なしと思はれまいと焦心して無理な金算段を爲るなぞと云ふ醜聞は、よくパックに出て居るのですが、是等は物質的貴婦人の側に多く、中流社會には一般に眞面目な主婦が多いやうで御座います。私の交際しましたのは中流生活の婦人達ばかりでしたが、皆感心な婦人で、經濟法なども實に上手で、而して我儘がありませんでした。塵芥のやうな絲屑、紙屑も漫りに捨てぬ程細かしう御座いますけれども、知人に不幸な出來事が在ると、直にカン詰を澤山拵へ、大籠へ入れて遠方まで持つて往つて遣るとか、傳導會社に寄附をするとか云ふ事は惜氣もなく大袈裟に金を遣ひます。而して一般に衣服の品數が簡單で之に費す金が少い所爲でもありますが、燃料なぞは一度に澤山買入れて置きますから格安にも付き又充分の暖を取つて家族が働く事が出來ます。自分の衣服にばかり金を遣つて少の燃料も惜しみ寒い時分家族に充分の暖をも取らせなかつたり、食物も爪で火を燈もすやうな買方を爲て家族に不快を感じさせるやうな事は餘りないので御座います。

▲衣服の奴隸を免れたし

彼地の婦人は善く働くやうで割合に暇が多いのは、家の用事が規律が在るからではありますが、一つは縫物の手數が少いのに因ると思ひます。中流の妻君でも

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

禮服、秋會着、常着の三種が一通りづゝあるだけで、簞笥の底に寢かして在る衣服は御座いません。斯の少い上に春秋に洗張仕立直しの面倒が少くチョイ〳〵の繕ひ位で至つて簡單な衣服の仕組でありますから、果物採集なぞ目立つた仕事も出來、讀書や遊戯も出來る餘裕が在るのです。私もどうか此風に習いたいと存じ、元から多く持ては居ませんでしたが歸つて參つた際困つて居る人に古い物は大抵分けて了ひました。夫でも取出て見ますと未だ多過るやうに思はれ、晴着は單衣一枚切に致して秋になれば裏を附て袷に直し、冬が來ると綿を入れて間に合はせて見ましたが、此早變りは却々忙しなくて、且つ日本服では損じが早く不經濟のやうですから一歳限りで止めて了ひました。其後又必要に迫つて段々と着數と手數とが殖えて參つた次第で、誠に遺憾な事と存じて居ります。唯折々呉服屋へ出掛て流行物や取置物を買ふと云ふ事が少しも無いだけが氣樂なので御座います。衣服に支配されるのは何國の婦人も同じ習でありませうが、體面の割に生活の基礎が不確な我國中流の家庭では其主君が大に決心して自分の衣服の費用と手數を省かなければならぬと存じます。私が以前試みたやうな突飛な省略も無論今日實行は出來ますまいが、去りとて年が年中他と競爭して不相應な物を買立て其穴埋に良人を苦しませたり理想の身なりの出來ぬのに煩悶して良人に惡い顏を見せる事がありましては、貴き婦人の魂を衣服の奴隸に獻じたのと同じでありませう。而して滅多に要らぬ衣服の手入れに朝から晩まで時間をつぶし、交際の餘裕も修養の餘裕も全く之が爲に奪はれて了ひますのは誠に惜しいものだと存じます。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供を本位として工夫せる色々の設備

寺田勇吉

近來大分この近傍に（寺田氏のお住居は小石川の奥目白臺にあり）家を建てる人が多くなつて來たが、これは實に結構な事である。斯る場末の地では庭園を自由に廣く取ることが出來るが、此の庭の廣いといふ事は子供の敎育にとつては、衞生上からいつても精神上からいつても甚だ必要な事である。黃塵萬丈の市中にあつて惡習に染むよりも、斯る場末で淸い空氣の中に草木自然を相手として生活するといふ事は、子供にとつて非常な幸福といはねばならぬ。歐洲などに於ては店を市街にもつて居る人は必ず住宅を別に場末に置くのであるが日本でも近頃さういふ風の流行して來た事は、甚だよろこばしい事である。

△廣い庭園を有ち乍ら子供を其處で遊ばせない人

然し私の尙は遺憾に思ふ事は、折角場末に來て、廣い庭園をつくるはよいが、いづれも主人の目を慰め客に見せるといふのを唯一の目的として、子供のためには少しも考へてないといふ事である。假へば庭に苔を生す算段をし乍ら、子供には其上を歩くことを禁じて居る。庭は全く主人の專用物且つ贅澤品といふ有様であるが敎育上からいふたならばこれは實に大いなる誤りといはなければならない。一體敎育の效果の事があると否とは幼稚園小學校時代に於ける家庭及び學校敎育の如何に因るもので、もしこの時期に於て敎育の方法を誤まるな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らば、體格の丈夫な人も、人格の正しい人もまづ出來ないといつてよい。既に小學校時代に教育法を誤つたものは、中學校や高等女學校の時代に至つて急かにさはいだとて、到底完全なる人間とすることは出來ないものであるから、人の父母たるものは最もこゝに注意をしなければならぬ。私が幼稚園や小學校の校長として小さい子供等の教育につくして居るのも、全く人間の教育は幼少の時代が最も大切であることを深く思ふてゐるからである。

△私の住居は全く子供本位に造つてある

で少くも中流以上の人が庭園を造る時には子供本位にやつて貰ひ度い。私は今より二十五年前に此處に住居を定めたが、それはもと〳〵子供のためを考へての事であつたから、庭園を造るにも石一つ置かずして一面に芝を植ゑた、そして四人の子供が學校から歸つて來ると、始終その芝の上で遊んで居つたものである。また家の裏の方には、草花類を澤山植ゑて子供等に培養させ、私共夫婦も亦餘暇あれば出て一緒に土を掘つたり、水を撒いたりした。其後子供が皆大くなつて或は高等の學校に進み、或は嫁入りをするといふ様になつてから、初めて庭に石材を入れさせたやうな次第で、全然子供を本位として居る。のみならず私の子供本位は單に庭ばかりには限らずして家の中に飾つてある品物でもすべて子供のためを考へてやつて居る。私は歐洲諸國にも往きことに日本は殆と各地に亘つて旅行したので、初めて往つた土地からは必ず其地の特産物を買つて歸宅つた。これは一には旅行の紀念とする爲であつたが、又一には子供等に各地に於ける工業または天産物の狀況を示さうといふのが目的であつた、この室に置いてあるものは大抵それである。これらは必ずしも立派なものまた價の高いものではないが、一として子供のために地理歴史の參考、其他種々の教訓の材料とならぬものはない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△燧石と『飜譯館』と云ふ額面の由來

こゝにある燧石は私が昔貧乏時代につかつた最も大切な紀念物であるが、之を置いてあるのも亦子供を訓める意味からである。私は若い時に養子に往つて、自ら御飯炊きまでもしたのであるが、昔はマッチといふものがなく、斯ういふものを使つて面倒な思ひをして火を焚き付けたものである。私はそれを思ふて、今日でもマッチ一本でも決して粗末にはしないのであるが、同時に子供等にもこの紀念物を示し、昔の不自由な時代の事を話してきかせて、無益な消費をさせないやうにつとめて居る。又私の家の入口には飜譯館といふ額がかゝつて居るが、あれなども人に見せるためにわざと懸けてあるのではなくして、矢張り子供の戒にするためである。といふのは私は長い間役人をして居つたが、役人といふものは金を貯めることが難しい。そこで私は出來る丈け勉强をして飜譯をした。この屋敷は即ちその飜譯によつて得た金で買つたものである。且つ私が今日いはゞ浪人の身分でありながら、何うやら人の世話にもならずに暮して居られるといふのも、全くそのお蔭といつてよい。そこで家の入口に飜譯館といふ額を掲げて昔をしのび、子供等にも敎訓を與へて居るのである。

△自分の目を慰めるよりも第一に子供の爲め

我國の人は精神的の結果に於て未だ却々歐米の文明國には及ばない。これには種々原因はあらうが、主として母親が子供の敎育方法を誤つて居るといふ事に歸するかと思はれる。昔の婦人には三從の敎があつて、婦人は何でも人のいふ通りにさへなつて居ればそれで務が濟むといふ事になつて居つたけれども、今日の婦人はそれでは不可い。婦人が國民の半數を占めて居る以上は、半數丈の仕事をする義務があるのである。しかし私は婦人に對して決して外部の仕事をせよとは望

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まない。婦人の仕事は内部の仕事即ち家庭をして完全ならしめるといふ事にある。就中子供の教育に注意をし、未來の國民をして丈夫な身體と正しい品性とを保たしめるといふ事は、最も大切なる婦人の務である。それ故婦人が家を治むるに就いてはまづ何よりも先きに子供のためを考へて貰ひ度い、主人なる夫が其考をもつて居るといふ事は勿論必要であるけれども、而も夫をしてそのやうな考をなさしめるのは妻の力であらうと思ふ。庭園の事などはほんの一例である。其他新しく家を建てる人人にしても、夫妻一致して、客に見せるためとか、自分達の目を慰めるためとかいふ事を目的とせずに、第一子供の教育に適合するやうに考へて貰ひ度い。



△我が工夫せる小兒本位の庭園

子供本位の庭園については、私が特に工夫をしたものがある。これは圖を御目にかけなければよくはわからぬが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まづ兒童室は庭園に面して南向に建てる、庭園は一面芝生にして其一隅に小山を作る。小山の上に阿屋のやうなものを建て、子供がこゝへ登ると庭園全部が見えるやうにする。そして芝生の周圍には立木の植込や、草花を栽培するための畑や、たゞ目を樂しませることを目的とする花壇や、木馬、ブランコ、鐵棒、スベリ臺、砂場などを備へた運動場や、(砂場には全部を掩ふやうな藤棚の類をこしらへて夏の日蔭を遮るやうにすれば妙)を設け、其間に犬小舍、鳥小舍、兎小舍などを程よく配置する。この他に水流があつて水禽を泳がせ、池には魚類を放ち、且つ噴水でも設けることが出來れば、一層結構である。まづこの位にして計算して見ると四百坪ばかりの地面があればよい事になる。場末に來て家でも建てやうとする人は五百や千の地面はもつて居る筈であるから、この位の庭を設けることは容易であらう。何うか妻たり母たる人達は今後大に斯ういふ處に目をつけて、子供の敎育に効果を收めて貰いたい。

△轉地修養會に就ての苦心

子供の敎育には周圍とか自然とかいふものが非常に影響を及ぼすものであるから、私の學校では轉地修養會と名づけて、毎年夏休みを利用して、子供等を海濱林間に連れて行くことにしてある。これは家庭以外のことに亘るけれども、序故御參考までに御話して置きたい。西洋には林間學校といつて、山林の多い處に學校をつくり、健康をよくするのを目的として弱い子供を其處で敎育するのがあるが、此外にフエリエンコロニーといふのがある。フエリエンコロニーとは休み中の轉地といふやうな意味であるが、適當の譯語がないので、私はこれを轉地修養會と命名した。この轉地修養會は私の學校では一昨年から始めて、第一回は鎌倉に、第二回即ち昨年の夏は妙義に行つたが、獨逸などには海邊よりも山間の空氣がよいと云ふ樣な說もある、今年の場所を選むに就いて先日御殿場へ往つて見たが、空氣はよいけれども家がない。それから箱根に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

も廻つて見たが、小田原に年々腸窒扶斯の出來ることを思ふて此處も不可いとなつた。それで今度は日光へ探しに行かうとしてゐるのであるが、大方それに決定しやうと思ふ。妙義といふ所は非常に不便な所で、昨年は兵糧を得るために、私は殆ど毎日のやうに東京妙義間を往復し、肉などは氷づめにして持つて歸つて食べさせるといふ騷ぎであつたが、日光はその點にかけては餘程便利であらう。



△轉地先に於ける朝夕の樂み

處で轉地修養會では何ういふ風にして子供を暮させるかといふに私の學校では國語と算術とに最も重きを置いて居るから、この學校を一日に凡そ一時間程勉强させ、體操とか遊戯とかいふものを三十分位散歩を一時間ばかり、他に手工などもやらせてゐる。一昨年鎌倉に往つた時には、粘土細工

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をやらせて、鎌倉燒の窯に入れて燒いてもらつた處、生徒は大悦で種々なものを作つて持ち歸へると云ふ風であつた。朝夕には深呼吸をやらせ、夕方には湯に入らせ、其後で花火を擧げるとか、面白いお話をしてきかせるとか、また子供等にも話させるとかして九時頃には寝かして了ふ。幼稚園の生徒は連れて往かないけれども、それにしても六歳から十歳前後の子供等であるから、可愛さも可愛いが、世話もまた隨分やけることに手のかゝるのは女の兒で、朝などは髪を上げてやるので女の教員などは目を眩すばかりである。一體私の學校の生徒はいづれも中流以上の家庭の子供で、家には澤山下女とか下男とかをつかつて居るから、實に横のものを竪にもしないといふのが多い。それで私は子供等に自分の事は一切自分でせよと命じ、各自に箱を一つづゝ與へて、自分の所持品を始末さしたが、彼地に居る四週間は殆どいひ付けた通りに行はれた。斯うして仕込んだのを家庭へ歸つて其の通りにやつて呉れると、非常によいのであるが、歸つて來ると父兄が甘やかす、召使が御機嫌をとるといふ譯で、悲しいかなまたもとに返つて了ふ樣である。

△三十五名の子供に十五人の世話人

しかしこの轉地修養會は父兄の方でも大層喜んで贊成し、今年なども早くから申込みが續々ある。けれども大勢の生徒を全體つれて往く譯にゆかぬから、定員を三十五名と決めて、これ以上は許さない、尤も生徒の中には自分の家で別莊をもつて居るものも多く、親が連れて轉地をするといふやうなのも、少くはないから學校では健康上何うしても轉地の必要があると認めるもの、或は家庭から離して置く方が子供のためになるといふやうなのを連れて往くことにしてある。生徒の外は教員や飯炊などが十五人許り從いて往くことになつて居るが、十五人は少々多すぎると思ふ人もあらうけれど、私の學校に來て居る生徒の身分や年齡から考へると、この位の人は實際必要なのである。家庭から

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

付添人を付けることは一年級にのみ許してあるが、しかし私はこれに條件をつけて、付添人は自分の付添つてる子供の世話ばかりして居つては不可ぬ、此方の雇人同様誰れ彼れの區別なく用事をしてくれなければならぬと約束をしてある。そして生徒の父兄が見舞に來て菓子などを持つてくることがあるが、これも生徒へ直接に渡して貰はないで、學校の方へ貰ひ、生徒へは誰から貰つたといふ事をきかせずして午後牛乳でも與へる時に御馳走することにしてある。

△効果は非常に著しい

去年妙義に往つた時は、淋しい山中の事ではあるし子供等は乾度飽きて了うだらう、ホームシックなどを起されては困るがと心配して居つたが、幸ひ一人としてそれがなかつた。生徒の父兄で子供を見ながら、近所の宿屋に來て泊るものが日に一組や二組はあつたのであつたが、子供等はさういふ人達に從いて東京に歸りたいといふ様なこともなかつた。

この轉地修養會の効果は非常に著しいもので、體量などはずつと増して來ることに大變身體の弱く、氣分も鬱々として答なども口の内でするといふやうな子供があつたが、それなどは別人のやうに丈夫になり、同時に氣分も快活になつて、寧ろハキ〳〵し過ぎる位になつて來た。

◎夫妻選擇法

▲輝くネクタイよりは輝く心を撰べ、汝等然る後に輝くネクタイを買ひ得べし
▲愚なる悲觀論者と結婚する勿れ
▲胃の弱き陰氣な男と結婚するな
▲生活の戰に其身を潔くせず人を相手に喋り廻る男を避けよ
▲懐中の膨らみ居る男よりは心の大きな人を選べ
▲人目を驚くべき衣服よりは、人目を驚くべき位置を採れ
▲婦人固有の思想を遮るが如き男に注意せよ
▲汝の理想としての戀人は、汝の夫として理想にあらざるものと記憶すべし——(バークパン博士)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新工夫の席上體操

日本講道館主　嘉納治五郎

講道館主加納治五郎氏は、先頃來しきりに工夫を凝らされた結果席上體操とも名づくべき一種の模擬體操を御考案なさいましたが、それについて氏は左の如く記者にお話になりました。

◎體操の三種類

體操には先づ實動、虛動、擬動の三種ある。例へば車を挽くとか、荷物を擔ぐとか、土を掘るとか、或はまた端艇を漕ぐとか、テニスをするとかいふ實際生活に必要な働きをしたり、勝負を爭ふたりする運動は、即ち實動體操であつて、小學校の生徒などが、一二の號令によつてする體操の如く、何の意味なしに手足身體を動かすものは虛動體操である、それから擬動體操これは實際の働きに擬してその眞似をする體操で、例へば土を掘つたり、重いものを持つたりすることを實際にはしないのであるけれども、それを實際にする積りで身體を働かす運動である。

◎局部に偏せざる運動

テニスをすれば面白く、車を挽けば役に立つ。實動體操には興味もしくは有益のいづれかゞ伴ふ、それ故この運動には精神がこもるのであるけれども、其代り運動が身體の局部に偏し易いといふ嫌ひがある。虛動體操の方は、もと〳〵身體の局部に運動が偏しないやうに仕組まれたものであるけれども、それには目的がなく、意味がない。從つて面白味もないので直ぐ倦いて了ふ、嫌になる。虛動體操は恰も化學者が、人間の身體はこれ〳〵の元素から成つて居るから、何々の藥品を調合してグウ〳〵飮みさへすればよいといふが如きものである。これに比べると實動の方は燒肴でもビステキでも刺身でも酢のものでも日本料理支那料理西洋料理のいづれでもお好み次第といつたやうな譯であるが、しかし私の考では、いくら好きだからとて刺身ばかり食つてはいけない、嫌ひでも肉や野菜をとる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

事が必要である。それと同じく運動も實動を主として足りない處を擬動で補ふやうにしなければならないと思ふ。

◎奥様お孃様に望む

人間は頭腦を働かすものと、身體をつかふものとの二つに大別することが出來ると思ふが、筋肉をつかふものになつては、必ずしも運動の必要はない、もし運動をするならば常につかはぬ部分の筋肉を働かす處の運動をとる事が必要である。女でもお三どんなどは殊更に運動するに及ばぬ、運動しなければならないのは奥様お孃様なのである、處で其運動は勿論實動に越したことはないのである、雨戸を開ける、お掃除をする水を汲む、そんな日常卑近の仕事はもとより、其他何んでも自分で出來ることは自分でするやうな習慣をつけて貰ひたい。さうすると第一人の手間も省けるし、智識も養はれるし、意志の鍛錬にもなり、勤勉の徳も養はれるものである、しかし實動丈けでは到底身體と均一に働かせる事が出來ない。そこで即ち模擬體操の必要が起つて來る譯であるが、私は世間の奥様方やお孃様達に對して成る丈け實際に仕事をせられむことを望み、それと同時に私が考案したやうな擬動體操を盛んに行つて、十分に身體の健全をはかられむことを切に希望するのである。

◎私の考案した體操

私の考案した體操には幾種類も型があるのであるが今其中の一つをこゝにお話して見やう。まづ第一に自分の前に大きな玉があると假定して兩手で盛んにそれを磨く眞似をし、次にこれと同じ工合に平面の板を磨く、其次には兩手を前に伸ばして置いて指で數を算へる誰れでも拇指から伏せてゆくことは容易く出來るが反對に小指の方から伏せてゆくとなるとなか／＼自由に出來ないものである。それから艫を漕ぐ眞似をし、足で戰ひ手で戰ふ眞似をする、これは柔道の攻撃防禦の手を取つたもので、左右の足で人を蹴り、兩の腕で

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

前後の人を突く、つまり手が二つ足が二つで二四が八方の敵を退治する形をやるのである。さて喞筒で水を汲み上げる眞似、車を廻す眞似をすると、これで身體中が萬遍なく運動し終ることゝなる、これは男子の型であるけれども婦人で婦人は好き勝手な型を考へてやつたらいゝ、或は味噌をする眞似でも米を磨ぐ眞似でも水を汲むまね、羽子をつく眞似、それは何でもかまはないのである。とにかく實勤で足りない運動を補つて、身體中の筋肉に均一な運動を與へることが出來さへすればそれでよい。

◎この體操の効能

終りにこの體操の効能を述べて見ると、第一實動盥動兩體操の利をかねて居る、第二には道具入らずの手ぶらで出來る、第三には時も處も服裝も無頓着で、何時何處で何な風をして居つても出來る。即ち朝顏を洗ふ前床の上でも出來るし、仕事のひま〱にでも寢際にでも好き勝手な時に行はれる體操なのである。

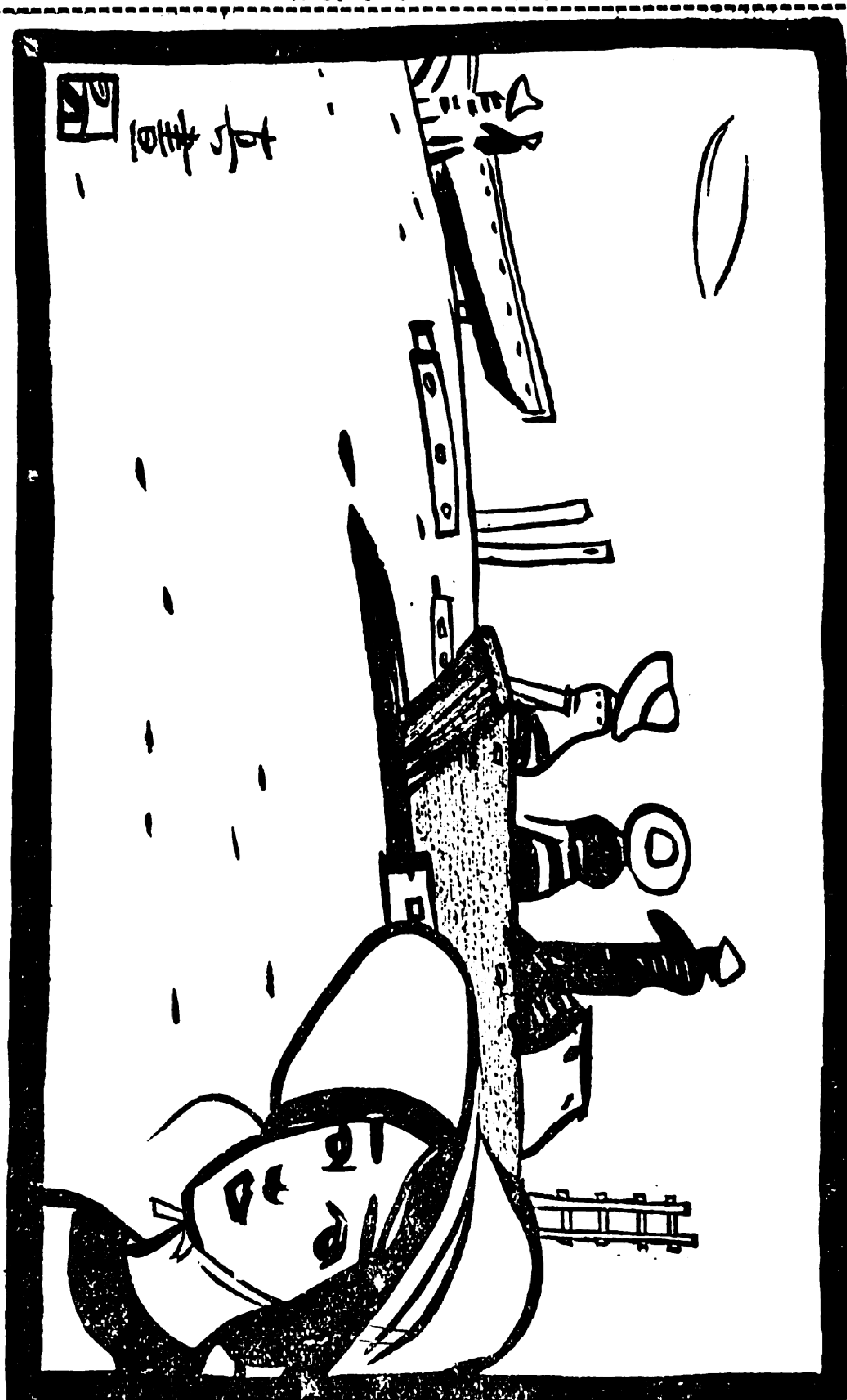
女學生の家事實習

米國の女子大學では家庭實習に非常に重きを置いてゐるが其れも種々あつて或る者は家政經濟の最も進歩した理論により他の者は親爺さんや御婆さんの教によつて舊弊の方法を守つてゐる、この相反した二種の方法中何方が良いかはなか〱六ケ敷い問題である、家庭の實習は頗る整頓したもので室内には最新の家具を列べ煖房器から料理器、洗濯器に至るまで何れも瓦斯と電氣力を利用し床上は總引となつてゐるのもあり又敷物で掩はれてゐるのもある、他の室には石炭、木炭、コークスが料理用煖房用の爲めに貯へられ水はポンプで自由自在に上げる仕組である。

設備は斯の如くであるが其れから先は學生各自の腕前で甲は二十分で充分に料理をやるのに乙は中時間も費して出來損なう、一人は五十圓で一切の費用をすませるのに他の一人は八十圓でも足りないと云ふ樣な種々な實際問題に出會ふて解釋に煩悶するやうな次第其の上如何なる服を着たら最も衛生的でもつとも愉快で尤も經濟的且つ便利であらうかと云ふあたりまでも研究せねばならぬ、一家の主婦となるのもなか〱容易でない。

又育兒の實驗と云ふと何か赤兒を理科學の器械と同樣に使ふ樣であるが是れはまだ理想であつて實施しては居ぬ、然しやがて實驗室の樣なものを建て、育兒法の實習に供にする希望だそうな、子ブラスカ大學の如きは立派な家が建つて家庭科學其の他の研究に充てて居るが二階三階には、寢室、座敷、玄關、浴室を割り當て最も大きく光線の工合の良い一室を裁縫、編物其の他の仕事部屋にしてゐる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



海の風も山の風も
吹かぬ浮世の家

エス、ユウネ

例の如く二階の十疊でお裁縫を始める。

まはりの唐紙障子をみんな閉めて、表の方の八枚障子丈はづしておく。お座敷一つぱい日が入つてどこからも風は來ないし、まるで春のやうだ。

お父樣のお召だから揚がある、また裁板を持つて來て、ヘラをしなければならぬ、今に立つ次手があるだらう、さきに袖を縫ひ始めた。

ポンポンと階下で手が鳴る、父樣が、「これからお寺へ行くから其間、店へすわつてゝおくれ」とおつしやる。「母樣もご一所？」ときいたら、「さうだ、だからお前に賴むのだ」とおつしやつた。さう／＼けふは店内の元田樣のお祖父樣の一週忌だつたけ。……自分はいやだけれど、商賣だもの、仕方がない帳場へ坐つていつやら買つて來た「こゝろの秘密」をよんでゐた。半二はしきりに古い朝日の不折の繪畫を切拔いてゐる、外の二人も新聞よんだり、手習をしてゐる、家の中はほんとうに靜かだ。大通りを通る馬車の馭者の聲が底のはうから聞える。

「お早う」と、格子戸をあけるや否や、着て居た古々しい銘仙の羽織をぬいで、「これときのふの法被を入れ換にして下さい」といふ、若い車夫だ。半二は一寸見て、「だめ、つきませんよこんなにいたんでひどくなつて居るぢやありませんか」、「まあいゝさ貸してくれ給へ、夕方になれば直ぐまた出すんぢやないか、今度埋合するよ、ね姉さん」、終の言葉が私の處へ來た。女のお客樣は、女が店に出てゐるといやがるさうだが、車夫なんか平氣なもの返つてこちらの方できまりが惡

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

くなつて終ふ。

女は虚榮の塊なりつて全くさうだ、何れ持つて來る位の家だから、手元が不如意なのだらう？　此方だつてお客様だもの、笑ふの、陰口をきくのといふやうな事はありやしない。大切に思ふ。それを虚榮がつて同性の者に見られるのはいやだ、恥しい！　なんて……殊に衿垢のついた着物をきて、髪だけ光々させて居る女の人に多いやうだ。……其次を讀み始める間もなく、復お客様がゐらつしやる、顔へは値うちのある髭を生やしてゐながら、白木綿の兵兒帯に棒縞　木綿の綿入に羽織もきない男子の人、脊廣の洋服を風呂敷包から出して、「五圓貸してくれ給へ」といふと、半二はすぐにかしてやつた。そして、此頃は出版部數が少しで困るの、來月からは記事の趣向をかへるとか〇〇〇〇の雜誌も近頃振ひませんね、とか種々雜誌の事について話して居るうち、他のお客が來たので早々歸つた。……番頭が一々品物を見てゐる間に、帳場からみて居ると、お客は何だか一生懸命に、細く線の引いてある紙へ赤い鉛筆で印しをつけてゐた。何かしらん相場の高低表かな……「おいくらにつけます？」といふ番頭の聲に驚いたやうに首をもたげて「二十圓につけておいて下さいな、……これから直ぐ蠣殼町へ行くんですから、なに流しやしません、大丈夫ですよ、今だつて女房が身にまとひついて止めるのを、追拂つて持つて來た位ですもの」、「では御信用でお貸し申すのですよ」。

お客は拾圓紙幣二枚ふところへ入れて出て行つた。

自分は、格子戸から門までの間、斜に三間ばかりの石の上を行く後姿を見守つて暫し呆然としてゐたが、ほんとに、ま、何といふ人だらう？　品物をみれば赤い友禪メリンスの一ツ身、昔物らしい絲織の女物や、矢絣銘仙の羽織もある、綿繻珍の帯……。何れ妻や幼子があるに相違ない、年頃は四十二三、所謂男子の分別盛りといふもの、それを……それを……と、妻が泣きながらむづかる赤子に乳をふくませる、側から五ツ六ツの子供が母さんどうしたの、泣いちやいやよ……、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

悲慘な樣が目の前に浮ぶ。情ないやうな、恐ろしいやうな厭あな感じがして來た。

尤もかういふ事は往々ある、けれど、何故か今日は、沁み〴〵と思はれた。此商賣が心苦しく思はれるのぢやない、中には堂々たる邸宅を構へてゐながら、内々人傳手で五十圓、百圓多いのになると五百圓、千圓位の品物を持つて來るのもあるのだ、偶には華族樣もあるとか、金の指環、寶石入りの襟止、金の首懸け時計、意氣な縞御召、友禪縮緬通しの長襦袢、それは〳〵吃驚するやうな物ばつかし、かういふ品を身につけて、立派に盛裝した、令孃、奥樣がまのあたり見たいものだと幾度も思ふ。さうかとおもへば、此間の晩なんかこれから寄席へ行きたいけれど、明日にならなつきやお錢が出來ないから此肩掛どうか五十錢につけておいてお呉れ」といふ。こちらは要らざる事ながらお世辭の積りで、「寄席つてどちらです」と聞くと「〇〇〇なの、珍らしく綾之助がかゝつたものですからね、それに今夜の語物は十八番なんですよ、……内でも待つてるでせう……」かういふおかみさんも來る、いくら好きとはいへ、質を置いてまで浄瑠璃が聞き度い！ 淺間しい心も極まると涙がこぼれる程だつた。自分はさういふ事を耳にするのがいやなのだ。けれど妙なもので皆申し合せたやうに、到底つきませんといふと、きつと今の如な事情でも、何でも曝露てしまつて「どうか」といふのだもの……時々母に「質屋つて罪な商賣ぢやないでせうか」ときく事がある、いつも「罪な事はない、世間の高利貸とはちがふ、ちやんと政府の許可を得て、相當の利子でお金を貸すのだからいはゞ極く確實な小さい銀行のやうなもの、面倒でなくつて、その日暮しの者は平常は勿論、不時の入用に、どんなに便利か知れない、それに一番秘密が保たれるから名望や地位があつてそしてお金の……」といふ。

成程、さうかしらん、詰らない詰らない、そんな事を考へる必要は無い、と思ひながら無意識に本をとつてパラ〳〵とする、「榮耀に輝く令孃日記」といふ處が出たから、其處から讀み始めた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

恰も頭の上の時計が十一時を打つ、少し過つて母樣、お歸りなすつた。「父樣は？」と聞いたら、「お寺から直ぐ高安へ行くつて！」、私はお經がすむと、お墓參り丈して、歸つて來た、未だ皆樣お出になるんだけれど」、とおつしやる、そして、店の者と私達に、お留守番賃だといつて桃山を下すつた。大方、風月のだらう？。

お晝から、店は大變ひまだ、きのふ父樣が「今このやうにひまでは仕方がない」とおつしやつてたが。それに、入質ばかりで出物が少しも無くつて困るさうな、世が不景氣だとすぐ分る……。

茶の間で母樣とお裁縫をしてゐた。わきの通りを樂隊が通る、退屈紛れに障子を開けて見ると、オヤオヤ、驚いた、上野の動物園に居る位な象が二匹ノソリノソリ、よく見たら其中へ人間が四人づゝ入つてゐるのだ、後から奇妙な着物をきて、「象印はみがき」と染めぬいてある旗を持つた男子が十數人ついて行く、またその後からは、子守、子供中にはいゝ年をした女の人が七ッ八ッの子等と一所にゾロ／＼何處から集まつて來たのか百人位は居たらう？　自分だつてぬけて居る、其人達が一人殘らず行つてしまうまで、ボンヤリ眺めてゐるのだもの。古の名高い畜のお話と同類だ。障子を閉めてまた始める。僅かの歯磨きにあんな大袈裟な廣告を幾度もして、それで合ふものかしらなどと餘計な商人根性を出して心配をした。

自分はまだやう／＼今年十七になつたのだのに、何とかは何とかを生むとかで、つひ少女らしからぬ事をしやべつては笑はれるのだ。

しかし、どうせ行く／＼は「おかみさん」と云はれる身なら、純粋の商人風に育つた方がいゝと思ふ。

父樣、三時過ぎにお歸へりなすつた。大へんな御機嫌の樣子、「床をとれ」とおつしやつて、すぐにお休みになる、もうする間もないと思つたが付けかけた袖を縫つてしまふと、店の方では箒の音がする、急いでそこらを片付けて二階の掃除を始めた。お座敷へ夕日がさして、隅々の塵が一きわ目につく。物干しの座蒲團

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を取込で茶の間へ持つて來た、もうお膳立がしてある。
お夕飯は髙安のお料理でいたゞいた。父様はまだおよつてらつしやる、また店番をあづかつた、新聞を見てゐると、ふるひつきたいやうな讃美歌がきこえる、あゝ今日は日曜だ、學校へいつてないと日曜も月曜もつひ忘れて終ふ。「神よ我は今、惠みの雨の遍く降り來る音をきくなり、下し給へ我上にも……」自分もかつて無心にこれを歌つた事がある……。

七時すぎから、時々お客樣がゐらしつたけれど、入る物はつかし、たまに出しても持つて來た物と入換にするから同じことだ。九時がうつと勘定を始めて、終ると店の大戸をおろす、各々戸締りの見廻りをして、臥床に入つて寢卷を着かへてゐると十時が打つた。遠くで豆屋の聲がする、唯一つの屋臺車を便りにて、木枯荒ぶ大路に叫ぶあのこゑ！　悲哀を訴ふる聲か、苦痛を訴ふる聲？

子供と水泳

水泳に適する小兒の年齢は體質によつて相違はあるがまづ概して滿五歳以上に達すればよい、殊に川の水よりは海水の方がよろしいのである、されど海水浴は只身體を冷すために這入るのであるから只水に浸つてじつとして居る丈けでは何の効もない、つまり身體を動搖させながら皮膚に皮の刺戟を受けるのが其主なる目的である、又陸上の空氣は塵挨が多いが海上の空氣には殆んど塵埃がないといつてもよろしいからその清潔な空氣を吸ひつゝ水中に游泳するは衞生上非常に効力がある。

そしてどんな人に尤も効力が多いかといふのに腺病質の子供即ち感冒に罹り易いもの、咽喉カタルを起し易いもの、又濕疹の如き腫物の出來るもの、或は下痢し易いもの耳垂の出來るものである、是等の病氣を起し易い子供は強ち海水に浴せずとも夏季三四週海岸の清潔な空氣に浴し居れば非常なる効能があるものである。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



夏座敷

目賀田男爵夫人のお話

九十五度といふ稀なる暑氣、流石は土用入だけの事はあるとかこちながら小石川原町なる目賀田邸に推參いたしました處、美しく飾られた明い西洋室に導かれて、奥樣のいかにもお元氣のいゝはきはきとした御話を伺つたので、三伏の暑さも忘れるやうで御座いました。（たみ子）

○暇さへあれば草むしり

先達二六新聞に私は暇さへあれば草取りをして居るといふ事が出て居りましたが、全くその通りですから折角御訪ね下すつても別に御話がなくて困ります。實際私は掃除をすることが大好きでしてね、お天氣がいいと毎日外へ出て、庭の草を一本も殘さないやうにとつて了ひます。そして花をつくることが好きで、ことに西洋葵などは澤山咲いて居りますが、谷間の姫百合ですね、私はあの花が大好で朝鮮から持つて歸つて植ゑましたが、大分よく殖ゑました、朝鮮にはあればかり咲いて居る山があるのですが、北海道にもあれが一面に咲いて居る野原があるさうですね。さうですね讀書などはあまり好かない方といふのでせう。これでも避暑にでも往つて退屈すれば隨分讀みますけれど、平常は用事も澤山ありますし、それに坐つて本を讀んで居ると眠くなつていけません。身體を動かす方が餘程面白いのです。養蠶などが好きで、この邸でも大分飼ひました。しかし目賀田が汚いといつて嫌ふものですから、出張の留守を見ては盛んにするのです。私は鳥のやうな性分で凝として居ることが嫌ひなのですね、山に登つたり、水を泳いだりすることが好きで、朝鮮ではよく山登りをいたしました。泳ぎは海ばかりで、ついぞ川で試みた事はありませんでしたが、昨年始め

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て多摩川へ參つた時泳いで見ました。それはもう海水の方には鹽分を含んでますから、何れ丈け泳ぎ易いかわかりません。

○學問よりも身體を大事にエ、身體は至つて丈夫な方ですとも、近頃の人は衞生の理窟などはなかなかよく解つて居るけれど、口ばかり達者で身體を動かさないから、何うも弱くていけませんね。身體が弱くては何にもなりませんから、私は子供等を育てるにも身體の事をまづ第一に考へてやります。學問など



も決して無理な勉強はいたさせません。もし試驗勉強でもするやうな時は、私が傍から打ちこはしてやるのです。落第すると大變だといひますから、落第したならまた一年やりなほせばいゝではないか、たとへ一番で及第しても身體でも惡くした日には何もならないからと申して居るのです。一人の娘は數學が出來ないので、卒業試驗が近づいて參つた時、學校から歸つてから何處か他の先生へ習ひに遣したらよからうとの事でしたけれど。私は出來ないものを無

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

理にさせる必要はなからうと申て止めさせました。何うせ一家の經濟を預る女の勘定すべき高は大した事もないのですもの、必要上からいへば一通りの勘定が出來ればそれで澤山です。尤も貿易商とか何とか大商人の家内にでも遣らうとなれば格別ですが、それとて妻君の扱ふべき出納の範圍は知れたものでせう。幾何とか何とか難しい事は、勿論出來るに越した事はありませんけれど、出來ないでもさまで不都合はないのですから、何も出來ないものを無理に勉强させて、身體を惡くさせるでもなからうと思ふのですよ。

○學課の勉强は學校丈けで澤山

私は學校の勉强は學校丈けで澤山だといふ主義ですから、外様のやうに家庭敎師を置くといふこともしませんし、學課のお復習や下稽古のために、學校以外の先生へ遣はすといふやうな事もいたしません。娘達が學校から歸れば、私の小間使でもさせるとか、女中と一緒にお惣菜こしらへでもさせるとか、或は妹や弟の世話でもさせるとかいふやうな事ばかりいたさせて居ます。學校の懇話會などいふものに出懸けて參りますと先生から子供等の成績についていろ〳〵御注意がありますが、私は御深切は無論有りがたく承つて參りますけれど家に歸つては、別にそれを子供等に話しもいたしませんといふと、大變惡いやうですけれど、子供に心配をかけて、出來ない勉强を無理にさせるのは、可哀想ですからね、學校の先生は學課の成績さへよければいゝやうに考へて居られますけれど、私は學校で習ふ學課を家に歸つてまたさせる。そんな窮屈な事は子供のためにも却つてよくあるまいと思ふのです。それに家庭では家庭として他に敎へて置かなければならない事もあるのですからね、また阿母さんの方から家庭の事情を細々と先生の方へ打開けて、頼んで居られる方もありますが、私は家の事に就いても何も御話いたしません。學校の方で學課の補ひを家庭に望むのもよくないと思ひますが、家庭で母親のすべき事を學校の先生に頼むといふのも違つて居るやうですね、家庭と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

學校とは、無論其考はお互にわかり合つて居らなければなりますまいが、させます事は矢張り別々にして居る方が、子供のためにもよからうと思ひます。何うも子供はあまり責め立てないで、成る丈けゆつくり育てた方がよいやうですね、私共では幼稚園から通はせたのもありますけれど、末の二人は見合せて居ります。子供を幼稚園へやりますと、成程早くから種々な事を覺え、人にもなづき易くなつて可愛いものですけれど弊害もまた少くないやうに思はれますが、實際は何ういふものでせうか。



○學校育ちの女の缺點

女の高等教育といふ事に就いては、私は初めから餘り感心しませんでしたが、實際評判がよくないやうですね。何も高等教育を受けて惡くなる筈はないのですけれど、つまり惡い處が人の目につき易くて、よい處が隱れて居るのでせう。一時はお嫁さんを貰ふにも何でも學問がなければといふ風でしたが、此頃は學校育ちは理窟つぽくていけないとかいふ事で、學問のあるのよりも寧ろしつかりした家庭で、溫順しくお孃樣に育つた方に望み人が多いやうです。學問があれば相應

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

に理窟をいひ度いのは當然かも知れませんが、家の中は理窟で治るものではありませんからね、何うも學校で育つた人はキチンと型にあつたやうな事は随分出來ますけれど、型以外の例へば臨機應變に氣を利かすこと、人に對して愛嬌をもつとかいふ事に缺けて居るやうです。私共でも昨年お茶の水を卒業して、家に居ります娘を、何うせ遊ばせて置くよりは、三年間奮發して女子大學へ入れては何うかと勸めてくれた人もありましたが、當人があまり好まないやうでしたし、私もまた好かないものを強ひて入學させるより、家でいろいろ氣をつけて見習はせた方が、却つて嫁いだ後のためにもなる事だらうと思つて、其儘にしてしまつた事でした。實際當人が天性學問を好きだとか、或はまた教師にでもならうといふには、これまた別ですけれど、普通私共あたりで家をもたせるには、高等女學校丈けで澤山です。高等女學校丈けですらまだ餘計なものがある位ですからね。

○うつかり嫁にやられぬ

女は矢張り家をよく治め、子供をよく育てゝ、夫を喜ばせるやうにすることが、一番大切です。近頃芝居に小說を讀み耽つて横のものを竪にもしないといふ奥さんを演じて大變よく出來たとかきゝましたが、さういふ風な女は誠に困りますね。妻君が書物ばかり讀んで居つて、夫が歸つて來てもフーンといつた調子では何うして家が面白く參らう道理がありません。さういふ事から夫はつひ料理屋へ往く、藝者と騷ぐ、つまりは惡い病氣などを持ち込むことにもなるのです。男の遊ぶのは妻君が惡いからだと一口にいふのも可哀想ですが、足りないからであることは確かでせう。病氣といへば此頃はうつかり人へ娘を遣れませんね。折角手鹽にかけて育て上げた大事の娘を大騷ぎして嫁にやれば、夫の病氣をうつされなどして、大變な事になつたといふやうな例は幾何もありますが、娘をもつた母親は餘程注意しなければなりません。學問した婦人の中には結婚して病氣などをうつされるよりは、寧ろ獨り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

で自由に暮した方がよいといつてる方もあるさうですが、實際學校へでも入つた人には其位の見識はあつて可然ことですが、しかし女の獨身は何うも感心しませんね私は女はどんなにあがいても、もがいても、何うせ男には及ばないものと思つてます。男の能力と女とは性來違つて居るやうですもの違つて居るから女は男に劣るものといふ譯ではありませんが、たゞ男のする事と女のする事とは別々ですから、男のする事を女がしやうと思ふのは少し違つて居るだらうと思ひます。何といつても女は家をもつて男に従ふのが本統です。それはいふまでもなく、妻となつた女でも男の厄介にならぬといふ考をもつことは必要です。夫に養はれるのではなくして夫を助けるのであるといふことは、妻たるものゝまづ第一に心懸くべきことであります。



良妻と賢母

○釣り合ひのとれぬ生活

何うでせう此頃の奢つて來た事は。衣服の流行はそれからそれへと變つて行きますし、美顏術な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

どいふ事まで流行出して、若い奥さんや娘さんは殆ど衣ものと顔の事にばかり浮身をやつして居るといふのは、何うした事でせう。大學卒業生が初め仕事にありつく時の月給はたか〱四五十圓のものでせう。その人達が二年か三年の後になりて奥さんを持つとすれば大方月給はまだ百圓にのぼつて居ますまい。それに何うでせう。さういふ人の妻君が百圓もするといふ丸帯をしめて、時計だとか指輪だとかに贅をつくして居るといふのは、實に釣り合ひのとれぬ事ではありませんか、私にいはせれば其位の身分には十圓位の帯で澤山だと思ひます。平常着などは木綿で結構、銘仙などは上等過ぎる位です。私は着飾つてる奥さんを見ると、美しいとは思はないで、まづこの御亭主は嘸苦しい事であらうと思ふのですが。實際この節の奥さんをもつことは容易の業ではありませんね。しかしまた男子の方でも、さういふ妻君をもつことは困難だから、自分に相當の財産が出來るまで妻帯を見合せやうなどいふ事はなく、なる丈け持參金の多いお嫁さんを貰はうと探して居るとは何といふ意氣地のない事でせう。困つた風が流行つて來たものですね。一體一圓のお金を得るといふ事は、容易の業ではありませんのに、あゝいふ奥さん達は何と思つて御亭主がとつて入らしたお金を遣つて居るのでせう。私はよく娘や召使の者に乞食を御覽、一文のお金を貰ふのに幾度頭を下げるかしれない。一文のお金を得るといふ事はあれ丈け骨の折れるものだと申きけて居りますが、實際百圓の金にたゞ一厘足りなくても、立派に百圓に通用することは出來ないではありませんか、苦しい思ひをして衣ものを着るよりも勤儉貯蓄の心懸けが肝要です。

○物價は高くなる筈

それに近頃の物價の高いことは何うでせう。薄給の官吏などは、うか〱して居ると生計が立たなくなります。西洋人でも日本は割合に物價が高いといひますが、畢竟遊んで居る人が多くなつた結果でせう。田舎の百姓の息子などは矢張り百姓をして働いて居ればよ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い事を、何故東京へ出て來て、苦しい思ひをし、高い金をかけてまで遊民にならなければならないのでせうか、宅へも學校の卒業生が職業を世話してくれ〳〵と參りますが、いつか澁澤さんも御話でしたが、學校の卒業生は、銀行などで使つて見ても、給仕上りより餘程役に立たないさうです さういへば今年もそろ〳〵方々の大學から卒業生が出る頃ですが、其人達はまあ何うなることでせう。人のことでも考へると頭痛の種ですね。私は安月給の口など探さずに、ズン〳〵海外へでも出懸けて往つて、自分で仕事を始めたらよいと思ひますがね。日本でも北



海道などはまだ〳〵開拓する餘地があるさうですが、朝鮮などに往けば幾何も金の儲かる仕事があるだらうと思ひます。朝鮮は氣候がよいから何でもよく出來るのです。養蠶なども至極よからうと思ひますが、ことに果實の栽培などは望みある事業でせう 彼地は雨が少いから花の散つたあとが腐れるといふやうな事なく花が十咲けば實が十なるといふ有樣です。朝鮮では桃をボクサーといひますが、桃といつても毛のある普通の桃はありませんが、毛のないズバイ桃といふのですね、あれなどは實に澤山あつて、味も至極結構です。櫻桃などの實のりやうといつ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ては、實に見事なもので、枝や葉は見えないやうに澤山ついてます。

○パンヤのクッション

朝鮮の物のよく出來るので思ひ出しましたが、このクッションですね、（夫人は傍の安樂椅子から美しい一つのクッションを取つて示され）それは私が朝鮮でとつたパンヤでこしらへたものです。今は鳥の羽をつかふやうになりましたけれど、昔鳥の羽をつかはなかつた時分は、パンヤの蒲團が非常に珍重されたものです私が朝鮮に參つて、ある日門外に遊びに參りますと、パンヤの蔓が一面に蔓つて靑い實が澤山なつて居る所を見付けましたから、熟した頃を見はからつて、車夫や女中を連れて、辨當持參で採りに往つたのです。彼地のパンヤは實に見事なもので、三寸位の實が一房に五つも六つもついて居ります。次の年も摘みに參りました。けれど參りやうが晩かつたので、もう百姓が刈り取つた後で、殘念でした。刈り取つたと申しても彼地の者はパンヤの使ひ途を知つて居る譯ではありません蔓をオンドロに燃すためなのです。オンドロといふのは部屋を溫めるために床の下に火を燃すことをいふのですが、朝鮮では上は皇室大臣から下百姓に至るまで、みなこのオンドロをいぶしますから、薪が非常に多く要るので、山の木も長く伸びて居りませんし、落葉や枯枝は始終熊手で掻き集められますから、餘程高い山の上でも丁度庭のやうに綺麗になつて居ます。

○氣に入つた朝鮮服

朝鮮は實際よい處ですよ、雨があまり降らないで、空氣が乾燥して居る故でせうが、曇つて鬱陶敷い日などはなく、空はいつでも朝からカラット晴れて、實に氣もちがよう御座います。全く朝鮮なのです。私は前に支那の山水を描いた畫を見ると、實際こんな木のない、ボク〳〵した山があるのかしらん、大方繪そらごとだらうと思つてましたが、朝鮮などに往つて見ると實際あの通りな山がありますね。木のない山といふと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一寸殺風景のやうにきこえますが、何うして御影石などでなつて居る山はなか〳〵美しいものです。それから私は朝鮮服が大好です。私共で先達會をして（先日一橋高等女學校の同窓會が目賀田邸で催されて、後藤男爵夫人や鳩山春子夫人などいふ方が三十人ばかりお集りになつたさうです。新聞には竹橋女學校の同窓會と出て居りましたけれど、ただ竹橋女學校時代の方が多く集まられたといふ丈けであつたさうです）奥さん方が集まられた時、私は朝鮮服を着てもてなしたのですが、其時私は皆さんに向つて、「あなた方のお召物はお金ばかり高くかゝつてちつとも見榮えがしない、私の今着て居る着ものはあなた方のしめてお出でになる帶一本あれば全體出來て了ふのです。而かもこの色彩の美しい事はどうです衣服は斯うなくてはいけません」と申して大喝采を受けましたが、朝鮮服は第一股引のやうなものを幾つもはくのが氣に入ります。日本では近頃西洋のまねをして頸のあたりには夏でもいろ〳〵なものを巻き付けますが、裾の方は一向おかまひなしの開つ放しで何うもいけません。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同情すべき福田博士

法學博士福田徳三氏の離婚事情

婦人記者

福田徳三氏は少壯篤學の經濟學者ですが、一昨年の春、以前お茶の水を出られた某男爵の令孃と結婚されて、其の間に旣に可愛ゆい男の御子さんをさへ儲けられ、定めし前途幸福なる日を送らるゝ事と思ふて居ましたのに、あはれ早くも一家に秋風立ちて、遂に破鏡の悲しみを見られしのみか、夫人はまだ半歳に滿たざる乳兒を遺して家を去られし爲め、情にもろき博士は、愛兒を育くみ乍ら、見るにつけ思ふにつけ胸も張り裂けんばかりに怏々として日を送られつゝあると聞いて、一日博士を千駄ヶ谷の御宅に訪問致しました。

△博士は非常に子煩惱な方

博士の御話を致す前に、博士が此の不幸を味はふに至られた次第を少しく述べねばなりませんが、それには實に同情すべき込み入つた話があります。

博士には曾て相愛せし一人の婦人があつて、一人のお子まで儲けられた間柄でしたが、色々事情があつて結婚する事が叶はなかつたから、其のお子さんを一時房州へ里子に遣られました。けれども博士は非常に子煩惱な方ですから、相當の婦人があつたら娶つてどうか愛兒を其手に托したいと始終言つて居られました。

斯る矢先へ緣談があつて纏つたのが近く離緣になつた男爵の令孃で、之れは三十九年の十一月の事でした。此の時には無論博士の庶子を房州からつれて來ると云ふ事が結婚條件の大切なものとなつてゐたので、男爵も令孃も十分承知して居られたのでございます。

△結婚後の第三日目

越えて四十年の春、博士は多大の光明と喜びとを以つて新夫人を迎へられ、玆に幸福な家庭が作られました。そして待ち構へて居られた博士は、結婚後三日目に、約束の通りに房州の子供を引取らうとして夫人に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

協議されたのですが、意外にも夫人は『末ッ子に生れて未だ子供の世話をした經驗がないから少時猶豫してほしい』と言つて却々承引されないのみか、四五日すると用達しに行くと言つて出たきり生家へ行つて了はれたのです。博士は赫とばかりに怒られた。けれども又子供の爲も考へして一歩讓られた爲に、此時は幸ひ無事に治まつて、夫人は間もなく歸つて來られました。

△友の兩法學博士の苦心

然し恁う云ふ事があつては博士の感情は面白からう筈はなく、其後博士も時には隨分思ひ切つた事も言はれた樣だし、先方でも『子供は中學校へ入學してから引取る約束であつた』とか何とかと意想外な主張をされ、遂には離婚の請求をされるなど、事は再び面倒になつて來ましたが、法學博士の高橋作衛氏、同高野岩三郎氏などが仲間へはいられて色々盡力せられ、且つは夫人も『生家へは歸らない』と言はれた爲に、此れも何うか斯うか治まりました。

△家庭に春光を見る

右は結婚以來十一月迄の事ですが、其後夫人は懷姙せられて夫婦の間も睦まじくなり、夫人の考も餘程變つて來て、御自分から房州の子供を引取らうと迄言ひ出されたので、博士は大喜びで、わざ〳〵房州へ出かけてつれて歸へられ、豫ての望みが達して愛兒と同棲する事ができる樣になつた上に、翌春夫人は男子を分娩せられたので、博士の家庭は是れから春を見る事と誰れしも思つて居りました。然るに此のお兒さんの命名に就て、又々離婚問題が起りました。それは夫人の生家の方では始めての兒だから『一』の字を入れよと言はれたのに、博士はそれを排して『了三』とつけられたのが原因でした。そこで先の兩博士が再び双方の間へ立つて調停に努められ、博士は博士で『幼兒了三は兎角病身で母親の手を離れては迚も育ちさうにもないからそんな無情な事を言はぬ樣に』と再三懇談があつたけれ共、先方にては何うしても聽きいれられず、遂に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

博士も涙を呑んで夫人に離縁狀を與へられたのですが夫人は其夜博士が別室に眠つて居られる間に密かに家を去られ、博士は翌朝お子さんの泣き叫ばれる聲に始めてお氣がつかれたとか。

△無量の感慨

私が御伺ひした時には、何方でしたか、婦人の方が悼はしさうにお子さんを抱いて賺かして居られましたが、博士はそれを顧みて、いかにも感慨に絶えない態にて左の如く話されました。

妻の行爲を見ると、生れたばかりの我が子を打ちすてゝ生家へ歸へるとは實に冷たい女だと云ふ樣な感を人に起させるかも知れませぬが、妻は決してそんな婦人ではありませんでした。然う云ふ事になつたのは全く私が惡るかつたのです。最初、只今房州に預けてある丈一(今年七歳)を生んだ婦人と結婚すれば良かつたのに、それをしなかつたものだから、とう〳〵然んなに子供に迄難儀をかける事になりました。實に氣の毒でなりません。尤も自分は其の婦人とは是非結婚する積りであつたのが、いざとなると色々六ケしい事情が起つて、何うしてもそれが出來なかつたのではあるけれども……。

△男爵の氣質に念を推した

それに然うなつたのは妻を娶るに當つて最初に私が過つたからでもあります。一體私は人から干渉を受けると云ふ事は非常に嫌ひな方ですから、初め此の婚談のあつた時にも、男爵と云ふ人は親類に對して兎や角と干渉する人ではないか何うかと、仲に立つた人に對して殊に重きを置いて聞いたのですが、決して其樣云ふ人ではないとの事でしたから、結婚談も捗々しく進みました。ところが親類になつて見ると却々さうではなかつた。之れが今度の事を招いた動機であらうと思はれます。或る事に就ては隨分細かく頭を使ふ私ですが、此の事に就ては極めて書生流に擲げやりでしたから、つひ然うなつたのでせう。人の言を輕々しく信じ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのは實に一大失策でした。

△着流しか、禮服か

一家に何か大事件が起つた時に、妻の生家でもそれに就て何とか意見を述べる。――之れは別段咎むべきではない、寧ろ其樣あるべきでせうが、それを極く小さな事柄に就て迄色々小言を聞きました。一寸私が先方を訪問すると、早速、着流しでは不可ないとか何とか服裝に就て甚く反對を受けました。着流しと言つても、羽織も着て居れば、袴もつけてゐる。絲織の高價の品でこそなけれ、何も汚點が附いてゐると云ふ譯でもないから、私は禮に於て缺くる處がない積りでゐるがそれが何うしても聽きいれられない。或は召使の事に就ても、私の家などでは二人も居れば十分ですが、それを先方では是非三人居なければならぬと言ふ。斯う云ふ風に、私の家の事々物々に就て、何とか彼とか言つて干渉するのですが、私の身になつて見ると之れは隨分不快な話です。

△官吏は心から嫌ひ

而かも先方の人は、役所（男爵は海軍部内に居らるる人）の事務は熱心ですから、或は精通して居られるかも知れぬが、家へ歸つて書物を一冊讀むでもなく、世間の事は全然分らぬ人である處へ、私は又非常に官吏と云ふものが嫌ひな性質ですから、其の嫌ひな察しのない人から色々掣肘されると云ふ事は、實に堪へられない程氣苦しく思ひました。私がそんな風に思つて居たから、先方の感情も亦面白くはなかつたでせう。そして事は益々面倒になりました。それにしても子供もある事ですから、何うかして感情の融和する樣にと願つて居ましたのに、何うしても此の場合を旨く處理して行かれずして遂に此の結果を見たと云ふのは、返す返すも遺憾です。――子供に對して申譯がありません。

△幼兒了三氏の命名に就て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

子供の命名に就ての事でも、私も殆んど困りきりました。房州に居る子は丈一と申しますが、先方では今度生れた子供を其の子と相拮抗させやうとか、或はそれを抑へつけやうとか云ふ樣な意味からでゝもあつたのでせう、何うしても其の名に同じく「一」の字を加へて、而かもそれを下の方に置かなければならぬと主張しました。恁う云ふ事で爭ふのは甚だ大人氣ない話かも知れませぬが、其樣云ふ事に就て迄も干渉を受けやうとは夢にも思はなかつたし、それに先方の意志が右の樣な次第だとすると、丈一は實に可愛さうなわけですから、私は之れには大に反對しました。けれ共先方でも固く執つて動かなかつたものですから、私は遂に双方の主張を幾らか折衷する意味で、自分で適當な名を幾つか案内して、それを妻と二人で抽籤をして、當つた「丁三」と云ふ名を採つて子供に命名したのですがすると先方では無斷で命名したと云ふので大變に怒りました。そして此の前にも一度離緣を申込んだ事があつたのですが、此度も亦其の請求をして來ました。そこで友人やら其他幾人にも仲へ這入つて貰つて、色々調和を講じて見たけれども、何うも可けない。或る友人などは、洋行間際の多忙の中を、隨分盡して與れましたが、矢張り可けなかつた。で友人等も君も之れ程恥を忍び、我々も之れ丈け盡力して可けないのだから、先づ見込みはない、思ひ切つてしまへ、と言ひましたから、子供の前途を考へると實に可愛さうに思ひましたが、遂に離緣して了ひました。併し之れは唯だ之れ丈けの事で恁うなつたのではなくて、色々感情の行違ひがたま〱茲に發したのでせう。

△宮詣りの日の狗張子問題

どうも趣味が違ひ、家風が違ふから、色々の事で衝突しました。子供が生れて百ケ日になると、大抵の家では母親が子供をつれて宮詣りをなさるでせう。そして其の日には母親の生家へも廻はるものとかで、生家では其時に子供に犬の張子を與れるのが一般の例ださうです。で丁三も其の日に矢張り宮詣りもし、生家へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

行きましたが、其の肝心の張子を與れなかつた。何も張子を貰はなければならぬ譯ではありませんが、そこが何だかをかしなものですから聞いて見ると、此の日に生家へ行く時には飴を土産に持つて行くべきものであつたさうで、それをしなかつたのが第一機嫌を損じたらしいのです。併し私は是れ迄全く書生生活をして來てゐるので、其樣云ふ事を知らう筈もなく、少しは察しても良さゝうではありませんか。それに今一つは其の日に妻は只獨りで子供をつれて生家へ行きましたが、それが亦甚だ面白くなかつた樣です。私の方では何も見えを張るには及ばないと思つて、特に獨り俥に乘らせて遣つたのですが、先方では却々其樣ではなく、俥を十臺も連ねて轟々と引込む位に華々しくやりたかつた樣でした。實は何でもない事ですが、其の何でもない事でも矢張り破壞の實を蒔いて居たものと思はれます。

△家風の相違と夫人

今度の事は決して妻が何う斯うと云ふのではありません。成程妻は華族家の育ちであつたから、自分の家庭に聊か合はない樣な所は無かつたでもありませんでした。生家に居ては召使ばかり使つて居て箒を一度持つて見た覺えも無かつた樣だし、殊に其の母親は、自身が病氣で些とも外へは出られない人ですから、娘にも外出して、身體に障ると言つて決して外へは出さずに大切に育てた樣なわけで、交際があるではなし、年は取つて居ても世間の事も深くは知らない。そして私の家へ來てからでも、何時も縮緬や絹物に身を裝ふて居て、襷掛の輕い姿で立ち働らくと云ふ樣な事は容易に能きない樣でした。私共の家は氣の張るお客がさう度々あるではなし、何も始終其んな風をしてゐるには及ばないから、私は木綿着物にでも着更へて少しは身體を自由にしてゐたら如何かと能く言ひましたが、すると何時ぞやも最う着られない程に古びた木綿着物を持ち出して着て、それを私に殊更に見せつけた樣な事もありました。――其の着物は家を出る時に押入へ押込んで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

行きました。――高が學校敎師の自分の妻だから、少しは氣風を改めて欲しいと思つて、色々盡して見ましたが、却々直りませんでした。

△極めてうぶに育つた婦人

然れども性質は決して惡いのではありません。至つて内氣な優さしい婦人で、右の如きは、育つた家庭が其樣であるから、自然それを普通の如うに思つてゐるので、本人の身になつて見れば贅澤をするのでも何でもないでせう。唯夫れ極めてうぶに育てられたものですから、身の上の事は何でも彼でも親まかせで、親が右と言へば右、左と言へば左を向いて、決してそれに背いた事がありません。今度斯う云ふ事になつたに就ても、妻は只だ親の命に從つたまでゝ、恐らくは其の心事ではないでせう。それゆゑ若し親が歸へれとさへ言へば歸つて來ない事は無い筈です。何分此の子供が可愛さうですから、其樣なれば實は私も滿足ですが……。

△それも夢なりき

婚談の調ふ前に、房州の丈一を引き取ると云ふ事は男爵にも妻にも幾度か念を押し、又書面に迄認めて固く約束して置いたので、其の書面は現に媒酌人の手許にあるのですが、それを全く知らない、と言はれたので、理窟を言つたとて始まる譯でもなく、實に情けなく思ひましたが、其後中途で妻が其の子を引き取りませうと言つて呉れた時には私はどんなに喜んだでせう。イヤ確かに引き取つて丁ふと云ふのではなく、只だ世話ができるか何うか試めしに十日でも廿日でも傍に置いて見たいと言つたのでしたが、それでも私は非常に嬉しく思つて、早速往つてつれて來ました。が、あゝ、其れも夢でした。併し丈一を預けてある家の夫婦は大變親切にして呉れますから、不幸ながらも幸福です。――房州へは平常月に二回は缺かさず見舞ひますが、此頃は丁三の事でそれが出來なくなりましたから、此の數ケ月は彼方から顏を見たからうと思つてと言つて折

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

折つれて來て呉れます。此の子は今年は七つで、房州の父母をお父さんお母さんと呼び、私を指して東京のお父さんと言つて居ますが、それを聞くといぢらしくもあり、又嬉しくもあります。

△丁三氏に就て博士の苦勞

只だ困るのは此の丁三です。私は先に丈一を育てるに就て一ト苦勞して居ますから、幾らか慣れてゐるとは言ふもの〻、扨て急に母親が無くなると、何うしても手が屆かぬから、始終泣きますし、私は私で學校へ行つて居ても氣が氣でないから急いで宅へ歸つて來ますが、歸へれば斷えず附いて居なければならず、夜は私が抱いて寢みますけれども、矢張り始終泣き通しで寛つくり書物を讀むなど〻云ふ事は迚も此の頃は出來ません。そして初めの中は妻の生家から附いて來た女中が二人居ましたから、それに世話をさせましたが、これは生家の方で再三暇を貰へと勸められたさうで、間も無く暇を遣つて更に三人の乳母を雇ひましたが、さうなると臺所の方をやつてゐる女と子供の傅をする女とが、お菜が何うだとか誰れが寢坊だとか言つて言ひ合ひをするそれを一々私が仲裁しなければならぬと云ふ始末。折々は子供を私の姉の許へ預けて見ましたが、姉は子供が三人あつて其の末の子がまだ乳呑兒なものですから、却々世話をしてゐる事が出來ない。――私には尚ほ一人妹が緣づいて居ますが、之れは一層子供が多くて尚更世話はできません――それでも何うか側に置きたいと思ふものですから、相變らず姉の方へ持つて往つたりつれて歸つたりして、可愛さうに丸で玩弄の樣にして居ました。

△結局の處置

其樣する中に親類の人が、何うも親身の母がなくては迚も子供は育たぬから、愬うなつたはなつたもの〻、責めて先方で子供を育てる事丈けでもして呉れないものかしらと言つて掛け合つて呉れましたが、妻の生家では、子供と父子の關係を絕つて全然此方へ寄越して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

了ふならば引取ると云ふ返事。妻の方でも矢張り顔を見たくもあらうし、不憫にも思つてゐるから引取らうと云ふのでせうが、それでは私が絶えられません。從つて此の話も止めて、子供は他へ預ける事に決しました。嘗て私が鎌倉に居た頃、大變世話になつた其の宿の夫婦が私に大變同情して呉れて、再三上京して是非子供の世話をさせて呉れと言つて呉れましたから、其處へ遣る事にして明日(七月九日)私がつれて行く積りです。此の夫婦ならば私は先づ安心が出來ますが、それにしても母の無い子はみぢめでせう。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會觀察

夏の新橋驛

秋雨

そこへ行くのに外濠線を八官町で下車て、銀座に出なけりや、いやでも粋な町を通らねばならぬ。が厭ぢやない、雨にふさわしい美形が浴後の襟化粧を見え隠れに蛇の目傘を斜にして、スイと御神燈の下つた格子をあける工合なんか、憎いほど厭ぢやない。それを横に睨んで河岸端へ出ると濡れに濡れた河端柳が案内顔にさし招く。此處からが停車場前になるのだ。暮れるに早い梅雨の空は、既う重い瞼を沙留の水に映して居た。

懐中時計を見ると午後六時、今宵新婚の友夫妻は相携へて倫敦の支店詰の途に上るのだが。まだ影が見えぬ。三十分を只茫然してゐるでもあるまいと、早速スケッチを初める。五分鈴が耳もとに姦しい。

◆停車場前

何時來てもなんだかぢやむさいのは此處の光景だ。家で云へば玄關口、即ち帝都の玄關である停車場が、なぜ斯う汚くるしいのであらう。つまり不秩序な光景が汚ないと眼に映ずるのかも知れない。ことに西口の人力溜り場から見た處などは雨降りの鷄小舍の樣だ。しかしこゝももう暫らくの間やがては外人に對してはづかしい思をしなくとも濟むようになるであらう。

六時の横濱行が一しきり待合室の乘客を掃つて行つたと思ふともうあと直ぐの急行客がぞろ／＼つめかけて來る。

音もなく滑つて來て突然チヤーンと梶棒を下す金紋ゴム輪の、主は柳腰花顏、梅か櫻の品の好い處だらうと待かけて見れば豈計らんや總笑窪の見るから胸がつまる五十老夫、大かた兜町か、さなくば、成金黨のホヤホヤといつた處であらう。酒肥りの油ぎつた、チラ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

テラした顔をヌッとあげて上等待合室に這入つてゆく後姿を見た時は唾でもはきかけてやりたかつた。

同時にガラ〳〵ッと乘り込んだ一行、今度は幌の中から何が出るかしら、これではまるで當て物の樣だと胸のうちで獨りで笑つて居た。今度は平凡な洋服姿が三人であつた。と亦來た。見れば車夫といふのは年古稀に近からんとすと言つたような喘息まじりのお老爺さん、蒼くなりその老眼に流れ入る絞る斗りの汗を夕暮色の手拭にふいて、虹のやうな白い大きい息を吐いた。まだ東京の人力車夫の中にもこんなのが居るかと思ふた刹那、自分は胸を押へられる樣に苦しかつた。しかも中から出たのは血氣盛の青年である。それが極大の竹行李と一緒であつたのには振り向ひて二度その方を見る勇氣はなかつた。生に疲かれた老衰の人と、活々と動き輝く眼を持つ青年……とあゝこれ好箇のスケッチだ。と思へば一種の悲哀に取りまかれずには居られぬ。

と見れば河向ふを我利〳〵に痩せさらぼつた荷馬が何噸ともありさうなペーパーを積んで白泡を吹いて馬子に轡を取られて行く。丁度前のお爺さんと變りがない。

そのうちに今日送る主人公夫妻が車から下りた。互に一禮して、

「御ゆつくりでしたね」といへば

「これでも急いだんですよ」

なんて何時見てもあの美しい。眼を、みはり乍ら友はかう答へた。

發車には十五分を餘すのみである。結婚式まだ一週間程にかならぬ友は、紹介もろくに濟んでゐなかつたと見えて、あちらにも此方にも眼のまはるような急がしさ、然しこれ斗りは代理といふ譯にも行かぬので其の間に一寸待合室をのぞいて見る。

▲待合室

先づ婦人待合室へ行つて見た。雨がふるので幼ない子供を連れた人は一人も見えぬ。町家の内儀とも見ゆ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

産科婦人科専門 醫學士 北畠孝夫先生閲

最近

婦人病心得

子宮の病
自宅療法

無代進呈（但送料貳錢を要す）

目次

（婦人病の總論◉血の道（ヒステリー）の原因病理及び自宅療法◉神經衰弱、貧血、萎黄病とは如何及其療法◉しらちながちの病理及其根治法◉月經時の手當月經諸病の療法◉姙娠の原理、受胎すべき塲合姙婦の攝生つわりの養生法

女の一番つらい病は。子宮の諸病であるが。此病にかかりし婦人は。大抵之れを秘して、適當の手當をなさず。亦妙齡の頃などに。月經の閉止とか。不順等あれば、獨り心を痛めて、素人的の通經劑などを試み、遂には恐ろしき難病となつて。生涯の苦みを遺すことのあるのは。洵に痛歎の極である◉著者は多年の實驗と。最近の學說を基礎とし。（●●●●●婦人病者の心得）と題し上記の各項に分て丁寧親切に詳說せり◉病める婦人は勿論一般の婦女は。本書を一讀して、自宅の療法を會得せよ

●當分の內無代進呈す送料貳錢封入至急申込まれよ

發行所 東京築地新榮町四ノ一（電話新橋三六〇一番）笹岡省三

造花原料

東京九段坂

電話番町二〇五六番
振替口座六六七九番

吉住商店

●營業目錄●=御入用ノ方ハ二錢切手封入東京九段坂=吉住商店宛申込マルベシ直ニ進呈可仕候

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◉毎月一回一日發行◉四六二倍大判上等紙七十二頁印刷美麗
毎號寫眞版數十面入正價一册金十錢郵税一册金壹錢











實業少年

森村市左衛門翁本誌の為めに自今毎號訓話せらる

◎澁澤翁公德の養成法
◎瀕死の貧青年發憤して東京第一の納豆王となりし經歷談
◎少年就職信使になる手續
◎製釘法大パノラマ
◎商店窓飾の材料と裝飾法
◎飛行車わが國を襲ふ
◎懸賞電報文募集

◎朝野名士の外國漫遊談之を讀まざれば時勢におくる
◎信用保險とは何ぞ
◎珠算獨習法

((口繪最珍))

◎飛行船實況
◎納豆王の家庭
◎維那の奇風俗
◎麥酒釀造圖解

博文館 東京日本橋本町三丁目 振替貯金東京二四〇番

(その二)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

文藝倶樂部

每月一回　一日發行

拾五卷第拾壹號（內　容）八月一日發行

洋裝菊判　紙數三二〇頁　口繪　●木版摺錦畫と原版　●寫眞版十頁挿入　定價金廿五錢　郵稅貳錢五厘

▽史外史傳　六郎景澄（ろうかげすみ）……（春汀畫）……山田美妙

美妙齋氏が夙に歷史小說の一旗幟を樹て、稗史野乘以外に歷史的の事蹟を經とし、氏獨特の妙章美文を緯とし、常に讀書界の喝采を博しつゝあるは、また記者が呶々を要せず。此の一篇氏が最も得意の作、讀者熟讀せずして可ならんや。

▽長篇小說　一年（ねん）……（古洞畫）……岩田烏山

流麗の文と清新の想とを併せ得たるは、實に吾が烏山氏の作に非ずや。此の篇題して一年といふ、這箇三百有五日間の紆餘曲折せる詩趣溢るゝばかり、一讀恐らくは恍然自失せん。

▽寓意小說　いぢけもの……（春帆畫）……山田萍南

著者今や遠く臺灣の地に在り、朝夕見聞する事實を材として、此の一大雄篇成る。現代の半面は氏の靈筆を俟つて、遺憾なく其の眞相を暴露す。閱ふるもの素より讀むべく、喜ぶもの亦繙くべし。

▽喜劇一幕物　三箇條（がでう）……（淸方畫）……栗島狹衣

自ら作劇し自ら扮裝せしは、詩聖沙翁の爲せし所、此の喜劇亦狹衣氏の自ら作劇し、自ら扮裝して、常に觀客の拍手を擅にせしもの。汗牛も啻ならさる喜劇中の上乘たる、また疑ひを容れざる也。

東京　博文館　發行

女（ろの三）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

★英語世界★

第三卷第九號——八月五日發行

▲每月一回五日發行

●菊判舶來上等紙六十八頁

●每號口繪及刷込寫眞版入

第六號要目

●余の英語研究談…岸本能武太●英譯「暮春」…武信由太郎●譯註「恐ろしき一夜」…深澤由次郎●解釋と飜譯…佐川春水●短篇小說講義…今井信之●山口高商試驗成績講評…奈倉次郎●山口高商試驗詳解…横地良吉●獅身像の下…石川祐助●解釋の練習…增田藤之助●慣用句の形式…伊藤彌門●英作文の手引…元田作之進●商業用英語…今井友次郎●慣用句の使分…前田忠義●正則英語評判記…河岡潮風●神戸高商英語受驗●英文拳讀…岸本能武太

▲初學欄…記者擔當

○ナショナル第一講義

○時文研究○懸賞判讀○英文通信○學校消息○讀者手帳○懸賞披露

第七號要目

○英書簡筆蹟…井上十吉○譯註西洋怪談…深澤由次郎○和文英譯作例…武信由太郎○英語の研究法…佐藤巌理○短篇小說講義…今井信之○英作文の手引…元田作之進○外語校試驗講評…村井教授○山口高商講評…ガントレト○神戸高商試驗詳解…深澤由次郎○慣用句の使分…前田忠義○英語の謎々…松浦政泰○解釋の練習…增田藤之助○形容句の研究…横地良吉○獅身像の下…石川祐助○會話作文資料…筱岡民次郎○商業用英語…今井友次郎○英語評判記…河岡潮風○外國語學校英語受驗談○初學欄―ナショナル第一

▲大懸賞署名判讀發表

○時文研究○英文通信○學校消息○名稱懸賞新課題

第八號要目

●英詩筆蹟…平田喜一●余の英語研究談…馬場恒吾●和文英譯小品…武信由太郎●譯註「秘密室」…深澤由次郎●海軍機關入學試驗講評・豐島教授●七高試驗講評・横地良吉●短編小說講義…今井信之●讀本解釋練習…增田藤之助●英語の電報…五味赫●英作文の手引…元田作之進●英語の理[illegible]と其の譯讀…岸本能武太●英文法講話…武信由太郎●慣用句の形式…伊藤彌門●會話作文資料…筱岡民次郎●熟語の使分…前田忠義●東京外國語學校評判記●長崎高商英語受驗談

▲初學欄…記者擔當

○ナショナル第一講義

○舶來語の發音

○判讀練習○學校消息○時文研究○英文通信○懸賞發表○懸賞新題

第九號要目（八月五日發行）

○英文書讀…永野武一郎○滑稽顔談義…深澤由次郎○和文英譯作例…武信由太郎○偶像破壞奇譯…今井信之○西洋大岡裁判…横地良吉○英語研學談…頭本元貞○中學校の英詩…平田喜一○讀本解釋練習…增田藤之助○英文電報作法…五味赫○慣用句の使分…前田忠義○英作文の手引…元田作之進○英語研究談（會話）最上梅雄○海軍機關入學和文英譯講評…豐島○英語の形式…伊藤彌門○東京高商試驗詳解…前田忠義○商船學校英語受驗記…一合格者

○時文研究○懸賞判讀

○英文通信○學校消息

○懸賞發表○讀者手帖

▲初學欄

○ＡＢＣ講壇

○ナショナル第一講義

▲正價金拾錢郵税壹錢

前金　十二冊金一圓十錢　六册金五十六錢…外要郵税

（其の四）

發兌元　東京市日本橋區本町三丁目　振替口座東京二百四十番　博文館

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

痛快の本誌を見ては晝寢が出來ぬ！

冒險世界

八月五日發行　第二卷第九號　定價十五錢郵税二錢

◉破天荒の懸賞問題
一百の金銀銅牌は何處に隱してあるか（本號を見れば直ぐ分る）

珍奇寫眞版

◉油繪三色 暗窖内の大犯罪＝水底の蠻勇＝蟆蟇仙人と馬面仙人＝骸骨畵の脅迫状＝蠻人樹上の家を襲ふ

◉探偵奇譚 骸骨畵と殺人犯　閃電子

◉土耳古怪奇譚 魔院内の大秘密　虎髯大尉

◉首を賣買し死骸を喰ふ　坪井博士

◉凍死せんとせし北極の冬籠　北極旅客

一大好評武俠小說 萬國武者修行　押川春浪

◉學生の暗面に蟠れる男色の一大惡風　河岡潮風

◉書生界名物男＝雨敬を說破せし奇人書生＝三年間で裸足帝都横行

◉戰跡壯談 一點の火に救はれた生命　老兵士

◉ル、ドの不思議現象　不思議士

◉世界一の水泳家　弦月子

◉日本深山に怪奇の異人　岩野泡鳴

◉國士魂と井伊大老　大隈伯爵

◉福島中將訪問記　渡部六尺

◉蟆蟇仙人訪問記　六尺棒生

◉日本風紀の爲に元老大臣の不品行を痛恨するの檄文　春浪 蠻客

◉惡黨冒險家自傳　惡罵劍禪

◉强盜的大統領　阿武天風

◉兵營内の笑話　氣まぐれ砲十

◉賣國奴を誅せよ國賊を誅せよ　鐵血生

◉泥棒のお見舞を受けた閉口談　潮風生

◉西比利亞の雪中旅行　坪谷水哉

◉野球は如何にして發明されしか　運動居士

◉滑稽野球合戰記　小天狗生

◉鐵拳を喰はせたき者は？　獅子王風

◉冒險新聞＝學生新聞＝珍奇新聞

◉奇々妙々懸賞發表
廿一日の天候は何人が當てたか（前號の懸賞問題を見事に當てた人々は誰？）

東京本町　博文館　振替口座東京二四〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家庭整理の指導

當代第一流の女子教育家編著



家庭百科全書

全部五十册　毎月一回發行

和裝賍美本　◉紙數各三百頁　◉石版彩色口繪一葉　挿畫十數箇

▲定價一册金四拾五錢　郵稅八錢

近時婦人教育の普及するや、女流の才學は一般に著しく進みたりと雖も、尚ほ之を日常家庭の上に施こすに臨み、輙もすれば實際に適せざるを憾むこと多し。是れ學校に在るの日には概ね理想の學修に止まるが故に、實際の應用に臨み、或ひは學ぶ所高尚に過ぐるか、然らざれば未だ十分ならざるの憾ある所以なり。若しも家庭に教師ありて一々實際の問題に就て指導せんには、世の良妻賢母は言ふも更なり、未だ在學中の女學生達の爲にも如何に裨益の多かるべきかは、敢て多言を須ゐざることながら、人ごとに家庭に教師を聘するが如きは、得て望むべからず。是に於て本書は最良なる家庭教師たる目的を以て編述發行し、敢て婦人教育の缺點を補はんと欲するなり。

第一編　**新家庭訓**　三輪田高等女學校長　三輪田眞佐子女史著

第二編　**四季料理**　宮中臣民兩流料理師範　大日本割烹學會々長　石井泰次郎君著

第三編　**裁縫指南**　女子高等師範學校教授　喜多見佐喜子女史著

第四編　**和洋菓子製法**　東京割烹會講師　龜井まき子女史著

第五編　**茶道と香道**　水原翠香女史著

第六編　**諸流生花指南**　琴松園文雅君　松幸齋理常君共著

第七編　**育兒の務**　醫學士　田村貞策君　朝夷孤舟君共著

第八編　**簡易治療法**　新潟縣高田高等女學校教諭　藤井靜子女史著

第九編　**禮式と作法**　女子高等師範學校教授　佐方鎭子女史著

第十編　**惣菜料理**　赤堀吉松君　赤堀峰吉君　赤堀菊子女史共著

▶販賣用電話本局二六二〇◀　▶發兌元　東京日本橋區

（一の六）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦女必讀の大全書

第十二編 **編物指南**
女子技藝實踐學校編物科主任 三木とみ子女史著

第十三編 **教育お伽噺**
少年世界記者 木村小舟君著

第十八編 **家屋と庭園**
內山正如君著

第十一編 **婦人の生理と衛生**
青山學院教授 牧野清子女史著

第十六編 **女德の養成**
前田長太君著

第十五編 **魚鳥家畜の飼養**
農業世界記者 鹿野化骨君著

第七編 **女子作文法**
遠藤ふみ子女史
松崎ふく子女史 共著

第六編 **子女の教養**
私立高等女學校長 棚橋絢子女史著

●胎教●眠育●よく子の叱り法●添乳●二人の母●子女の賞罰●秩序を守る性習●子女の懲罰●子女の理想●玩具の選擇●子女と虛言●命令と服從●親の不行儀●夏期休暇●間食の利害●子女に教訓としての話說●物のあはれ●學問攻の害●子女と遊戲●憶病なる子女●成田喜助の母●繼母としての子女の教養●魏芒慈母●子女と名譽心●家事と少女●慈善的保護を受けたる少女●小學校時代の家庭教育●母親の偏愛●從順の美德●熱誠なる習慣●子女に時間を貴重がらせよ●禮節の修養●傲慢心を募らす親●清水太郎左衛門が母●子女と讀書●子女と卑怯●活發の眞義●子女に錢を與へる親●告げ口●留守宅の母親の責心の養成●子女の交際●名和が約束の松●少女と奢侈●趣味ある子女●子女と貯蓄心●子女と宗教心●自他の區別を明白にせよ●子女の衛生と親の心得●物言はぬ動物の取り扱ひ●小學校卒業後の教育●安詳恭敬●家庭談話二十題

第十九編 **家庭の趣味**
文學士 大森兜山君著

◎第一章……趣味と婦人●婦人の大職●良妻賢母●婦人と趣味●家庭問題の由來●昔の家庭と今の家庭●家庭問題の內容●姑と嫁との衝突●今の姑と嫁との長短所●現今の教育を受けた婦人の主に就ず●現代の婦人も概して健全ない●現代婦人の覺悟を望む●婦人と趣味の修養◎第二章……趣味に就きて●趣味とは何ぞや●趣味の存在●趣味の異同●趣味と人格●現代趣味の標準●趣味の選擇●趣味の定●趣味の起源●趣味の進化●趣味の進化と教育との關係●趣味の進化と趣味の變化●趣味の修養と讀書●趣味の修養と觀察●趣味の修養と聯想想像●趣味の方向●人生に於ける趣味の價値●趣味と人格の力●趣味の極致◎第三章……家庭に就きて●家庭とは何ぞや●家庭の物質的要素●家庭の精神的要素●家風と家格●家庭の位置●家庭は人の終生の搖籃なり●家庭は婦人の舞臺なり●圓滿なる家庭●圓滿なる家庭の物質的要素（資財）●圓滿なる家庭の精神的要素（家庭道德）●家庭に就きて◎第四章……家庭の趣味●家庭に關する感想●住家の選定●住家の整頓及び衛生●室內裝飾●食事●談話●讀書●音樂●繪畫●園藝●遊戲●散步●接合●年中行事◎第五章……模範の家庭實話●家庭改良の動機●家庭改良の要目●家庭教育の長所●兒童教育上の家庭の職能●學校と家庭との連絡●家庭と居間●衣服と食物●家庭の娛樂●經濟の方針◎第六章……家庭に關する歌句●家鄉●親子●夫婦●兄弟●嫁姑●年中行事に關するもの◎第七章……家庭に關する格言と諺●家族に關するもの●婦人一般に關するもの●結婚に關するもの●經濟に關するもの

本町三丁目 博文館 振替貯金口座東京二〇〇番

（その七）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎毛髪を美しくする最新劑

如何なくせ毛、白毛、赤毛も必ず一劑で美人となる

如何程お化粧が美しく出來ても髮の毛が惡るくては遂にお化粧の目的は達し得られませんのです

玆に於て當研究所は多年の實地と經驗とを重ね調製したものが『高砂白毛染』で……此液は白毛・赤毛を染むるのは勿論ドンナくせ毛も一劑で必ず美しくなりお化粧本來の目的と叶つて居ります處で發賣日尚ほ淺きにも不拘化粧品界の重要品として頗る高評を博して居ります

尚又該液は在來品の如く御使用後手拭なぞを冠ぶる不便はなく極めて輕便簡單にして衛生に關しては特に警視廳の無害證明を有します

ちゞれ毛直し 白毛赤毛染 **高砂** 大壜金四十錢 小壜金二十錢（送料大小共一個四錢）

東京神田橋本町三丁目四番地

東京化學化粧品研究所（電話浪花千百五十二番）

釀造元 千葉縣野田町 **茂木佐平治**

天下一品 最上醬油

賣捌所は各地とも有名なる醬油店に有之候

女（ろの八）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

る馬鹿に垢抜けのした年増が壁に掛つてゐる鏡に對つて頻りに前髪を苦にして居た。のと、蛇のように眼ばかりギロ〳〵光らした、そしてしぼりの嫌味たつぷりな容姿をした二十二三の妻君が、自暴に時計を出したり入れたりしてゐた、のとのみであつた。隨分殺風景な室だ。此處らは宜しく婦人を使用して、僅か五分か十分の間丈けでもセンチメンタルな裝飾をして喜こばす樣にしたらよささうなものだのに、綺麗でもないストーブが頑固に据ゑてあるほか見るものもない。責めて雜誌の二三冊も備へつけて置くようにすればどんなに有益かしらと切實に感じた。

對つて東の一二等待合室は煙草の烟りで朦朧として居る、先刻の成金の老夫はもう列車の方にいつたと見えて中には居なかつた。さうだ、百合さんも早く行かないと時間がないからと注意すると、保さんが京都にゆくので一緒になるから先きに室を取つて置いて與れる筈だからといふ。しかし五分鈴がもう鳴り出した。此音をきくとどんな落着いたものでも一時氣が騷ぐものだ。それではと一同連れ立つてプラットホームに歩を移す。何時か外はとつぷり暮れて構内の電燈がまぶしいように光を浴せかけてゐた。

▲プラットホーム

誰れか知名の人の見送りと見えて一等室の周圍は黒くなつて居る。

お百合さんの部屋は半程の靜かな處であつた。荷物を見屆けてもう一度名殘を惜しみに出て來た。

すると改札口の方から足駄をコト〳〵鳴らして來る人がある。誰れかと見れば、これも自分等のクラスメードのNさんであつた。

「どうなすつて？　もう首がいたくなるほどお待ちしてゐましたの」

とわたしがいつた。百合さんは叮嚀に顔をさげて

「まあこんなに皆さんに來て頂いちや、ほんとに申譯がありませんわ」

とは云ふもののいかにも滿足なされしさうな笑顔をしてゐるので傍に見てゐる自分も何だかさそはれてうれしく微笑まずにはゐられなかつた。斯ういふ場所では

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今別れるといふ場合でも只管その人の笑がほのみが望まれるものだ。もし泣かれでもしたら、あとに殘るものゝみじめさは、さるものである。それには幸ひ百合さんは、始終笑顔に應接して、今から三年の間會ふことが出來ぬ悲みは露ほども見せず、知らぬ異郷での苦勞は念頭にも措かぬ樣子に見受けられた。三等の急行などでは、生別是死別といつた悲慘な幕をよく見るものであるが、此の列車には一とつもそんなのは見うけなかつた、とはいへ、送る心細さと、送られる心細さとは口に出すか出さないかの差のみであらう。Nさんが花束を贈つた。

發車の電鈴が長いプラツトホームに響き渡つた。カーテンを刎ね除けまどに凭つて居た一同は身を引く、途端に汽笛は一聲、空氣を切つた。

あちからも、こちからも、さよなら――さよなら――の聲が一時に起る。しかし「時」と「職務」に忠實なる列車は、これ等の纏綿の情と涙を冷やかに見て、一本づつ柱に遠ざかつてゆく、堪らなくなつて男子は帽を振りわれ〴〵は手にせる白いハンカチーフを上に捧げた跡にはコンクリートの上を這ふ黑い烟りと、白い湯氣と、エンヂンの響と驛員の靴の鳴る音のみであつた

▲樓上の食堂

「此のまゝお別れするもあまり呆氣ないぢやありませんか」
「それに少しお話し仕度いこともありますから」
と三人して停車場樓上の食堂に腰を下した。
「人を送つたあとつて好い氣持はしませんね」
とNさんが發言した。すかさずSさんと私は
「ほんとにねえ――」
と一齊にこたへた。

別のルームに金緣の眼鏡をかけた紳士がしきりに生ビールを煽つて居る。其のそばに、これもオムレツをつゝいて居る美形、年は二十四五でもあらう何だか見たような風姿なので、よく〳〵記憶の絲を引いて見ればあゝ先刻通つた時に見た御神燈のそれであつた。

* * * *

「何處迄來たつて同じぢやないか」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「でも濱松までならいゝでせう」それとも御迷惑になるんですか」「なあにそんなことがあるもんか、だがお前の方の首尾が惡からう……」

* * * * *

香りの高い紅茶を呑む間、聞くまいと思つても手にとるように耳に入つた。三人は相顧みて無言、ひとしく溜息を吐いたが、口にはいはぬ胸の内は恐らく、日本紳士そのものゝ態度について考へたにちがひない。果してあとに一と口づゝ言つた聲は

「あんなものでしせうかね」

「あゝ、いやね」

「だめですよ、人間なんて」

下らない事に大切な暇を奪はれたと氣がついた時は、二人は國府津行のにでも乘るのか、とつばくさ出て往つた。

いつ迄憩んでゐるでもあるまいと立ち上つたこゝの料理は高いが上品だ。

▲着　車

食堂を出て階段を再び下に來ると、今恰も神戸からの列車が着いた處だ。今の今、比較的秩序のある列車を送り出した眼から、これを見ると、お米と麥ほどの相違だ。長途を揺られて來た疲勞がかうしだらなく見せるのも多少あらうが、吐き出されるどれも、これも殆ど形容の言葉を持たぬほど筋肉が弛緩してゐる。誰れもが口惰る相な眼付きをしてゐる。都會の輕薄な虚飾も齒の浮くような心地がするが、質朴とは假の讃辭實はヂワ〳〵と濁らかならぬのは鼻もちがならぬ。中には少し氣の利いた樣子をしてさつさと敏捷に立ちまはる人もないではないが、一體にそのだらしない足もとでよろ〳〵と出て來られたのにはウンザリして仕舞つた。この多勢の人々はあらゆる喜怒哀樂の情と手荷物を齎らして來たのであらうが、時の經過と共に或者は再び此の驛の改札口に立つであらう。ある者は其の儘になつてしまふものもあるであらう、運命の手は不思議にこれ等の人を操つて、しかも嚴術に其の消息を漏すことがない。朝に呑まれ、夕に吐き出され、かくして人は二條の鐵路を經糸にして毎日を編み、人世の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

縮圖を機織つて居る。引きたがへに七時半の三等急行がもう出る筈だ。だれか歸省する人が居るかも知れないから一寸見て行き度いとNさんが言つた。皆して、

「それぢや一緒に……まあお待なさいな」と足駄をゾロゾロいはせながら三等待合室へ首計り出して、きまり惡げに中を見まはした。充滿の人である。

隅つこの方で露西亞パンを嚙つて居る、黑小倉の小使みたいな人がしきりに報知の夕刊をひつくりかへしてゐるかと見れば、その隣に貧相な顏をしながら出相もない乳を、その子にしやぶらせて自分もウト／＼舟を漕いでゐる婦人もある。金佛樣のやうに色の黑い人が雪より白い兵兒帶をしめて時間表をひねくつて居るかと見れば、大きな信玄袋を命より大事といふ見得で抱え込でキヨロ／＼してゐる裁縫學校の生徒とも見える女もある。或は銀鼠の夏服を着けた中學生らしいのが昆蟲採集にでも行くのか亞鉛の水筒をかけて、其の友と話してゐるのもある。お老婆さんに物ねだりしてゐる七ツ位の女の子もゐた。凡て千差萬別、あらゆる社會の人を網羅して最も興味の多いのは此三等待合室である。其の間を縫ふて、新聞、雜誌、パック、餡パン、などを賣つてあるく賣子の美聲が妙に胸に響いた。

▲俥　寄　せ

昔しは此の邊にも、箱根の雲助といつた樣な朦朧車夫が居て、隨分旅客を悩ましたものだが今はもう、一定の札賣場があつて暴利を迫ることの出來ないようになつた。一望幾百臺の車は肅然として使用せらるゝを待つてゐるが使用す可き車夫は喧々囂々耳も聾するばかりである。

「もう散會にしませうれ」

「さうですれ隨分長い立話しをしましたわ」

「そのうちに鎌倉の先生の所にあがりませう」

これ等の會話を交して居る時、折角小止になつて居た雨はまたひとしきりつよくふり出した。自分は病める弟への枕邊にと構内の花賣少女から其一束を購ひN、Sの兩氏にわかれて歸路についた。

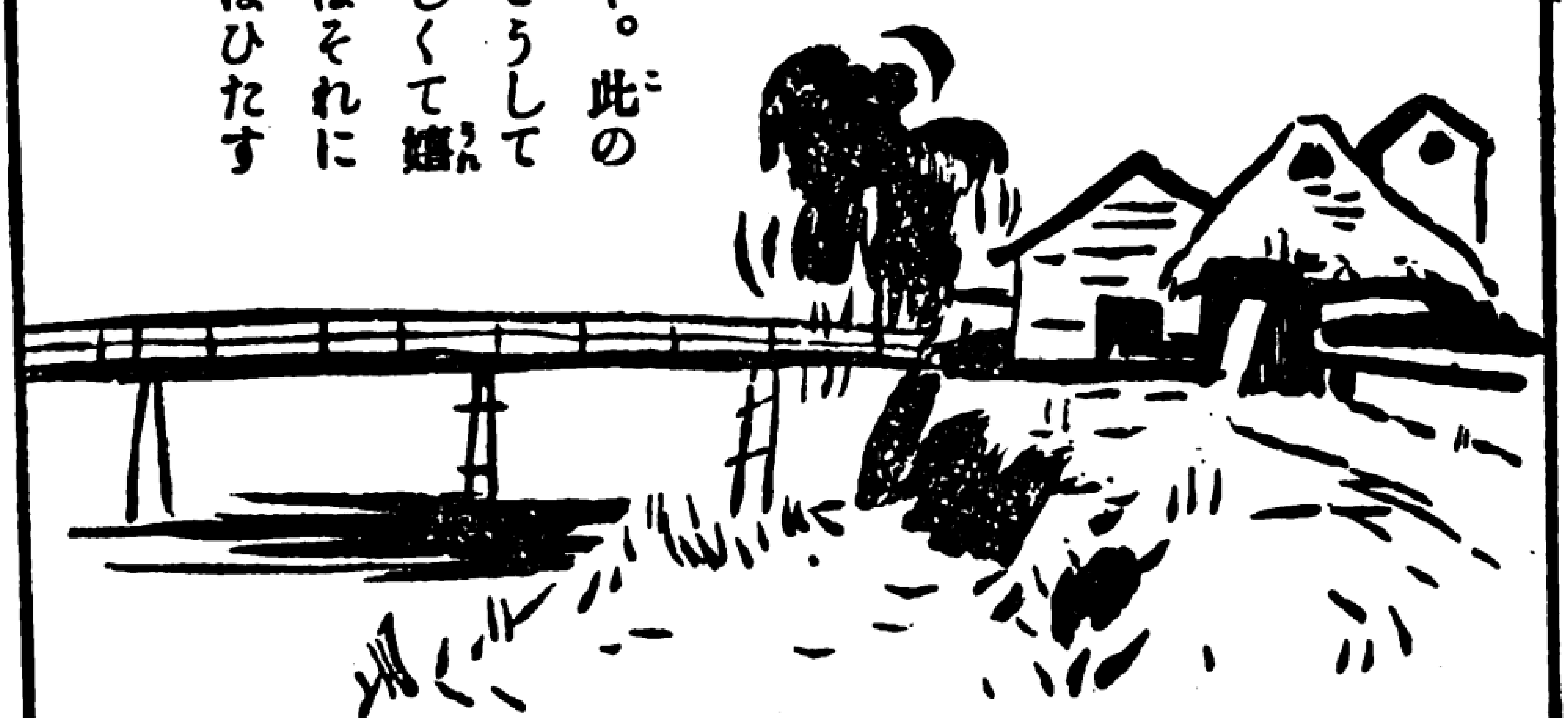
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説 暑中休暇

いさを

（一）

山田哲次が某大學の文科を卒業した夏一先づ歸省せうと思つて、九月まで御別れにする御機嫌ようと文子の許へ云ひやつた其の返事に、心強き方は違ひ候ものかな、しばしにても御別れは御別れにて候。山川幾百里の西東に候はずや。此のふみは只一本の御手紙にて此にて御別れと致し置候などはどうしてもいやにて候。餘りに情なう御名殘つきざるを、御なつかしくて嬉しくて、悲しくて、胸もふたがり千々の思ひに言葉なければそれにてもよし沈默の御目もじに沈默の御別れを告げてもと此方はひたす



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ら樂しみ居候へど」と付け加へてあつた。

山田は不思議に思つたのである。

文子とは此の二ヶ月以來の知り合で、隣へ引き越して來たのが緣となつて、文子もさる女學校の英文科へ通つて居るので、宿所の主婦の紹介から折々尋ねて來た。好きな文學談など熱心に話し合つたが、山田は別に嬉しくも思はなければ何の印象も與へられなかつた文子は美人ではなく大柄な何方かと云ふと姿の惡い方で人に見返らるゝ部類の女ではない。只其の瞳が美しい。故鄕は南國で其の地方特有の光りを備へて居たので山田は談話中にも絕えず其の眼を見入つたもので、此の眼はくせものだと思つた。それが家主の都合で竹早町の方へ引き越した。世路の旅に一寸道づれになつてまた別れたのだから尋常普通の出來事で、このまゝにして置いたら山田の記憶から永久に文子の影は消え去るべきであつたが、二三日してから一丈程もある長手紙が文子の許から屆いた。讀んで見ると隣り合ひ時代の交際をくど〱しく禮を云つて、あの家を出で此家へ引き越すのは其の昔故鄕を一人出る時よりも悲しくつて泣いた。私の名をいつ迄も御記憶の中に殘して置いてくれとの意味を、例の雨江張りの文章で、小野流の美しい字で書いてあつた。日頃筆不精な山田はこんな長手紙を叮嚀に書き認めた文子の精力に驚くと共に幾分の意味を解釋する樣に感動されたのである。で彼れはすぐに可なり長い返事を出して置いた。

二人の間の經歷と云へば只これ丈けである。今度の別れも暫時ではあるし何心なく左樣ならと云つてやるとあんな返事が來たものだから思はず山田は考へこんでしまつた。

文子はこんな文句を書きながら、まだ友情からだと云ふ積りだらうか。若しこれが友情でなくば戀である。自分は戀せられて居るのだらうか。なつかしくて、嬉しくて悲しくて、と友とは云へ男と女との間で、こんな事を云つては文子は戀の心ではなくとも世間は承知すまい。こんな事を友情からだと信じてゐるなら其の友情は餘程放肆な友情である。遠ざけねばならない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しかしこれが戀であつたら……何心なくある友に判斷してくれと云つて此の手紙を見せたら、さんざ冷笑されて、君も隅へは置けないと云つた。自分とても、戀の美しく樂しきを豫期してゐたのだ。何日か其の香りに醉ひたいと願つてゐたが、此の一身をかけて極點までも戀したいと思ふ其の相手を不幸にして見出すことが出來なかつたのである。戀するからにはと深い〳〵決心を持つた自分は滅多な女には戀しなかつたが、文子に動かされるのが不思議でならない。これが運命か、文子を戀するやうに運命づけられたのか。

さうだと思つた山田の胸は何で波打たずには居られやう。人格と人格と相融和して渾然たる美の境、其の戀の第一歩をもう既に辿つたのかと思ふと、文子なつかしさがこみ上げて來る。今にも遇つて見たくなる。こんなことと知ればもつと愛想よく交際をして置けばよかつたと思つた。大海の虚舟、空中の點塵それにも似た二人がこゝに相逢うて相戀する運命の不可思議に驚く〳〵共に別天地に生き返つた思ひで、一生忘れまいと深く〳〵この戀を胸の中に刻んだのである。

この手紙を讀んでぶる〳〵慄へた夕は度々であつた。

一方の文子はどうであらう。

文子は十七の時。國の女學校を卒業してすぐ某校の國文科へ入學した。そこを卒業してまた英文科へ轉じた。今年はもう二十三である。兩親は去年國から出て來たのでそれ迄は寮舍に居た。殆んど學校生活ばかりで成人した故か或は、母は繼母で父親に對する手前常に文子に一種の遠慮をして打ち解けないで、文子を叱る樣なことはなし得なかつた故でもあらうか、文子の我が儘は大したものである。文子が讀書してゐる間は母は一家の事務を一から十まで立ち働く、下女もなしにお隣りの奥樣も大抵ではなからうとは近所の噂で、下手なヴアイオリンを引擦る暇があつても文子は母に手傳うとはしない。母も手傳つてくれとは云ふことが出來ない。父はもう一切無關係のやうにしてゐるがこの二人の間は冷いものである。おまけに文子は兩親にとつて掛替のない一粒種なので、其のなすがまゝにま

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かして置く。其の動作に我儘のある通り、其の思想もまた我がまゝだ。山田に對する考へもこの我が儘から來たのである。我が儘の頭は散漫だ、一つの我が儘から起つた心は他の我が儘が起ればすぐに消えてしまふ節操がない忍耐がない。これは文子が國文科から英文科へ轉じたのを見ても分る。で、山田を戀したのも前後を考へない我が儘から來たので、永續しないのは知れきつて居る。文子には以前戀はなかつたが、山田の宅の下女が風呂場で文子と落ち合つた話に御隣りの御孃樣の乳が眞黒だ、何でも何かですねとの臆側を主婦がさうかもしれないよ、何か間違があつて國から兩親が出て來たのだらうと增補した事があるが、この氣儘で押して來た五年間の寮舍生活は頗るあやしいものであらう。山田に對する戀が如何にはげしく胸に燃えたからと云つて、氣まゝもの〻氣まぐれ騷ぎに過ぎない。まして文子は山田にあの樣な手紙を書きながら戀の觀念が明瞭と浮ばないで、情を衒ひたい虛榮心と強て戀を口にして見たい好奇心とが盛で半ば夢中であつたのだ。

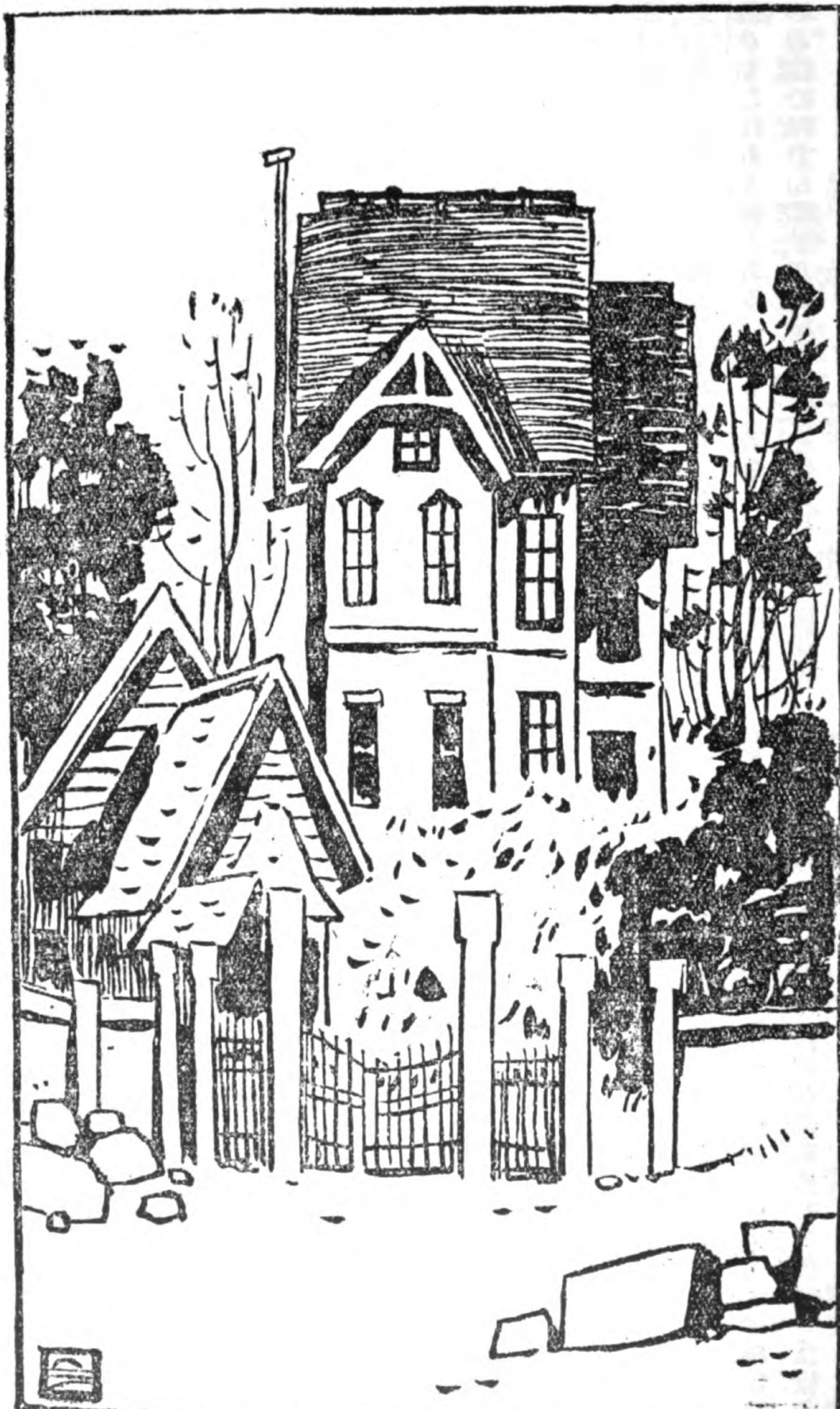
　山田の心の中には文子は漸々勢力を得て來る。波立つ胸を占領して來る。無意味であつたことが意味のある樣にとれて、文子の美しい點丈け追想せられる、さかしげな瞳や其の話し振や、絕えず藝術の煩悩を續けて居る樣子が身にしみて嬉しく思はれる。自分の戀人として恥かしくない詐りのない美しいこの情を打ち任すのに安全であると信じ切つてしまつた。

　で、彼れは熱心に返事を書いた。一度來てくれと書いた。自分もうこのまゝ別れるに忍びないと書いた。二人の面會は間もなくであつた。常の戀する人の如く逢うて別れた。この日の文子は一きはしほらしい素振を現はした。

（二）

かうして、山田はこの心を抱いて南國形勝の磯へ歸つて行つた。松の葉越しに海見える二階へ初めて靜かに寢た夜初めて考へたのは文子の事である。波の音を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

き〻文子の面影を浮べて靜思を樂しむ、これを日課としてこの夏をこの美しい故郷で暮すことが出來るかと思ふと彼れは只無邪氣に喜んだ。

朝背戶から一路の白沙、松原をぬけて、波打際へ出る波の上に夏の日光が溢れて、涼しい風が袂をふく、この高潮に達した南國の夏景色で、彼れは活動を思ひ、希望を思ひ、文子に對する愛情の一點のたるみもなからんことを祈つたのである。

文子から長い〳〵手紙が屆いた。山田はそれを持つて後の松原へかけこんだ。夏草の花さきみだれた下路を奧へ〳〵と進んで一きは大きな松の樹にもたれて讀んだ。今日は愈々都を離れたまふ日にて候と書き出して此の夕襖しめきり文机の上に伏して長く〳〵君の事思ひ續け候とある。二人の交りの追懷は樂しくあれ、悲しうはなきものを何となく淚さしぐみてとゞめ難き折々もこれあり候とある。今まで若き人にも遇ひにしかど君に對する程深く切なる友情を覺えしことはなかりしとあつて最後に戀しき〳〵哲次さまと恥しさうに認めてあつた。山田はこの手紙で、この戀に保證を得た樣な氣持がした。今迄七彩美しく目については居たが其の外形の分らなかつた文子の心は今や統一し集中して燦爛たる戀の虹と現れたと思はれる。彼れはそのまゝその美しさに醉つて茫然と久しく考こんで居た。

幾日もせず京都から伯母と從弟妹達が海水浴に來た。下女まで連れて總勢五人、山田の家族が六人で皆で十一人ある。十歲にも足らない男女の子供が五人もあるので食卓をかこむ時の賑やかさ、家中は混雜返す騷ぎである。朝は早くから皆が程近い海水浴場へ出かけ午後は後の山で遊戲する。例年ならば山田もこの仲間入りをして無邪氣に遊ぶべきであるに、彼れは何となく團體を避ける氣味がある。殊に京都からの一行の中に十七になる從妹で富貴子と云ふのがある。これは暗に山田と結婚さすやうに親々で相談のあるのは早くから氣付いて居るからだ。富貴子は却々の美人で、毎年夏の休みには來るが今年は別して成人して美しい當世の少女になりすまして居る。しかし山田は一向何とも感

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

じない矢張り文子の方がよい。富貴子をさけて其の顔の目につかない所で思ふ存分文子のことを考へたいと望んだ。

山田に別れてからすぐ文子の學校も休みになつた。間もなく文子は輕井澤の夏期學寮へ行つた。家族は三人きりだし後に兩親二人となるので淋しいから成る丈けなら東京で止つて居よと母がすゝめたが我が儘な彼れは兩親をふり捨てゝ只一人碓氷の隧道廿六を越えて高原の寮舍の人となつたのは七月十七日であつた。

靑春の女ばかりの寮舍、其の放肆な生活の樣は只花やかであつた。小諸や追分の原に遊んで丑松や傳吉の事を偲び、妙義山に登つて其の健脚を誇つた。それにこの寮舍はある富豪の庭內を借りてあるので其處へ避暑に來た華奢な上流の人に接する。文子は校長の命によつて其の富豪の姬君に讀書を敎へた。やれ文藝會だの演奏會だの云つて、活人畵や素人芝居で大騷ぎをやる。文子はもう夢中で、東京の兩親の事や、山田の事を思ひ出す暇がない。

山田からは手紙が二通、親戚を尋ねて一寸明石へ行つたと云つて明石潟の美しい繪葉書が一つ屆いた。文子は碌に讀まうともしない、返事を書うとも思はないがあまりと思つて思ひ切つて次の樣な噓を書いた。

「每度の御手紙この霧ふかき高原にてうれしく拜しまゐらせ候。いつも丘の上にある樅の古木のかげにて靜かなる高原の景色をながめつゝ君の事のみ考へ居り候。人を思ひ物を考ふるに最もよろしきこの木蔭はこの夏私の天上にありときくメードウンス、パツーに御座候……。」

輕井澤から山田へ屆いた手紙はこの一通きりであつた。八月も末になつて文子は東京へ歸つた。生徒の中でも古株なので諸方から持ち上げられるのを好い氣になつて、輕薄な上調子な皮相を喜ぶ彼女は得意滿面である。生れてから旅行などはあまりしなかつたので文子の心に實際この旅行は戀するよりも面白かつたかも知れないのである。

九月の初めになつた。磯の朝夕にもう秋氣が動く。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

やゝ高くなる風の音や、松原に蜩のなくこゑをきいて山田は文子戀しさの情に燃えた。

（三）

山田も九月になるとすぐに上京の積りであつたが、兩親はこの卒業の時を以て結婚をすゝめた。女は富貴子である。親戚や兩親は口を酸くしてすゝめても文子に氣をとられた山田はいつかな聞き入れない。伯母も怒れば兩親も不孝と罵つた。結果は伯母の家との義絶となり勝手にしろと云ふ兩親の立腹に終つた。こんな事で時日がかゝつたので十月一日漸々東京へ着いた。この戀の背景としてこんな波瀾があつても山田は一向氣にしなかつたのである。

上京して文子の變り樣に驚いた。

山田は今日着いたと云つて葉書で取りあへず知らして置いたら返事が葉書で來た。其の文句は拜借して置いた書物が遲くなつてすまないから二三日中に御返しにゆくとあつたばかり甚だ物足りない。翌日文子は尋ねて來たが、實に洒々したもので、ひとり盛に輕井澤は好い土地だと云つてほめて、頗る不得要領に無意味に別れた。これが二月も別れて居た戀人同志の面會かと思つて山田は初めて文子の心を疑ひかけた。

其の後は何の便りもない。山田はもう落ち付いて居られなくなり戀慕の情を細々と書き認めて、文子の心を試した。すると諦めてくれとの返事、あまりに胸苦しく思つたので、とても諦められない。かく迄深く思ひ込んだものを、もう此の思ひを死ぬまではぐゝむより仕樣がないと云つてやると、初めて山田の深い／＼切なる戀に面喰つた文子、今更今迄の手紙の文句で作つた罪を感じたが、高等敎育を受けた彼女である其の非を辨じる丈けの口と筆とは持つて居た。で、自分はこの夏輕井澤でさる女丈夫に出遇つて大悟した。去年の春以來不安にせめられて煩悶の日子を送つて居たのが計らずも安心立命の地位に達した。小我を捨てゝ大我に生きよ、死して而して再生せよと云ふことに悟得して、我が一身を捨て、宇宙の大意志に從ふのだから

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

自分の心は自分の自由にならない。君の御情を受けるのがうれしいが受けても私のをお返しする事が出來ないから、一層御受けしない方がよからうと思ふと書いて、只美しい友と思つて永遠に交際をしてくれと加へてあつた。

多大の希望を抱いて上京した山田は其の矢先きに此の手紙をよんで、一時は茫然として涙も出なかつた。秋雨のしと／＼と降る日は机に突伏して身を悶した。晴れた日は夢中で家を出てそこら近郊のむさし野をあてもなく歩いた。山の手線に沿うたある杜、こゝはよく來馴れて居るので、遂々そこへ行つてしまふ。もう秋も暮れ近いので楢の葉などは風に散つて居る。霜がれした下草をふんで落葉の音をきいた。故郷に居た頃の自分と今この武藏野の自分とを比べ、伯母を思ひ、富貴子を思ひ、兩親の怒を思つて、彼れは泣ける丈け泣きたいと願つた。

好んで人の情を弄んだ文子は憎くいこの恨はいつか思ひ知らせてやると憤怒の皷動を高めても見たが、飽迄も文子を善意に解したいと思ひ、どこ迄も其の追懐を美しいものにしたいと思ふまでも、戀しくなつかしく感じてゐる山田は、强ひて文子の言葉を眞面目な眞摯な意味にとつた。でこの場合文子を怨むよりも、文子の樣なものに誠を傾けつくして、一生の戀を托した自分の運命の果敢なきを歎いたのである。そして此の見方は山田にとつて最も苦痛の少い見方で、且つこれは文子に對する最後の好意であると思つた。文子の友情と云ふのも當にはならないが、伯母や兩親の手前、せめて友としてゞも文子とは關係を絶ちたくないと考へたので、友として交際してくれと云つた時はさすが辱められる樣に心苦しかつた。

遊女の樣な文子、其の卑い根性を學問で誤魔化す丈けまだ遊女よりも罪の深い文子には夢更未練はなく美しく諦めるのは諦めたが、これより山田の心に永く寂寞が殘つた。青春の戀はもうこれぎりで、樂しく美しくと豫期してゐた愛の歷史の最後の頁をもう閉ぢてしまつたのかと思うと悲哀がこみ上げて靜座するに堪へ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ないが、彼れはじつと涙を飲んで忍び、文學の研究を着々として歩を進め、兼ねて計畫してあつた事業にとりかゝり匆卒の間に、まぎらさうと努めた。

（四）

十一月も半となつた頃、文子の父は都合あつて大阪の方へ轉任した、母も一所に遷つた。文子は已むを得ずまた學校の寮舍生活をする樣になつた。山田は毎日學校附屬の圖書館へ通つて一方一生の事業にとりかゝつて居る。

文子には山田の僞のない切實な情が段々とよく見えて來るにつれ氣味惡く感じられた。我の強い氣まゝものでも流石は女である。山田の運命が一に自分に係り、我が爲めにかくまで苦痛を續けて居るかと思うと、何となく空恐しい。で、成る丈け山田から遠ざかる方法を講じた。友だとは云つて見たものゝなまじに手紙の往復などしてゐては此の場合却つてよくなからう。これは斷然絶交するに限る、さうすれば、山田の爲めにもなり、また自分が將來他の人と結婚するに當つても障害物の恐れがないと考へた。

珍らしい文子の手紙を讀んで見ると、思ふ程も嚴重でない、男との交際も淸ければ許してくれるが目下少しく考ふる事があるので沈默を守りたいから御手紙は出しませんとあつた。これを讀んで山田は「戀人から友で、今度は絶交か」と思つて只寂しく笑つた丈けである。

間もなく京都の伯母から、あなたに嫌はれた富貴子の緣談もとゝのひました。あなたは何時御結婚なさるかと嫌味をさんざならべて婿の人物を褒めそやした手紙が來た。同時に富貴子からも山田の妹に托した手紙が届いた。山田に對する切ない戀を訴へてある。この結婚は嫌だが兩家の義絶を和解する爲めに戀を捨て、身を捨てゝ犧牲となるに就ては「寫眞一葉御送り申上候せめてこれにても御傍にお置き下され度候。何卒君の愛せらるゝお方と共に御幸福に御暮しの程蔭ながら祈り居候」とあつた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

これを見て山田は默して戀したる富貴子の運命を思ひ其の寫眞をながめ頭をかゝへて懊惱した。

文子、富貴子、伯母、兩親と何れを考へても、皆悲痛の種である。

まだ經驗もない一本氣から文子を戀して、失望の淵に陷つた。これが若し、浮世の波にすれつかれた者ならこんなに情の荒ぶことなからうに初心な彼れは、消ゆる時のない悲哀と寂寞とを受けて初めて現實の慘憺たる實質にふれた氣持ちで、何としてよいのか分らなかつた。

秋も暮れた。十二月に入ると霜ばしらが立つて、木枯しが強く吹く。文子からは梨のつぶての音沙汰もない富貴子の結婚も近づいて來た。

山田の淋しさは愈々つのる許り、好きな讀書もしなければ散歩もしない。一日茫然と机に凭れて居るかと思ふと又一日床の中へもぐり込んで居る事もある。圖書館通ひも畢生の事業だと吹聽してゐた事も、もう全然忘れてしまつた樣である。

文子に對する怒りが心頭に燃えると共にまた默して自分の運命を果敢なむだのである。で文子には怨めしげな言葉は洩さず、富貴子の事も伯母の事も少しも云はなかつた。

友達は見るに見かねて旅行をすゝめた。これには餘程山田も心を動かされたらしい。實際漂浪の旅、これより外に今の我れに相應しいものはないと思つたので斷然都門を去る事に決心した。伯母の家にもそむかねばならない。故郷もつらい。これこそ誠の漂浪だとしみじみ感じた。

或る十二月の寒い夕方、山田は孤影さびしく一人の親友に送られて新橋を出發した。

年の暮も押しつまつて來たが靜岡に知人を訪ねると云つてゐた山田はそれつきり何の音沙汰もない。文子は寮舍で、卒業論文「ロマンチシズムに就て」を書いて居る。山田が最後の別辭にかへて文子に送つたのはキーツの「悲哀の歌」であつた。

…………

"She dwells with beauty——
Beauty that must die
And joy whose hand is ever at his lips
Bidding adieu."

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



小説　まつかぜ　上

萩香

「妙さん」

不意と呼び掛けられて、熱心に編物をして居た二人は一齊に振かへつた。

「妙さん、お茶でも入れ給へ。今日は君等の番だらうぜどうか昨日の栗饅頭をね……」

「あれだ、妙子さん」と千賀子は平氣で編棒を縦横に動かしながら

「打捨つてお置き成さいよ。何て食しん坊なんでせうねェ兄様は……あら、廣岡の兄様は？」

「はゝゝ早速心配になると見えるね、先刻郵便局へ行つた。また東屋の河合さんに引留られてるんだらう。いゝさ、千賀さん、少しは手放しといたつて……」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「知らないわ」
後れ毛をかきあげて、
「よくつてよ妙子さん、兄樣が被居しやらないなら倘の事よ。馱々ッ子――お歸りまで温和う待ちしていらつしやい。おほほゝゝゝ」
「おほゝゝゝだけで丁度三時よ。今まで兄樣に度々御馳走して頂いたから、今日は私の方で致しますわね。でも催促されると厭になつて了ふのよ」
妙子は笑ひ乍ら次の間へ立つ。
「あゝだから妙さんは温和しいと云ふんだ。どうしても日本婦人の美點は柔順にあるね、えヱ千賀さん」
「左樣？」千賀子は相變らず澄まして黒スコッチの鞠をころ〳〵と走らせて居る。
「厭に超然たる態度ぢやないか、何うせお茶の水のお仕込は違つたもんだ。ねヱ、おい千賀さん」
「ほほゝゝゝ兄樣は餘程お口にたゝつてるのね、惡口つたら横に裂けてる儘に云ふし、食べる物にかけたら――おほほゝゝいやしんぼ」
「何だと？」
「まあお千賀さん、兄樣のお妹だわね」襖越に妙子が笑ひ聲でませ返す、千賀子も笑つて振り向いたがその可愛い眼は、肱枕して皮肉な笑を含んで居る兄をぐつと睨んで、赤革の手下鞄やらヴィオリンやら小說やら無造作につまれた床の間を鳥渡見かへる、直男はころころする毛糸の玉を捕へやうと手をのばし乍ら、
「今日は何うしたんだい、大層御熱心だねヱ、ヱ、何だい靴下かい。無論僕のだらうね」
「誰がヒト、宅の兄樣なんかに……、こりや兄樣の、――だけれど廣岡のよ。」
「ははゝゝ驚いた。ぢや妙さんのは、何、シャツだつて、それや僕になんだね、有がたいな」
「自惚強いわ、それだつて廣岡の兄樣のよ。あ、兄樣そんなに欲しけれや松岡さんに賴むといゝ、高村さんは松岡さんに絹糸の栞を貰つて、それは〳〵大切に成すつてるわ、おほほゝゝゝゝ」
「馬鹿な！！」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

寝ころんだまゝ煙草盆を引寄せ大和を吸ひつけたが、

「千賀さん鳥渡、一寸そこの障子を開けて呉れ給へ」

「厭今に妙子さんが此方へいらつしたら、坐らない中に開けてお貰ひなさい、第一御自分でするがいゝわ私は兄様の爲めに立つやうな足持つて居ないわ」

「何とでも言へ、今におぼえてろ、千賀さん」

「あらいつでも兄様の方が忘れちまふ癖に、私記憶て居るわ、寶石入りの髪櫛はどうして下さるの」

「妙さん聞いたか、何でもこれだからね、實に」



「ほほゝゝゝまたなの。もうお千賀さん、兄妹喧嘩はお止しなさいよ」

袂を小腋に挿んで片手に茶盆を右手に鐵瓶をさげた妙子は、また笑ひながらは入つて來た。

「さあ兄様御自由に、お千賀さんいらつしやいな」

錦出の菓子鉢に盛つた栗饅頭を直男の前におしすゑて、叮嚀にお茶をつぐ。

「アラまあ、兄様」

今頭をつけて居た編さしの靴下をおいてむき直つた千賀子は直ぐ、

「まあ兄様は四ッや五ッ一息なのね、こんな人に風月のなんて勿體ないわ。芋羊羹位で澤山よ。ね、兄様、鴻沼はお薩の本場ですつてね……」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

わざと仰山に云ふ。
「おい〳〵人聞の惡るい事言つてくれ給ふな、これでも……」
「その上南瓜なんか召し上ると云つたら、奥さんに來人がなくなるつてんでせう、おほほゝゝゝ」
「まあずゐぶんね、ほほゝゝゝゝ」
心浮き立つ十八九、くづれるやうに兩人は笑ひ入る。廣岡兄妹篠谷兄妹、共に隔ない從兄妹同士、殊に千賀子と正とは幼馴染の許嫁、妙子の姉と呼ばれん日も指折る程の間近なのである。いくら當人とは氣心を知り合つて居るにもせよ、小姑は仲よしの妙子であるにもせよ、先方には兩親もあるものなり、双親なしで乳母の手一つに育つた世間見ず、あまりに無邪氣なだけこれからこの無垢な心に世の憂味嘗めさせるのがいぢらしく、せめて今の間にと涙の滯れるやうな兄の情で名を卒業の御褒美にかりこゝ鵠沼對江館の三階を占領して、氣樂な朝夕過ごすのももう二十日あまりと成る廣岡兄妹があと追ふて來たのは丁度一週間前、それ以來千賀子の樣子は、粗豪な男心にも可笑しいと思はれるまで、めつきり溫和しうなつた。
つい昨日までマガレットに五時巾の桃色リボン、リボン靴鳴らして居たものが我から進んで肩上げを下す程大人びたとは云ふものゝまだ十八のお嬢樣。兄の前では矢張りこの通り憎い程の我儘一ぱい、それがまた可愛くて可愛くて大切で、明けても暮れても『千賀さん、千賀さん』。新婚旅行と間違られはやし立てられるのも度々だとやら、愛度なくふつくりとした頬の光澤、中高顔の顋がくゝれて凛と張つた鈴のやうな眼、きつぱり引いた濃い眉、流石校内一と取つた才色双美の名空しからず、目のさめる位いき〳〵と可愛く美しい。ましてこの人のお兄樣、去年までオーバコートに身を固め、インキ提げての赤門通ひ、その角帽姿は幾多の廂髮連をして、さぞ篠谷病にかゝらしめたであらう。兄妹とは云ひながらどちらにどちらが似たのやら、只生寫しと云へば足る。笑ふ時の目元や美しく揃ふた齒ならびまで。厄年はもう一昨年の廿七と云ふに、親の遺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



した財産のおかげで世の職業難の生活難のといふ事空吹く風と聞流せば、いつまでも昔ながらの學生風。早くも二三人の父たる人もあるものを、年中妹を弄かつては笑はせたり怒らせたり、また日曜毎には無理やりに引張出して屹度二人連の散歩か圖書館行きその千賀子を手放さねばならぬ此頃、平常程の元氣もない。あゝ有がたく嬉しいものは親亡き後の兄の情。妙子は色白の細面、鼻筋の通つた口の小さい、お雛樣のやうな顏立であるが、花にたとへて千賀子が薔薇なら女郎花とも云ふべき人品、何處となく淋しくて、人をチャームするやうな表情の美を持たぬ。活潑よりはむしろ突飛な篠谷姉妹にくらべれば、陰氣な溫順いいはゆる良妻賢母的の女、出身の學校も裁縫女學校とやら聞いた。兄をやり込めた千賀子もその可愛いゝ口で、なか／＼よく平らげる。妙子は笑を含んで初めからつゝましうお相伴をして居たがふつと『あゝ兄樣の御注文でしたのね』と思ひ出したやうに、二ツに割つた菓子をそこへおいて立つて四枚の障子をスラスラと開け、その儘緣へ出て欄による。

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

颯と吹き來つた磯臭い風は、パラ〳〵と前髪を亂して、髷を止めた白茶のリボンがハラリ襟元に落かゝつた。

「あら妙子さん、濟みません」後ればせ乍ら千賀子も氣轉に立つて來て、一寸唇に當るや嫣然、約婚指環輝くその右手を、欄に跪いた妙子の上に重ねて頰擦ばかり身をよせると、此方は妙に微笑みながら力をこめてぢつと執つて「……未來の姉上……」と私語た。

「あらッ」豐な頰をぱつと染めたが嬉しさは口もとに溢れて、夢見るやうな瞳を翳す。

花曇りの空のうつとりと海も霞ていつもは手に取るばかりの伊豆が薄墨のやう。只江ノ島の岸を洗ふ白波のみは永遠に變らない。磯馴の枝ぶりひねた青松白砂はかなたに見ゆる富士までもとつゞき、左は小松まぢりの砂原を遠く隔て銀のリボン引のべた片瀨川、裾模樣のやうな對岸の松林の間を走る電車。みなこれ一個の大なる箱庭、目を伏せればもう四月も十五日、盛り過ぎてゐせた八重桃や牡丹櫻がホラリホラリとしつきりなしに時ならぬ雪を、昨日よりは五分通りのびたらしい廣い芝生に散らす。

妙子はなほ千賀子の片手を執つたまゝ

「柴松のくすの茂みに妻こひて……」と小聲に口詠む。

「アラ妙子さん、それは何に——」

「御存じなくつて、——西行のよ。江ノ島の……あの洲鼻ねエ、彼處らで詠んだのですとさ。あ、西行ではねエ兄樣、大磯に鴫立つ庵と云ふのが御座いますわねけれどほんとの鴫立つ澤は、この鵠沼あたりだつたんですつて、乾度あの片瀨川の邊でゞもあつたのよ。昔はこゝらは大きな沼でね、その時分鵠の鳥つて鶴に似た大きな鳥が澤山おりてね、それで鵠沼といふんですとさ、現に池袋なんてとこがありますと。あら、松岡さんに聞いたのよ、事實さう言はれると大磯より此方の方が本場らしいわ。こんなに茫々した——ねエ何百年か以前はきつとそんな沼だつたんでせうね。『心なき身にもあはれは知られけり、鴫立つ澤の秋の夕暮』

「あ、鴫立つ庵へは私も行つたわ、ほら廣岡の兄樣と妙子さんも一緒に。あの時寶物を拜見させて下さいつ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たら、種んな物を見せたわね、ほほゝゝゝ廣岡の兄様つてばかしこまつて、ハアハアと感心してたと思つたら、鳥渡對手の人が座を外した間にあの節なしの杖よかで、はりませの天井をつゝくんだもの。随分惡いわねエ、おほゝゝ」

「妙さん君達ア何してるんだ。もう可いから入り給へ折角お茶を入れたつて、一人ちやつまらない」

「えゝ、さあ妙子さん」と今度は柔順に障子を閉めて室内へ入りながら



「松岡さんてば私も松岡さんに聞いたんだけれど、鵠沼には以前は桃林が澤山あつたんですつてね、鵠沼の桃林て名高かつたんですつて。さうでせう、松の緑でどんなに美くしかつたでせう。松岡さんはそんな事よく知つてるのよ。あれで何でも話すのよ。その代りもうもう御機嫌取つて居なくちやね、私そんな時いつでもはら〱してるわ、——兎に角餘程變つた方よ、ねエ兄様——」

「さあ、人が斯う言やあゝ、あゝ言や斯う云ふつむじ曲りなのさ、僕あかまはず遣り込めるもんだから、もう僕の顔見ると喧嘩腰だ。あれや姿が女で心が——否

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

風だつてまるで男のやうだし、些も優美とか温和とか云ふ女らしい點はないんだね、はゝゝ僕、松岡さんは變性男子だつて云つたら、それでも怒つたよ。一體あれで何歳だらう」

「十九――高村さんに訊いたら十九だつて云つたわ、嘘だわねエ」

「松岡さんが十九だと、ぢや千賀さんと一ッ違ひか、おゝ妙さんは二十だつたね、あれで妙さんより下と見えるかい、それや無論嘘だ。僕何うしたつて二十三――三四だと思ふね、高村あ何でも松岡さんの云ふ事なら有がたがつてるんだ、實に齒がゆいせ。僕なら一ッびしやんと横面をまゐつて遣るんだが？――」

「あら、だつて其樣事云つたつてひどいわ。なか〳〵美人よ、ね凛とした。高村さんだつて無理はないのよあんな溫和しい方だから可愛想よ、あれで松岡さんさへ人並なら本當にいゝ一對なんだけれど……肝腎な松岡さんがあの變屈ぢやね。ねエ妙子さん」

「ふうん、お察のいゝ事だ。――それやいゝがあゝ正君はまだ歸らんのかなあ、千賀さんその高村でも引張で來給へ」

「先刻からお留守よ、また散歩なんでせう。此頃は海岸へばかし行つてるわ。」

「こんな日にもか、御苦勞な話だ」

「なに少し感染れたのよ松岡さんに。――松岡さんたら星もない眞黒な晩に海へノコ〳〵出掛てつてね、遲うく十時過ぎに歸つて來るの、氣味が惡いわ。それで居て過日……ほら夜網で鰯の澤山漁れた時ね――こゝからも漁火が綺麗に見えた――一緒に行つて見ませうつて云へば、漁師なんか居ちやなまぐさくつて仕樣がないつて、まつたく憎らしかつたわ」

「それから癇癪聲で女中等を叱り付ける時なんか、門外漢の僕でさへぴりゝとするね、けれど切放れは宜いさうだ。女中等賞めてるよ、妙さんや千賀さんのやうにけちんぼうぢやないつて――」

「まあ――ね、お千賀さん、兄樣と松岡さんに議論をさしたら隨分面白いわね、おほゝゝゝゝ」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『うむ、それさ、僕が二三日前彼室の前を通るとね、平生になく篠谷さん篠谷さんつて呼ぶんぢやないか。つひ「何です」と云つたら、今お湯に入らつしやるんでせうそんなら私の忘れて來た、白粉と洗粉を持つて來て頂戴だと。僕あ、僕あ高村ぢやないと怒鳴て遣つた。』

『あらまあ、おほほゝゝゝ、そしたら』

『そしたら斯うさあらぢや篠谷さんは眞正の女子でなければ、何にも仕て下さらないのねどうせ私は千賀子さんや妙子さんとは違ひます。變性男子でせうからね、けれど貴下が入湯て被居しやる時取りに行つたらまた大變でせう、だからさう言つて上げたんだつて澄ましとる。のぞいて見たら振り向きもせんで、机に對つて居るぢやないか。餘り腹が立つから無言て飛び降りて來ちやつた。あれでもう擦れ切つてるんだね、全體何者なんだか當もつかん。教育も充分ある樣子だし大きに何だよ、失戀の結果身をはかなみ、世をすね來てたとでも云ふ曰く附かも知れん。同情して遣り給へ」



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「まあ嫌だでも白粉つけてものね。――女中達もさう云つてるわ、初めから高村さんとは仲が好かつたんだつて、もつとも高村さんは兄樣の樣ぢやないわ、深切だから……」

「ははゝゝゝ高村の深切は松岡女史にだけなんさ、正君が千賀さんにおけると同じく――む、何打つんだ、いやもう言はない、言はない」

「ねエ妙子さん、深切もよく出來たわね、江ノ島へ行つた時なんかあの猫の處で、少し待つてゝ頂戴つて云ふのに兄樣も廣岡の兄樣も、私達を置いてきぼりにずんずん行つてお了ひ成さるんだもの、あれが」

當前さ。深切と女のお供とは少し違ふからね――君達あ高村のやうな輕薄才子が理想なのか」

スパ〳〵吹かせ乍ら直男は思切つた事を云ふ、千賀子も負けずに跳ねかへして

「あら〳〵輕薄才子と有仰つてね、まア可愛想なのは高村さんよ――あんなに溫和くつて、人に賴まれば厭といふ事も言へない程の方なのに……それをまた松岡さんが惡いわ、何處かへ一緒に行く時にはもう持物なんか、みんな高村さんに持たせて澄ましてるんだもの高村さんあの上輕薄才子だの女のお供だのつて云はれちや浮ぶ瀨がないわ、可愛想よ。どうせおえらい方からはさう見えるでせうけれど……否、ハイハイ、私の事を振袖式部なんては決して有仰らない兄樣には？」

「だつてお千賀さん、餘り溫和しい方でもないわ。先達て……ね兄樣、私達が來ました翌日ね、お茶一ッ差上げたいからつて高村さんと松岡さんをお呼び申しましたのよ。そしたら「お茶は嫌ひですから」つて素氣ない御返事なの、ぢや何うぞお菓子だけでも召し上りに、つて申しましたら、でもいらしてよ。――兄樣は葉山へいらしたお留守でしたね、で斯うなの、私が釜をかけて支度してますのをね、私濃茶つていつか友達の家でお振舞にあづかつた事があるけれど、汚ない苦い變なものですね、つて大變な御挨拶ぢやありませんか。すると高村さんまで、僕もお湯の方が結構ですなんて眞實にお二人してあんなに恥を搔せなくつたつて――

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

『これやあ好い、ははゝゝゝまつたく千賀さんの弦齋料理と妙さんの茶の湯のお手前には恐れるからな。それから井上の……うむ藤子さんか、藤子さんのヴィオリンさ、人毎に一ッの癖はあるものよ、で』

『まあ！』何故かパッと顔赧める。

『あ、鳥渡――誰、兄様のお歸りかしら？ああ高村さんだわ、呼びませうか。兄様』

答も待たず駈け出でゝ手欄に片手かけたまゝおつと階子段をのぞき下し

『鳥渡、鳥渡、高村さん、いまお暇――？ならお話しにいらつしやいな。ね、兄が一人で淋しいのよ。あら今直ぐにさ、さ、高村さん……』



手をのばして引上げるやうな身振をする。立止つた高村は一足踏みかけたが

『お邪魔ぢやないですか？』

『エ、〳〵さあ何卒……』いち早く身を引いて

『さあ何卒、否、お先へ――今日は何方、また海岸――』と云ひ乍ら後に跟いて入つてばつたり障子を閉てる。

『君……』

起き直つて膝を直し

『や、大變顔の色が惡いね、何うかしたですか』

『否』淋しく笑ひながらも俯いて、度の強い近眼鏡の曇をぬぐふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雪のやうな白襯衣の上に紡績の綿入を重ねて紺飛白利の綿入羽織。丸顔の二分刈頭、目元の可愛い温順しさうな美男である。

「お敷遊ばせ——」美しい襟足を惜しげもなく見せて妙子はしとやかに座蒲團をすゝめる。と、

「お孃樣！　お湯にお入湯なさいまし」と不器用な聲が階子の中段から起こつた。

「ほほゝゝゝ」返辭もせず千賀子は急に首をちゞめて笑ひ出した、直男は流石に鳥渡睨んで

「おい、何を笑ふんだ。馬鹿な奴だな——何が其樣に可笑いんだ、可いから早く入湯てお出？　お、君は！」と高村を見る。

「僕二三日風邪の氣味です。どうぞ御遠慮なく……」

「左樣？——ちやお先へ、ね、お千賀さん」美しい眼で見かへつて石鹼や白粉など取り出すと、千賀子は前髮をかき上げかき上げ

「ちやね、お先へ……」

「高村さん、御免遊ばせ。」パッとリヽーの香を殘して退り出る。

あとには大分話がはづみ、ふと有合ふ新聞の記事から○○問題について直男は口角盛んに泡を飛ばした。

＊　＊　＊　＊　＊

「兄樣……あら廣岡の兄樣はまだお歸りなくつて」

「あ、お先へ——どうも失禮致しました。」靜かに上つて來たのは先刻の二人、血色の好い地に滑すり刷いて、湯氣を浴びた黒髮濡したゝらんばかり、鳥渡入口に膝を突く。と二人とも束髮がかつくりしたので云合せたやうに手を加へたが「あのね高村さん」と千賀子は例の無造作に直ぐ坐り込んで仕舞ふ。妙子は甲斐〳〵しく濡手拭を手摺に掛けたり、お茶を入れかへると次の間に立つた。お揃の黄八丈の書生羽織長い袂がゆらり〳〵と、藤紫の裾を紅潮した爪尖にさばいてホロ〳〵と時色メリンスの蹴出落るゝ艶めかしさ。やがてパタパタ蟬時雨の音が絶えて、香ぐはしい香が鼻をうつ。紅茶を入れたものらしい。

「ね、兄樣、ほらあの事ね、……高村さん私達はお天

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

氣宜しかつたら、明後日歸りますのよ。アラ其樣に吃驚なさらなくつたつて。それで送別會に……ほほゝゝ私の方から云出ちや可笑いけれどカルタ會をして頂き度いの、一ツ盛んにね東屋の河合さんなんかも呼んでーまあよくつてよ、其樣に謙遜なすつたつてお手並は承知してるわ、エ、えゝもう私達だつて折角お馴染に成りましたものを、だつてきたお目に掛りますわ。それにまだ松岡さんは被居しやるんでせう。あ、松岡さんてば明晩までにお歸りなさるといゝわねエ、松岡さんは眞實の一騎當千よ、その激しいつたら——宅の兄樣なんか和泉會の何とかだつて威張つたつて、松岡さんには吹き飛ばされて了ふの、ほほゝゝゝ默つて居て時時雷樣の落ちたやうな……河合さんが卑怯な事するつて、パツと手を拂ひ飛ばすんだもの、河合さんああんな方だから膽をつぶしてちつと松岡さんの顏見て被居しやるの、本當に双方へあんな氣の毒の思した事つて無かつたわ、何日頃お歸り……なのかしら。ね高村さん、白襟引合した胸を兩手に抱いて、千賀子は人懐こくちつと見詰める。



「松岡さん鎌倉へ行つたんださうです。二三日泊つて來るつて……」

高村はもう松岡と云ふ一語に胸を掻き亂されて、視線をあらぬ方へ伏せ乍ら顏もあげ得ず答えるのを直ぐ頭

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

から

「松岡さんの事だ、何言つたつてあてに成るもんか。第一カルタなんて餘程蟲の居所のいゝ時でなけや、來やしないせ。若しうまく承知したら僕は過日の恥をそそいで遣るんだ、何、少し氣を入りや松岡さん位何だだが松岡さんはいつも外へ出ると、非常な御逆鱗で歸つて來るんだ、放心すると飛んだ傍杖を食ふよ、實に驚いたね僕過日……」

「あら兄様、鳥渡？」

紅茶の皿をくばつて居た妙子は、目を睜つて手をあげた、一同吃驚して顔見合せた、が、

「はゝゝゝゝゝ何の事だ、丁度松岡さんの御歸館ぢやないか」

と直男が眞先に笑ひ出した。高村は淸しい顔に懐しさうな色を浮べて、無言て耳を傾ぶけた。

果して階下では今し「お歸りッ」と勇ましく叫ぶ車夫の聲諸共、ひらり式臺に飛び下りた噂の主の春美嬢、友仙羽二重の丸帯の間からもどかしさうに緋鹽瀬の紙入を取出し、二十錢銀貨一ッ汗臭い車夫の手へ投げて折から、お歸りで御座いますか」と叮嚀に出迎へる女中につと點頭たきり、紋織お召の二枚揃ひをスリッパに自暴にさばいて、葡萄色紋羽二重の羽織の袖長う、瘠ぎすの背は思きり高く成る程更けては見えるが、まだ二十前後であらう。娘盛りのふさ／＼とした束髪にさしたリボンは三吋巾のお納戸色である。男のやうに肩で風切つてドン／＼上つた階子段、廊下について右へ曲り我が室の障子をぐわらり開けるや、あとも閉めず突立つたまゝまづ其凛々しい黒眼勝の眼を机の上へ落した。其處にはかねて期したる一通の書狀、宛名は對江館内松岡蘭香女史、裏を返せば東京市〇〇新聞社。あはれ〇〇新聞連載中の評判な蘭香女史が長篇小説引續いての本日休載、本日休載には、そのハガキ集欄に讀者の批難、喧すしきぞ。知るや知らずや三階の一群！！！

中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

松岡春美子とのみでは區々たる一婦人に過ぎぬが、閨香女史と云へばその新作「逝く春」と共に、嘖々たる文名を優しき双肩に荷ひあまるの人。

去年の暮からこゝ對江館の八疊間に、しばしの宿りを重ねたは第二の逝く春、――否、より以上の名品たる或る作に筆を執るべく、幽邃の地に心身を養なはんが爲めであつた。

筆でこそ縱横に甘き戀も書き、苦き戀もうつせ、自分自身はかつて戀愛などゝ云ふ例の無かつた女史も、あはれや此頃人を思ひ初めて夜となく晝となく、悶え悶えて居るのである。今宵歌留多の席にと招かれた袖も振り拂ひ、浪音高き一室に獨り物思ふのもまたその事であつた。

桃色の蓋かけた臺ランプは、讀みさしの洋書の白い頁や積み重ねた雜誌、硯箱、インキ瓶など乳色に照し出して、熟と坐つて俯いた女史の横顔が、浮き出たやうにぼうつと白い、透き通る程薄皮の、顔は丸立の方だが肉附の薄い――併し櫻色に匂ふた頬美しく、濃髮を英國風の束髮にしたのが襟元にまで崩れ落ちて、洗髮だと見えて後れ毛が、パラ／＼と被布の肩や襟の邊に靡と下つて居る。

噫、戀とはこんなに苦しいものなのかしら。人間と云ふものは、みんな戀をするものなのかしら、戀をする人、した人は、みんなこんなに悶えるのだらうか、ああ戀して成るべき戀ならば戀するも宜からうが、成らぬと知りつゝ………思切れぬ、忘れられぬ。それもまあ顔さへ合せればいつも口論の花を咲かせ、あの妹達に「まア兄樣と松岡さんとは、前世に犬と猿でゞもあつたんでせうよ」などゝ嘲けられて居る程の直男さんを………

反抗されゝば飽くまで強く、下手に出られゝば別人の樣に柔らかい。これは平常の癖である。で斯うして一間でも二間でも離れて居れば、矢も楯も堪らず戀しいが、さて逢て見ると先方が例の調子故むつと癇に觸り本當は優しく靜かに話をしたい感情に背いて、つひ賣言葉に買言葉、その度毎變性女子の、無骨男子のとの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のしられ、言返す。憎まれるのが當然である。憎まれるのも承知だが戀して居るからとて、遠慮や追從出來るやうな自分ぢやない。この變屈は今更始まつた事ではないが只高村さんに對してだけは、一ツはその反動でもあらうし我乍ら日の照りが違ふかと思はれるまで打とけて優しくする。何う云ふ譯か如何な時でも高村さんには、不機嫌な顔や厭な樣子は見せられない。その位だもの實を云へば高村さんは心から可愛い人である。けれどそれは戀ではない。その高村さんが……ああ高村さんの心もよく知れて居る。さぞ辛からう私の樣な女に戀するとは……病後の養生に來た土地先で……あゝつまり不幸なのだ。が、私も惡かつた餘り高村さんとは近附き過ぎて了つた。成るべく人氣の少い處を、と對江館を選んだのであるが二月越も獨りぼつちの二階住は流石に淋しかつた。で人懷かしい折でもあつたし高村さんの着いた時は實に嬉しくて、翌朝洗面場で行き合つて、『お早う』と笑を含んで云ひ掛けたのも私からであつた。遊びに來よと云ふても遠慮深くて他の室へは來ぬが、此方から出掛て行けば喜んで迎へる。直男さんにだとあんな私が高村さんとはよく連立つて出掛けた事などもあつた。高村さんの身になつたら無理も無かつたらう。噫、打明けて了はふ、とは幾度か思つた。この苦しい意中を打明けて、私も自分の戀を思切るから貴下も私の事は斷念て、これから兄妹としての清い永い交はりを續けやうと。

それもあの穩な懷しさうな笑顔を見せられると、何うしても云出す氣になれずかへつて優しい言葉でも餘計にかけて遣るやうになる。

いつそ歸京て仕舞はふかしら……此上親しくしたらますます兩人の爲にならぬ。が、さうしたら跡に殘つた高村さんは……聞けば六歲の時から孤兒で義理ある伯母さんに引取られ、そのお蔭で今高等師範に勉强中だとやら、其樣な前途多望な靑年がよもや一女子の爲めに……だが情的な高村さんの事である。温順い氣の弱い人だけに、思ひ詰め方も一通りでなければ、眞に可愛想………

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あゝ苦しい、何うしたら宜からう、何うすればいゝんだらう、實に戀知らぬ身は幸福――私は今までは幸福であつたのだ。何つまでも斯うして悶え悶えて苦しんで末にはこの身……この胸……えヱ何うなつて了ふのであらう。あゝこの苦悶を高村さんにはさせ度くない……それは私の心一ッだ……が、決して戀人でもないものを……あゝ噫……

纖手に握る五寸の細筆、よし雨を起し風を呼ぶ程ならずとも、よく數萬の讀者を自由に掌中に飜弄して明治の清少、第二の一葉と歌はるゝ身ながら女史、幼立から無情な親類共に揉み扱かれたので生來の强情勝氣は物心つくに從ひ、我慢執着となつて我から世をすね、只た一人の母親とさへ一緒に住むを嫌ひやゝ半狂人の振舞。併し一度興來れば、矢張り女性の特長たる纖細な觀察に、その華麗な彩筆を揮つて言々語々、玉を成し花を織る。殊にいつでもかたく本名を秘して居るのが一層世の耳目をひいて、現に三階の篠谷兄妹も蘭香女史崇拜者なのである。あゝ運命の神は何處まで彼等を弄あそび給ふのであらう……。

女史は先刻から兩手に眞白い額を抑へて空を凝視て居る。苦悶はその寄つた眉根にあらはれて、ホッと苦しい苦しい息をついた。とも知らぬ氣に、あつと起る三階の談笑。ほほゝゝゝと優しい妙子や、妹によく似た正の聲、張のある篠谷兄妹、河合のなど、手に取る如く目に見る如くである。

と、勃然と立上つた人の氣配、忽ち

「あら高村さん、お怒り成すつたの、何卒ね、兄は……

……兄はあんなだもんですから……」

「ま、お待遊ばせ、篠谷の兄樣が惡う御座いました。高村さん……」

妙子などはもうオロ／＼聲で取り縋つたのを振り放したらしく、あら／＼しうぐわらり障子がおし開けられる。

「あゝまた高村さんが一同に弄はれたのだ……」

ホロ／＼と涙を溢して見返つたが、その儘子供のやうに泣き入つた。シク／＼と細かく震はす小豆色の撫肩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

面を埋めた長い袂を翻るゝ紅の振、あゝ女史もまた一個の可憐な處女であつた。

下

嗚呼、天の寵のあつかりしか、地の幸の薄かりしか、



稀世の天才松岡女史は、一斗の鮮血を吐いて逝き、拔群の秀才高村敏郎は、その靈魂、劍光にのり、「ありし世のそれの如く女史のあとを逐ふて飛んだ。しかして篠谷法學士は、紅い手からの初丸髷、可愛き人を携へて昨日新婚旅行の途に上つたとのことである

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎夏の旅

玉井芳子

◎片山里

帝城を西に距ること十里、關東山脈の支脈が岐れて延びて山青く、御嶽山の木の間の雫が落ちて流れて水清き秋網川となれる草深き此の片山里に、騒がしい忙はしい東京を遁れて來てから、はや二歳、月日のたつは早いもの三つであつた兒が五つとなり、妾もどうやら田舎言葉が上手になつた様です、ホヽ御笑ひ下さいますな、子供が午睡の添ひ臥しの時などにつくゞゝと過去の記憶を辿れば「ゆめか浮世か、浮世かゆめか、ゆめてふ里に住みながら……」とやら壷坂の淨瑠璃にあるやうな、果敢ない、情けない感じがします、人の心なんて全く妙なものですね。

此の里にまゐりました當時には、物皆總べてが、靜かで、閑雅で何かの雜誌などに書いてある戀の結論とやらも、かゝる處の生活に於てこそ……と思はれましたが、住みなれて見れば、何處も同じこと、向ひの山に鳴く鳥の聲も耳に馴れ、前を流る淙々の響も今はよそに聞きなされ、つれゞゝの其の折には、嘗つては、つらかつた都の事がどうやら戀しい様な事もありますの……氣が多いせいでせうか。



今年の花は是非見にお出で、と親しき友から誘ひがあつたのも殘り惜しく、きまりわるく斷はつて、もう半年以上も都の風に當らず、卷く玉の芭蕉の葉が、朝な／＼に大きくなり、後の藪のモウソウの若竹が簷を越して琅玕の粉白く、夕月の影に飛ぶ螢も一つ二つ見ゆる樣になつた今日此頃、どうした加減か無に東京に行きたくて……行きたくて、矢も楯もたまらず、幸ひ良人が三浦三崎に行くといふに、ねだつて、ねだつて、漸やく隨行の恩命を忝ふし、久々で草の庵を出で、積り積つた鬱屈を晴らして參りましたのが、つい二三日前のこと……本當にお恥かしいこと……ホヽこれで母だなんて言はれませうか。

◎別天地

宅を出てから途中、中野で降車て東に行くこと五町、花園の朝日に雀なき、霞のゆふべに雲雀歌ふなつかしき東京府立農事試驗場を訪づれました「三年前までは麥畑の中にかくれて何處が御役所やら分らない樣な小さい試驗場も、今では此の樣に立派になつた」とは良人の話……成る程中央の事務室をはじめとして、右の方には應接所、分析室などが建てられ、一寸見ては何が何やら科學上の知識のない妾などには、一向にわかり兼ねる色々の器械があつて、技師の方が熱心に肥料の分析をして居

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

られました。

其前には何處から、はいつて何處にぬけていゝか迷ふ樣な壯大な溫室が建てられ、近くは八丈島、小笠原島より、遠くは南洋、歐米地方に、もてはやさるゝ珍草美花、粹然として集まり今を盛りと艷麗を競うて居りました、溫室の前には築山があつて、數百種のつゝじは、見事に植ゑられ、染屋紫、見利鶴島などいふ名札は、徒らに過ぎにし日の盛りを偲ばせ顏に立てられ前の小田の間をめぐり來る一條の細流は、築山の前の泉水に注いで、幾十種の花菖蒲は花期が過ぎて天使の翼を(ホーマーの詩にある)見ることができませんでした。

花園の花の今盛りなものには

○葉も莖も花も皆白き…………水仙翁

○名もなつかしき…………筑波根草

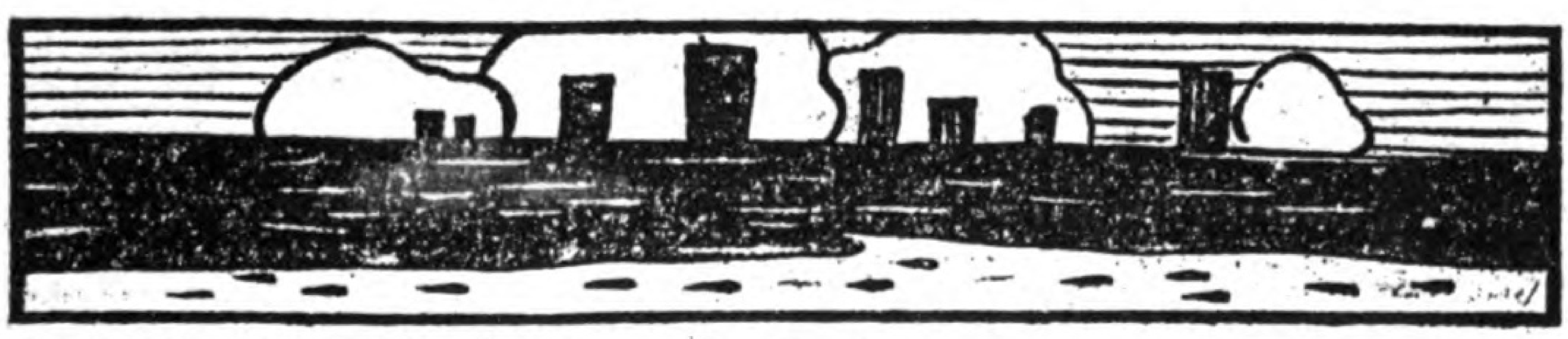
○小野の里、醍醐のわたり、心は一千年の昔を辿りて深草の少將を哀れがらしむる…小町草

○ロベリナ、金蓮花はすこしやつれ顏にて

○矮小なる軀幹に大なる花をつけたる……博多百合

○「朝な朝なわが見る宿の」と大伴の家持が歌ひたる……………撫子の花

○折らば折らんとは秋の菊、昨日今日より、咲き出でたるは…………夏菊の花のいろ〴〵



○燭は暗し數行……………虞美人草

○花は散りて名のみ床しき、玉照君、星月夜、宇宙、伊達錦、金光殿、東天光、などいふ薔薇の木。

○紅に染めて鮮やかなる石竹の花、夾竹桃の花、

○許六が乙女子の近よれば何とやら許しけむ紫陽の花

○誰が爲めに脂粉甚だつとむる葵の花、翠菊の花、カンナの花。

○心にもなき色を滴らしてからみつきたる、シヰートピース

など、拙き妾には中々覺えきれぬ程ありました、事務室の後ろの收納舍の方には、「麥歌や誰と明かしてねむた聲」といつた樣なをかしな麥刈の歌が聞えました。

妾は此の風流、此の詩の樣な趣を、まのあたり見て、嘗つて讀んだ順禮紀行の事を思ひ出しました、德富蘆花先生がヤスナナ、ポリヤナの村にトルストイ翁を訪づれて、翁の田園生活を羨まれた事が書いてありましたが、妾は全く自分等の今の田園生活がいゝと思ひました……「泉は脚下にあり掘らざるのみ」全くですネ、自分の心眼を能く開いて、勉むべき事に勉めないで、唯輕薄に世をあなどり、氣を多くして事每に失敗し、遂に尊い此の生を意味のないものにしてはならぬ、とつく〴〵思ひました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

生意氣と御笑ひ遊ばすかも、知れませんが實際妾は名譽とか權勢とか、地位とか、いふものばかりが眞の其の人の力でもなく、又國の力でもないと思ひます、トルストイー翁は「土を耕し他の力に頼らずして生活するものが國の力也」と言はれて居りますが、全く妾は其人の境遇に依つて此の主義がいゝと思ひます、

これはとんだ方へお話がそれました、おゆるし下さいまし、それから其晩は中野のしるべの家に泊り、柏木から電車で散歩に出かけ、久しぶりで東京のハキ／＼した人の顔を見ました。

◎東京灣

あくる朝の午前七時、東京を素通りして、靈岸島から三時行の汽船に乗りました、デツキの方が氣が清々していゝと良人が勸めますから、始めの程は外に出て居りましたが、餘り涼しくてつい寒くなりましたから中にはいりました、

東京灣の中程から東京の方を見ましたら、濛々たる煤烟が一面に空の中頃まで立ち昇つて、まるで市は黒烟に包まれて居る様に見えました、それに引かへて右左の風景は、近く相州の丘陵より遠くは房總の山々まで、碧緑の絹に包まれたやうで悠々として清く美はしく、右の方あの邊は横濱、左の方あの邊は上總の木更津、ソラこちらの方は要塞、向ふに見ゆるは觀音崎と



換はる景色を良人に教へられながら、窓から眺めて居ました、元來船に弱き妾、頭痛がして堪えられず、それからは苦しくて胸がふさいで、つい夢やら、うつゝやら能くは覺えて居りません、

四ヶ三崎に着いたと言はれて、起きて見たら、身體がフラフラして一寸もあるけませんでしたが、良人に助けられてハシケに乗り、甲陽館といふ綺麗な景色のいゝ宿に着いてからやつと人心地が致しました。

船は途中、浦賀、松輪など方々へ寄つて來たとやらで、此處に着いたのは午後の二時、まだ早やうございましたが船暈で氣分が何となくすぐれませんから、湯をつかつて、直ぐ休みました。

◎夏の海

昨日一日の船の旅に疲れたからだも、懐かしき瑲瑢の波の響に夢を破られて、あくる朝は午前五時少し前に起きました、氣分はもうすつかり直つて居ましたの……良人が愉快さうに寢て居るを無理に起して、顔あらひ、口すゝぎ一寸着更へをして朝の散歩に出かけました、町の西端の海に突出した小高い巖に上つて眺めた時、あゝ妾は大きい聲をして叫びたい程いゝ景氣……

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

あはれ!!　絕東の君子國、東帶せる其半身は……東、房總半島の山の嶺から一線を引いて、遙かの沖は浩蕩として大いなる靜けさ……唯、呼べば答へんとする前面の城ヶ島は、全島綠英を以て包まれ、右は燈臺の下、左は遊ヶ崎邊までの巖角は、今眼から醒めたと言はぬばかりに白き泡沫を漲らし、西、相州の箱根、足柄、大磯、小磯、江ノ島邊までは黑く青く、遙か甲駿の山々は滴すく青く、其間には白雲長く横はりて、白颯爽たる芙蓉峰は碧綠の朝の空に高くそゝり立つて居ました、何といふ大いなる美觀でせう!!　神ながらの雪は旭にサッと輝いて、萬古より鍾めたる天地正大の氣を吐き、伊豆の國は長く南に手を伸ばして太平洋の覇權を握り、三原山よりなびく一條の烟の末は僅づかに水天の境をなし、蒼浪漫々!!　大瀛の水は環りて神州を護るとでも言ひたい樣でした、歸りながら宿人は「どうだ大日本帝國は秀麗な國ぢやないか、二萬九千方里は狹くつても三千年といふ歷史があるからナア」と申しましたが、妾は全く此時程痛切に我が國の美を感じた事はありません。

宿に歸つたら、かれこれ午前八時でした、新鮮な鮪と鯛とのお刺身で朝の食事をすましてから、船を賴んで城ヶ島に行つて見ました、此の島は周圍が凡一里位との話、島には燈臺もあり水難救濟信號所もあります、島の東北端には、海の嵐に育てられた老松が不斷の淸音を奏で、大きい巖が浪に嚙まれて居る岬



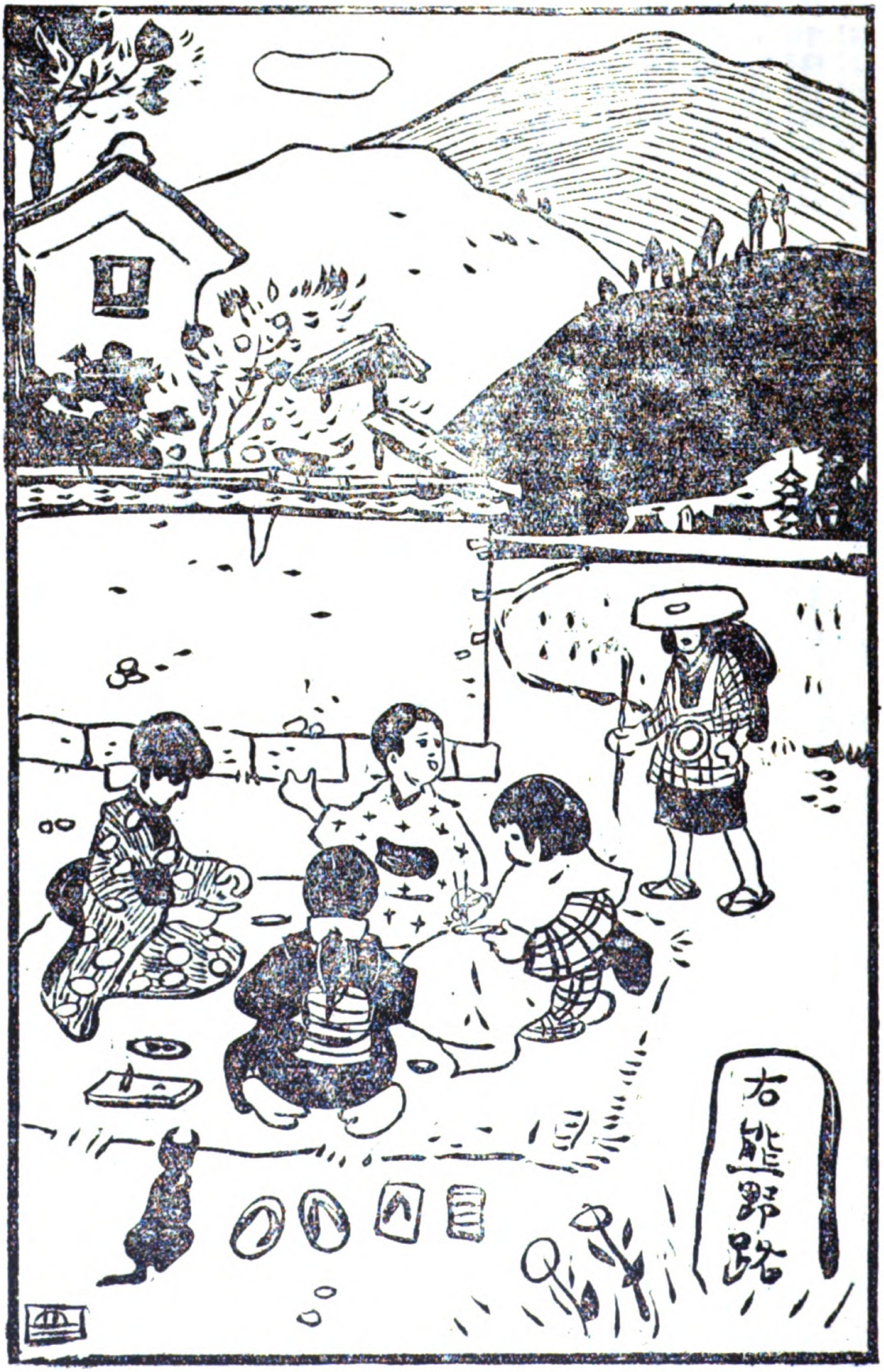
がありました、之れを遊ぶヶ岬と申すさうです、それは昔右大將源賴朝が此處で遊んだことがあるから、それで此の名があると島の人が申しました。

一體此の島は絃齋の小說で名が知れて居るさうで、妾も昔讀んだ、それを思ひ出して、そゞろ當年の三浦荒二郎と小櫻姬とが慕はしうございました。

島を一めぐりして歸りは船を三崎の東の岸につけて、櫻の御所、桃の御所、椿の御所、なんどいふ古跡を案內して貰らひましたが、何れも秋雨春風七百年とでも形容しませうか、荒廢して見る陰もなく、說明してくれた老僧まで何となく哀れぽく感ぜられました。

其日一日は島めぐりや磯廻りに暮らして休みましたが、寢て居て遠くの方から歸つて來る、船歌を聞くのも全くいゝ心持ちですネ、何とか言ひましたつけ……さう・「船頭可愛いやノオ……エ――音戶……ノ……瀨戶で……ヨ――、一丈五尺の艪オ……が、しわる……ヨ――ギユッ、ギユッ、と云ふ艪拍子と歌とが、浪の間から澄み通つて、幽邃に……遠く、長く、心ゆくばかり勇ましい樣に……そして哀れな樣に……、聞えるんでせう!!……妾本當に何だか今でも耳の底に殘つて居る樣な氣がしてなりませんの……、貴女も此のお休みには入らつしやいまし、實際、外の避暑地よりは餘程經濟なさうですヨ、これはマアとんだ長話を致しました、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



お孃樣の品性

水島ちどり

△裏から覗いた大家の奥

成金だなどゝ惡口を被仰る物ぢやございません。東京で○○さんと言へば、十本の指の中へ這入る金滿家ぢやありませんか。それこそ翠帳紅閨の奥、蘭麝の烟がゝすかに殘つて、長い廊下の塗障子の蔭から玉を轉がす樣な琴の音が……まアさお聞きなさいよ。それアお孃樣がお彈き遊ばすんですもの上手な筈ですわ、それに奥樣は御承知の通りの我儘者で琴だつて、花だつて先生を叱り飛ばす勢ひですもの。これ一つ滿足に覺えた事はありやしませんさ。そこへ行くと近頃の娘さんはお發明な者ですね。學習院の歸りには二葉會とやらへ廻つて、ピアノやらフレンチやらのお稽古、それが濟んで番町の方の琴の名人の處へお寄りになつて御歸りが五時頃、まち構へて居た家庭教師の西洋人がベラベラと話しをしながら二人で食堂で多辯つてると、御兩親にお姉樣、エ、お姉樣ですか、此方はまア、お孃さんには違ひないんですが、今は出戻りで、まア早い話しが日蔭者みたいなんです。何も彼もお出來にはなるんださうですが、矢つ張り奥樣に似て我儘でねお嫁にいらしつても先の御兩親へ御挨拶もロクに出來ないんですつて、おまけにお實家の奥樣が、可愛いくつて可愛いくつて手放せない處を無理にお嫁げになつたんですから三日に揚げず世話を燒きにお出でになるんでしよ、ヤレ、風呂場がアンナぢや風が這入るから娘が風邪を引くといけないの、やれ、實家ではあんな事

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をして御飯を喰べさせはしなかつたから、朝の御飯丈は一人別にしてやつて勝手な時に起きて戴けるやうにして、おやり下さいの何のつて、ソレアもう寝所の事まで世話をやくんですもの、それでもお嫁さんが温和しいかと言へばさうぢやなくつて、我儘に育つたから何かに付けて目に餘る事があるんですからね、先方は矢つ張り分限者ではございましたが中々禮儀正しい家ですからまア、家風に合はないつて言うんでせうね、ソレが奇態な物で家のお嬢樣でいらしつた内はそれこそ乳母日傘で育つて、あらい風にも當てない所



ぢやない、お嫁にやつても、ソレ其風が氣に成るのでわざ／＼出向いてつて湯殿の世話まで燒いて來た方が何ういう物か、取戻してからこつちあんまり可愛ゆくない樣な御樣子なんですね、お嬢樣こそいゝ顏の皮で、罪も報ひもない生れたまんまの我儘を通して居て、嫁にやられたり連れ戻されたり、揚句の果てはあつて無きが如くに妹ばかりお嬢樣お嬢樣で可愛がられるのを見せ付けられちや口惜しくつて堪りませんわね、この位なら何んな辛棒でもするから再び上野家へ歸りたいと思召したつて、其處が大家丈に、戀の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謎を解く乳母やがもう居ない。出戻り娘には、自分の思つた事を言う折もないんださうでして、とう〳〵これも英語か何か勉強しだして、今ぢや中々お出來になるんですよ。何だか人の噂には、お妹子樣よりお出來になるのが奥樣にお氣に入らないんですとか。それにお蝶樣——つていふのは、そのお姉樣の事です、妹のお嬢樣は先からお孃樣。お蝶樣の方は、一度上野の若奥樣と名が變つてるから此度はお蝶樣つてね、女中達が呼ぶ樣になつたんです、——此方の英語の先生は日本人で、旦那樣のある方ださうです、其女の先生から種種と教へて頂くので近頃大分物が解つて居らしつた樣ですから自然とお母樣のなさる事が苦々しくなつて來る樣なんですね、さうでせう、當家の奥樣位、お始末の悪い方はないんですから、處女なら兎に角、一寸でもお嫁に行らしつた事のあるお孃さんに氣を付けて見られたら堪りアしません。それで御飯の時も、御兩親と妹と、西洋人との間へお客樣の樣に這入つて御遠慮しながら召上るんですよ、それが濟むと、お孃樣は鳴物のおさらひ、お蝶樣は仕事でもして居らつしやる旦那樣は引きも切らないお客のお相手、一人ぽつねんとして本一冊讀まないのが奥樣で、コクリ〳〵と居眠りをして居らつしやるんです。あんまり御退屈だと見えて、女中のたまりへ出て居らつしやると、大抵は、女中達がアミダをして、お壽もじを取つたり、おさつを買つたりした處で、隠しもしないでおくさま一つ召上れなどゝ失禮な事を言ふのを、何とも思はないのか奥樣が又、平氣で、一つ位喰べていらつしやる事もあるんですよ、一體女中にはお菓子をやらない家で、お孃樣が土曜日か何かに、一人でお菓子が喰べたいと被仰ると、風月へ電話を掛けて、葛滿頭を三つお取寄になるんですからお餘りなんか〻來るためしはないんですしかしこれは裏の事お孃樣の御誕生日にお客でもするとなると、それこそ下へも置かない扱ひで、善美を盡した御馳走が洋館の食堂にはこばれて、グランドピアノの前へトキ色の服を着た先生が腰かけるとお振り袖のお孃樣が或は瀧の落ちるやうな、或は燕がさゝやく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

様な聲で面白いハイカラな長唄をお唄ひになる處を聽くと、宛で、芝居をやつてた様な氣がしてどんなに愉快でございませう。

▲つましい御隱居様

ハイカラと言へば△△△さんのお家庭は随分ハイカラですね、これも人の惡口でせうけれど旦那様も奥様も御隱居様も大變お利口な方で、、、なりあがりを隱さうとして骨を折つて居らつしやるんですと



無斷で青年男子と文通すべからず

さ。また甘く考へた物でね、だん〳〵に家の生活向きがよくなつて來るにつれて女中を新陳交代させてくのを初めとして、女中に行儀を仕込む先きに自分達の方で禮式に馴れないに困つた結果が近來流行の西洋流の腰掛け座敷、トン〳〵と扉を叩く事を覺えたら、カムインとか言ふ言葉も自然と出るので不精にはもつてこいの寢臺でお休み、でも中々勉めた物で、夜は電氣がメートルだから早く寢て、朝は手許

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が見える迄に起き出づべしト言ふ家憲を出して、御隠居樣も奥樣も率先しての實行者で居らつしやる。女中に寢坊する者があれば勿論の事、先頃雇はれて來た音樂家で玉江さんとか云ふ家庭敎師なんか、一日漸く暇を貰つて、舊恩の師匠の家へ行つて夕がた歸つて來ると待ち構へて居た坊ちやんが三人一時に玉江さんのお部屋へ詰めかけて『先生歴史をさらつて下さい。」「アノ僕の方は明日試驗ですのに、何故先生今日は居なかつたんです。」「先生僕は來週から代數を習ふんですから先へ敎へて下さい」四方八方から攻められて、イヤとも言へず、音樂ばかりをお孃樣と奥樣に敎へる積りで來たんですと、十三以下の子供に言つても仕方がなし、十一時迄かゝつて皆見てやつて、ぬるうくなつたお湯を使つて寢た翌日は、いかに夏でも四時つて言ひやア、遲い方でもないのに「玉江さん、まだ寢て居らつしやるの」つて、先生のお部屋を叩いてる方があるんですよ、誰かと思へば、奥樣は、もうちやんと朝の洋服を召してお白粉を眞白に付けて、「寢坊すると毒ですよ」とは先生も隨分お驚きになつたでせう。初めの内は食堂でお上通りのお食事がいつとはなしにお次並みになつて仕舞つて、あんまりお氣の毒だからといふので、女中頭が氣を利かして、でも聲を出す方にとか何とか言ひ〳〵生玉子を一つお晝の御飯に付けたんですつて、それをまア何處から見て居らしつた物か、猫にもまさる鼻の御隠居樣が嗅ぎつけて、「飛んでもない」と飛んで來て、戸棚の中へ仕舞つちまつた。その位の事はしますさ、此御隠居、かつて、女中がこれもおひるに、お香物が足りないと言ふて、お鰹節をかいて喰べやうとしたら、忽ち取り上げられて仕舞つた事があつて、それ以來臺所の戸棚には錠が下りる事になり、それと同時に御隠居樣は、猫の鼻といふあだ名が授かつたんです。それが玉江さんの玉子を取り上げて此方、猫に勝る鼻と改名したのださうですから妙ぢやありませんか。そこで女中は玉江さんのおひるの御飯をお部屋に持つて行く事が出來ない。如何に何でも鯛のアラの骨ばかりの處を小さなお皿へ、沖の小島よろ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

しくといふ體裁につけてあるつきりのお膳を何うして玉江さんに上られませうと言つて泣いて居た事もありました。それでも玉江さんはおとなしく何不足は言はないのださうですが、肝腎のピアノが應接室にある上に、例の錠と鍵の好きな奥さんがピアノに迄錠を下して置くから、お孃樣と奥樣のお稽古の合間の外は、玉江さんが勝手な物を彈く事は出來ないのですソレ丈は、ある人に玉江さんが愚痴を言つてましたつけ、そして誰も聞く耳がなくつて、唯一度、玉江さんのお友達で、おうちの御親類になる方がヴワイオリンを持つて遊びに居らしつた時に、タルチニー作のアタンオとやら何とやらむづかしい物を合奏なさつたけれど誰も喜んだ人はなかつたんですと。其癖、お孃さんのお稽古が濟んで奥さんがまだ出て居らつしやらないのを待つてる時には、こうたの春雨をひいてたら、御隱居樣は腰を曲げ〱、旦那樣はいとゞ細い目を直立さして並行さして應接室へやつて來て、「貴孃はほんとにピアノがお上手だ」つて



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

被仰つたとかつて、玉江さん憤慨してお出でゝしたつけ、これ丈でも主人公の趣味は分るのに何が面白いんだか御夫婦は毎晩、手を携へて永田町から銀座までの御散歩、此ひまにお女中が御寢室へ便器を運んで、コレは內證なんですよ、奥樣がね、夜中に起きるのが面倒くさいつて、遊ばすのですよ。

△あへかな姫君

上品といへば當家の姫君、舊の御藩中で第一と言はれた容色よしのお竹さんがお腹だけあつて、言ふに言はれぬ眼の使ひかた。振向き樣の身體のこなしまでお部屋樣そつくり、それで居て、手藝、學問、御品行まで何一つ點の打所のないばかりか、家政の事にもよく行渡らせ給ふて臺所のおさしづ、女中は、朝はお味お汁、おひるは殘りの其お味噌汁、晩には、野菜の煮たのをつけて、一週間に一度はお魚料を遣はすから各自に買つてお戴き、と、いつたぐあいで、お母上樣が御他界遊ばしてからこのかた、お部屋樣と二人でお奥を一切引受け遊ばし、大方のお指圖は姫樣のお聲で定まる事になりました。他家では、上ばかりよい物を召し上る樣ですが、御當家ではあまりよい物を召しません最も手のかゝる事に於ては他家のお邸に讓らない贅澤を遊ばして、お正月から二三月頃までは、お姫樣と、お部屋樣がお味噌汁の內へおかちんを二切れづゝ入れて召上るのがお藥だとかいふて毎朝々々、それが煮え過ぎないやうに柔かい樣に、別のお鍋でにるのです、姫樣は大根の千六本がお好きだから大根の實の時は、姫樣の分は、そのまんま小さな土鍋へ取るからいゝけれ共、お部屋樣は若芽の實でなければあがらないんですから、外の物にした時は、又別に、大根かきりぼしと、若芽のとを少し行平で煮て姫樣とおたけさまに上げなければならない。殿樣も若殿樣もお寢坊だから、此方のお汁は別にして置く事は勿論なので、お金はいくらもかゝらないで手ばかりかゝつて、瓦斯一つ引いてない臺所の混雜つたらありはしない、お次の者の朝御飯は早くて十時になるのですけれ共御當家では其通

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

りお上通りからして喰物にでも何にでもおつましいのですもの、何で女中が贅澤らしい眞似を致しませうと神妙に働いて、朝も四時に、必ず起きます。姫様が御疳癪持ちで、夜もよく御寢なされないから、どうしても早くお起になる其前に女中が起きて居ないと御機嫌がお惡いから今年六十七になるお女中頭まで、洋燈をつけて顔を洗ふのです。それでおたけさまはお世嗣の若様も殿様の御秘藏の姫様も自分のお腹だから何でも自由が利きますから、何とか彼とか七八釜しい規則を出して、昔者の威權を振廻してからに、姫様のお召物などの野暮さ加減つたら、デモ又姫様はよく、お似合ひ遊ばして昔の錦繪の通りな風をして濟まして居らつしやる、先頃長年御奉公した者の姪がお邸へ伺つたら姫様が立派な箱を下し置かれたので、あとで拜見さして貰つたら、ピラ〳〵の下つた花簪が二本さし、「古したからお前に」とのお言葉通りいかにも十八世紀式に輝いて居ましたつけ。今日でも姫様は文金の高島田へ雨天をさして居らつしやるが、此雨天は東京市中を殘らず探してなかつたので遙御近所のたかしま屋へお誂へになつた品です。今度若殿様に奥様がお極りになつてほのかに伺へば此方はお茶の水の卒業生だとか、何とおいたはしい此お姉上様にあの御部屋様を姑、小姑にお持ちなされ、お役も付かない五位様を殿様に遊ばすは、扨も廣い世の中に、あゝ若様の奥様はあつて姫様の御縁は何故こんなに、遠いのでせう。

▽呉服屋の番頭さんは、總て男に限るものと知るべし。その客足多くは女なればなり。如何なる小店にても、亭主殿女房と火鉢を圍んで店番などせば、結局は寂滅にて、兎角は客足の遠ざかるものなり。これは、女學校に女の敎師は禁物なるに同じ。

▽ブラウニング夫人若くはウエーン、エン、ジエローの詩集を繙ける者は何人も容易に氣附く如く、女性作家は兎角小六ケ敷文句を遣ひたがるものにて、假へば日本人の手に成る英文の如し、差當りは「英文難句集」に集めて可ささうなもの多し。これは日本人なりとて輕蔑せられてはとの懸念より、矢鱈に難句を並べたつる如く、女なりとて馬鹿にせられてはとの虚榮心より來りしものか、非耶。ヒーマン夫人の如きは例外の例外なり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會百生活（五）

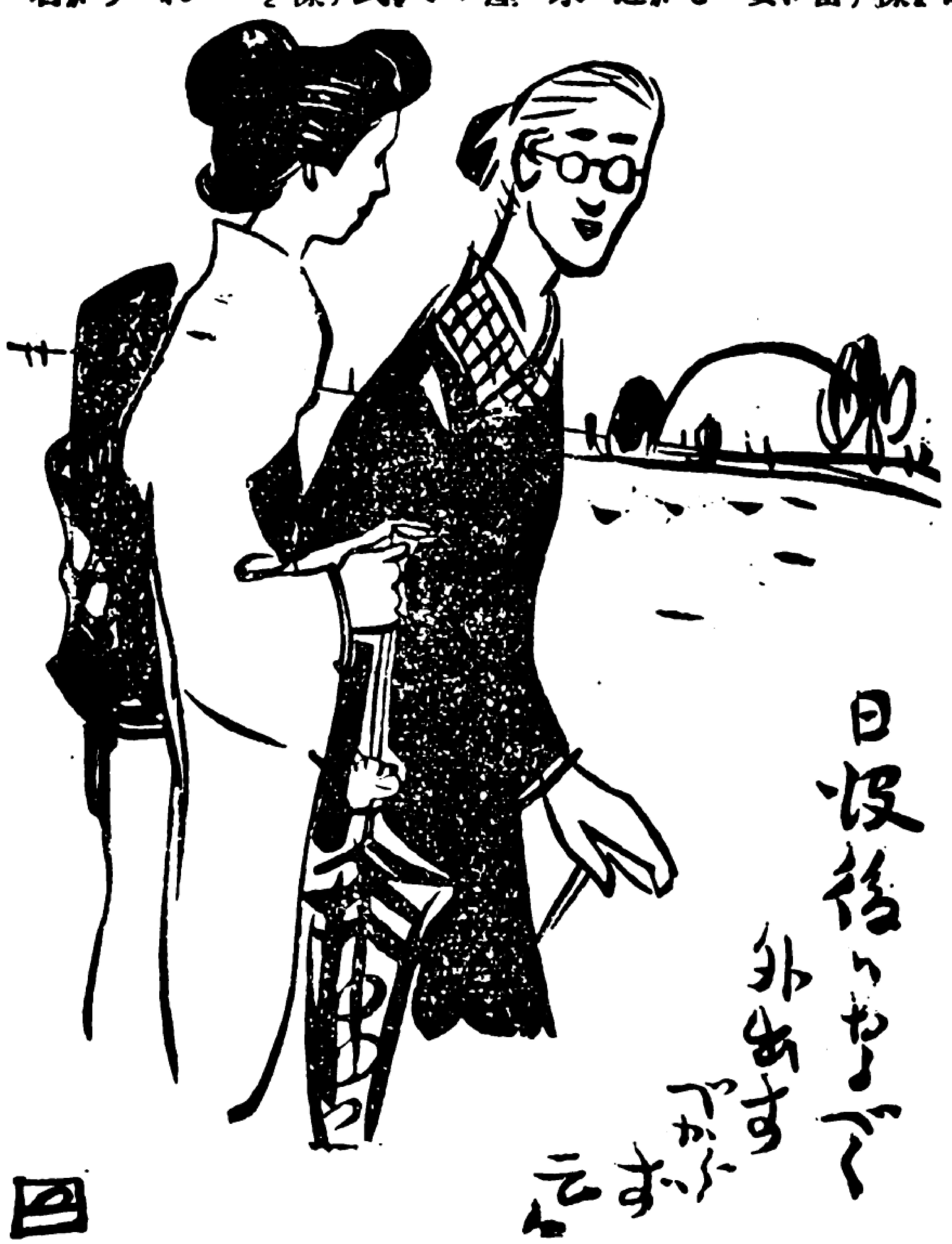
今の世に珍らしい　古風な家庭

花寶女

これは有名な舊家の生活の有樣ですが今時に珍らしい古風な處が御座いますから一寸申上ませう私の行儀見習として上りましたのは早數年前でございました、處は京都を南に四里はなれた町でありました、御邸宅は中々立派なものです、御家族は當時七十三に成せられます老公と、二十一の御孃樣に養子をおむかへ遊ばされて今は若奥樣と、都合御三人、召使は老女二人　御三方に一人宛の御附の侍女が居り升、私は若奥樣の侍女として上りましたので女中の外にまあ家令執事と申樣な人が三人と、下男が二人居りまして、常は家令執事の外男子は奥向へは嚴重に出入を禁じられてあります、私共三人の女中は一人づゝ部屋を頂きまして常は御中庭に向た室で御縫物いたして居ります、大旦那樣は毎月二の日と六の日に京都の御店へ御出まし遊ばしますので、若御夫婦は御居室で讀書遊ばすか、音樂遊ばす位で、ちつとも外出はございませんから、近所の人は當家の御方樣はどんな御方か存じない位です、先づ朝御目ざめになりますと御あいさつ申上まして、若奥樣の御洗面の御湯とりまして、御えん側へ友禪ちりめんの御座ぶとんを敷いて、洗面の御道具の入つて居ります箱をならべます、これが誠にどうも結構なもので、若奥樣の御定紋散らしの蒔繪の御文庫です、御洗面がすみますと若御夫婦は御佛前へ御參拜遊ばされ升それから御朝飯上りますので、其日當ばんの侍女が御給仕いたします。すみますと若奥樣の御使用遊ばす御湯をとりまして、御化粧部屋の眞中へ毛布をしきまして、上へおたらひを置き、御湯をあげておきますと、それをおつかいあそばして、こん度は老女御附そひで御二階の御化粧部屋へいらせられます、その間侍女共は各々御湯つかいまして、やはり化粧いたします、何ぶん御舊家ですから、髮は島田で、化粧がすみますと

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衣服を着かへましてお縫物いたします、老女二人の内一人は若奥様の御生母で、御部屋様です、一たい御當家は昔から御本妻が御逝れ遊ばすと二度と奥様をお迎へ遊ばす事は出來ないので、御部屋様をお置きなさいますが、最も格式は私共召使と同様で、若奥様でも一間次から申上られます、御晝飯上りましてから後、若奥様に御内庭を御散歩なさいますので、私が御供いたして、夏なれば日傘おさしかけいたします、午後からは二階の御居室で若様と音樂合奏なさいますか、又は大旦那様の御居室へ蓄音機をお持ち遊ばしてお慰め遊ばす位で、かくて四時頃になりますと、私共は御縫物かた付て晩餐の仕度にかゝりますが仕度といつても皆大旦那様が御料理遊ばすので、御上手で御座います、勿論御料理場は御奥に拵へてございますから、御老體もいとはずセッセとなさいます



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が、非常に御壯健で、皆驚いて居ります、かくて御仕度が出來ますと皆樣打ち揃て御晩餐、大旦那樣は非常の大酒家で、夕飯は御飯上らず、御酒ばかりですから、四時ごろから九時頃まで召上つていられます、若樣は餘り上りませんから御先に失禮遊ばしますが、今も申ます通り、何しろ長い事ですから中程で燈を付けますが、御當家はランプといふものは見たく共ありません、夜分なんぞは各室皆行燈です、私が上りました時驚きました、今時にでもこんな御邸があるかしらと思ひました、それで銀のおしよく臺に百目のおらふそ、くたてますのですが、又電燈や瓦斯とちがつて高尚な樣に思はれます、月淸き夜などは、御上御二方ながら糸竹の道には大へん御くわしう御座いますから、合奏遊ばしては御たのしみなさいますので、御家庭は御にぎやかでございます、又御來客などございますと若奧樣をはじめ女中は裾長く引ずりまして御給仕にでます最も二三十年前までは常でも引ずつて居られましたさうで、暑中御見舞の御あいさつに別家達が上られますが、いづれも長裃で昔の御大名樣方の御登城もかくやと思はれます、毎月一日と十五日には御庭園の奧ん中に御祠堂と申まして、御先祖樣代々の御像が祭つてあります、處へ大旦那樣と若樣は長裃、若奧樣はお白むくでしきがわらの長い御廊下をしづ〳〵と御參拜遊ばすのを木立一つへだてゝ御道具藏へ通ひます御廊下から拜見いたして居りますと、實に優美なものでさすがに御舊家とうなづかれます、私も一年ほど上つてをりましたが、御上樣が御出まし遊ばしませんから私なぞも御格子の間からかどそのぞく位がせきの山で宿下りの時だつて車で送つていたゞきますから、まあ御邸より外はあるいた事はございません、何しろ三井樣よりはずつと御舊家だそうで御座いますが、當今は大へんおひらけ遊ばして御店なども ハイカラ式になすつたとか、それで私の上つて居りました處なぞも、行燈が電燈にかはつたとか申事で御座います、こんな御やしきのあるのもやはり京都の特色かと思はれます。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



各地風俗の變遷

東北の雄鎮仙臺市

さみどり女

私は前に金澤の觀察を致したが、其位置といひ其歴史といひ誠によい對照であるのは、小唄や芝居で名高い奥州の仙臺です。

△仙臺初見五城樓

仙臺初の名は千代、後此地の藩祖政宗公が此地に城を築くに當つて、唐の韓翃の『仙臺初見五城樓』の句の中をとつて今の文字に改めたのだと聞いて居ります。で一名を五城、竹に雀の名に聞えた伊達家六十二萬石の城下とは、申さずとも皆樣御存じ。東は遠く秋萩の名に床しい宮城野に續き、西は高く緑滴る一帶の丘陵、時鳥の音も懐しい青葉の城は、廣瀬の淸流を前にして此岡に聳えて居るのです。市街は取立てゝ綺麗と申す程でもありませぬけれど、流石は昔からの大都とて町並もよく商賣も繁昌、人口は金澤と伯仲の九萬幾千ですから、東京以北に雄を稱するのも無理はありませぬ。殊に首都との交通は早く開けて、鐵道の便も二十年の昔に得て居りますから、位置の偏在してゐる割には開明の度も早く、電燈電話殆んど不便はないと申してもよい位です。其上近く松島の勝地を控へてゐるので遊覽の內外人が續々入込むため、新しい刺戟にも絶えず觸れてゐますから、思の外に發達は早かつたやうです。

△學校都市としての新發展

けれども流石は大藩の跡とて、まだ覺めきらぬ皷腹の夢は、一體の市民の頭に何處となく殘つて居るやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

です。其よい例證は活動の鈍い事で、兎角は食はれぬやうになるまでじつと懐手でゐたいといふ風、引いては工業なども一向振ひませぬ。仙臺といへば其名を負ふ仙臺平、はては八橋織、埋木細工と名は澤山ありますが、何一つ市を代表する程の產出はありませぬ。八橋織はいふまでもなく、仙臺平は越後に殆んど其株を奪はれ、埋木細工は可惜名を世に埋れて居ります。がこれも矢張富裕の民の懐豊であるにつけて、自ら起る怠惰な性に基くのでせうが、さらば他國人の企業を喜ぶかといふと、これにも妙に一種の嫉を持つて、妨害とまではなくとも歡迎いたしませぬ。これは其地の狀況や此樣な地方に特有の保守的氣風に根ざすので、眞の文明に達せぬ人民にはよく見る處、強ち人氣の善惡にばかりは歸されませぬが、何にせよ自ら自分の力を削ぐ愚な考かと存じます。が一方には流石に自分を見る明があると見えて――或は以上のやうな狀態の自然の結果かも知れませぬが、――更に他の方面に其發展と市の維持力とを作つたのです。即ち仙臺は自ら官署殊に學校の所在地として存在して行かうと望んでゐるらしく、東北の重なる學校は殆んど一市に集めました。即ち東北大學理科大學、高等學校、高等工業學校、醫學專門學校等の直轄學校を初めとして、中學、女學校は何れも公私を合して五六校に及び、此外師範學校、農學校、商業學校の如きから、有名な東北學院以下大小の私學に到つては數へも盡されませぬ。小學校の如きすら東二番町小學といふのは、全國でも屈指の學童數を收容してゐると聞いて居ります。元より斯る結果は東北に他に比肩すべき都市のないからでもありませうけれど、市自ら學校都市を以て任じた所爲もないとは申されませぬ。

△米國人の根據地

斯う他に類例の少い奇妙な發達を遂げつゝある仙臺市は、更に外人殊に米國人と奇しき關係を結んで居るのです。日本の各地方に於ける都市と其在留の外人、斯う丈聞けば何の不思議もなく、殊に學校の多い地に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

外人の多いのは一般ですけれど、仙臺と其在留外人との關係はより以上の度まで進んで居る。即ち我日本に渡來してゐる米國人間にあつては、數は兎に角其實際の勢力に於ては此地が一の根據地のやうなもの、ですからブース大將を初め各種の有名な米國人は、日本に來ると必ず仙臺に立寄るのでございます。



これには種々の理由がありませうが、兎に角仙臺が米國人の心を烈しく引いて、其中の有力者を此處に集めたと申されませう。けれども斯うまで其人々の氣に入るには、其處に何か譯がなければなりません、其精しい事は元より女などの解り兼る所ですが、氣候などの似寄と申す事も一理由として、又土地の人々の待遇も自ら他地方より勝れてゐる行爲かと存じられます。それかあらぬか何の米國人も仙臺は生活して心地よいと申しますし實際から見ても永く同地に留つてゐる人が多い樣です。それでは何故仙臺人は米國人を優遇するか？これはなか〳〵重大な問題で、容易に判斷は下しかねますが、元來の人氣からいつても左程不親切な所ではあり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ませぬ上、例の學校都市主義から見ても、槪して金のある外人の事業――重に宗敎的學校の――を歡迎するによる所もあるかと思はれます。又外人の方から見て、其重なる事業即ち布敎上便宜がいゝから永く留ると說く人もありますが、此解釋は如何でございますか、何故と申しますと、仙臺は一般に宗敎心の薄い所で、我國に長く勢力を得た佛敎すら誠に歸依者が少く、金澤の眞宗に從るのなどゝは比較にもならない位です。ですから耶蘇敎に向つてばかり他地方より信者が多い筈もない、否實際比較的少數だと聞きました。がこれは兎に角二者の間は極めて親密なもので、只今ではそれ等の理由以上によく親睦してゐる事は確でございます。これに就いて誠に床しい美しい話を聞きました。

それは數年前東北に烈しい飢饉のあつた時の事で、一夕市民の重なる人々と外人との會合があつた時、其席に列つた市長が米國人の一牧師に座談の末、何心なく飢饉の狀態に及んで「誠に見るにも忍びぬ有樣ですが、なか〳〵思ふやうに救助が行屆きかねます。此際貴國などの御助力でも得たならば……」と不圖申しますと、それを聞いた牧師は非常に驚いて、即日同國人の會合を開き、直ちに調査員を各地に派したと申します。すると其報告は案外に悲慘であつたので、我が親友の慘事とばかり直ぐ義捐勸告の依賴を本國の各宗派に出しましたさうな。で彼國人の耳に達した我同胞の悲報は駐日米國公使よりのよりも此方が早かつたと聞いて居ります。斯くて何心なく放ちた市長の座談は思はず海を隔てた友邦の人心を動かして、多大の同情の贈物となつたと申します。誠に美しい事柄、そして誠によい親睦の證明ではありますまいか。

△豪華な藩風

金澤前田家の藩風が何處までも優逸和順を旨としたに反して、仙臺伊達家の士風は豪壯華麗を主としたやうに存じられます。彼の百二十萬石に對する此の六十二萬石、其多寡から見れば大差あるやうなものゝ、全體の上からいへば共に大名中の大大名、加賀に加はる

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

幕府の疑は元より仙臺にも及んだのでせうけれど、何にを申すにも藩祖が豪勇な獨眼龍將軍ですから、一藩の風はそれにも恐れず自ら其方に養はれて、所謂伊達の氣性は上下に及んだらしい。尤も維新の一擧に本末を誤つた爲め思はぬ不利益を得たやうなもの丶、それとても位置の偏在につれて時勢に暗かつた所爲で、又當時の大勢をよく察して見れば、强ち其所爲が名程罪重いものでもございますまい。兎に角此豪華といふ點は今日でも認められますので、丘上遙に聳る靑葉城の本丸（今は只石垣丈けですが）を玩具のやうな尾山城（金澤）とを比しても其一斑が知られます。然し其幕府を憚つた金澤は勤王黨で、反て幕府を恐れなかつた仙臺が佐幕黨だつたのを見ても、此地の民心が何處か正直で狡智に富まない事が察せられませう。此藩風と此民心、それに廣大にして豐饒な國土に住む民ですもの、今日の懶惰は自然に來るべき結果ではありますまいか。それと共にまだ／＼正直――一歩を進めれば愚直――で惡擦れの點が少うございますから、近い實戰の經驗上、二師團の兵士はよく命を守り難に堪へるけれど機敏を缺くといはれたのです。それに就いて或學者は此地の男女に酒を飲んで遊惰に日を過す者の多いのを見て、直ちに寒國といふ氣候上の關係に歸されましたが、或は反て此性格と此餘裕とが大い原因ではありますまいか、實際活動の方面に餘り關しない或階級では、男女入亂れて盃を手にしながら、彼の信夫（福島）の人取橋の戰の時藩祖の作つたといふ

さんさ時雨か茅の野雨か
音もせで來て濡れかゝる

勝凱なといふ小唄を唄ひつれてゐるのを見るのは、決して稀ではありませぬ。實に泰平の民の好標本、これを見ても自ら民心の如何がお察しになれませう。

△裝飾に乏しい都市

市民の氣風と申すやうな內側の事をお話したに對して、次に市其ものに關する外側の事を述べて見ませう。既に初め記した通り仙臺は、山を負ひ水を帶し野を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

控へ、自然の風景から見れば誠に宜しきを得て居ります。けれどもそれは只よい場所に位置を占めたと申す丈で、市民が自己の力で添へた飾ではありません。尤も市街の建築も相當に整理され、道路も次第に改正すれば、電燈のやうなものも盛に應用され初めましたけれど、尚夫等の實用的方面でなく、市其ものに於ける一種の美術的裝飾と申すやうな事が、まだ〳〵缺乏して居るのではないかと存じます。近い話が、東北の首都を以て任じて居る仙臺市が、公園らしい公園を一つも持つて居りません。名丈は東に躑躅が岡、西に櫻が岡と立派さうなのがありますけれど、眞に聞いて喫驚見て喫驚、到底も金澤の兼六公園などに比較されません。櫻が岡は只數株の梅に春を見せる丈で、誰が見ても側に在る掲翠館と申す料理屋の小庭、躑躅が岡は古く名に聞えた所ながら、今は兵營の敷地に大半をとられて、これとて一週するに三十分も要しない狹さです。尤も爰にある櫻は數こそ少いが見事な老木で、皆祇園の名木にも勝るとも劣らぬ枝垂櫻ですから、も少し手を入れゝばよいものになりませうに、草むす儘に任せて顧ぬ今の樣では、誰一人其價値を認めるものがありませう。さりとて詩趣に乏しい市民、物質的發達ばかりが市の誇ではありますまいに。いや獨り公園ばかりでなく、古くから名を知られた名所や舊蹟なども、一向それ〳〵の手當が及んで居りませぬ。彼の萩の名所の宮城野にしても、よしや陸前の練兵場に編入されたにせよ、徒に蹄の下に踏みにじらせて、一株の名殘をも留めぬのは、決して賢い仕方ではありません。其外有名な芭蕉の辻も洋風の建築に其面影を失ひ、支倉六右衛門、林子平の墓も知らぬ人さへ多い程でございます。これも土地の人にいはせたら他の事業に急なためだと申しませうけれど、斯程の都市でそれに相應したこれ等の設備の出來ぬ筈がありませぬ、矢張例の呑氣と無精との爲めと申したうございます。此地に參る人が口を揃へて、「金儲けの下手な所」と評すのも此爲めです。關西地方に御旅行なすつた方は御存じでせうが、彼方ではつまらぬ所にまで夫々の名をつけて客を引く

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

につとめてゐますのに、此地では折角の材料を持ちながらそれを捨てゝ居るのですもの。女だてらに口巾の廣い申條ではございますが、市の體面の上から見ても經濟の上から見ても、これ等の點にも少し注意する必要があるではございますまいか。尙序手だから申して置きますが、彼の有名な仙臺萩の立女形乳人政岡の墓は、今孝勝寺といふ法華寺の後にあると稱して居りますが、其墓は三澤初子とて第四世の藩主綱村公の生母に當る方ので、飯焚の場に人を泣かせる烈女の奧津城ではないのです。元來彼の物語は、大槻博士も何かで御述べになつてあつたやうに、似寄つた多少の事實は兎に角、大部分は作者の筆に咲いた花でせうから、今其中の人の事を取立てゝ申すまでもあり



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ませぬけれど、市民の大半すらそれを欺瞞の事と信じて居るやうですから、一寸御注意申上げて置きます。

△何もかも東京の影響

次に仙臺の家の建方、これも市の外觀に關する事の一ですが、寒い東北の地にある町としては、些も防寒的設備が出來て居りません。前號に記した金澤などのやうに、軒も出てゐなければ炬燵なども無い家が多い。されば寒氣が烈しくないかと申すと、雪こそ意外に少うございますが、東京は元より金澤よりもずつと上で、冬はなか〱容易でないのです。此寒い證としては、學生などの間に氷滑が盛に行はれるのでも明かでせう、さらばなぜ寒い仙臺に此設備がなくてより寒くない金澤にそれを見るか、一寸考へると誠に矛盾して居るやうですが、實はさうではないので、軒の長短は雪の多少により、室内の設備は他の天候によるのらしうございます。即ち金澤は冬季は全く外出も出來ぬ程雨雪の多い所とて、一は見る目に寒さが烈しく、又籠勝の結果は兎角炬燵などに這入る事となるので、仙臺は降雪の量の少い上冬でも晴天が多ふございますから、自然外出勝の家にゐる事は少く、又温度程に寒さも感せずに濟むのです。で見た所東京の町並と何の違ひもありません、一體仙臺は見習ふ所が東京以外にない所とて、昔から深く其影響をうけ、獨り家造ばかりでなく、總てのものが皆其風を學んで居ります。殊に汽車が開通してからは一層烈しく、從つて其開明の度なども割合に早かつたのでせう。其言葉などにしても、本來は誠に聞き苦しい所ですが、近くは東京辯の急輸入で、客に接する者などは大に改つたやうに存じます。それと同時に商品なども殆んど東京と差のない程取揃へてありますから、一寸したものは何の不便もありません。但し一般の物價は申すまでもなく東京よりも安く、生活上から見ても確に安樂かと存じます。然し其比較は如何程に當つて居りますか、可成重なる物價を記すやうとの本誌の御注意もありましたけれど、一兩年前と今とは又多少の差もあらうと存じ、態と爰には其點

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

を省きました。

△特筆すべき七夕祭

仙臺のお話をするに逸すべからざるものは、他に見られぬ七夕祭の有樣です。日は申すまでもなく舊の七月七日で、前日六日から町はもう花のやう、其大小こそあれ家といふ家は軒毎に竹を立てゝ、一日の歡樂に何事も忘れるのです。町では一月も二月も前から所謂「七夕紙」を賣つてゐる。五色の色のとり〴〵は元より、麻の葉、龜甲、浪に千鳥、目の覺める樣な幽禪形の數々が、半紙、美濃紙色々の大さに刷出されて、何れの店頭をも飾るのです。それがやがて短冊となり着物となつて、綠滴る吳竹の葉に結ばれるのですから、筆にも記されぬ美しさがお了解になりませう。男の子は重に短冊に文字、女の子は裁縫の雛形の數々を造るので、此外吹流、網目形など、飾の數は盡せませぬ。町ではそれを店先に立てゝ、軒行燈も燈籠も皆此紙で作ります。其外屋根から屋根への飾もの、派手な商賣の家では手踊などさへ催されて、見る人の數も織るばかり、商店では多く業を休んで、金幣まばゆく店頭を飾るなど、決して他では見られぬ美しさでございます。只此美しい優美な風も、開明の風の吹くにつれて年々衰へて行くのは、何れにも見る現象とは申せ誠に惜しい心地が致します。

△金澤との比較

此お話の最初にも申して置きました通り、日本に都市は多いにしても、其歷史其位置など金澤と仙臺程よい對照をなして居る所は又とあるまいかと存じます。で私は此お話を初めた旨意に從ひ、爰に略と兩市を比較して、此記事を結ぶ事に致しませう。但し其内の或ものは既にこれまでにも所々に申しのべてありますし、其上管々しい比較は只繁を增すのみですから、今は其似寄と反對との點丈を略述するに止めます。

扨て似寄の點から申しますと、同じく本土の中にありながら、首府からかけ離れて北と東北とに偏在して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ゐる事は第一の重な似寄りで、此爲めに歴史の上にも現在にも時勢遲の評を共に蒙つて居るのです。第二には他に擢んでた大藩の跡である事で、其結果は物產の缺乏、覺めはてぬ泰平の夢などいふ同じ狀態に陷りました。又外觀の上から見れば、周圍の風景の勝れてゐる事も一致すれば、人口や氣候は元より學校官衙の重なるものもよく似てゐる。更に、此に仙臺萩の物語あれば彼に加賀騷動あり、彼に錢屋五兵衛の貿易港金石あれば此に支倉六右衛門の船出した桃の浦のあるもよい似寄では御座いますまいか。がこれ程等しい點のある兩市でも、求むれば隨分相反する處がないではありません、行事や食物などの細な點は兎に角、鐵道開通の遲速などは大い關係で、此爲めに文明の度の深淺も自ら分れるのです。又其受けた影響の一は京阪が主であり一は東京に限るの、言語、風俗、建築等にまで差を生じました。その中尤著しいのは宗敎心の多少で、金澤が眞宗の信仰厚いに對して仙臺は殆んど比較すべき宗敎を持つて居りませぬ。更に藩風の差は既に述べた如くで、其結果は今日の人氣に勤惰の傾向を生じ、一方には歴史の上に勤王佐幕の二つの跡を示しました。此外建築上の差異、公園の美醜など、皆二市の同じからぬ點です。扨て相互の比較は此位にして、此後何れの都市がより發達するでございませう？一は遲れ馳せながら工業上（織物）に針路をとり、一は推測ながら學校都市として發展を圖りつゝあるやうですが、隨分面白い今後を顯する事と存じます。元より豫言などゝ申す嗚呼がましい事は出來ませぬが、其道では金澤には福井といふ先進の大敵があり、仙臺には東京に近過るといふ位置の上の弊がありますから、只今までの儘の發展では如何なものですか、兩市共尚他の方面に進路を開く必要があるではあるまいかと存じられますのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の花

らく子

日盛りをゆきなやむ乙女の、抱へたる包みは程遠からぬ親しき家への暑中たづぬる夫れにやある。洋傘さして來かゝる足元に、あかく萎みたる花の三四亂れたり。足を停めて洋傘傾けつ、仰ぎ見る傍へなる板塀の上、銀杏にまつはる凌霄花の、日に榮ふる色鮮やかなるが高く咲きぬ。手に近くば簪にと一花やさしうも摘まれん。塀高き邸町、美しき花の色の輝やくばかりなるも恨めしき。

○

竹藪の草の茂みに、いと小さき蝶のとまれる如き容して、瑠璃淡き色の露草は咲きぬ。烈々たる日は此處にはさゝで、草の丈徒らに高き葉がくれを、朝に咲いて夕に萎む花の運命や。日蔭の花の色弱々しきに、松蟲も心惹かぬなるべし。はかなき生命に露草とはふさはしき名よ。

○

呉竹の根岸は靜かなる朝の小路を、すれ違ふ一群、何れは入谷歸りの疲れし足を、笹の雪の白きに停めしなるべし。店にあるも、ゆきあへるも、人は皆目を擧げて視る。髪の香りさと風に流れて、中に人妻ぶれるが笑ひ聲高ふ、自がじゝ手にする土鉢の二つ三つ、まだ萎れもせで、瑠璃、紅、紫の緣とりや亂れ咲、提げゆく朝顔の花照る日に美し。

○

丸窓つきたる風通しよき書齋、隅なる書箱の中は源氏物語か、はた金文字入りの優しき詩の夫れか。緣の風鈴幽けき風に寂しく音を立つれば、壁なるシエレーが半身像、美しき眸に笑み懷かし。窓の下、模樣おもしろき机掛の上には、本重ねたる硯箱と並んで、金蓮花の盛りなるが一鉢置かれたり。窓を明るうする花の彩よ。棒紅の色燃えて炎の如し。これ培ふ主人は夏を瘦するの乙女なるべきか。

○

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さはいへどそのひと時よまばゆかりき夏の野しめし白百合の花。
高き馨り、清き姿、そゞろ綠蔭深く泉わくほとりの女神が俤を想はしむる花や。夏を驕りの白百合こそはただになつかしき。

○

池をうづむる卷葉大葉、間を綴つて紅蓮白蓮の巫なるが咲けり。新月淡き無限の空に、仄かに瞬き初むる星何の聖示ぞ。夕靄やゝに四邊を罩めて、岸に立つ人の影も朧ろの中にぞ引入れらるゝ。天も暮れぬ。地も暮れぬ。四望模糊として只夢のさまなり。風一陣吹き來れば、爽やけき葉擦れの音、自然が妙なる調べと聞かまし。薄暗の中を鮮やかに花浮いて、池の面深う薫香高し。

○

空の涯には雲の峰重なりて、綠は乾きぬ。草も木も炎帝の威に壓されて苦しげに喘ぐさまなり。書院は開放されて、師の坊書見にや耽け給へる、折々はげしき團扇使ひの聞ゆ、熟眠にや入りけん、僧房に人は見えず、蟬時雨頻りなる庭に、松葉牡丹火の如く燃えて、これも白日の寂寞を夢む態なる。

○

琴の音洩るゝに、ふと佇みて見る杉の透垣、廻り緣の家居涼しげなれど、檜扇の咲亂れたる陰に人は隱れぬ。彈くは眉やさしう袂長き人なるべし。眞夏の光垣に暑けれど、垣間見許さぬ花のへだて、檜扇とあるもゆかしうこそ。

○

凄まじかりし夕立は晴れぬ。逃入りし鷄は打連れて緣下より出でつ。緣先に立かけし濡れたる鍬を把つて、人は露まだ干ぬ野路を再びゆきぬ。薄墨の影全くおさまつて、美しき蒼穹には光ある雲の一片舞へり。靜寂に歸りにし農家に、又啼出づる蟬の聲哀ましう、遠く引窓繰る音も聞ゆ。綠冴へて新らしうなりたる如き青葉に燦めく露を、風涼しく吹いてはハラ／＼とこぼしつ。垣には常夏哀れにうなだるゝを、軒先に黄なる大輪の花炎々の氣を吐いて、日向葵ぞひとり夕日に驕れる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



小説 磯のかほり

与謝野晶子

「こんな姿をいたしまして。」

と云ひながら、お内儀のおきよさんは、信田の奥様の膳の前へ盆を持つて坐つた。奥様は先刻からおきよさんの肩に垂した洗髪の美くしいのと、細面の眼の大きい、今日は殊更白く見える顔とに氣を取られて居たので、晝飯は喰べまいと云つて居た膳の前へ、殆ど無意識に坐つたのであつた。

「お内儀さん忙しいのでせう、私がお給仕いたしますよ。」

と奥様の連れてきた小間使の染が、輝ちやんの膳に付けてある鱚の骨を箸でほぐしながら云ふ。

「いゝえね、お鶴がねお腹が痛いとかで暫く休ませてくれと云ふものですから、こんな姿をしたまゝで。ほ、ほ、ほ。」

おきよさんは中形の筒袖の手の處を一寸見てから云つて笑つた。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「私、今日はお晝飯だけよさうと云つてたのですわ。」
「いけませんよ奥樣、お鶴がね、二番の奥樣はあまり御飯を召上らない、どうしたのでせうねつてね、心配してるのですよ。」
「さうですか、私は夏は何時もこんなのですわ。」
と云つて、毎年の夏より身體が惡いから養生にも來て居るのではないかと奥樣は自分でをかしがつた。
「今日旦那が見えるさうですね。」
御飯を盛つた茶碗を出しながらおきよさんが云つた
「今度は眞實でせう、電報なんか來たから、あのう、お座敷は開いて居るでせうか。」
「お染さんがさう仰つしやつたものですから三階の八番を取つて置きましたが、如何でせう。」
「あの裏の三階ですか。」
と奥樣は驚いたやうに云つたが、
「好いでせう、それでも。」
とまた云つた。この十日程前信田さんが來ると云つた時、隣の八疊を二日ばかり唯開けさせて置いたことを思ふと、今度はさう無理も云へまいと思つたのである
「一人だと此處にでも居られるのですがね。」
「お連がおあり遊ばすのですか。」
おきよさんがいぶかしさうに云ふ。
「安藤さんが入らつしやるのだつて。」
「まあさうですか。」
「あの方は早川が好ね、ねえ染。」
「はい。」
と云ひながら、染は下を向いてくす〳〵と笑つた。これは安藤さんに勸められて來たが、早川はそんなに好い處でないと云ふことを、この間から五六度も染は奥樣に聞かされたからである。
「安藤さんは面白い方ですね。」
とおきよさんが云ふ。
「面白い方ね。」
「早川が餘程お好なんですね、早川、早川つてよく仰つしやいましたね。」
輝ちやんの膝の御飯粒を拾ひながら染が云つた、奥

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

樣は二度目に貰つた御飯を詫しさうにながめて、

「お湯がいたゞきたかつたわ。」

と云つて居る。

「旦那が入らつしやるのに少しは元氣をお出し遊ばせよ、お湯を掛けませうか。」

土瓶を見せて云ふ。

「私、ものを喰べないでも元氣だけはあるの、午後は橋本先生と御一緒に、小田原まで迎ひに行つて見ようと思ふのです、ねえ輝ちやん、お父樣をお迎ひに行かうね。」

奧樣は傍へ來た輝ちやんの顏を見て云つた。

「お袖の着物着るの、母ちやん。」

輝ちやんは細い手を奧樣の肩へ掛けながらかう云つた。奧樣に似て髮の毛は少し赤いが、目の張の好い、白い牡丹の蕾のやうな顏をした子である。

「あとで染が着せてくれますよ。」

「はあい。」

だしぬけに輝ちやんが大きい聲をして云つた。彼方で宿の子がお孃樣と呼んだのである。

「お德ですよ、お孃樣、お孃樣つて大騷ぎなんですよ。」

と云つておきよさんは濃い眉を一寸寄せて見せた、お德と云ふのは朝日屋の主人の先妻の生んだ子で、おきよさんは今年二十四になるさうである。

「安藤さんは奧樣、早川ではお寢になりませんよ。」

おきよさんは思ひ出したやうに云つた。

「どうして。」

「小田原にお馴染が出來ましてね、奧樣。」

「さうですか。」

「あの方は奧樣がおありなさるのですか。」

「ありますよ。」

「まあさうですか、東京でもお遊びになるのですかねえ。」

「どうだか私は知らないけれど、奧樣は可成大切になさるやうよ。綺麗な人ねえ、安藤さんの奧樣はねえ、染。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「別嬪さんですよ。」

衆がおきよさんの顏を見て云つた。

「まあさうですか、去年は花菱の小鈴と云ふのに熱くなつて入らつしつたつけ、好かあないんですがねえ、奥さん。」

「あの方はそれでもえらい方よ。」

「へえ。」

おきよさんはかう云つたが、奥樣を見ると眞面目な顏をして居るので少しまごついた。

「安藤さんは畫かきさるんなんですか。」

「さうぢやないの、木版をお彫りなさるのだけれど、それが日本一の上手だつてね、私なんぞよく分らないけれど、どうしても日本一なんだつてね。」

話して居る人がどう云ふ理由で日本一か分らぬと云ふのであるから、聞いて居るおきよさんに安藤さんのえらい理由が分る筈がない。おきよさんは倉皇にして奥樣の膳を下げて行つた。

二

山際の朝日屋から、磯の一町ばかりに山影が落ちて波の白く砕けて居る邊りに、三時頃の日がてら〳〵と當つて居る。北隣の隱元豆を植ゑた畑から、涼しい風の上つてくる窓の傍で信田の奥樣は、今朝來た電報と昨日來た端書とをいつまでも見比べて居る。

「奥樣。」

と、表二階の下の網庫の前に立つて聲を掛けたのは、洋畫家の橋本先生であつた。

「はい。」

と云つて奥樣は緣側の欄干の處まで走つて行つた。

「そろ〳〵出掛けませうか。」

奥樣に一寸會釋してから云つた橋本先生は、太い洋杖で青い實の成つた蜜柑の木を叩いて居る。

「子供を捜してまゐります。」

と云つて奥樣は、座敷へ歸つて違棚の上の紙入を取つて、廊下を音のせぬやうに走つて行つた。橋本先生は泉水の傍へ來て、男の子供がおもちやのポンプで水を出して居るのを見て居る。靴を履かせて貰つた輝ちや

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

んが、玄關から馳け出して來て石の上ですとんと轉んだ。奥樣と染が笑ひながら走つて來る。

「おや、おや。」

と云つて先生も傍へ行つた、輝ちやんは染にごまかされて泣かずに抱かれて行く。先生は先刻から手に持つて居た麥藁帽を冠つて。

「井上君も一緒に行くつて云つてましたから僕が先に行つて呼んで來ませう。」

先生は早足に門を出て行つた。井上と云ふ文學士の居るのは二丁程先の龜屋と云ふ宿である。橋本先生は山の上のお寺に泊つて居るのであつたが、奥樣は二三日前迄少しも知らずに居た。先生が連れて來た女弟子が海の傍で畫をかいて居るのを、子供と一緒に覗いたりはして居たが、橋本先生の處に居る人とは知らなかつた、井上さんが信田の奥樣が朝日屋に居ると云つたと云つて先生の方から訪ねて來た、子煩惱の先生は輝ちやんを友達にしたいのであるが、輝ちやんは先生の髭を恐がつて居る。先生は顎の所にも能の面のやうな髯がある。かとめとやと一つづゝ書いた紅提灯の下で背の高い井上さんと少し低い先生が立つて待つて居た

「今日信田さんがお出でになるさうですね。」

お辭儀をして頭を上げた奥樣に井上さんはかう云つた。

「はあ、安藤さんと一緒に來るさうで御座いますよ。」

「安藤さんと云ふと。」

歩き出しながら井上さんが云ふ。

「私の方の雜誌の洋畫の木版を彫る方。」

「君は名人の安藤君を知りませんか。」

先生は下の髯を前へ撫でながら云ふ。

「あ、あの人ですか、田島君がよくさう云つてゐました變つた人ですつてね。」

「なか／＼變つて居るのですよ。」

「ははあ。」

「面白い方で御座いますよ、井上さんはお逢ひになつたことは御座いませんか。」

奥樣は伊豆通ひの鐵道の横の細い道に、昨夜降つた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

雨の水溜を除けながら歩いて云ふ。
「僕は伊勢平で芝居をやつた時に一寸見たのですが、一寸見たゞけでも變つて居ますねえ。」
「御覽になつたのですか、あの芝居を、橋本先生は。」
笑ひながら奥樣が後からから云つた。
「僕はよう見なかつたですよ。」
「僕は安藤と云ふ人が、何かの知らせに出てくる車夫か何かになつてね、白い脛を出して手を震はして居たことが目に殘つて居ますよ、びつくりしたのですよ、不意に蚊が飛び出したやうでね。」
奥樣もその時の安藤さんの姿を思ひ出して、默つて笑つて居た。
「車夫とは可哀相ですね、あれでなか〱美男子だから色男の役にでもなれたでせうがね。」
橋銭をとる番小屋の前で、先生は、
「一寸小田原まで出るのだよ。」
と大きい聲で云つた、橋守のお爺さんは皆にお辭儀をした。輝ちやんは嬉しがつて橋の上を歩いて行く、涼に涼しい風が顔を吹くが、川原はまだ日が當つて暑さうである。
「先生、小田原までは二十町の餘も御座いますねえ。」
奥樣は大分に勞れたらしい。
「さうもないでせう、ね、井上君。」
「いやあるでせうよ。」
「さうでせうかね、あの安藤君と云ふ人は實に足の弱い人でね、僕が何時か伊豆の天城へ登つた時、一緒に行きましたがね、七八人連があつたですが、皆畫家連中だから歩きなれたもんです、ずん〱と行くのでせう、安藤君が、ふう、ふうと云つて跟いてくるのが氣の毒でね、もういかん、もういかん、橋本さん、先生と死ぬやうな聲を出すのでせう、さうかと思ふとね、景色の好い所へ來ると嘘のやうな好い聲で都々逸を歌うんですよ。都々逸には皆が感心してましたよ、全く好い聲ですよ。」
と先生が云つた。長い間小田原病院の門を前に見て歩いた道を、やつと大通りへ出ると、病院の右隣の福橋

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云ふ茶屋の店に、薄色のセルの單衣を着た信田さんと、黑いアルパカの洋服を着た安藤さんとが腰を掛けて居た。

「やあ。」

先生と井上さんは同時に云つて、電車道を横切つて福橋の店へ飛び込んだ。少し遲れて來た奥樣は輝ちやんを抱いて、悋しさうに電車の一つ通るのを待つて立つて居る。箱根の方から來た電車が前で留つたと思ふと、その横から信田さんが出て來た。

「どうだ、輝ちやん。」

と云つて手を出した。奥樣と、染は旦那樣に叮嚀に頭を下げた。

「早う御座んしたのね。」

「今來たばかしだよ。」

「暑かつたでせう、貴夫。」

福橋の店から女が出て來て、電車に乘つて來た客に挨拶をして居る。

「お前の身體はどうだい。」

「變りませんわ、惡くはないけれど。」

「困つたね。」

と云つて輝ちやんを抱いた信田さんはじつと奥樣の顏を見た。

「貴夫はたび／＼嘘を仰つしやつたのね、來る來るつてね、染。」

奥樣は笑ひながら染を見返つた。

「忙しいからさ。」

電車はすうと出て行く。

「貴夫は湯に行く位の姿をしていらつしたのね。」

福橋の店へ入つて來て奥樣はかう云つた、卓子の周圍には、井上さんも先生と安藤さんに交つて大笑に笑つて居る。

「ね、信田さん、さう云つてるのですが、安藤君は洋服がよく似合ますね。」

と先生が云ふ、安藤さんは口を歪めて、

「戯談を。」

と云つて居る、奥樣も安藤さんの洋服姿を珍しさうに

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

眺めて居たのであるが、
「眞實によくお似合遊ばすことよ。」
と感心したやうに云つた。
「戯談を。」
「もうこれからは始終それにし給へ。」
と先生が云ふ。
「實際似合ますかね。」
安藤さんは上瞼を伸して、口を前へ突出してかう云つた。
「似合とも。」
信田さんが云ふ。
「弱つちやつたね。」
安藤さんは、手で口を押へて笑ひながら云ふ。
「何故弱るのさ。」
と先生が云ふ。
「高價くつきますからね、先生。」
「常住坐臥洋服にするとかい。」
信田さんが云ふ。
「常住坐臥が、弱つちやつたね。」
「君、然しネクタイの白無地は考へたね。」
「厭になつちまふ、一緒に來た信田さんが今になつてこんなことを云ふのだもの。」
「安藤君、安藤君、外し給へ、僕が畫をかいて上げやう。」
「さう願ひ給へ、さう願ひ給へ。」
と信田さんが云つた。奥樣に手傳つて貰つて安藤さんは、ネクタイを外して橋本先生に渡した。先生は店で硯を借りて、墨で彼方此方に鹿の子の疋田の目を十ばかり畫いて、それから一寸外へ出て赤土を拾つて來て水で溶いてまた茶色の疋田の目を四つばかり交せた、井上さんと奥樣は感心して見て居た。出來たと云つて先生が渡すと、安藤さんは、
「なるほどねえ。」
と首を二つ三つ振つて云つた。
「朝日屋のお內儀さんを見たよ、安藤君。」
「先生は卓子の上に肱を突いて、安藤さんの顔を見な

から云つた。
「別嬪でせう、先生。」
　安藤さんは椅子から腰を一寸上げてかう云つた。
「一寸見たばかしだよ、別に君のことを何とも云はなかつたよ。」
「これだから橋本さんには困つちまふ。」
「安藤君と特別の關係があるのですか。」
と信田さんが問ふ。
「どうですかね、よく安藤君があの女のことを云つてましたよ、もとは小田原の藝者とかでね、奥樣、好い女ですね。」
　橋本先生は奥樣の方を見て云ふ。
「はあ、よく安藤さんのお噂をしますよ。」
「弱つちまふ。」
　安藤さんは頭を撫でゝ居る。
「安藤さん、奥樣はお變り御座いませんか。」
「何時もぶら〳〵して居ます、弱いものですからね。」
「いけませんねえ。」
「なあに大したことは御座いません。」
「さあ出掛けやうぢやないか。」
と云つて信田さんは輝ちやんを膝から下して懸鞄を肩に載せて居た。

三

　翌朝奥樣は、輝ちやんの足元を危ない危ないと云ひながら、裏三階の座敷へ來た。信田さんはもう起きて煙草を喫みながら海を見て居た。白い鳥が澤山飛んで居る朝だ。安藤さんは小夜着を被いだまゝまだ寢て居る。
「お早う御座います。」
「お早う、お早う。今朝夜明に安藤君がまた喘息が起つて弱つたよ。」
　信田さんは輝ちやんを膝に載せて頬ずりをした。
「さうですか、もう好いのですか。」
「好いから寢て居るのだよ、お前は今日は顔色が好いね、昨日はびつくりしたよ。青かつたから。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「そんなことないでせう。」
奥様は手で一寸頬を撫でゝ見た。
「輝ちやん、海へ行かうか。」
「行くの、行くの。」
と輝ちやんは父さんの手を引張る。
「もう駄目ですよ、日が當つて熱くつて、お午後にしませう。」
「駄目よ父さん。」
輝ちやんは母さんの口眞似をする。
「景色はどう貴夫。」
「一寸好いやうだね。」
「私の座敷の方がもつと好いわ、此處は餘り高過ぎるからよくないわ。」
「彼方へ行つて見ようか。安藤君、安藤君。」
と云つたが安藤さんはよく寢て居た。二階と一つになつて居る三階の長い梯子を降りながら。
「あぶなう御座んすよ、危なう御座んすよ。」
と二十度ほども奥様は云つた。下へ降りると、
「あゝ、あゝ。」
がつかりしたやうに云ふ。
「安藤君ぢやないが、厭になつちまふね。」
「ほんとにね。」
人の居ない廊下を通りながら奥様は小聲で、
「私もう早く箱根へ行きたいことよ。」
と云ふ。
「もう二三日はまあ居るさ、橋本先生もお出でだし、井上君も居るし。」
昨夜お内儀さんが、旦那には氣が張るから宿代を一圓にして下さいつて云ひに來たわ。」
「さうかね。」
隣に居る支那人の女の子が來て奥様にお辭儀をして行く。一番先の奥様の室の前には中形の浴衣を着た染が赤い帶をして椅子に腰をかけて居る。
「染は美人ですね。」
「さうだね。」
「とき〳〵私が散歩に行つて休む店のお婆さんなぞ、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

お嬢様、お嬢様つて云ふのですよ。」

「十四かね。」

「あら十六ですわ、貴夫。」

染は足音がするので驚いて立上つた。

安藤さんがこの座敷へ出て來たのはお晝前である。宿の浴衣を着て居る色の白い安藤さんは五つ六つ若く見える。

「厭になつちまふ、女中の奴先生は海でせうつて云ふものだから、海の傍へ先生を搜しに行つたのですよ、厭になつちやつた、眞實にね。」

安藤さんは閾に腰を掛けて足を投げ出しながらかう云つた。

「君は今起きたの。」

「さうぢやありません、先生が見えないのだもの、僕は厭になつちやつて、それから橋本先生のお寺へ行つて來たのです。」

「大變なことをやつたのだね。」

「晩程また伺ひますが、先生と奥樣に宜しくつて橋本先生が仰つしやいました。」

と云つて安藤さんは身體を曲げて頭を下げた。

「先生の大きい齒を見たかい、君。」

「見ました。」

「海かね。」

「さうです、さうです、好い齒ですよ先生。」

「見たいねえ。」

「なるほど此處の方が景色が好いな、奥樣此處で見ると海へ入つて居る人が誰それつてすぐ分りますね。」

「さうね、大方見えますわ。」

ぶう、ぶう、ぶうと云ふ音がすると思ふと山の彼方から伊豆からの輕便車が出て來た。

「汽車、汽車。」

と云つて、輝ちやんは足をどん／＼云はして喜んで居た。晝飯の給仕にはおきよさんが來た。今日は櫛卷にして袖のある浴衣を着て居た。

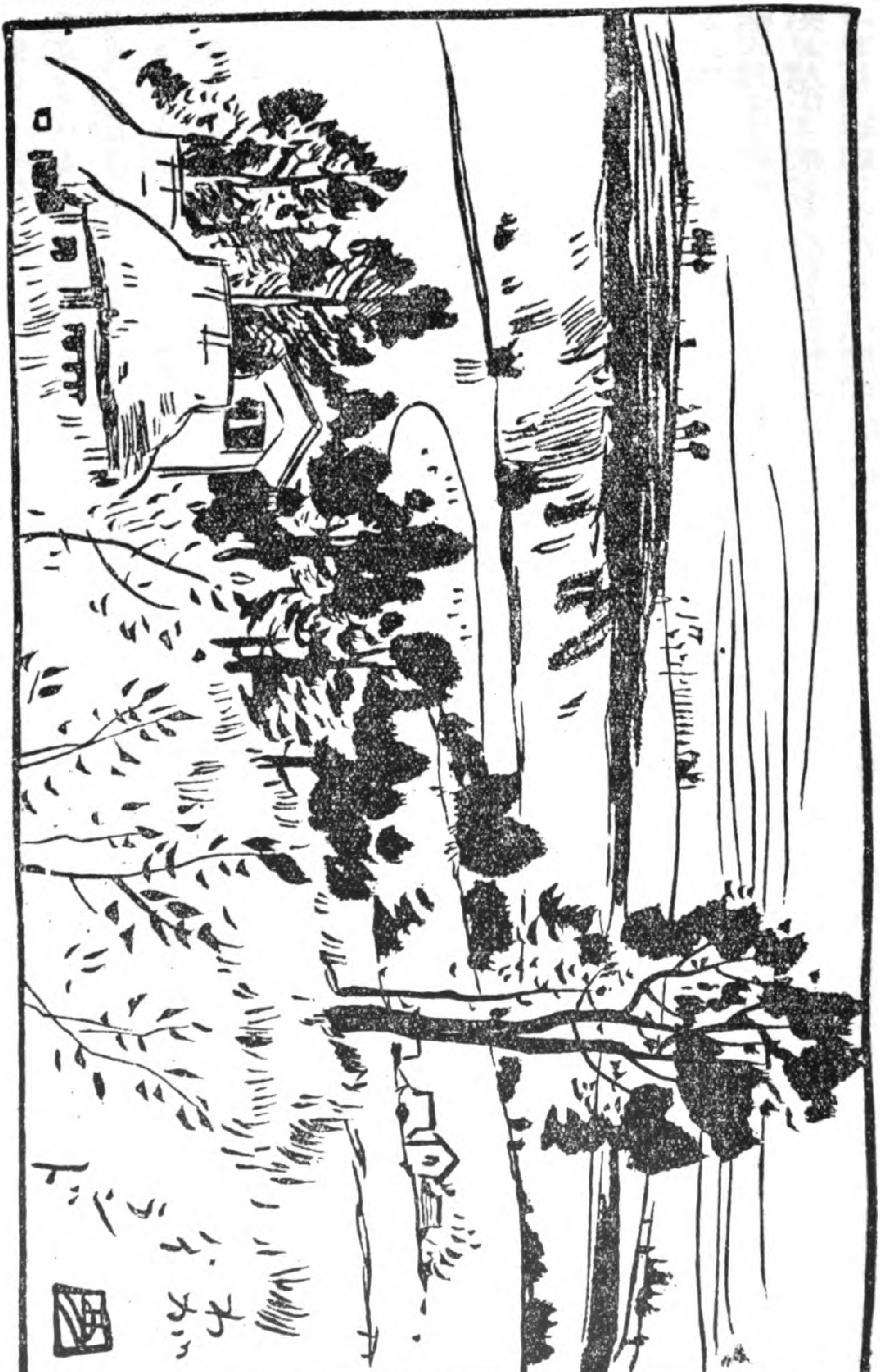
奥樣が汐湯に入りに行つた時、おきよさんは、

「奥樣、旦那を一人で小田原へやつちやあ可けません

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

よ。小田原はよくない所ですからね。」
と云つて居た。安藤さんは三階の學生と一緒になつて庭のブランコの傍できやつ、きやつと笑つて居た。
「もう大分影になつてきたから海へ行つて見ようぢやないか。」
信田さんは、窓の傍で横になつて居る奥樣に云つた
「私は昨日餘り歩いたものだから。」
弱さうに奥樣は信田さんの顏を見上げて云ふ。
「そんなことを云はないでさ、母さん。」
「輝をつれて行つて來て頂戴。」
「僕一人なら行かない。」
「それぢや行きませう。」
と云つて奥樣は起き上つた。
「安藤君、海へ行つて見よう。」
庭を覗いて信田さんが大きい聲で云つた。
「先生泳ぐのですか、弱つちまふ。」
安藤さんが笑ひながら二階を見て云ふ。
「どうでもいゝさ、まあ出て見よう。」
奥樣は輝ちやんと、染とを呼んで來た。輝ちやんはまた昨日の處で轉んだ。馬小屋の横の月見草の萎れた筧の水が零れて土のじめ〳〵とした道を通つて砂原へ出ると、大きい麥藁帽を冠つた女が四人海の方を向いて坐つて居る。
「お新ちやん。」
安藤さんが大きい聲を出したので、信田さんも奥樣も驚いた、四つの帽子は此方を向く。
「泳ぐの、お新ちやん。」
先に駈け出して行つた安藤さんがかう云つて居る。
奥樣は一寸皆に頭を下げた、信田さんも眞似をした、一番右の端に居た生際の好い齒の白い女は、橋本先生のモデルのお新ちやんである。外の三人は先生の弟子の少女達である。美くしくは無くても若い人達は花のやうである。
「先生は。」
安藤さんが云つた。
「彼處に入らつしやるわ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見ると半町程も南の岩の上で先生は此方向いて笑つて立つて居る。その横に二十二三の白衣を着た坊樣が居る。後には井上さんも居た。双方から點頭き合つて歩き寄る。花のやうな少女達も付いて來た。

先生は輝ちやんにトンチルを拵へてやると云つて砂の上で土龍のやうに身體をごろ〳〵させて居る。信田さんは安藤さんを勸めて海へ入つた。少女達も入らうと思つて居た處だと云つて入る。坊樣も井上さんも泳ぐ仲間になつた。奥樣はお納戸色の傘をさしたまゝで身動きもしないでじつと立つて居る。染は入りたさうな顏をして居た、女の中ではお新ちやんが一番よく泳ぐ。安藤さんは波の中からとき〴〵顏を出しては、きやつ、きやつと笑つて居る。

「駄目、駄目。」

と云つて信田さんが一番先に上つて來た。それから坊樣が上つて來た、追々と皆が上つてくる。坊樣もよく笑ふ人だ。井上さんもよく笑ふ。

「さあ、お新ちやんと、一度泳がう。」

と安藤さんが云つて居る。女達は手早く浴衣を着てしまつた。

信田さんは奥樣を呼んだ。

「おい、おい。」

「何です。」

「歸つても好いよ、輝を連れて先へお歸り。」

「はい、歸ります。」

と云つて奥樣はくるりと此方向いた。

「輝ちやん長く先生に遊んで頂きましたね。」

「大分馴れましたね。」

可愛くてたまらないやうに云つて先生は輝ちやんの頭を撫でた。

「後程伺ひます。」

と云ふ先生の聲をきゝながら、奥樣は染を連れて朝日屋へ歸つて來た。座敷からは五人の男と四人の女の居る處がよく見える。皆が面白さうに飛び歩いて居る。自分一人居なくなつたのにも少しも氣が付かないで居るやうだと思ふと奥樣は少し妬しいやうな氣になつた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そして自分はもう二十六である。彼處に居る女達はよれもまだ二十になるやならずの年をして居ると思ふと云ひやうもない程のさびしさを感じるのであつた。奥樣は横になつた。染が來て、白湯が立つたので旦那樣に入つてくれと云ふからお迎ひに行つてくると云ふ。

「無理に歸つて下さいつて云はないでね。」

「はい。」

輝ちやんを負ぶつて染は行つたが、

「奥樣に先へお入り遊ばせつて仰つしやいました。」

と云ふことであつた。

「私は入らないから外のお客樣に云つて下さいつて云つてお出で。」

奥樣は彼方向いて目を閉いでしまつた。

五時頃に信田さんだけが歸つて來た。

「どうしたの、どうしたの。」

と云つて奥樣の横になつて居る傍へ來た。

「頭痛がするのです。」

奥樣は彼方向いたまゝで云ふ。

「醫師を呼んでこようか、え。」

「いゝんですよ。」

「氷で頭を冷してはどうだい。」

「いゝんですよ。」

輝ちやんが縁側を走つて歩くのを見て信田さんは、

「いけないよ、いけないよ、母さんが惡いのだから。」

と云つた。

「そんなに大層に云はないで頂戴よ、先刻だつて私が寢てたのを貴君が連れだした位ぢやありませんか。」

此方向いた奥樣の顏にはもう餘り曇りがない。

「そんなら好いがね。」

と信田さんが云つた。其處へ安藤さんが歸つてくる。

灯をともす頃からは橋本先生も井上さんも見えて賑かになつた。奥樣も皆に交つて笑つて居たが、九時頃に安藤さんの妻が見えなくなつた。客が歸つた後で女中にきくと小田原へ買物に行つたと云ふのである。

「其邊まで迎ひに行つて見ようぢやないか。」

と信田さんが奥樣に云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「貴夫に嫌はれるのは險呑だわ。」

「何故。」

「うつちやられるから。」

「ふ、ふ。」

と信田さんは笑つて居た。外へ出ると闇の夜であるから波の音がおそろしく聞える。通りはどの家もどの家も簾の中　盆燈籠が吊してあるのが淋しい。信田さんは一夏二人で腰越に居た時のことを思ひ出した。奥様は此處へ來てからは毎日そのことを思ひ出して居るのである。螢が流星のやうに二人の前を横ぎつた。

「海の傍も好いね。」

「さうね。」

「昔のやうな氣がするぢやないか。」

「はあ。」

海の傍に小さい灯を一つつけて角力をとつて居るのが見える。

「安藤君はあれを見て居るのぢやないか。」

と云つて二人は角力場を一廻りした。見物人の大方は裸體の男と肩を出した女とであつた。

「居ないねえ。」

段々道は家がなくなつて海に近くなつてくる。螢が澤山飛んで居る。

「もう歸りませう、貴君。」

「歸らう。」

二人は早川の橋の見える處まで來て、また元來た方へ踵を返した。

「安藤さんはね、小田原に馴染の藝者があるのですつて。」

「まさか。」

「眞實ですつて。」

と云つてそれから奥様はおきよさんに聞いたことを話した。歸りにはもう龜屋の提灯も消えて居た。盆燈籠を吊つた家も大方は戸を閉めてあつた。朝日屋の門は夜通し閉めない。

「お前の處へ送つて行つて上げやう。」

「さうですか、熱が待つて居るでせう。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と云つて二人は表二階の方へ行く通口から上らうとした。その左手は一棟離れた中二階で主人夫婦の住んで居る處である。主人の聲で。

『八番へ行つちまへ、三階へ行つちまへ、己の所なんかへ來ないでも好いんだ、畜生女。』

と云つたとか思ふと、ぱた／＼と人の叩かれて居る音がする。信田さんの夫婦は思はず顔を見合した。

『表の奥樣に聞えたつて好いぢやないか、何も奥樣の旦那の惡口を云つてるのぢやないんだ、あの野郎のことを云つて居るのだい。』

二人は足音を忍ばせて表二階の方へ歩き出した。

『安藤は色男だねと。』信田さんは小聲で奥樣に云つた。

『さうね。』

と云つたが奥樣はこの時、伊勢平の芝居で、白い脛と手を震はして居た安藤さんの姿を思ひ出して闇の中でそつと笑つた。



Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



囚はれたる代議士の留守宅へ

月待女

一夜美人を新柳の畔に憶ひ、夢ばかりなる手枕に、灰屋、紀文が跡を眞似て、未だ堂に入らざる豪遊を試むといへど、覺めては口惜しき曉の鐘、むなしく阿嬌が一瞥を報らるゝが、責めてもの名殘り。思へば果敢なし。眞に浮世の嵯峨にてや候はむ。

かくなる果てを知りつゝも、人はなほ、歡樂の味に醉ひて忘るゝ折もなきものと見え候。さしも昨日迄は世にときめきて、日比谷の原の御前樣と仰がれ、さては帳簿墨塗りの名人におはせし御主人樣がたも、端なき蟻の穴より事は破れ、今や千丈の堤に株うたんとするものもなき有樣と相成候。敏腕を撫して獄窓に呻吟したまふ御當人は言はずもがな、宏壯なる邸宅と無限の財力を持て餘してあとに殘されたまひし奥樣がたの御心情、察すればお悼はしさの限りに候。定めて外出も晴れてはなしたまはざる可く。烏羽玉の闇にもなほ母衣かけてお出かけあそばすならむ。否世間は承知しても御自らは良心の呵責に堪へがたく努めて人目を避けたまふなる可し。罪は誰れにあるかしらねど、「責任」は御良人にのみといはれまじければ、よしや御自らは縲絏の悲みを見給はぬ迄も、最愛の人の袖口の多き行ひを知らぬような、不貞のおかたにてはよもおはすまじ。と思ひ、かくおもへば、さなきだに小さき心翼々たるが女の習ひと聞く身には、お幼さきかたもおはす可きに、家の子あまた召し使はせらる事なる可きに、御良人への差入物にも苦心したまふ御事ならんに、あれやこれやの御辛勞、推しまつりて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ひとしほ御同情申上候。
さり乍り、かくなる迄に良人をして至らしめたる其の責めは、少なくとも夫人たる人達にもあること丶存候。如何となれば
抑も男子が營々として事を積み國家に致す、もとより遠大の理想あるが故に候得共、飜つて觀ずれば人間此の現實を離れて何物もなく候。すでに現實ある以上は宇宙根本の定義は泰然として横たはり居候。こ丶に家庭は成立し、國家は成立せらる可きに候。而して家庭は愛の塊りに候。「妻ありわれを二なきものと信じ依頼す、子ありわれを天地と愛す」と觀じなば此の相對のものに對つてすべてを處理しゆくものなることは勿論、此の相對のものより受くる笑顔を以て無上の快樂と感ずるに相違なく候。さればこそ細君が「花見小袖をねえ貴郎！」とねだれば、またかとは思ひつ丶も「ウムよし〳〵」と度量を見せたまふなれ、「父樣、僕に海軍服！」と可愛ゆき坊やにねだらるれば、これもまたウムよし〳〵と髯をひねらねばならず、それも二度や三度の事ならば知らず、事ある毎に「ねえ貴郎」を連發し、良人またウムよし〳〵の續けざまにては寶の山も何時か空しのたとへ、三度に一度は不義理なる金の工面もいで來る道理に候。まさか細君や子供の要求位に困る財產にはおはさずとも、交際もあり云はれぬ處の費用も多きお家にあつてはそれ等が積り積つて終に二進も三進も行かなくなり從つて何ぞうまい仕事がなと思ふ矢先、雀燒の味な物でも見せらるれば、忽まちのどをならしそれにかぶりつきこ丶に別口の袖が增えるわけになるのに候。のみならず人間の慾は限りなきものに候。最初望みたる點よりも、より大に、より伸びんことを望みて止まざるものに候。その慾やよし、慾なければ人は發展向上するものにあらざれば。されど此の慾をして制裁なく滿足せしめんとすれば、こ丶に恐る可き結果を生ずるものに候。しかし乍ら到底慾の滿足する期はなきものに候。かの一代の奢侈を盡したりといふ關白道長も、抱負せる彼れが全目的の僅かに一端の滿足を得たる斗りにてその單位の滿足に衒惑せ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

られ、わが世をば望月の缺けたることもなしと觀じたるにて候。されば御主人樣方もよき程にて口のはたを拭ひたまはゞ今日のうき目や見給はざりしならんと、むしろ今更口惜しう存じ參らせ候。

然し乍ら此度の擧にいでたるは男子に候、男子のうちにも國家諸般の事を議決する議員に候。議員といへば、先は上流の社會と看做す可きに候。其紳士たる男子が敢て斯る行爲をほしいまゝにするに至つては、男子の下落も其頂點に達したりと申す可きか。………さはれ何も御良人樣方許りがお惡きにあらざれば、其邊いさゝかお心强うおぼしめされてよろしからんと存じ候。

とはいへかゝる男子を父にもち、夫に持つ家族の制裁力なきにもあきれざるを得ず候。夫人もし凛烈犯す可からざる清香の氣質あらば、いかな圖々しきものといへども、少しは自省する處ある可く候。もとより夫に對して賢しら立ちたる諫言立ては、あまり、見よくも聞きよくもなく、從つてその功能もうすきものなれば、餘程の横ならずば滅多になす可きことにあらざれど、あらかじめ平生に處して、自ら廉恥心を起さしむる丈けの家風なくんばあらずと存候。さるを大概は反對とまでは行かずとも、少なくとも良人が行爲の補助者たるに至つては、大に悲しまざるを得ず候。

或る袖下使を業とするものゝ言に、「親指は到底動きやしません、しかしわが黨の僅かに賴母しいとする處は細君の……」云々とありしを耳に致し候時は眞に情けなく相成候。もとよりそんな道具に使はるゝ程の夫人はおほかた素性、敎育のほども知らるゝ事に候得ど家宅搜索にてもありたらん時良人の知らざる水引熨斗が續々夫人の簞笥よりあらはるゝことあらば、良人いかに政略家たりと雖も證據は充分、とても申開きは立つまじく候。かゝる細君を持ちたまふが故に、つい頭冠が横にふられざりし議員あらば、これまたお氣の毒の至りと存候。世人はあらはれたる曲事を以てのみ其人を判斷致し候得ど、右のごとき例は間接なる罪人と存候。しからば果して女子は養ひ難きものかさりとて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は養ひ御するあたはざる男子、また小人たるのそしりは免がれざる可き事に候。

こゝに於て詮ずる處、家庭の空氣をまづ消むるにあらずんば、萬般の教育は不可能と存候。

かくも荒れすさみたる家庭に只一本、末咲く花の蕾ある撫子、この第二の國民には少なからぬ希望のかゝやきをみとむるにて候。さりながら、此花果してうるはしき色に出でんか、心なき野の駒の蹄にふみにじらるゝことなきかをひそかに危ぶむものに候。袖下黨の道具になるような母樣に育てられたるお子樣は、またぞろ第二の父上を眞似びたまはずや、はかりがたし。學校は重に智育體育の師、その最も大切なる德育の師たる家庭の、しかも朝夕に善惡とまれ、感化をうくる母親にして斯くの如くんば、此の兒果して第二維新の天晴れなる國民となるを得るや、今より寒心に堪へがたく候。

翻がへつて家庭が唯一の頼みと信ずる學校は如何。昔日の眞率、親切なる教員の面影は日一日とうすらぎゆきて、徒らに形式の美をあらそひ、參觀人のある時のみ、體よき胡麻化しを用ゐて、正直なめで度き文相の眼を喜こばし居る彼れ等の手、頭腦は、國民教育人物養成の確信など露程もなく、其の場限りの時ふせぎに、昔し學びし學課の不忠實を悔ゆる位に候。

寸鐵の如き志士、花崗石の如き道學者先生の門より出でたる今の議員連すら、栴檀の幹をはなれて、あまき砂糖の蟲に撫でらるゝかくの如き世に候。まして主義なく、確信なき輕薄極まれる教育家の手に愛兒を委ぬる、滿更杞憂のみにてもあるまじくと存候。

さり乍ら第二の國民教育をなすものは、目下の國民自身がなす可き務めに候へば急速の改善はなし得られざる迄も、確固たる自覺のもとに、幾分なりとも改善の實を、家庭にも、學校にも擧げてゆき度きものに候はずや。一旦陥りし人をすくはんは容易の業ならず。乃ち今後陥る人なきを祈らざる可からざることゝ存じ候。

以上縷々若きものゝとるにも足らぬ贅言を呈し候得

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ど、要は紊亂せる國民の敎育が、改善せられんことを希望する矢先き、今回の事件破綻より、はからずも國民が覺醒の一大刺戟をうけたるを喜びて、お留守宅お見舞旁右のみあら〳〵申述べ候。最後に、御子さま學校にて衆目に射られたまふ事などおはさずや、罪もなきお子がたの小さき胸に忌はしき印象など與ふるようの事ありてはそれこそ一大事と存候得ば、餘計な事乍らおうかゞひ申候。かしこ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

鹿兒島の風俗

とし子



△風景と偉人

王政維新に際して功勞顯著なる薩州、西郷南洲翁を初めとして古今朝野に名士の少なからぬ鹿兒島、外人に迄謳はるゝに至つたのは蓋し日露の役の名將が多く此地の產である故であらうと思ひます。

大根に名高い櫻島を前に控へ、東西に長い鹿兒島市後は所謂城山を脊負ひ東方遙かに霧島の噴火山を眺め西南遠く開聞嶽を望みつゝ波靜かなる錦江灣に面したる景色はとても想像の及ぶ所ではありません。

山高く水清き此鹿兒島から古來の偉人を出すのは決して不思議ではありますまい。

△鹿兒島人の氣質

山水の美と偉人に富んだ鹿兒島、何か他府縣と異なつた點がなくてはなりますまい。先づ其一として鹿兒島人の氣質中最も著しいもの二三を擧げて見ませう。

先づ階級的制度を尊ぶ念の强いとが著しい氣風です其原因は風土、氣候、人情等種々とありませうが殊に地勢の關係が最も大なる原因であらうと思ひます。國が南陬に僻在して交通の不便なといふとは此氣風をして甚しく盛んならしめました。其結果後輩は先輩を推し、先輩は後輩を引いて互に事をなすといふ美風も生じましたでせうが同時に又官尊民卑排外心等の餘弊も生じたとと思ひます。近年交通の頻繁なるにつれ排外心等も次第に薄らぎつゝありますが、それでもまだ中々で御ざいます。商賣人なども他縣人と見れば品物を非常に高く賣り付ける、そしてよそもん（他所者）といつて相手にしないといふ風がよく見えます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

次は所謂武士的觀念の強いことで流石に薩摩隼人と謳はれて居る土地だけに武士道を尊ぶことは非常で御ざいます。從つて廉恥心に富み禮儀を無暗に重ずる例へば錢湯の中で裸體のまゝ夏冬の挨拶を忘れぬといふ位です。

此處には舍といふものが十二ありまして學校以外に子弟を敎育します。山陽の咏じたる「衣　至　肝」の面影を遺憾なく表はして居ます。

第三は巧言令色をよろこばぬ風です。禮儀は叮嚀ですがお世辭をいつて人にこぶるなどは非常に嫌ひます當地の商店の振はないのも一つは其の爲めだと思ひます。一つ品物を出して來ればあとは面倒だ、それでよければ買つて行けといはぬ斗りの店員の挨拶これはあまり感心はできません。其癖隨分不德なる商人もあると申します。物質的文明は黃金崇拜を來たし、商工人の跋扈となり、武士の衰微となり、遂々昔の武士氣質を失ふに至るは、何處でも同じ事ですが、唯鹿兒島では此變化が稍激甚なのみであります。

ですが要するに武士的敎育は尙確かに行はれて居ます、稍昔に遡つて、如何に此敎育法が行はれて居るかを證する爲めに、一武士が旅行先より其の子息にあてた書簡の一節を拔いてみませう。

一、太四郎事（子息の名）朝は早く起き、手習に精出し殊に兵法稽古無二油斷一可二相心掛一候學問武藝は武士の家職にて候間命を捨てゝも修業無之ては誠の武士とは難申却て町人百姓にも劣れる儀に候。

二、次に毎朝鐵砲脇差木刀、並に具足等を能々掃除致し、一點の塵もなき樣始末可有之候斯樣の道具に塵ほこりをかけけがし候は其方の心の穢れたるより起る儀に候間武士第一の恥辱と可申候。

三、又早朝より髮結ひ櫛けづり齒白くみがき着物正しく帶しかと結び、脇差、眞横に差こみ今事あらば人先にと心掛最に候。

四、學問、武藝、其他稽古の場所に出で候時は人より先に出て歸る時は人より後に歸るやう可二相心掛一候、外出する時は衣服樣式等見苦敷無之樣覺悟肝要に候。（下略）

△日常生活

前にも申やうに禮儀を重んじ武士的敎育が尙行はれて、居るにもかゝはらず、婦人は多く細帶のまゝ往來

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

をしてゐます、かういふ風ですから、女學生なども隨分歩いて居り又市の上流夫人なども澤山見受けますけれども其恰好等は殆どなつて居ないと申したう御ざいます。然しこれが薩摩獨特の朴訥だと申せば致し方もありません。又其故に一般の風俗が華美とか惰弱とかいふ點は少しもありません。

　氣風の荒い故でせうが、日常の食物など粗食といふではありませんがお料理に手數を掛けて美味いものを食べるよりも手早く出來る粗雜なる物に滿足して成可く仕事を多く爲やうとかまへて居ります、けれど又御飯だけは三度〳〵溫いたきたてにお味噌のお汁も三度三度なければすまぬといふ習慣です。

△言　語

　これは何處へ行つてものとですが殊に鹿兒島へ參りまして、第一に氣付くと同時に第一に困るのは言葉違ひです。此國は昔大藩であつた爲め他藩より入り込む間諜など色々澤山有つたさうです、でそれ等を防ぐ爲めに故意にわかり難き言葉を拵へてつかはしたと申す說もありますが其故か言葉を短かく〳〵して殆どお話になりません。

　大根をデコン、お歸り足をオケヲン、御ざいましたをガンシタといふやうに而もその言ひ方が早口ですからとてもわかりつこはありません。名詞のちがひも澤山ありまして、

　ご飯の杓子をオモドシ　お汁の事をオナオシ、鍋をオコロモンといふ類ですから店に行つて何々といふよりはアレコレと指で示した方が便利です。只今新聞で募集してゐる薩摩狂句はよく當地の言葉をあらはしたものと思ひますから一二あげて見ます。

　時鳥擬合かけたかと啼て通る。
んだもそたつた一聲ほとゝぎす。
御大儀樣何處から來な内お入し。
臭かお孫んこひの御化身か時鳥。
お太儀樣どんから今少氣張やい。

△鹿兒島の女中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

當市に使はれて居る何百の女中は大がい加世田と申す處から團體を組んで出て參ります、主人に對する情よりも友達同士の仲を大切にするといふ所から色々の惡弊も出て來た加世田女といへば何となくいやな感じが致しますが、働くといふ點からいへば實に天下一品と申しても過言ではありますまい。早朝から夜をそく迄足をすりこぎにしてよく立ち働きます。力の强い事は普通の男のとても及ばぬ位です。其代り座敷の掃除客の取次ぎ針仕事などは又到底望むべからざるとですこれ等の女中が一つ家に三年も辛棒してさて緣付き下りとなると主家は其の嫁入一切の支度をしてやるといふ義務があります。そして其女中は其の主人の家で髮も丸髷にして晴々と着飾つて田舍に歸ります、肝心の夫の家に行く時はもう結び髮の儘で參ると申します。こちらでは女中と申すとを、エダと呼びます「トコドンノエダ」といへば「東郷さんの女中」と申とです。

△建築と物價

當地の家は四角形を十文字に爲切つた四間と臺所とで玄關といふものがありません、これが鹿兒島お定まりの構造で作り方も極粗末に疊も主に琉球表を用ゐます。當地は家の周圍錢湯橋等すべて石造りであります木材を用ゐたよりも立派な此石構が前後にてらして不似合のやうですけれども聞けば木よりも石の廉價な土地ださうでございます。

當地の物價は豫て非常に安いと聞いて居ましたが只今では全國を通じて普通以上かと思はれます。此は兵營が出來たのと鐵道員が入り込むだ爲だと土地の人はこぼしてゐます、家賃の高いのは確に其爲だと申します疊敷十五六枚に臺所付で六七圓出さねばなりませんそれでも中々手に入らぬ位人の割に家の少ないといふ有樣です。

△特殊の風俗

他府縣には見ぬ當地特殊の風俗二三を擧げて見ませう。五月號の本誌に勝田樣の御話にも有ります通り隨

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

分風發りの風習があるやうです、あの八月十五夜の綱引は今もなか〳〵振つたものでございます。

『エンッナ、エンッナ十五夜コンナヂャ(今夜だ)十五夜　オ月ハ早ヨ出ヤレ子供モ喜ブ綱ヲ引クエンサエンサ』

と歌ひながら大人も子供も一生懸命です。

それから五月二十八日には曾我兄弟の昔を偲ぶ爲めに家々の古き傘を貰ひ集てその傘をやきつゝ兄弟手を取り合つて其上を跨いで兄弟の情をあつくするといふこともあります。又十二月十四日は忠臣義士打ち入りの日とて例の舎に集つて其夜は徹夜義士銘々傳を讀みあかす習慣もあります。九月十四日にはメイジサー參りといつてこれも舎の子供が皆甲冑に身をかため又は陣羽織など着て、四里にも餘る伊集院の明神に終夜參詣して翌朝歸ります、七八歳より二十歳位迄の人々が右のいかめしき扮装をして法螺の貝を鳴らしつゝ十二舎揃つてねり行くなどは隨分珍らしく亦愛らしきものです。斯る例を擧げるならまだ〳〵澤山有りませうが要するに皆武士的敎育に外ならぬのであります。

△氣候と病氣

此土地は南陬に僻し、海岸に面して居るだけにまとに氣候の適順な所で至つてしのぎ易き所でありますが又其好氣候といふ爲めに厭はしき病者の轉地する者多く肺病、癩病、腦病などは土地の名物と申してもよい位で。今一つ象皮病といふ一種の風土病もあります。

△名産

終りに一寸産物の御紹介を致しませう。

薩摩飛白、大島紬、薩摩燒、煙草、松魚節、燒酎、金、銀、錫、薩摩芋、カルカン等及び櫻島大根は、直徑二尺餘蓋し天下に冠たりと申しても差支はありませまい。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



稲荷のなき伏見町

むらさめ

伏見と申せばすぐ稲荷を連想し、いなりといへば、あゝ、伏見のと誰でも申ます、かの名高い俗にいふ伏見の稲荷は、此伏見の町には何の關係もないので御座います。

稲荷様は京都市と伏見町との丁度中程、伏見街道にそへる稲荷山に鎮座ましします、誠に見事なる官幣大社で、四時に参詣の人たえず、殊に午の日などは汽車電車の便をかりて遠方より澤山おまゐりを致します、東海道線稲荷驛に下車しますれば、そこにはすぐに大きなる鳥居が御座いまして、なめらかな坂を一丁餘上ればよいので御座います、伏見町はそれより更に南京都市を去る二里半の所に初まりまして、東西は短かくて僅か十四五丁、南北は一里餘に渡る細長い町で、昔諸大名が淀川に舟をのりすてゝこゝを通り、京都へ入りましたと申す丈に町は大抵南北に長く通つて御座います、一時は中々賑はしかつたさうですが、維新の兵火になかば町を焼き拂はれ、且は世の文明と共に汽車の開通となり、三十石船も用がなくなりましたので、大阪京都間も伏見を通らなくなりまして、丁度東海道の五十三次のように次第に衰微したのださうです。

△地勢と氣候

東は一面に桃山を望み、西は高瀬川をへだてゝ鳥羽につゞき、更に其西には加茂川桂川が流れて居ります、南の方宇治川を渡りますれば、かの有名なる小椋（オグラ）の池、又は淀にゆかれます、北は伏見竹田の二街道によりて京都市につゞき少し西には鳥羽街道が御座います、氣候は全國の中あまり暑くなく、寒くなく

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

まづ中庸で御座いませう、併し池のある爲か多くは非常に霧が深う御座います、家屋は二階建は少ないやうで多くは京都式のやはりくらい平家で御座います。

△言語、人情、風俗

言語も大抵京都と變りませず、ドス、オス、ヤス、を澤山に申ます、さうして土地の人は小さな子供迄決して南にゆく、北にゆくとは申ませぬ、南にゆくことは下る、北にゆくことは上ると申ます、坂もないのに上る下ると申しますこと、他國の者は最初一寸分りかねますが、之は畢竟北即ち京都には、以前まで皇居にやんごとなき方々の御すまゐあらせられましたから、自然畏れ多いといふ所から出た詞だらうと考へます、例へば一寸道を尋ねましても

「あんたはんなあ、こゝをまつすぐにおのぼりやしてなあ、左へ一すおまがりやすと、四つかどがおますなあ、そこをまた二三軒しもへお下りやしたとこどす」(あなた樣こゝを北へまつすぐゆきて西へまがり其十字路を一寸南に入りし處と申す意味です)

實に氣の永い申樣で御座いますから、氣短かの江戸子などは尋ねて居る間に二三間も歩んで居るといふ有樣です、又物を買ひにまゐりまして其品のなき場合、例へば東京にておあいにくさまと申す處を、當地にては「ゐらいどん(鈍)なことでござり升」と申します。

人情は極めて親切かつ質朴にして物事の綿密なる、一寸の時、一寸の切、一尺の絲も無益にしませぬ、子供でも大人でも皆それ相當の手仕事を致してよく働らき、よく儉約致します、まづ中流以下の家では魚は一日か十五日か、「其他祭とかでなければ扱はぬと申す如きは少しも珍らしく御座いませぬ、尤も海といふものを知らぬ人々ですから、新らしい生きた海の魚など見たことは御座いませぬ、鹽物や干物でもやはり生魚と同じく魚は魚として扱かひます、其代り新鮮なる野菜は實に美味で、かつ安價で得られます、どこでも一得一失はのがれられないと存じます。

手仕事と申せば竹をわりてすだれをあみ、又うちわの骨を作るとか、細かい綿密なる仕事を毎日あきもせず、せつせと働いて一日十五日は必らず休み、其他節

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

何祭など奮式で休みますが、公の祭日には休みませぬ。

今一つの美風は開港場や都會などの如く、婬風のなき事で、之は慥かに此地のほこりで御座いませう、或る土地の如きは男兒よりも女兒を生めば他日藝娼妓に賣りて安樂が出來ると喜ぶといふような事を耳に致しましたが、當地の人は如何程貧困にせまりましても、かゝる事は夢にだも想像しませぬ、多數の中には心得ちがひの親もありまして、萬一娘を賣る如き行爲を致しますれば、世間の人は皆つまはじきして、以前の如く交際はせぬといふ風です。

小學校を卒業すれば必らず見習にとて奉公に出す、娘もまたそれを樂しんで居ます、東京などでは奉公するを誠に不名譽と心得、實際奉公して居り乍ら途中で友人にでもあひますれば、一寸親戚に手傳ひにゆきて居るなど申ますが、當地の娘は小學を出て裁縫一通り覺えたならば、奉公するを尤も普通なること、むしろ名譽と心得、よく途中友人に逢ひましても決してかくしませぬ、あの人は奉公にゆきてもよう辛抱せぬといはれるのが不名譽なのでせう、又嫁を貰ふにも一旦奉公せぬものは行儀も惡敷、氣もつかずと、賣れ口が惡いと申す風です、娘の精神が既に不名譽ならぬ境遇見習の奉公と思ひ、親もまた一種の修業と心得出しますから、成べく物堅き嚴格なる主人を好みます、そして正直によく働らきます故、最初は何も知らぬ者でも、次第に敎へこみますれば、今の世には珍らしいよき下婢が得られます、其代り二三年より永くは使へませぬ、それ故主人の方でも二三年の後には良緣を求めて他家へ嫁ぐ、大切の娘であるから他日一家の主婦となりし節、困らぬやうに致しやらねばならずと、何事も敎へ甲斐が御座いますから、二三年忠實に主家に働らき、片附く時に主家より絹の着物や、丸帶を惠まれるを此上もなき名譽と心得、給金のことなど決して兎や角申ませぬ、緣付いた後にも長く主家に出入して居ります、併し之は伏見や京都で下女を雇ふといふ時にのみ出來うる事で、そのやうなよき下女があるならば

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

と、他國に居つて如何程望んでもそれはだめで御座います、何となればかく奉公をすべき者の父母は、伏見鳥羽或は京都以外地理と申すものを知りませぬ、中流以上の人はさうでも御座いませぬが、中流以下の子供をかゝへ居る婦人に、海とはどんなものかと尋ねましても、半數は知らぬと申ます、それも其筈どちらむきましても十數里出なければ海がないのですもの、最愛の娘を他國に手ばなす如きは思ひもよりませぬでせう、且つ追々女子の職業もふえてまゐり、近頃は此よき下婢もよほど少なくなりました、下女について今一つ變つた事はやぶいりです、小僧のやぶいりは盆と正月の十六日と定まつて居ますが、女中のやぶいりはいつと日は定まりませぬが、一年に二回、一週間づゝ公然歸る權利はあるので御座います。

△名所と古蹟

當地にはあまり名所はないようで御座います、それ故陽春四月頃諸國より京見物とて上京し、本願寺まゐりの道者連數限りもなく入り込みますが、其内の八分九分殆ど十分迄、伏見に來る人は御座いませぬ、稲荷にまゐりますには東海道線或は電車でゆきますし、奈良へゆく人は汽車で通りますが、少しも下車はしませぬ、されば春だからとて別段にぎはふことも御座いませぬ。

併し花々しき名所はないとは申せ、歴史家には中々價値のある土地で御座います、まづ桃山には太閤樣が御殿をたてられた跡も殘つて居ますし、それが殆ど茶畑や大根畑と變りまして、見る人はそゞろ今昔の感にたえぬでせう、桃や梅も御座いますが其桃とても花の盛りを眺めるのではなく、皆小さきつぼみの時に折りとりて室に入れ、高價に賣りますさうです、四月頃汽車の窓から見ますれば、枝のない株に手まりの如く花のさいて居ますのは、一寸他に見られない圖です、どこの迄もぬけめのないのには感心します。

御香宮神社には神功皇后樣を祭りせまきながら公園も御座います、宇治川にかゝりました觀月橋のほとり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏などは殊に景色がよう御座います、其他伏見鳥羽の合戰に燒かれたといふ町や其跡など訊ねますれば、そぞろ明治の初を偲ばるゝでせう此度師團歡迎について町の子供の歌つてる軍歌をのべませう。

武をもてたてし日本國　そもや神國の昔より
のぼる旭ともろ共に　光目出度あふがるゝ
ゆうしやうこくの武士よ　みくにを守る干城よ
宇内にひいづるますらをよ　あゝほまれある軍人よ
よろこび迎ふる我里は　みん朝鮮をやぶりにし
せんこの英けつ秀吉が　錦城たてし桃山や
たまなすみてにつるぎとり　きんこだうくさんかんに
さだめたまひし皇后君は　御香の宮にしろしめす
流るゝ清き宇治川に　名馬いけづきいなゝきて
ふるつはものゝ元の名は　かたりつたへてかゞみとす
こゝに師團のますらをよ　むかへしけふのうれしさよ
山河も和してかんこせん　むかへしけふのうれしさよ

△奇　習

誠に尾籠なお談で御座いますが之も東京などの方にはよほど珍らしく思はるゝでせう、私が最初當地へまゐりまして不思議に思ひましたのは何れの家も皆一つづゝ便所に紙屑籠をつるしてある事で、何の爲に此せまい處に屑かごなど置いてあるのだらうと思ふて居りましたが、之は全く何と申ませう少しく筆がまはりかねますが、まあ露骨に申せば小便に使用せし紙をため置いて賣るので御座います、今一つ驚きましたのは大便と小便と分けてある事で、私共なれぬ身には誠に不都合で御座います、最初はやはり東京流に大便の所へ小用をたして居ました所、農夫がくみとりにまゐりまして申ますには、此家の肥料はどうもうすいから困る雨水でも流れ込むのではあるまいかと、雪隱の後ろにみぞを作つて歸りました、それから仕方が御座いませぬから土地の人に尋ねました所、當地では大便は家主のもの小便は借家人のものと定まつてあつて、小便一ぱいたまつて賣ればネギだの大根だのとかへてくれます、あなたのようなことをしては假令ネギ一わでも損ですよと申されましたには、全くあいた口がふさがりませんでした。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

△生活の程度

右のやうな有様ですから東京からうつゝてまゐりました、私共には、實に生活はなし易う御座います、東京で瀬戸物の丸き火鉢一個六七十錢しましたもの、三十二錢で同じ品が得られました、酒も一升九十錢も拂つて居ましたもの、五十錢ですみます、高いものは贅澤品でせうか、東京の如く別段に流行をおふ必要もなく、高いもの殊更求めなくとも少しも不自由は御座いませぬ、家賃なども殆ど半分八、六、四半、三、玄關、臺所、湯殿、風呂桶までついて庭も可成廣く、井戸も一軒持、建具總付の新らしい家で七八圓とは、疊一枚幾圓と申す所の方は羨ましいでせう、お米も東京二圓の時に當地は一圓六十錢でした、其代り土地の商人は東京の如く勉强しませぬ、東京で轉宅いたしましていまだ荷物の片付もすませぬ內、裏口より酒屋、米屋、味噌醬油、八百屋、魚屋と御用をきゝにくるに反し、當地の商人は氣が小さいのか、又勉强がたりないのか、中々其樣な機敏な事は致しませぬ、まづうつりまして醬油屋へ醬油をとりにやりますと、初めてのお方にはタルは貸しませぬどうか、現金にと申します、萬事此有樣です、併し永く得意となればよほど勉强いたします。

△早婚の地

當地は地理上交通もあまり繁盛ならず、自然舊習が澤山のこり居ると見えまして、今でもなほ早婚の風があるようです、其故か當地の老人は大抵曾孫を持ちて居ります、若々した丈夫な六十位の老人が、孫のお守をして居りますから、可愛いお子さんですね、おまごさんですかと尋ねて御覽なさい、十中の六七迄はいゝえ、ヤゴですよと一本まゐります。

今の女學校出の方が理想の良緣とさるゝ僅か二人の舅姑さへなき方をなど申さるゝにくらべましては、當地の嫁樣などは二組の舅姑に仕へ、圓滿に家庭を作つて居られますのは、慥かに感服の價はあると思ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます、何れの土地でも倅に家督をゆづり、老人が別居しましたものを隱居と申ますが、當地の隱居といふ言葉は全く反對で御座います、あすこの隱居、こゝの隱居と人々の申ます故、定めし氣樂な老人の事と思ひ、面會しますると思ひもよらぬ若い人です、あまり不思議で御座いますから尋ねました處、當地にては分家の事を隱居といふと分りました、戸主の弟三人でも、四人でも、分家しますれば、其本家の名をとりてどこそこの隱居と申のださうです。

昨年末第十六師團も此附近に置かれましたし、年内には京阪電鐵も通ずるとか申て居ますから、今後の伏見は大に面目をあらため、古の繁盛を見る事も近き將來に有るだらうと思ひます。

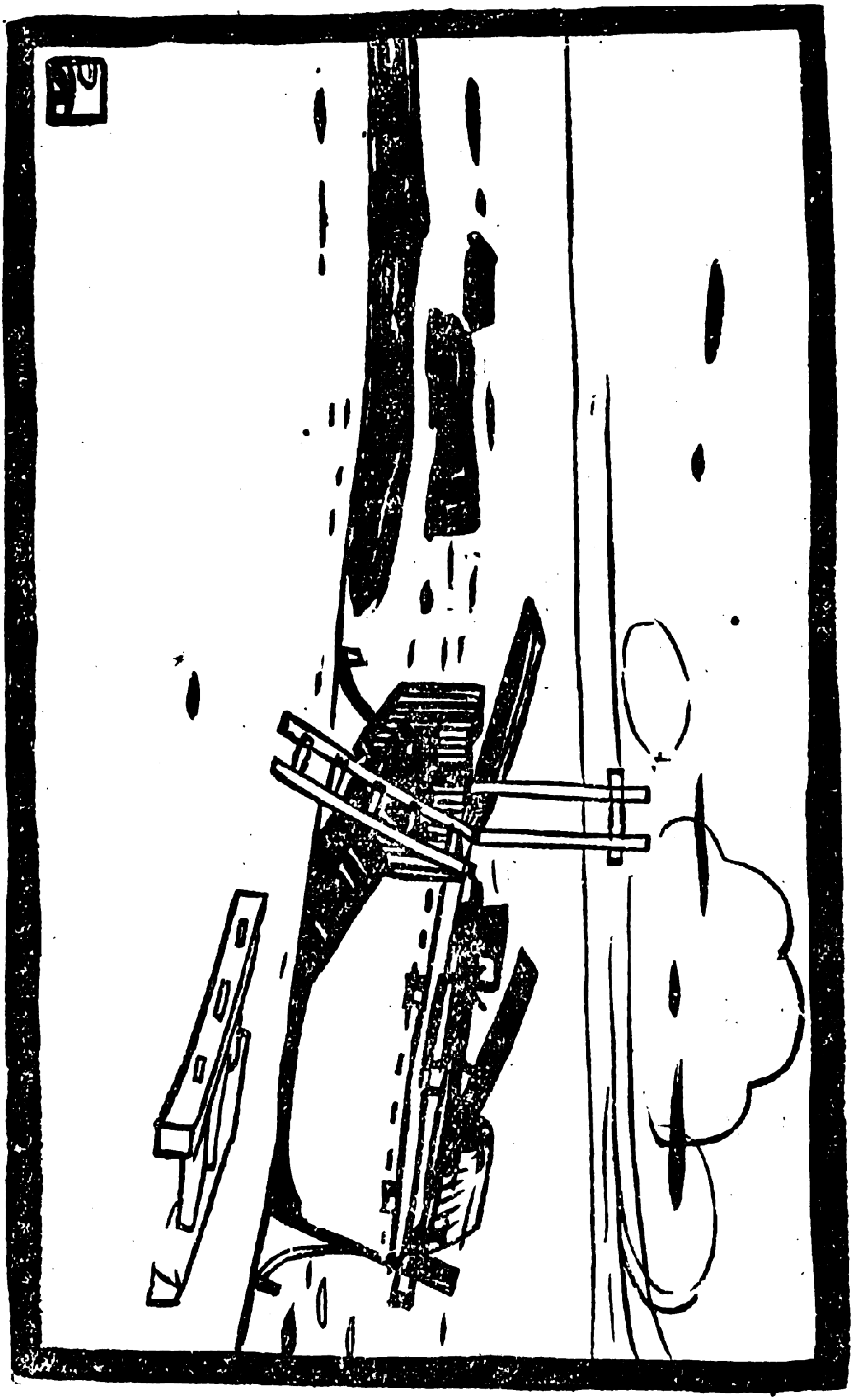
風俗記事に就て

風俗の變遷を蒐るの主意は現時の活動せる社會を知らんが爲なり、通邑大都の稱ある名古屋、仙臺、長崎、廣島、京都大阪の町々は勿論、墨陀の雨、芝浦の月風流はなくも、鴨川の夕涼み道頓堀の芝居、淺草觀音の社會的觀察は逸すべからず、諸國、名產、名品、土地の誇り、國の自慢さては名物にうまい物なき其名物、名所古蹟に詐りある其の名蹟も又十分紹介の餘地あるべし。

一、生活狀態を記する時は必らず重なる日用品の物價を記すべし
一、風俗人情を記する時は必ず言語の訛り時續を記すべし
一、俗謠、奇習、珍話、逸事、傳說、史蹟等はなるべく挿入すべし

甲賞――仙臺風俗
甲賞――伏見町
乙賞――鹿兒島風俗

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

すゞみ臺

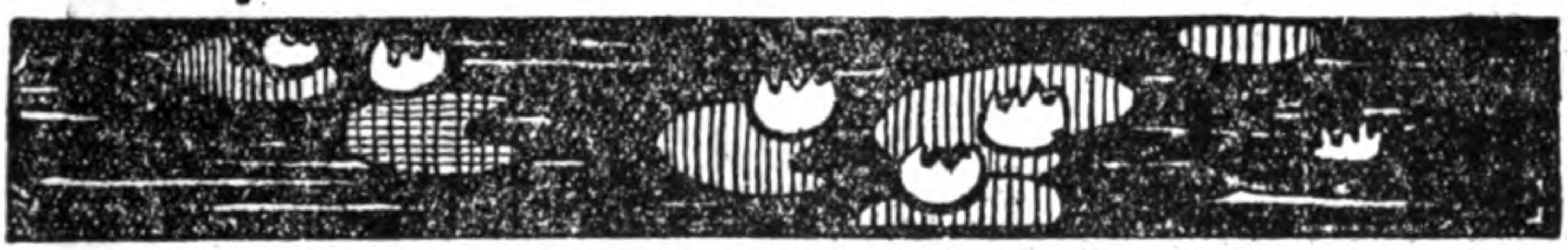
水草

夏の座敷は簾障子に岐阜提灯、釣荵に風鈴、水草の鉢物などよき眺めぞかし、水草の種類は頗る多し。賞翫用としては河骨、睡蓮、蓮、慈姑、石菖蒲等あり、食用とすべきもの蓴菜、烏芋、芡等あり、其他薬用ともなり、又製作して種々の敷物、蓑笠の材料となるものもあり。

○河骨は睡蓮科に屬する水草にして池、沼の泥中より長き花梗を出す、花は黄色五瓣にして專ら挿花用として賞翫さる、水揚しめんと欲せば暫時沸湯中に入れ後ち冷水に浸すか、或は莖をわりて山椒を挿むべし。

○睡蓮は箭形の葉をなし、花は白色にして夏秋の頃開き、夜はつぼみ晝は水上に浮ぶ、即ちひつじの時刻よりつぼむを以て、ひつじぐさの名あり、これは薬用ともなり又挿花として賞翫さる。

○蓮ははちすの意味なり實の蜂の巣に似たるより名づくといふ、これも又睡蓮科の宿根草にして、池沼又は水田に栽培す、その幹は食用とする蓮根にして長く泥中に沒し、白質圓形にして多くの節を備へ、長さ三四尺、徑寸餘に至り内部に凡そ十個の孔を通す、葉は、圓形にして刺ある長き柄を有す、夏時長き葉蔕を水



上に抽き頸に花をつく、其色淡紅、又は黄なるあり、頗る美にして且つ清香あり、花被は四五個の萼片と許多の花瓣とにより成り花托は上方に延び恰も椀のごとし。

○澤瀉は一名なぐわゐともいふ、慈姑の野生にして池沼、澤畷田等に多し。葉は慈姑に似て小く、夏の頃三瓣の花を着く球莖小さくして食ふべからず、されど嫩葉は食ふべく。古は薬用に供したりといふ、紋所に澤瀉とあるは即ちこれなり。

○石菖蒲これは天南星科に屬す、庭際又は手水鉢下の石間などに栽ゑ、又は奇石の間隙に栽ゑ、或は盆栽とせらる、種類甚だ多く殊に人工によりて、いさはを生ぜしめ美麗なるもの甚だ多し手にて葉を採み又は根を切る時は、菖蒲に似たる臭を放ちて容易に消えざるものなり。

○香蒲は元來自生のものなれど又栽培をもなす、葉の幅五六分にして其長さ四五尺に達す、夏の頃七八寸の蠟燭形にて褐色に矛のごとき穗の花をつく、これを蒲鉾といふ、食品にある蒲鉾はもとこの形に似たるより命ぜし名なり、莖の葉を以て蒲莚を織り、穗の花を硝石液に浸して乾かしたるを火口とし、或はこれに油をそゝぎて蠟燭の代用となすところあり。

○蘆は水邊に生ずる草にて形ち芒に似て大きく莖は竹のごとし、秋莖の先より白穗を出して花を生ず穗には枝多し、嫩芽は其形筍のごとく食用に供すべく、また愛らしきものなり、莖は編み

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て垣根にしつらへ、また草花の支へとなし、或は簀、松明、または箏の紵とす、殊に海邊に生ずるものは莖細くして強靱なり、蘆は本名をあしといひ、よしとは忌みてつけたるものなり。

○蔄は高さ三四尺に達し、葉は互生して形ち稍や菖蒲に似て薄し、秋穗を出し薄のごとき淡紫色の花を開く、葉は蓆の原料或は椅子及び蒲團の心等に用ふ。

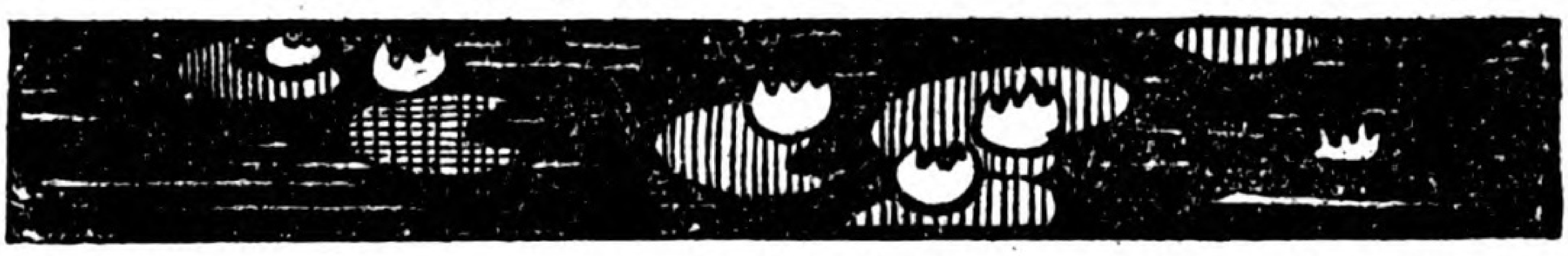
○莞は、おほゐ、あらゐなど稱す、水澤中に生じ莖は正圓にして白き髓あり長さ丈餘に達し、一根より叢生す、夏の末褐色の花をつく、編みて蓆につくるべしまた生花にも用ふ、莎草科に屬す。

○蓋はこれ又莎草科に屬する水草にして田に栽培す、葉線鋭くしてこれに觸るれば傷つくべし、菅笠及び、蓑をつくる、加賀の名產なり。

○七島は、一名琉球藺ともいふ、田に栽培す、かやつり草に類似し莖は三稜あり、二つに割り水に浸して疊表に織る、所謂琉球表これなり、琉球、薩摩の七島及び豐後等より良品を出す又莎草科に屬す。

○磚子苗、同じく蚊屋つり草に似たる海草なり、蓑、繩、蓆、馬具等をつくる、くゞ繩は廉價にして且つ堅牢なれば普通物品を檢束するに用ふ。

○藺は燈心草科に屬す、葉なく莖圓くして頭に花をつく、野生なるもあれど多くは繁殖用として田畑に栽培せらる其の法第一年



に分植して人糞若しくは厩肥と共に畑に植ゑ、時々施肥して十分肥大ならしめ、第二年目に至りて水田に移し、乾鰯、油粕等を肥料とす、莖の長さは五尺ばかり短きは二尺許にして野生のものは三寸位なるものあり重に疊表花莚等に製す莖の短きものを疊表に編むには中つぎを要す、近江、陸前、丹波等の產をよしとす。

○蓴菜は睡蓮科に屬する水草なり。池沼に多く自生し、根は水底にあり、莖を長く延ばして水面に葉を浮ぶ、葉は蓮の嫩葉のごとく、最初は卷形なれど漸次に開きて楕圓狀を呈す、莖は長く連りて恰も繩のごとし、花は暗紅色にして數多の細瓣より成る、嫩芽及び莖は粘液を以て被はる、嫩芽は酢の物として賞用せられ、また羹物とし物の妻にも用ひらる、水戶の仙波沼は產地として名高し。

朝風ゆかたの袖をはらひ、泥のうちよりさき出でゝ泥にはそみぬ花蕊、おく白露を玉と見せて風吹かばこほれもしぬべき逸りを、黒絽のはおりに杖つきて、朝もうでする老人の、もやに浮べるその花を見入る時。

瓜

瓜は葫蘆科に屬する一年生の蔓草にして莖は長さ四五尺乃至一二丈に達し剛毛あり、葉間より生ずる卷鬚によりて他物に繞纏

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く、葉は五裂乃至七裂し、周邊鋸齒狀をなし、全面に又刺毛あり、花には雌雄の別あり、五瓣より成りて鐘狀をなし、通常黄色を呈す、果實は所謂瓠と稱するものにして種類によりて色と形とを異にす皆數多の種子を藏せり。

瓜の種類には約十二三種あり、その重なるものは胡瓜、甜瓜、越瓜、冬瓜、西瓜、南瓜、絲瓜、夕顔等とす、瓜は概ね暖地の原産にして今なほヒマラヤ山麓には胡瓜の野生あり、アフリカのナイル河畔及び印度の某地方には西瓜の野生ありといふ、西瓜は中央亞細亞伊黎地方の原産にして、日本に渡りたるは印度の産なりと伊黎の西瓜は大さ直徑二尺に亘るものありて、その味頗る甘しと云ふ歐洲にては甜瓜を賞味するのみならずこれに酢油、胡椒等の香料を和して生食し、或は燒きて食するものあり、又南方露西亞及び亞米利加に於て盛んに西瓜を食す、されど其他の各種は學術上又は觀賞用に僅かにこれを栽培するに止まれり。

瓜類の効用は甚だ廣し、胡瓜は瓜類中にて最も早く成熟するが故に、その需用甚だ多く、或は鹽と酢とを和し揉み瓜とし、或は鹽漬となし、或は煮て食す、その風味淡泊なり、又胡瓜の熟せざるものを取りて壺中に入れ日を經るときは溶けて液となる、これを火傷、湯の爛れ等につけて特効ありといふ、又これを擣り碎きてその液汁を飲用すれば燒酎の毒を消すともいふ。

○甜瓜は其味甘美にして芳香あるを以て生食せらるれども、不消



化物なるが故に胃腸の弱き人は食ふべからず、されど、又淸涼劑の一種として賞用せり、我國にては美濃、和泉、東西兩京の産尤も有名なり。

○越瓜及び胡瓜は主として鹽漬又は粕づけ(奈良漬)として賞用せられ、揉み瓜として亦甚だ佳味なり。

○夕顔(俗にいふ干瓢)の嫩きものは蔬菜ともに煮て食ふべく、その味冬瓜に似てあれども、その質一層緻密なるが故に更に美味なり、又干瓢となして貯藏すべし、これを培養する目的は主として干瓢を製するにあり、さてその製法は未だ熟せざるものを採りてその外皮を剝き去て、瓢皮を瓣片にして急にこれを乾燥するなり、斯くせざれば雨天等により時日を經て色黑くなり或は黴を生ずるに至るべし下野上總の産最も佳なり。

○瓢簞、瓠、匏等は瓠の老熟せるものを採りてその口を切り、水に浸して核を腐敗せしめ、中空として器物に用ふ、即ち柄杓、盃、水泳用の腰舟、炭計り、文房具及び液體、携帶用の瓢簞は是れなり。

○絲瓜の嫩きものは煮て食し或は味噌をつけて炙りて食し、又鹽漬ともなす、その熟せるものは水に浸して其の皮肉を腐爛せしめ網狀の纖維をつくる、これは海綿の代用として物を洗ふに用ひ、或は足袋底、靴底及び婦人帽の心となして賞用せらる、又根莖を切りて得たる漿汁は、痰の病の特効ありと、之を採るには入九

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

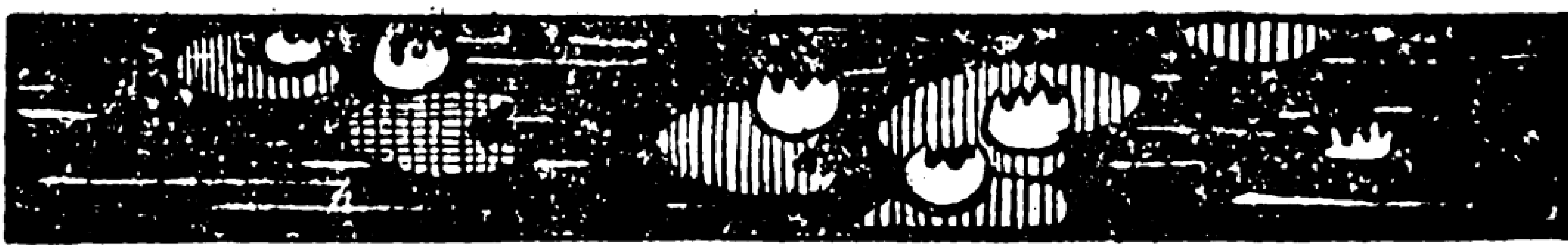
月頃、絲瓜の莖を根より二三尺の所にて切斷し其切口を瓶の口に挿入し置くに多きは一晝夜にして五合以上を得ることあり、此水を絹こしにして貯へ置き随時に白粉を溶き使用すべし。

○苦瓜の嫩きものは煮て食し又は鹽漬ともすべけれども苦味強きゆゑ一般には嗜好せられず、唯鹿兒島の地方にては盛んにこれを栽培し、瓜の熟せざるものを採りて薄片となし暫時淸水に浸し後ちゆがきて油煮とし肉類若しくは豆腐等を和して食す。

團扇

うちわは、打羽の義なり即ち蚊蠅などの羽蟲を打つより名づくといふ、竹片の先を細く割きて圓くひろげ、上に紙又は布を兩面より張りたるものなり、多くはこれに彩色を施せり、柄は握り柄とてサルシにてぬれるあり、平柄とて竹木などを平たくし、絹絲の總などつけたるもありて、美しく意匠を凝らせるもの尠からず、繪は時折り／＼の流行によりていろ／＼あり、奈良はむかしより團扇を作くる人多く、春日の社人爭ふて作りしが今も古雅なるうちわを産するを以て名高し今團扇の種類を擧ぐれば、

○絹團扇、これは骨細く圓き枠に絹を張りて柄に取りつけ、絹に繪をかきたるものなり、これは文政の頃大に流行したるものゝよしなるが、現今は多く金巾、寒冷紗などにてつくり、寫眞繪を模したるもの又流行り出し頗る優美にして一般に用ひらるゝなり。



○水團扇、これは艶漆又は膠礬を紙面に引き、水に堪ふるやうに作れるものなり、夏日これに水を注ぎて煽げば頗ぶる涼し。

○臺灣團扇これは鳳栗の葉亦は棕櫚の葉の如き木の葉にて編みつくれるものにて網代團扇といふものに似、珍にして雅味あるを以て甚だ賞せらる。

○網代團扇これはつゞら絲を圓形に切り附けて柄に紙をはり、周圍に絲をとりつけてほつれを押へ、黑漆をぬりて固めたるものなり。

○深草團扇これは骨と柄とは別物にて柄は桐の白木又は漆ぬりの木にてつくり別に細き竹骨をまろく廣げて紙を貼り右の柄をはめて固めたるものなり、柄に總などつけてかざりとす、されど弱くして久しきに堪へざるなり。

○支那團扇、これは臺灣團扇に似て絹などにて周圍を飾れるあり、籐にて枠をつくり、絹を張り端を反らして形よくつくれるもあり、又鳥の羽にて美しく飾れるもあり。

○羽團扇、これは羽毛のみにてつくり多く裝飾として用ひらる、これは俗に天狗の羽團扇と稱するものにて、むかし元祿の頃婦人の裝飾用として流行したるがごときも今は全く廢れたり、近來團扇は商家にて暑中見舞又は賣出しの景品といふ名義にて巧みに屋號町名商品目錄など書き入れて顧客に贈ること流行せり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人の姿を美くする法

理學士　田邊尚雄

▲綺麗で上品に見ゆる身體の態度

人間の身體は何ういふのが最も綺麗であるかといへば無論無理なしにスラリと育つた態でありますが、身體を無理につかひ過ぎると、此の態度は何うしても保たれません。即ち一部分丈けが不平均に發達して、全體が見られなくなつて仕舞ひます。

扨て何う云ふのが所謂無理の無い態であるかと云ふに、一體人間の身體といふものは、普通首の處で一つ胴で一つ、膝の處で一つと、この三つの縫目があつて頭と胸と腰と足との四部分に分れて居るのであるが、これを支へて居る處の骨が眞直に立つた態が即ち一番無理のない姿勢であります。故に兩脚の中央に當つて脊髓が眞直に立つて居り、その脊髓の眞上に頸が載つて居るといふのが、最も綺麗な身體であるといふ事になる。

▲衣服を上品に着ける方法

處で、人が其身體に着物を纏ふには、裸體の態その儘を外面に表して見せるやうにした方がよいか、或はまた裸體に遠からしめた方が美しいかといふに、昔の希臘あたりの標準では、裸體に近い方がよかつたが、しかし今日では裸體から遠からしめやうとつとめるのが一般であります。姿を裸體から遠ざからせるには、つまり衣服でもつて縫目をかくすやうにすればよいのであるが、それでは其縫目を殘らずかくして了つて人間の身體を一つのものに見せる方がよいか、或は二つに見せた方がよいか、または三つに見せる方がよいかといふ事が又問題です。で人間の身體を一つのものに見せるには、頭から悉皆布か袋のやうなものでも被ればよいので、譯はありませぬ。斯うすれば身體の縫目がすつかり隱れて了つて、裸體から最も遠かることになります。從つて肉感などは少しも起らない。けれどもこれでは、人間だか何だか一向解らなくなつて了ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ます。それ故普通は頸から上を一つ、頸から下を一つと、この二つの部分に分けるのが、最も普い裸體に遠かる方法として居ます。坊さんの法衣などは即ちそれで、能の衣裳などもそれでせう。すべて人の姿は裸體から遠かるほど品がつくもので、能の衣裳をつけた姿が非常に上品に見えるのは、全くこの理窟です。

▲日本服と西洋服との特質

しかしこれでは甚だ實用向でない處から、次の三つに分ける方法が最も多く用ゐられて居ります。普通の洋服や日本服は即ち人の身體を三部分に見せるやうに出來て居るのです。洋服は、頸から上を一つ、胸の處で一つ、腰から下を一つとして、膝の處の縦目を隠すこととなり居るし、日本の服裝は、胴の處に帶しめて腰の縦目を隠し、其代りに膝で仕切つて、裾さばきといふものをつけてあります。併し同じく三つに分けてあり乍ら、洋服は日本の衣服に比べると餘程品が落る樣に思はれます。それは洋服は腰の處に裸體の形が表はれて居るからでせう。尤も日本服でも裾をさばくと足が見えることになるけれども、足よりも腰に裸體の形があらはれて居る方が、より多く肉感を起す樣で下品に見えます。

▲比例美と安定美

以上はまづ美容の原理とも申すべきものでありますが、尚ほ進んで其樣云ふ衣服を着た姿が何ういふ風であれば最も美しいかといふに、それには二つの大切な事があります。其の一つは比例の法則で、全體が比例しなければならぬといふ事であります。例へば頭の大きい人は身體も大きく、身體の小さい人はそれにつれて頭もまた小さいといふ風に總て比例することが大切であります。もう一つ大切な事は安定の度合といふ事である。安定といふのは物理上の語ですがつまり重みの釣り合ひといふ事であります。西洋では重みの釣り合ひのとれぬのは全體が比例しないよりも氣もちが惡いといはれて居るが、實際此の安定不安定は美容に非常な關係を有つて居るのです。

▲美の原理に應へる庇髮

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第一圖の如くに洋服と日本服とに三角形をつけて見ると、洋服の方は非常に大きくなります。西洋人が大きい帽子を頂くのは、その下の大きいのに對してよく比例して居るもので、理窟からいつても是非さうなければならないのです。日本の女學生が庇髪に結ふやうになつて來たのも之れと同じ理窟で袴に對する自然の要求であります、しかし普通の日本服の場合にあつては、下の三角が小さいから、それにつれて頭もまた小さくなつて居ります。尤も日本婦人の髪は、髪全體としては決して小さい方ではなからうけれど、人の注意をひくのは髻の處にあるから、其處の所で頭を寧ろ實際よりも小さく見せる樣になつて居ります。

第一圖



▲帶と半衿の物理的の作用

このほか日本服は胴の部分が非常に大きくて、甚だ不格好であるから、それを避けるためにこゝにも、矢張り人の注意を他へひくものが出來て居る。それは後に於ては無論帶であるが、前から見る時は帶よりも寧ろ衿の處が人の注意をひくことになつて居ります。半衿の色の華美や地味によつて、其人が老けても見え、若くも見えるといふ程此處は人の注意をひきます。

▲据りの惡い姿と落ち付いた姿

次に安定美に就て例を擧ぐれば、第二圖は昔の御殿女中の風をしたものであるが、これを見ると、何うも上の方が勝ち過ぎて居つて甚だすわりが惡いといふ感じがする。一寸衝けば、忽ち倒れさうに見えます。しかしこれに第三圖の如くに裾さばきをつけると、初めて上の方と釣り合つて、落ち付いて來る。

▲優美又は威嚴を示すは自由自在

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

處がもし本體が子供などで、活き〳〵した風をさせたいと云ふ場合には、斯う云ふ裾さばきなどのない方が却つて善く見えるものである。といふ理由は、裾さばきのない時と裾さばきをつけた時とでは、身體の重心の場所に高下を生ずる。即ち裾さばきが無くて上部の大きい場合にはそれにつれて重心も上ることゝなるが、重心が上の方にあるといふ事は取りもなほさず地球の重力に反抗して居ることで、自然人の身體に活氣があらはれる。然るに裾さばきを之れにつけると重心が下つて其人がいかにも落ちついて温順しく見えて來るが、其代りに活き〳〵した處はなくなります。男子が肩をいからせると威厳が備はり肩が下つて居ると何となく間が抜けて男らしくなく見えるのも矢張り此のためです。又喧嘩でもする時には

第二圖



必ずまづ腕を張る、或は昔の士が裃を着けて居たのなども皆この理窟に基ゐてゐるのです。この秘傳をさへ心得て居れば場合によつて自分を優しく見せやうとか、或は威厳を示して人にお時儀をさせやうとかいふやうな事は自由に出來る譯である。

▲如何にせば横から見て美しくなるか

以上は前から見た形についての研究であるが今度は横から見て何ういふ形が美しいかといふ事を述べて見ませう　原則からいへば脊髄の上に眞直に頸が載つて居るといふのが最も美しかるべき譯であるけれども、實際は餘りに眞直に載つて居るよりも少し理窟を離れて居る方が却つて粋に見えます。但し私の粋といふのは普通にいふ粋よりはいさゝか意味が違ひます。寧ろ文明の粋とでもいふ方が適當である

第三圖

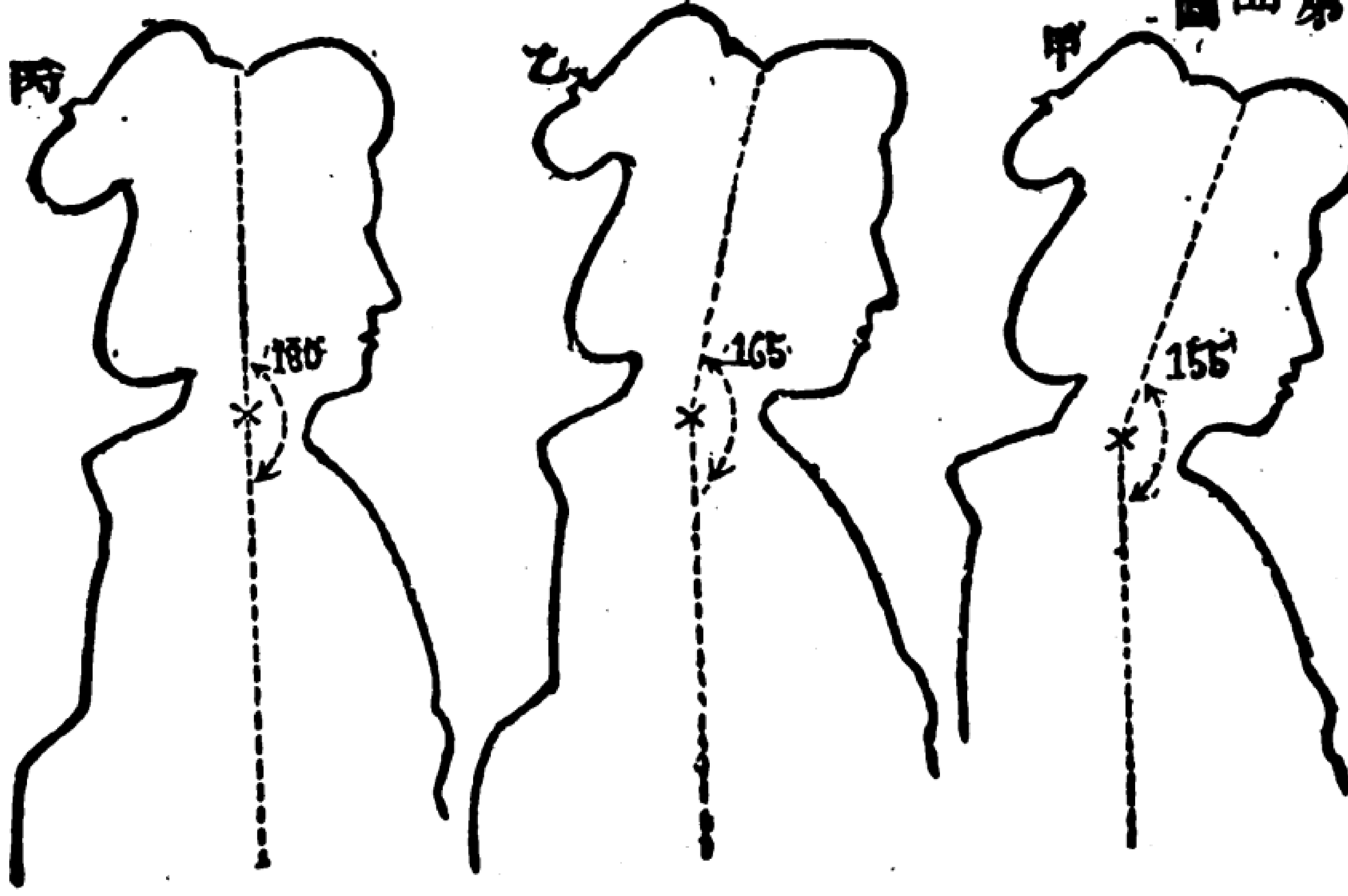


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

かも知れません。普通にいふ粋は、顔や、衣服の色模様や、髪形一切の上から判斷するもので、意味が甚だ複雑になつて居るが、こゝには附屬品一切を退けにして單に容姿といふ上から研究して見る積りです、で人の身體が粋になつたり野暮になつたりするのは何う云ふ加減であるかと云ふに、それは脊髓即ち胴の軸と頸の軸との曲り工合によるものである。其度合を數理的に計つて見ると第四圖の如きものとなります。

普通の人は第四圖(甲)の百五十五度の態を以て粋といふて居るけれども、これは寧ろ下司に近い方で、眞の粋は(乙)圖の百六十五度の態であらうと思ひます。(丙)圖の百八十度の態は原則からいへば最も好いのであるけれども、實際斯うして見ると餘りに趣きが無くて野暮に見えます、要するに容姿はキチンと理窟に合つて居るよりも寧ろ理窟から離れて居る方が粋に見えるのであるが、それが餘りに離れ過ぎると又下品て來る。そして理窟に近いほど上品になるのです。貴婦人令孃達ならば先づ百七十度位の處が最も好ましい形でせう。この位の態はあまり粋ではないけれども、品格と威嚴とが十分備つて、非常に立派に見えます尤も私は一々實物に接して試驗して見る譯にもゆかずして、唯だ繪葉書などに依つて研究したのですから、實際果してあたつて居るか何うかは確言しかねますけれども、大體間違はなからうと思ふ。

第四圖



▲醜い歩き方と美しい歩き方

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

以上は主に靜止して居る時の美容に就いての考であるが、猶動く時には何ういふ風にあらねばならぬかといふ事に就いて一寸述べて見ませう。それには第一洋服の時と日本服の場合とによつて歩き方を變へなければなりません。洋服は腰から下が一つになつて居るから、外曲に歩くことが必要であるけれども、日本服は普通膝の處に仕切がついて脚部が二つに分れ、裾さばきをすることになつて居るから、外曲に歩いては甚だ醜い恰好になるので、是非内曲に歩かなければならない樣になつて居ます。勿論日本服であつても裾をさばかない時には矢張り眞直に歩く方がよい。女學生などは斯ういふ點を考へて、袴をはいた時とそれを脫いだ場合とによつて、歩き方を變へるやうにしたならば餘程其美容をますことが出來やうと思ふ。

▲身體に隙だらけの女學生

昔から女は起居振舞といふが、その起居振舞の如何はつまり足のつかひ方如何に因るのです。女禮式でも之れは矢張り難しいものとしてあります。それが惡いと先づ腰が崩れる。腰がくづれると人の身體はもう隙だらけになつて了ひます。女學生の會にでも往つて見ると、何の人も〳〵皆隙だらけで、實に見られぬ恰好をして居ます、もし槍でもつかふ人があつて之れを衝かうと思ふならば、ねらはずして何處でも容易く衝くことが出來るでせう。そこへゆくと上方の山村の舞でも稽古した人はさすがに違ひます。之を習つた人が歩いて居る處は、上手な槍つかひでもなか〳〵隙を見出すことが出來ないと申します。

▲美容を助くる山村舞

女の起居振舞を整へるには、お茶を習ふのもよいけれどもなほ舞ほどの效果はないやうです。しかし同じ事でも東京の踊ではいけません。東京の踊は舞臺本位に出來て居るから、足のつかひ方が非常に粗ぼく、從つて下品でも居ります。然るに山村の舞は、もと〳〵舞臺でするものではなく、四疊半のお座敷でも、演れるといふのですから、其最も苦心する處は足のつかひ方であります。上方では舞といひ、東京では踊といふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

のは、其樣言ふ處から出た言葉かも知れません。兎に角東京では女の子が踊を習ふと下品て來るが、上方では舞を習ふと却つて品がついて來ます。これは眞實で自然の結果です。それゆゑ女を上品に仕込うといふのなら山村の舞を習はせるのが一番でせう。上方の令孃達は多く此の舞をして居るから、何んなに廣いお座敷へ出ても、腰がくづれるの、身體に隙が出來るのといふやうな事はありません。男子でも舞をやる者になると何んなに醉ても身體が崩れないといはれてゐるが、實際私共でも隨分酒を頂いた後でも、何か一つ舞つて見よと言はれゝば、立派に間違はずに演ることが出來ます。

▲美しく見せるに就て頸と肩の扱ひ方

足のつかひ方は身體を動かすに就いて第一に注意すべき點であるが、第二に注意すべきは頸であります。頸と言はゞ身體の主人公で、一家の威嚴は其の家の主人公の性格動作によつて上下されると同じく、人の品位は其の頸によつて少からず支配されて居ります。主人公なる頸が安ぼく動く時は、身體全體の威嚴も亦從つて落るものですから、これはよく注意しなければなりませぬ。次には肩である。肩は殆と頸と同じく大切な處であるから、之れは成る丈け搖らぬやうにしなければなりません。さればとて餘り堅くなり過ぎては威張つたやうになるから、そこの加減が大切です。東京の踊は頸や肩をわざと動かさうとつとめるので、非常に下品て來るが、山村の舞は實は動いて居るのだけれども、而かも眞直に据わつて少しも動かない樣に見えるので、非常に上品に見えます。要するに舞が婦人の美容を整へるのに大なる力があると云ふ事は確かです。現に私共が世話をして居る舞の會に入會した婦人中には、女學校では何うも容姿が惡くて仕方がなかつたといふ者が、舞を稽古してから非常に其れが好く整つて來たといふのが少くありませぬ。（心理學會通俗講話會講演の大要）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の洗濯法

○必要なる器具

洗ふには矢張り盥が可いが、従来の物は木の散洗する事身體を屈め過ぎる事など不便な點多ければ、成べく立つたまゝ洗ふ事の出來るやう工夫するが可い、西洋には作り付の洗濯箱があつて便利なり其他洗濯袋、絞り器械、揉板、アイロン等は主なるものなり

○木綿物の洗濯法

足袋、前掛、襦袢、寝掛、浴衣などは家庭で度々洗濯するが常なるが先づ水一升に曹達三匁を入れたる割合の水に一晩浸し、翌日其水にて雑と洗ひ垢を落し、洗濯袋(白木綿又は金巾にて枕皮様にしたる者、袋なければ白の風呂敷に包む)に入れ前記の水に石鹸三匁を加へて廿分間程煮た後石鹸を溶かした水で揉板にて洗ふ、最も薄地の物は水中にて掴む様にして洗ひ、更に石鹸と曹達水にて煮てよく注ぎ、水解きの金ピロを少量溶して青味を着け後絞り器械に掛け糊をつけて乾かすなり。

○絹物の洗ひ方

すべて何によらず白の絹物は先づ石鹸を溶かした水を作るがよし、其の作り方は鍋の中に水又は湯を入れ使ひ古して小さくなつた石鹸を細かく刻み、後盥に温湯を入れ混ぜ乍ら泡立てたる中に洗ふ、絹物を入れ揉まずに掴む様にして洗ひ、其上で新らしき溶解水と温湯とにて洗ひ最後に水にて濯ぐ、其水には水一合中に酒精を茶匙に一杯を混合したる稀薄なるを用ふ、斯くすれば絹に艶が出で且つ絹鳴を生じ手ざはり善くなり且つ光沢をも増すなり。

○毛織物と色物

毛織物はセル、フランネル、其大小、メリンス等にて是等は最初より終まで決して煮る事なく温湯を用ふるを良とす、又決して揉ではならぬ又其儘にて乾す時は地質縮みてコツ〳〵となれば之を直すには濯ぐ水に曹達を入れて石鹸分を吐き出させ、其上にて手早く洗濯すべし、凡べて毛織物は高熱及び亜爾加里性を嫌ふ故、アンモニヤを入れて濯ぐ時は縮む事なく地質柔くなる、色物は木綿と雖も決して揉む事なく又煮ては良しからず石鹸溶解水中にて手早く洗濯するがよい。

○艶の出し方

白き物は洗濯すると多く黄色になるが、此を防ぐため絵具屋にて金ピロを購ひ、其れを水にて解き其後に糊をつければ純白となる、其前に最後の濯ぎ水に少量の硫酸を加へるを良とす、分量は水二斗に硫酸二十滴の割合なり、されば木綿物絹物などにて煮るもあり、然らざるもありて各別なれど、若し別種の物が縫合せありたる時は能く注意して臨機に洗濯すべし。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



避暑する人の
幸なき身の上

昭子

薔薇色の空には漂ふ雲の一片もなく、鳥も飛ばず風もそよがず、凡ての自然は蕭然たる初冬の夕ぐれ、悠悠と沈みゆく日と共に姉上はこの世を辭された。その眉根には一點のくもりもなく、その唇には殊更の笑もなく、いかにも心安げに逝かれた。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

左にかゝぐるは姉が最後の日記である。

ふと目が覺めた、昨夜は熱がひどくて切なかつたが曉方からぐつすりと寢入つてしまつた。窓には婆娑と竹の影がある、今日も佳いお天氣らしい、小春日和の朗らかな蒼空を早く見たい、障子を開けたいが起るのが億劫だ。時計を見るともう九時もまはつて居る、よく寢たものだ。床の間には昨日貞子樣が下すつた紅薔薇の鉢が置いてある、燃立つやうな色だ今頃どうしてこんな色に咲けたらう、大きは鉢だ、梅やはさぞ重かつた事だらう、これをわざ／＼東京から持つて來て病者に大なる慰藉を與へて與れる友の誠心はしみ／＼嬉しい、見て居る間に大きな輪がくづれる、花片と花片とは重なつたまゝで床にうづ高い。病人に切花を送るもんぢやないといふ、大方直にしほれるからだらう、下らない事を言つたものだ、根があつたつて時が來れば此通り、そんな事を氣にして居ちや人間一日も心が安まりつこない、このくづれた花片だつて見やうによりては喀血のやうにも思へやうぢやないか。掛花活には白菊がつくろはぬ風情に香つて居る。

貞子樣の話によると武さんはいよ／＼外交官にな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

るのださうな、綾子さんも中々荷が重くなる、一時は私も随分煩悩をおこしたのだが、考へればこんな身體で人の妻になつた處で詮方がない、まして外交官だ妻君餘程しつかり者でなくつちや治まらない、綾子さんはどうだ、らう、あの人も善い人だが少と虛榮心が強すぎる、外交官なんてものは表面はどうでも腹にしまりが無くては困ると思ふ、人の裝飾品を見て羨ましいの欲しいのと思ふやうぢや駄目だ、この點では私の方が確だ、あゝ病氣にさへならなけりや……おや又下らない事を考へ出した、なぜかう時々娑婆つ氣が出るんだらう、もう死んぢやないか。



風の音が颯として竹の影が障子にさわぐ。

思へばこゝ小田原へ來てもう二度の秋をむかへた、この間幾度相模灘の波に呑れやうとしたらう、眞實に下らない事に心を惱まして餘程壽命を縮めた昨日も守川さんに髪を結んで貰はうと鏡に向つたら我ながら驚いた衰へやう、頰骨は尖がる頰肉はぺこんと落て目が洞穴の中で光つてゐる、まるで骸骨が一寸人の皮をかりて被つて居るやうだ、「あんまり好いた顏ぢやありませんね。」と言つたら守川さんては「來年になると迷惑な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

さるほど肥りますよ、」なんて下らない世辭をいふ、春になるまでには借物も返して眞の骸骨にならなくちやなるまい、まあ貸しておいて呉れるうちは借りておかう、ほんにもう長からぬ身だ………

私がかうして居るのを友達は皆「私俄に都いとはしう相成候ひつ。」と言ふ風にとつて居るらしい、現に昨日貞子さんもそんな言いつて居た、人は何と思つたつてかまやしないが武さんと綾子さんにそんな誤解をされては大に迷惑だ、怨まれてると思ふ人の心も嫌だらうが怨んで居ると思はれてる方では猶いやだ、お互に嫌な思を永久續けて居たくないから近い内に二人をよんで綺麗薩張りこの頃の空のやうにすつきりと打解けてしまいたい……戀する人は情死するのが一番だ、生活難やタイムの力で戀が冷ちまつては何にもならない又不如婦見たいに一方が死んで一方が生きて居たら死んだ方の魂は一方が同じ路に來るまでぶら〱して居るだらう、死ぬ身には何の執着も殘したくないものだ。

襖の外に人のけはいがする「おやお目覺かえ。」と母樣が入つて被入る母樣のお聲は情のこもつた透通るやうな實になつかしいお聲だ、母樣のあのお目でじつと見つめられながらあのお聲で諄々と諭されたらどんな惡人でも改心せずには居られまいと思ふ、凛しい佳い目ざしだ、若い内はどんなに美しかつたらう。私は母親似だといふ、成程病氣にならぬ前の目つきは一寸似て居たらうがあのお聲はゆづられなかつた、この頃の樣に人並の聲も出ない樣に成てしまつてはお終だ、「今朝は氣分はどうだい、すこしはいゝの？……あれ何さそんなに人の顔ばかり見て……。」何かなし「親子は一世だ」と考へると、胸が一ぱいになつて來て一寸口がきかれない、暫くして「母樣のお目は實に佳い目付。」とつきもない事をいつて見る「何言つて居るのさ。」と顔では笑つて被入つたが私の心を見ぬかれたのであらう、お目は濕んで見えた。守川さんがお湯を持つて來る。母樣がたゝれた後で無性に涙が突かけて來た、いけない〱此樣な事でどうする。目を閉ぢて無念無想

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の境に入る。

御飯後は氣分がよいので庭めぐりをする、病室の前は黄菊白菊そろ〳〵秋を飾らうとしてゐる、枝折戸の向ふへ行くとポチが飛んで來て無性に尾を振て裾にまつはる、ポインターにポチといふ名は何だか相應しない。柿は枝も撓になつて居る、手をのばすと取れるのだが澁柿故とり手がない。いまに末が根氣よくむいて軒に鬼灯提灯の樣に下げるのだらう、畑にはお芋やら大根やらそろそろほりかへされてある、小松菜やホーレン草は秋ともなく靑々と萠出て居る、と不意に鷄がコ、コ、コ、コ、ケツコヽツコと續けて鳴く、卵を產んだのだらう、柵の側へ行くとバラ〳〵と寄て來る、今產だのは隅のブラマらしい、鷄舍に入つて巣箱をのぞくと擬卵のそばに赤卵がコロンとして居る鷄は何も呉れぬと諦めて餌をつゝいたり水を呑んだり好な事をして居る。玄關の方へ廻ると敷石に靴の音が響いて木立の間から彩の袂がちら〳〵する、立止ると向ふからも三四人ばら〳〵とかけて來る例の御連中だ、妹を始めとして山本さん木村さん、



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

みちるさん、いつも見える筈の大塚さんが今日は居ない。「これは〳〵一騎當千の强者揃。はる〳〵御遠征御苦勞に存ずる、いざ、あれにて御休息あられませう」と言ふと、「いやに元氣だね、昨日貞子さんに大分弱い音をふいたてぢやありませんか？」と山本さんが言ふ「弱い音？あゝ「死」の話ですか、はあ近よつたから近よつたと申しましたばかりそれが弱い音と仰有るなら絞首臺上から飛び下りた先生なんざ强者さね。」と言つてやる「姉さんてば嫌な言を……」と妹が顏をしかめる、と木村さんが「なに此樣勢で死ぬ事があるもんですか、昔から死ぬ〳〵と云ふ人に死んだ例がない。」人を神經衰弱患者と一所にして居る。

病室へづか〳〵と上つてお土産をひらく、母様や守川さんや菊やが運ぶお茶よお菓子よ片端から平げ始める、こんな連中に逢つては、いかなバチルスも退却だらう「今日は大塚さんは如何なさつて？」と問くと山本さんが「あの先生この程よりちと性の惡い風をひきましてな。」といふ、皆ふつと吹出す「風邪？」「風邪です當時流行の魔風戀風といふ奴、なんでも赤坂の方面から吹いて來たのださうです、目下四十度位の熱です……。」「おや〳〵あの方正先生ももう圓滿のお仲間入りをするやうになつたのですかね」といふと「なにまだそこまでは行きません、まづ品行三角位の處でせう。」とすましたものだ「眞實にねえ御容色よく生れて來るのは德なやうなものゝ兎角さういふ災難があつて困りますね。」と母様が嘆息なさると「ところがおばさん、こゝに斯ういふ話が有ります。」と木村さんは咳一咳して「文科に居る先生ですがそれはもう御容色と申し御風采と申し業平朝臣が鯱立して唐琴屋丹次郎が轉倒らうといふので、それが一年某の海水浴場でフツと見初めた仇姿か何かしらないが、何でもある田紳の令孃と懇意になつた、すると例の素人おどかしカントのヘーゲルのとそれは〳〵吹くほどに吐くほどに娘は勿論、その親兄弟まで「ヒアこんなえらい人さあんべいか、今にきつと博士様になるんべい」とはや後光でもさすかのやうに崇め奉つて大喜びで娘にのしをつけた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

處が先生、始めて女にもてたので有頂天になつちまつて、からもうデレ〳〵しちまつたので以前はそれ程劣い成績でもなかつたさうなが續け樣に落第する、いやはや飛だ博士樣さ。」と身振手眞似で人のお臍の宿替をさせる、廣い世の中だそんな人も有るだらう、それにしても大塚さんは湯島詣の蝶吉が殊の外御意にめして居たつけ、兎に角困つたものだ。「まあ藝者買も面白いでせうが熱をあげるやうぢやまだ駄目ね。」といふと「眞の圓滿は眞の方正に一致するが、三角乃至八角位の解脫できない先生が一番困る、然し大塚もやがて眞面目



な人にして見せますよ。」と山本さんが云ふ「いやに先輩ぶつて居るのね。」とみち子さんと妹とがきやつ〳〵と笑ふ。序だから武さんの一件を話してその內二人を連れて來て、と賴む「承知しました、それもよいでせう。」とひどく眞面目になつて何か考へ込む、山本さんは一寸見は浮れやの樣だが心はしまつて居る、なかなか眞摯な人である。「えらい！流石は……だ。」と木村さんは變な身振をする妙な男だ、之から口は女に移つて貞子さんのめかし方だの、芳子さんのピアノが上達したの、此間長唄のお溫習があつたの、と話す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

午後からは妹とみち子さんとに、秋の色種を所望する、妹の聲は佳い聲だ、母様に能く似て居る、みち子さんは時々顔を紅くしながら伏目勝に三味線を彈く。さあ之からは藝壼しとあつて木村さんはデカンショやら米山甚句やら磯節やら洗ひざらい臆面もなく怒鳴る、山本さんは何も知らぬと言つて――君に別れて松原ゆけば松の露やら涙やら――と柄にもない佳い聲で唱ふ、之も皆きゝ納めだらう、ぢやア今度は御主人様の番か、氣が向いて來たから一つ聞かせ終いに何かやりませうと、母様や皆が又熱が出るから……と止めるけれど斯ういふ時樂まなくちや長生してもつまらない、と言つて私は葵の上を彈た、半まで來ると息が切れる手が動かなくなる……と唱つて居て吳れた妹が突然「もう止して頂戴」といふ「如何して？」と問くと『凄くつて堪らなくなつた。』と言ふ。皆の顔を見るとどれも眞面目顔。

床の間の紅薔薇が又ばら〳〵とくづれた。

雲の峰

白百合

◎夏の風

青桐の葉ひろごりてふしごゝちよき數竿の竹、せみのこゑも納まりてはやともされし岐阜提灯、青すだれめぐらして床に石菖の青々しさ、文机のもと一輪ざしに、河原撫子さぞやとしのばるゝを、主の君山家集などひもとき、汀の柳のゆれたると見るほどに、白ばらのかにまそひて螢もともに吹き入れば、ともし火消えてうす闇に青き火一つたゞよふ。

◎蟲ぼし

雲は雷鳴におどろきて何處にか去り、殘るはきびしき暑さばかり。家例とてはこびいづる古今の書、こなたに金ぶち、あなたに草紙諸本漢籍など、失せ給ひし祖父君のと世にあられし頃の事思ひいでつ、さては幼なき頃の日記など見出しては顔をやく如き日も何のその、縁にぴたと坐りて幼なき昔にかへり、母の乳房もさぐりたき心地。

◎田舎家

植ごみに風はよばれど、あたりひらけし小町田に、早苗のびて幾寸、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

にほやかなる清風は、星のみそらより通ふ。
今かへりしばかりの夫婦、留守居の老婆がたてし湯に入りて汗を流し
まて見る人もあらねば茄子をさかなに酒くみ交はし、麦飯くひつゝ、
ありし事ども何くれと語りいでゝ、みぢかき夜は更やすし。

◎行水

前の小川に星かげおちて、月あはく柳にかゝる頃、背戸に月桜のかこひして、衣を枝にあつけて湯なけに白き肌をまかせば、心なき虫も しばし其の音をとゞむべし。

◎避暑

おうば日がさてそだちし姫君も此處ばかりはみえもなく、海水着にむぎわら帽、日盛りをなまぬるき潮にひたりながら、かすむ山々、浮ぶ島島を波にゆられつゝながめたまへば暑さもなからむ。さては松原さまよへば、きりぎりす鈴虫の、足音におどろきてはたと音をとゞめ、なほ歩めばスラ〳〵ととびたつなど、都になきさまなり。

◎虹

緑かげこき植こみに、うたゝれ心地ようハンモックにゆれ〳〵て、裳裾もみだれがちなる夕立の、沖の島より次へ〳〵と走りて見るから涼しげなるに、ぬれてかへる白帆真帆、たゞ繪のごとき海原に、かけ渡したる五色のみ橋、これよりや渡りますらん天つみつかひ。渡らば消えん橋のけた、彩どる色もやゝさめて、夕映の空にうるはしう見る目まばゆくきら〳〵と、寄せては返す銀波金波。

◎月見ぐさ

うち水のあとにほやかに、百合の香ほのかに流れて、庭の燈籠の苔むせるあたり、みそらの星のおちこしか、亂れさきたる月見ぐさ、銀河のながれにまがふ風の、音やさしく香をゆるがせてゆめ心地となるとき、すき衣のくしき少女の、流るゝ髪に月見草の冠、弦月にもすそかくしてたてる姿西の洋人が技術に成りし神の子に彷彿として、翠色の蛾、大なる翼をふりつゝまひ下りしよと見しが、少女の姿は何處にか……。
あゝそは神か魔か、月見草の精なるか。

◎くゐな

やり水の音チラ〳〵と、夏草のうつくしう咲き出でゝ暗に香をはく夕まぐれに、玉琴の音ひくう植こみのあたりよりもれて、風鈴の音涼やかなる住居に、鈴虫のかなでそめたる歌ごゑに、琴の音はたと絶えて、片割月はすだれごしに入りぬ。
しばしきゝとるさましたるが、たゞしづかに水のしたゝる音のみ。
折しもホと〳〵と扉たゝく音、下女もともに足音もみだれがちに走り出でしが、月のみ前の小川にさえて。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

私の豪奢生活

世間の人は能く儘ならぬ浮世とか申します。私には一向その譯が分りませぬが、思ふにその人々の生活の有樣が窮屈で、心が始終不安だから、そんな弱音を吹くのでせう。私なんかは、成丈け氣樂に、成丈榮耀に、而して成丈け趣味多く、一生を過したい所存でムいます。長命に尤も有害なのは、兎角齷齪することですから、私などは力めて樂天的な生活をしてゐます。衣服は多く絹物を用ゐます。從て一寸外へ出るにも、俥は附屬物になつて居る次第で。食事は洋食も取りますが、概れ手の凝つた和食です。

へイ、裝飾品ですか、隨分奢りますよ。此間も白牡丹で當用の指輪だと云ふて、夫に強請つて二十二金牡丹彫ルビーを購ひました。今使用して居ます帶止も、昨日丸嘉の番頭が、最新流行だと言つて持て來ましたものです。この時計なども、天賞堂で買ひました。相當な價格のある物ですが、近頃何だかそれも、嫌になつたので、一つお強請りするかんがへです。實際時計は讀で字の如く、時間さへ判明すりや、それで事は足るのですけれど、矢張實用丈けぢや物足りません。ツイ〳〵餘計なものが欲しうなるのです三越や、大丸などゝも心安くなつて困りますよ。先日も子供を連れて、新柄陳列會を見物しましたら二時間ばかりの間に百圓餘りは、飛んで仕舞ひました。化粧にも隨分執心な方ですよ。只今ですと、朝起きるのが、先づ九時、其れから一時間内外は、屹度お化粧に費します。白粉は主に御園を使ひます。化粧水はレート、香油はチエリー等を試みて居ます。入浴等にも誠に多くの時間を棄てます。石鹼は墺國タジクのリスリン入石鹼、日新館のベーアス石鹼などを用ゐて居ります。

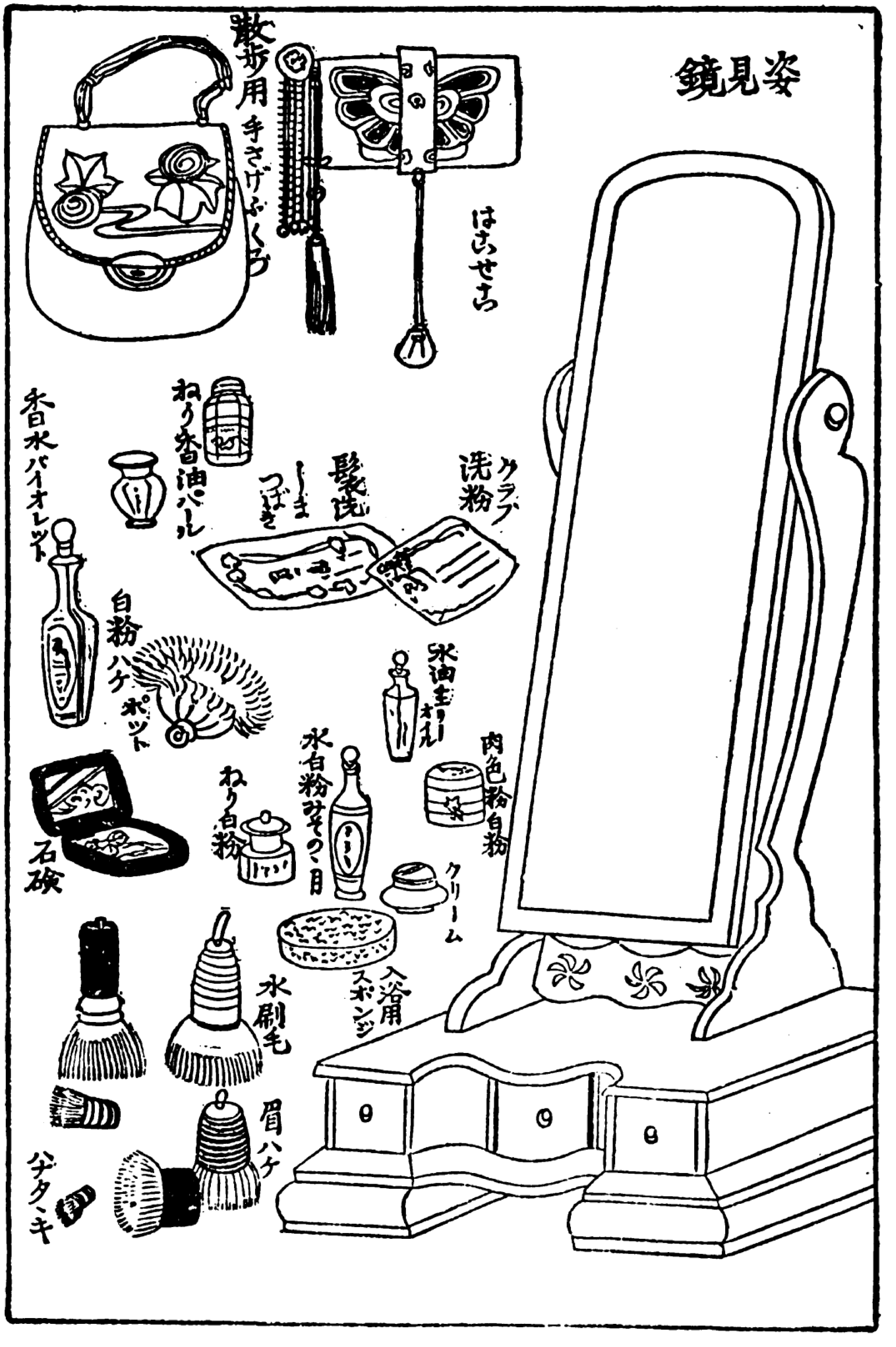
次に夫も私も至つてその讀書家ぢやありませんが、而も愛書家の方で、小さい建物ですが、眞に圖書館もムいます。先づ普通人口に膾炙した書籍でしたら、備付けて置きます、新刊書が多いものですから、隨分お金錢が要りますよ。その傍に音樂室が在りまして、オルガン、ピアノ、ヴイオリン、手風琴其他の樂器が整頓してあります。憂欝に趣く時は、玆へ來て精神の慰安を需めるのであります。庭前の築山なども、莫大な金が費れてムいます。眞個に、私共は何一つ仕事と言ふて、爲るのではなし、悉皆、下女委せにしてあります。旦那樣の銀行へお出ましになつた跡は、化粧道樂、書物道樂乃至樂器道樂に耽つて居れば宜しいのです。それでも、未だ何だか不滿足な感がして仕樣がないから。日曜毎には必ず歌舞伎座あたりへ出かけます。

また大磯の方に別莊がありますから、夏は大抵參つて居ります。

尙攝生を重んずる爲めに私は次の用意をして居ります。

△消化劑としてタカヂヤスターゼ、苦味丁幾△常用劑として肝油、ペプトン、ソマトーセ、次亞燐。△皮膚保護劑としてペルツ氏水、樟腦軟膏。△消毒劑として生石炭、石灰乳、二％石炭酸水。△器械は吸入器、驗溫器、牛乳檢查器、同消毒器、體量計算器。(すみれ女史)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN



海濱の趣味生活

松風料理

玉簾

△今日は曇天、網魚澤山

一村雨のすぎ行けば暑さはとみに忘られて燃ゆるが如き濱の眞砂はシットリと露しげく磯の香にもる夕風は浴衣の袖をかろく拂つた、水淺黄地に蘆と萱とを書いた浪花簾をすかして軒につるした葱ぶ草が涼風にユラユラとゆれると露の白玉がほろ〳〵と一と二たしづくこぼるゝ嬉しさ。やがて漁する舟も網を納めて各々歸途につくのであらうゆるやかなギーッ〳〵との艪の音や調子合する何やら節が又なく朗しく聞える、晴碧なる海面、黒み行く空の色、白帆全く影を收めてかくて靜かに暮れてぞ行く。折から涼みがてらの御散歩にとて淸水様久々で御見え遊ばすお互に親密な仲とて、花むしろ敷いた縁にと御座がきまる、燈火はわざと遠ざけて秋草に水を書いた岐阜提灯をともした。何かなきやと程遠からぬ所まで人を走らせば折よくも夕網でとれた赤鯛二尾ピン〳〵はねてゐる、うれしくて取りあへず二三の馳走の支度にかゝる。

(一)鯛の洗ひ　細〳〵　ワサビ　(二)茄子料理

(三)胡瓜のくづ引

(一)は生きながら三枚におろし手早く皮を引き薄く薄く庖刀し冷水で四五度さらす其内に肉はチリ〳〵と縮れ上るなり(生きたる魚にあらざれば洗ひには不可)皿の上にガラス簾を置きサッと今の肉を並べミツの細々になしたるものと防風、ワサビを添へて出す、

(二)は茄子を厚三分位に切りながら水に放し其水に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

少量の鹽を加へて一寸待ち。茄子を引上げ水氣を取り別に玉子の黄味だけへ鹽胡椒を入れかき交ぜメリケン粉を適度に入れよく混せ合し今の茄子を入れ衣としバターを引きたるフライパンでフライするソースを添へて出す。

(三)は胡瓜の種と皮を去り三分位の厚さに切しばらく湯煮をして楊子がスーッと通るを程度としザルに上げ水氣をきつて普通のだし汁を少し取り醤油砂糖で味をつけ其中に胡瓜を入れ色の付くまで煮る、而して胡瓜を皿に盛り殘りの汁に葛をとき入れそれを胡瓜の上からかけて出す。



手輕るに出來たのでガラス鉢に水蜜桃をうづ高く盛つてビールを添へて出した「大變手間どつたね定めし珍しい御ちそうが出來たらう」なんて惡まれ口を仰つしやる、いつのまにか軒につるした蟲籠の内から可愛らし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い聲で松蟲がなき出したと思ふと向ふの山の端から黃金のやうな明月がスーッとお上りになつたビールの泡雪、月が散つて金絲のさゞめくやう。

△朝の散歩、朝顏を見る

例の如くそゞろ歩きせんと東天の白む頃臥戸を出で中庭に下り立てば日頃めでたる甲斐ありて大輪の朝顏瑠璃の狂ひ咲きが一りん露を含める様得も言はれず鉢抱へて良人の御枕邊へおく。今朝は例によりパンの朝飯拵へ方は

まづ食パンを兩面共遠火で燒き五分位に切りて皿に盛り、別にバターを鍋にとかしメリケン粉を少々入れていため牛乳を注ぎ入れ鹽と砂糖を入れ煮る一寸火からおろして玉子を入れ手早く攪きませるなり、それを今のパンの上からかけて出す。

亦是にコヽアに牛乳と玉子砂糖を加味せしを添へて出す、

食事を終つて後片づけをしてゐると婆さんが松茸を賣りに來たもしや毒になつてはと考へてゐると良人は今頃のは大に藥になるから買へと仰になるので有丈求めた聞けば先頃の霖雨で出來たものであるさうな、秋のものより香が弱い、魚やが勢よく入つて來て大きな鯛と鯵をもつて來た、早速晝食に用ゐる

(一)鯛のゴマ汁飯　(二)燒松茸　(三)鯛のソース煮

(一)は鯛の肉を刺身よりも稍厚く切り置き、別に黒胡麻を炒つて摺り鉢でよく〳〵すり醬油味醂砂糖を適宜に入れドロ〳〵となし其中へ今の鯛の身を入れ炊きたての御飯にかけて出す、

(二)は松茸を丸のまゝ鹽水で洗ひよく水氣を切り遠火で燒く、而して根の所から細く割いてお醬油をかけ熱き内に食す、

(三)は鯛を刺身より厚目に切りサツと一鹽をなしメリケン粉をまぜて玉子でくるみパン粉の中に入れバターをとかしたフライ鍋でフライして置き一方にバター一杯にメリケン粉一杯を痛めて少々鹽を加へ、鯛を三枚におろした時の頭と骨から取つたスープを今のパ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

タメヲケン粉の中に入れ牛乳を少しばかり入れドロドロになす先程の鯛の身のフライせるをスープに入れ一寸煮て鍋をおろし皿にもりて出す、

照りはたゝく日の真中は蘆の葉さへも動かず涼しい夕べを待つ外はない冷たいものでも拵へやうと左の品を選ぶ

(一)スポンジゼリー　(二)チョコレートゼリ、

(三)雪の花

(一)はゼラチンをとかし牛乳へ砂糖を加味せる中に入れゼリー形に入れ冷し半ば固まつた時に玉子をよく泡立てゝ入れよくまぜ全く固める

(二)はチョコレートを庖丁でけづり砂糖を加へ牛乳を注ぎ煮立てたる中にゼラチンを入れ前の如く固めるなり

(三)はまづ鍋に八分目程水を入れ熱湯となし置き別に上等の葛粉を牛乳でとき匙にて今の熱湯中にすくひては入れ〳〵するなり重さならぬ様注意すそして色が變れば煮えたしるし故匙にてすくひ上げ布の上に並べ水氣を切つて置く匙にて熱湯に入るゝ時葛粉のとき汁はパッと湯中に散る如くなるもそれがためチリ〳〵と縮みて恰かも雪の片を見る如し偖て皆出來上りたれば白き皿にもりブドー酒に少々砂糖を加味したものをかけフオークを添へる。こんな事をしてゐると四時になつた風呂に火を入れる亦た夕食の支度せねばならぬ、

(一)鳥のすり立汁　(二)鯵の酢煮　(三)鯵のタデ酢

(四)トマト　(五)南瓜切むし

(一)は鳥の最も柔い肉に少し塩を入れ湯煮をなし全く湯だりたらば引上げ細々にして鉢に入れてよくよく摺る其中へ御飯をほんの少し入れ摺り交せ先程の湯出汁に入れ醤油、味醂を適度に入れドロ〳〵になし椀に盛つて食す、

(二)は鯵を一寸素焼にして置き酢味醂醤油で煮るなりワサビ添へて出す

(三)は今の如く素焼になし置き別にタデの葉を擂鉢に入れする其中へ酢と味醂と醤油とを適宜に入れドロドロにし鯵にかけて出す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(四)トマトを一寸湯がき指で皮をむき薄くきつて皿に並べ砂糖を少々混じたブドー酒をかけて出す

(五)は南瓜を程よき形に切り蒸しにかける、よくむせたれば出し置き別に鯵を湯出身ばかりを摺鉢でよくすり甘味噌の白きを裏ごしにかけたるものを入れ醬油砂糖味醂を入れドロ〳〵になし今の南瓜にぬりて皿に盛る、

△蟬の諸聲

けさは早く臥戸を出で時間をはかつて中庭の草むしりをはじめた素足に朝露踏む心地よさやがて蟬がなき出した。けふは左の樣な献立にする、

(一)鯵のときわ燒　(二)ハモ照煮　(三)鳥吸物

附り筆生姜

(四)梨の酒煮　(五)茄子の田樂

(一)は黑胡麻を炒り摺鉢にてよく〳〵すり砂糖、ミリン醬油を入れドロ〳〵によくねり置き鯵を素燒となし熱のさめぬ内(今の黑胡麻の中に甘味噌の裏ごししたるを交せよく〳〵ねり置く)此味噌をぬり皿にもる、筆生姜付けて出す。

(二)ハモは大に骨の多きものなれば骨切りの上手下手によりて大に差あり先づ開きてより一分毎に庖刀を身の方から深く皮に屆く迄切り目を付けるなりかくすれば誠に美味しきものなり終りてより三寸位の長さに切り先づ素燒としてから味醂、醬油、砂糖を煮立てたる中にて色の付くまで煮る、

(三)は鳥の肉を普通より稍大切にきり葛粉をマブして置く、別に普通のだし汁を作り煮立てたる中に今の鳥肉をサツと落す葛はふくれて肉の何ものかを忘るゝやうになればよし椀に盛る時少しのワサビを椀底に置く。

(四)　梨の皮を去り五分の厚さに輪切りとし更に四角に切り鍋に入れ、味醂、酢、砂糖にて煮つめる(扇火で)皿に盛りてより更に砂糖をサラ〳〵と打ふりて出す、

(五)は茄子の皮をむき三分の輪切にす、しばらくア

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

クをぬくため清水に放しおく、水氣を切つて串にさし火にかけ燒きながら筆にて胡麻油をぬり。少しこげる位にやきてより山椒ミソを厚くぬり皿にもりて出す、

山椒ミソの作方は甘味噌をすり山椒を入れよくすり味リン砂糖を加へ裏ごしにかけたるもの。

△今日は雨催、大層涼し



けふは大變むしあつく一雨欲しやと思ふ位やがて一天俄に黒雲起りみる〳〵廣がり一陣の涼風サツと木々の若葉をゆるがすと見るまにバラ〳〵と音づれ續いてザアーツと篠つく雨實に何とも云はれぬいゝ心地見る見る庭面は池のやうになつた、扨てけふの献立は左の如く定める

（一）茄子餡肉　（二）南瓜フライ　（三）海老の酢もの

（四）ハムオムレツ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

(一)は茄子をタテ半分に割り中をくり抜きて水に放ら置き別に鳥肉をミンチになし味醂醤油砂糖にて煮上げたるを今の茄子の中につめこみ元の形に合せ、湯出た干瓢で結び静かに再び味醂、醤油砂糖にて煮るなり

(二)は南瓜を薄く庖丁しメリケン粉にマブし玉子に入れ次にパン粉にくるみバタにてフライする。ソース添へて出すなり

(三)は伊勢海老を湯出肉ばかりを取出し小さくむしりて甘酢で食す

(四)はハムを湯出てより三分の四角に切り置き玉子を泡立て塩胡椒を加味したる中に今のハムを入れバタでフライするなり、

雨は名残りなく晴れた夜に入ると清い〳〵明月は庭の松が枝にかゝつて青葉に宿つた白露がことさらキラキラと光つて見える、久々で琴をだしてそして松蟲をしらべた曲が終ると優しい聲がする驚いて庭の外を見ると園田様御夫婦が立つゐてらつしやる「マアお人の悪いいつ御出で遊ばして」といへばニコ〳〵笑つてゐらつしやる、それから座敷はにぎやかになつた臺灣から戴いたとていと美しいバナヽを澤山頂戴した、けふはあやにく何も御馳走するものがないので先日拵へて置いて苺のジャムを用ゐようとカステーラを切りてはジャムをはさみ即座のジャム入カステーラが出來たそれから今朝から冷して置いたコヽアがあるからそれも出さう冷水にお砂糖を入れレモンを一寸たらしたのとブドー酒と戴いたバナヽとをそれでもマア四色ですワ御めん遊ばせよと奥様と共々座敷にはこんだ樂しく九時半まで御遊び下すつた、苺のジャムの作り方は

生の苺へザラメを苺の量位かけて二三時間置きザラメのとけた頃静かに液を掬ひ取り身を鍋へ移し弱火で一時間程煮るなるべく形がくづれぬやうにします苺から出た液は別にとつて置きゼリーでも拵へる時に用ゐます

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新式和歌作法（一）

塚越停春



△和歌の特色

和歌、こゝでは普通の稱呼に從つて、所謂三十一文字の詩を指して和歌となすのであるが、其和歌は、何うして旨く作ることが出來る歟。試に拙ない研究の一端を記して見やう、其れには先づ和歌の特色を一言する必要がある。第一に

△和歌は詩である

和歌の特色の一は、詩であることである。決して三十一字から成る散文ではない。三十一字を排列すれば其れが即ち和歌であると思ふは全く誤りで、三十一字を排列しても散文もあれば和歌もあるから、和歌には必ず和歌たるの要件を具へて居なければ成らないのである。

和歌の要件が、已に詩である以上は、必ず詩美を具へたものでなければならない。其處で、詩美とは何物である乎と云ふことが、一つの問題に成つて來る。

△詩美の要素

詩美とは何物である乎。かい摘まんで之を言へば、第一に、人の美感を挑發するに足るべき詩想を具へて居るものでなければ成らない。第二に、人の美感を挑發するに足るべき詩形を具へて居るものでなければ成らない。第三に、その詩想と詩形とを、最も恰當に調和したものでなければ成らない。

而して、詩想と云ふのは、手短かに言へば想美の事であり、詩形と云ふのは、詞美の事であるから、和歌

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

は必ず總ての詩と同じく、想美と詞美と其調和とを具へなければ、和歌でないのである。之を圖にすれば、

和歌（詩の一體）要素の一――詩美――｛想美／詞美｝調和

と云ふ如きものに成る。

これはひとり吾輩の説のみでなく、香川景樹なども、『歌はおもふまゝをばのぶるものに侍れど、ありのまゝをいふものにはあらず』と言ふて居る。近松巢林子が『藝と云ふものは、實と虛との皮膜の間にあるものなり』と云ふたのも、意味では同じ事である。ありのまゝをいふものでないとか、實と虛との皮膜の間にあるとか、言ふ處は同じでないが、何れも詩と散文との區別を説いたもので、ありのまゝをいひ、實を實のまゝ書くは散文、ありのまゝから詩的事實を擇りぬいたり、若くは之を詩的に想化したりして書くのが詩と云ふことを示したものらしい。實と虛との皮膜の間に在ると云ふも、矢張り詩的事實を擇りぬいたり、之を詩的に想化したりすることを指すに外ならない。詰る處、詩と散文との區別は、詩美――想美、詞美、及び其調和――を有して居ると居ないとの相違で、和歌も詩であるから、詩美を有して居なくては和歌ではないと云ふことに成る。然し景樹は、詩美の中でも就中詞美に重きを置いたものらしく、時に或は

景樹常に理りはよし聞えずとも、しらぶべしと申す也。ことわりなくて調のあるは理りのなき歌なり、少しも歌といふ名は恥る事なし。今の樂のやうなものなり。ことわりたゞば理りのある歌にて、最上の事なり。此うらに何ほどおもしろき理り有りても、調なければ歌にてはなきなり。歌といふは調の名にて、理りの名にてはなきが故也

とさへ言ふて居る。如何にも奇拔な主張で、景樹自身、さては桂園派歌人の力を用ひる處が、此の一語で分り、其歌の特長も亦此の一語で察せられるものゝ、其實これは少しく言ひ過ぎて居るらしい。理りがなくて調べのあるのは音樂で、詩歌ではないのである。若し理りがなくとも調べさへあれば歌と云ふことに成れば、詩歌と音樂との區別は全く混同され、詩歌に想美が左程必要でない乎の樣に誤解される恐れがある。が、景樹もさう云ふ考へを以て言ふたではなく、兎角作者が理

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

窟に落ち易い處から、之を矯める爲めに、此の矯激の語をなしたものであらう。

其から此の詩美の兩要素たる想美と詞美は、之を分析すれば、いろ〳〵の形式があり、いろ〳〵の特色があり、いろ〳〵の種類があるが、便宜上和歌の作法を攻究する際に、之を擧げることにして、こゝには姑く之を措く。

△詩美の種類

次には詩美の種類であるが、是は詩美の發揮される場合に、之に對する觀察點の如何に由て、いろ〳〵に區別することが出來る。先づ其重なるものを擧れば、

- 詩美
  - 資材上よりの區別
    - 人事美。人情美。
    - 自然美。風景美。
  - 發揮手段上よりの區別
    - 主觀美。理想美。
    - 客觀美。寫實美。
  - 性質上の區別、一、(分量力量上の區別)
    - 男性美。積極美。
    - 女性美。消極美。
  - 性質上の區別、二、(動かすべき情緒上の區別)
    - 樂觀美。光明美。
    - 悲觀美。幽暗美。

と云ふ如きもので、此他中性美に屬するものもある。

さうして此等の詩美を發揮するには、何れも其れに相應した詩格があるのである。

△人事美と自然美

和歌が有する詩美を、其資材上から區別すると、重なるものは人事美及自然美とであるが、更に一歩を進めて言へば、人事美と云ふのは主として人情美で、自然美と云ふのは主として風景美である。概して言へば、神祇釋敎戀無常の類は人事美を歌ふたもの、四季の歌は風景美を歌ふたものと見て、ほゞ差支はない。例へば

忍ぶれど色に出にけり、我戀は物や思ふと人の問ふまで。(平兼盛)

もの〻ふの矢並つくろふこての上に、あられたばしる那須の篠原。(源實朝)

この世をは我世とぞ思ふ、望月のかけたることのなしと思へば。(藤原道長)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

うたゝねに戀しき人を見てしより、夢てふものはたのみそめてき。（小野小町）

天地の始はありてをはりなきわが君か代になにをたとへん。（松波遊山）

ゆきめぐるうき世の雲の村しぐれ、つひにはぬれぬ人なかりけり。（香川景樹）

などは、人事美を歌ふたもので、其中最初のは人事美を主觀的に歌ひ、次は客觀的に歌ひ、第三は人事美中の積極美を歌ひ、第四は消極美、第五は樂觀美、第六は哀觀美を歌ふて居る。其から

櫻がり雨は降り來ぬ、おなじくは濡るとも花のかげにかくれむ。（詠者不詳）

播磨潟追門の入日のするはれて、空よりかへる沖のつりふね。（賀茂眞淵）

朝日影豐さかのぼる日の本のやまとのくにの春のあけぼの。（佐久良東雄）

妹と出てわかなつみにし岡さきの垣根こひしき春雨ぞふる。（香川景樹）

見渡せば柳櫻をこきませて、都ぞ春のにしきなりけり。（素性）

山寺の春の夕暮來て見れば、入相の鐘に花ぞ散りける。（能因）

と云ふ如きは、即ち自然美を歌ふたもので、中にも濡るとも花の蔭に隱れむと云ふは、之を主觀的に歌ひ、播磨潟の什は之を客觀的に歌つて居る。日の本の春の曙の篇になると、言ふまでもなく男性的で、春雨の作は女性的、素性の都の春を歌つたものは樂觀的、能因の山寺の落花を歌つたものは哀觀的である。

△主觀美と客觀美

次に和歌が有する詩美を、發揮する手段の上から區別すれば、主觀美即ち作者が詩美に對して主人公の位置で發揮したものと、客觀美即ち第三者の位置で發揮したものとの二に成る。然し主觀美の方は、作者が主人公の位置に居て之を發揮するから、やがて理想美が發揮され、客觀美の方は、作者が第三者の位置に立て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

之を發揮するから、やがて寫實美が發揮されるのである。

其から此の主觀美には、人事的もあれば、自然的もあり、男性的もあれば、女性的もあり、樂觀的もあれば、哀觀的もある。客觀美の方も同樣である。

思ふこといはでたゞにぞやみぬべきわれとしとしき人しなければ。（在原業平）

心なき身にもあはれはしられけり、鴫立澤のあきのゆふぐれ。（西行法師）

山は裂け海はあせなん世なりとも、君に二心われあらめやも。（源實朝）

いつはりのなき世なりせば、いかばかり人の言の葉うれしからまし。（讀人不知）

ねがはくは花の下にて春死なんそのきさらぎの望月のころ。（西行法師）

男の子やは樂しかるべき、萬代に語り繼ぐべき名は立たずして。（山上憶良）

此等は何れも主觀的に詩美を發揮して居る。然し其發揮した詩美は必ずしも一樣でなく、思ふ事言はで止みなんと云ふは、人事美を主觀的に發揮して居り、鴫立澤の秋の夕暮の什は、自然美を主觀的に發揮して居る。山は裂けなど叫び出た處は如何にも豪宕で、何う見ても男性的であるに反し、いつはりのなきやと歌ふものに成ると、何となく思想が受け身で、やさしく、竟に女性的であることを免れない。花の下にて春死なんの篇は、無常を詠だ歌で、元來哀觀的である筈であるに拘はらず、其意想も口氣も却て樂觀的で、之を樂觀美を主觀的に發揮したものと見て、殆ど差支ない。錦の直垂を着て花々しく討死するを本懷名譽と心得て居る武士が、同じ心事を展じて高踏詩人の死に對する希望を歌ふたので、其死には名譽があり、裝飾がある。之に反して憶良の歌は、悲壯淋漓、慷慨已む能はずと云ふ樣な姿で、同じ死に關係ある歌ながら、此方は、どちらかと云へば哀觀的である。

さすさでのさても危き世なりとは、もれてや魚の思ひ知る覽。（福田行誠）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

一葉散る柳の絲のたえまより、影さへほそき秋の三日月。(某)

信濃なるすがのあら野を飛ぶ鷲の翅もたわに吹嵐かな。(賀茂眞淵)

久かたの月のかつらも、秋はなほもみぢすればやてりまさるらん。(壬生忠岑)

さくら散る木の下風は寒からで、空に知られぬ雪ぞふりける。(紀貫之)

冬の夜の月かげふけてひくしほの遠つひかたに千鳥鳴くなり。(小澤蘆庵)

此等は共に客觀的に詩美を發揮したもので、其中さすさでの什は、人事美を客觀的に發揮して居り、秋の三日月の篇は、自然美を同じく客觀的に發揮して居る。すがの荒野の嵐の作は、雄壯なる男性美を矢張り客觀的に發揮し、月の桂の詠は、優麗な女性美を亦客觀的に發揮し、木の下風の吟は、落花を詠みながらも、繽紛として雪の如くである處を面白いと思ふた口氣が見え、何となく樂觀的であるが、千鳥の歌に成ると、如何にも物淋しげで、結局哀觀的たるを免れない。

△男性美と女性美

次が男性美と女性美。

男性美又積極美とも謂ふべきは、詩美即ち詩想詩詞の、上へ高さがあり、横へ廣さがあり、奥へ深さがあり、下へ重さがあつて、動くに力のあるものを指す。崇高とか、雄大とか、壯麗とか、豪放とか、沈痛とか云ふ類が、之に屬する。是亦人事美を男性的に發揮したものがあり、自然美、主觀美、客觀美、さては樂觀美、哀觀美を、男性的に發揮したものもある。例へば左の如き類が其である。

奥山のおどろが下もふみわけて道ある世ぞと人に知らせん。(鳥羽天皇)　――人事的男性美を歌ひたるもの。

しら雲のくづれて落る心地して、岩かどゆする峰の大瀧。(井上文雄)　――自然的男性美を歌ひたるもの。

ものゝふの上矢のかぶら、一すぢにおもふこゝろは神ぞしるらむ。(菊池武時)　主觀的男性美を歌ひたるもの。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

播磨路や夕霧はれて久かたの月おしてけり、いなみ野の原。（賀茂眞淵）――客観的男性美を歌ひたるもの。

箱根路を我越え來れば、伊豆の海や沖の小島に波のよる見ゆ。（詠者不詳）――樂観的男性美を歌ひたるもの。

何かおもふ、何かはなげく、世の中はたゞ朝がほの花の上の露。（詠者不知）――哀観的男性美を歌ひたるもの。

然は女性美又は消極美とも稱すべきものはと云ふに、此も矢張り人事的のものがあり、自然的のものがあり、主観的、客観的、樂観的、哀観的のものもある。而して此は男性美を歌ふものとは反對で、専ら優しい性質の詩美を發揮するのが其特色である。即ち優美とか、清麗とか、婉絢とか、淒切とか、閑寂とか、幽雅とか、云ふ樣な、細みがあり、哀れげのあるものが、此種に屬する。

歸るさのものとや人のながむらむ、まつ夜ながらのあり明の月。（藤原定家）―人事的女性美を歌ひたるもの。

春あさみみぎはの氷むすぶともとくともわかぬ朝かぜぞふく。（小出粲）――自然的女性美を歌ひたるもの。

思ひやれ、まだ鶴の子のおひ先を千代もといのる袖のせばさを。（藤三位親子）―主観的女性的を歌ひたるもの。

春の夜の夢の浮はしとだえしてみねにわかるゝよこ雲の空。（藤原定家）――客観的女性美を歌ひたるもの。

宿かさぬ人のつらさをなさけにて、朧月夜のはなのしたぶし。（太田垣蓮月）―樂観的女性美を歌ひたるもの。

朝顔のやゝ咲出し露の上にしばしはやどる有明の月。（加藤千蔭）――哀観的女性美を歌ひたるもの。

△樂観美と哀観美

人事百端、一々數ふるに暇のない程であるが、詰る處は、地上に晝夜のある如く、此の社會には、光明の半面と幽暗の半面とが有る。其光明の半面は人の樂観する處、幽暗の半面は人の哀観する處で、人の樂観する處に在る詩美が即ち光明美である。人の哀観する處に在る詩美が即ち幽暗美である。

其れから樂観美にも、人事的があれば、自然的があり、主観的があれば、客観的もある。男性的もあれば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女性的もあるのである。左に其一例を擧げれば、

世の中にうれしきものはおもふどち花見てくらす心なりけり。（平兼盛）――人事的樂觀美を歌ひたるもの。

駒とめてなほ水かはむ山吹の花の露そふ井手の玉川。（藤原俊成）――自然的樂觀美を歌ひたるもの。

よの中によし野の山の花ばかりきゝしにまさる物なかりけり。（賀茂眞淵）――主觀的樂觀美を歌ひたるもの。

ふじのねのふもとをいでゝゆく雲は足がら山の峰にかゝれり。（賀茂眞淵）――客觀的樂觀美を歌ひたるもの。

さしいづる此日の本の光よりこまもろこしも春やしるらむ。（本居宣長）――男性的樂觀美を歌ひたるもの。

一すぢの霞なびきて竹しばのうらしづかなる春のあけぼの。（松波資之）――女性的樂觀美を歌ひたるもの。

○○○哀觀美の方も同樣で、人事的があり、自然的があり、主觀的、客觀的、男性的、女性的がある。

ながらなる穫吹く風の寒き夜に吾背の君は獨寢らむ。（譽謝女王）――人事的哀觀美を歌ひたるもの。

しきみつむ袖の上にも花ぞちる櫻がりすと人や見るらむ。（福田行誡）――自然的哀觀美を歌ひたるもの。

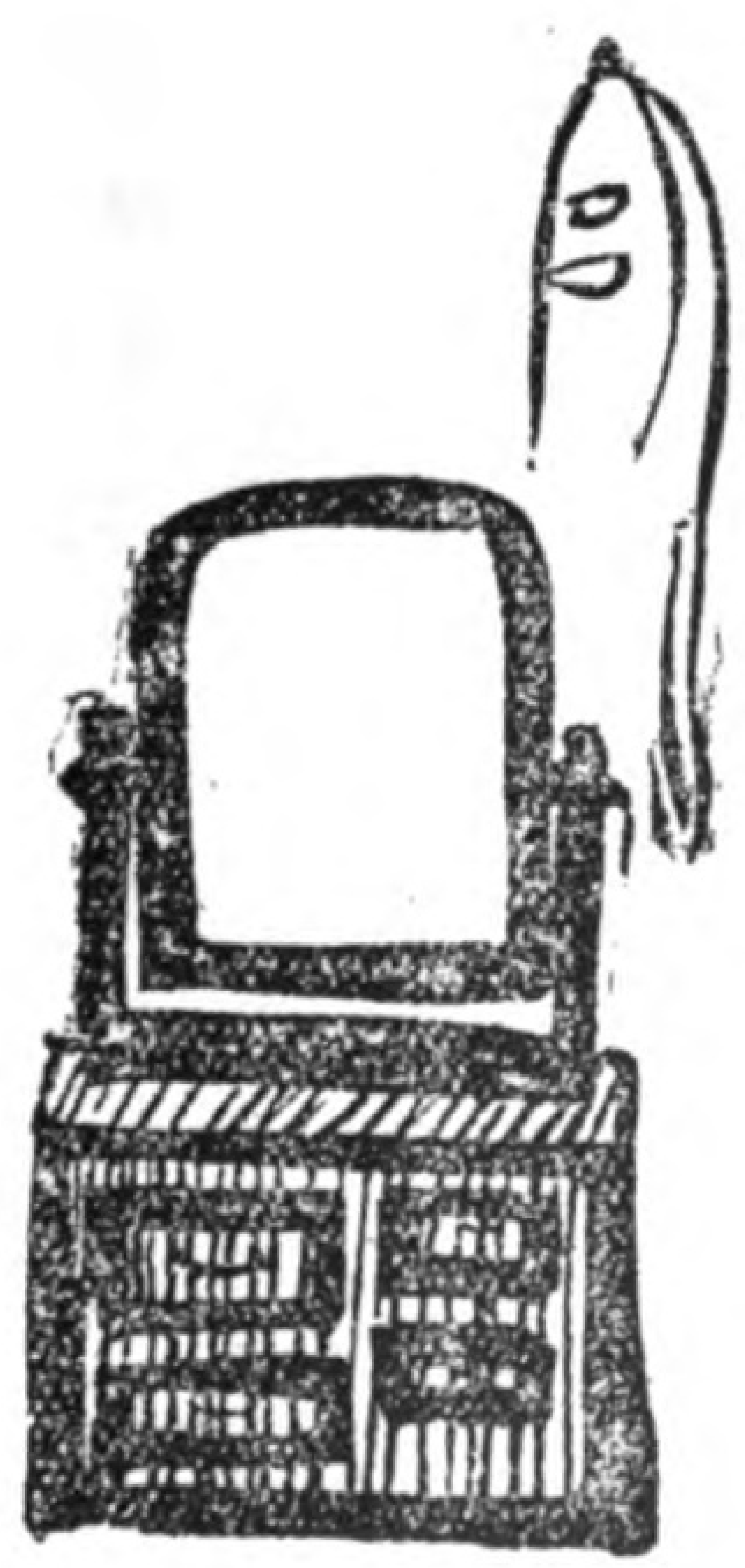
世の中を何に譬へむ、朝開き漕ぎ行く舟の痕のなきごと。（沙彌滿誓）――主觀的哀觀美を歌ひたるもの。

身をよする尾花がすゑの秋風に、ゆられてなくか鈴蟲の聲。（太田垣蓮月）――客觀的哀觀美を歌ひたるもの。

此世にし樂しくあらば、來む世には蟲に鳥にも吾は成りなむ。（大伴旅人）――男性的哀觀美を歌ひたるもの。

來むといふに來ぬ時あるを、來じといふを來むとは待たじ、來じといふものを。（大伴郎女）

――女性的哀觀美を歌ひたるもの。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏座敷



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

夏の衛生

冬は體溫を保つに必要な脂肪分を多く取り、夏はその反對に成べく體內の燃燒作用を少なからしむる樣淡白な物を取るのが天然に適つてゐるかも知れない、併し日本の如き溫帶の地にあつては一概に淡泊な野菜類のみを取つて肉食をしないのは反つて身體の營養上不利益である只冬に比して脂肪分を減らすのは暑さを凌ぐ上に幾分の効はあらう。

△氷とラムネ

夏は自然氷を用ゐるのでその爲め胃病を惹起すとは免かれない、米國では夏季氷を濫用して爲めに胃病に罹るものが多いさうだが、日本でも年々氷を用ふる量が多く成つてそれを濫用するの弊が多いやうである、氷は極少量の片を口に入れて舌で溶かして少しづゝ嚥みこむ時はさほど害もないけれども、氷を雪の樣に碎いてがり〳〵食ふのは非常に害がある、それ故每年夏を過ぎて秋の初めになると胃病を患ふるものが澤山に出來るやうである、又サイダやラムネの如き飲料も淸涼劑として少しづゝ用ふるのはよいが、水を飲むやうにしてそればかり用ふるのはよろしくない、且つそれ等の中には隨分如何はしい品もあるから深く注意をしなければならぬ。

△子供に與へる飲料

世間では夜寢る前に子供をつれて、氷屋へ行くほどの無分別な親もあるかとおもへば、また一方にはあまりに大事を取つて子供に液體の飲料果物を嚴禁する親達もある、

併し夏季は人體の發汗作用が盛であるから、喉の乾くのは自然の理であるそれを知らずに無暗みに液體を嚴禁するのは間違つてゐる、衛生上からいへば胃腸に故障のない健康體の子供に對しては食後に冷した水、少量のアイスクリーム、氷片、水瓜、新鮮な果物を適度に與へるのは決して差支ないのである、若し斯る場合に下痢を起す場合でもあれば素人は直ぐに其飲料や果物が害をなしたかのやうに思ふものがあるが、これは强ちさうではなく、食物を過量に食べさせたとか又は不熟のものを與へたとか或は就寢前に飲ませたとかいふ落度があるに原因するものであるから、分量を嚴重にして品物の新鮮を選んで與へれば害がないのみならず寧ろ必要な事である。

◎海水浴場の心得

海水浴場などで溺水者があつた時には靜かに其の後方より泳ぎ附きて二の腕を堅く握り、片手泳ぎで陸岸に泳ぎつく用意が肝要である。此際その正面から泳ぎ行きては溺者は狼狽苦悶の餘り救助者の手足に抱き附き遂には二人共溺死する樣な事がある。扨て陸上に救ひ上げたら直ちに之を裸體にし、其左前膊を其前額につけて伏臥せしめ、脫がした

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

衣服を巻いて胃部にあて口を低くするやうにし、術者は胃部に跨りてその胃部に兩手を結び、前額が前膊から離れない程度に於いて高く擧げ、上下の運動を繰返すべし。或は溺者の胸部に手をあて、上下さしてもよい。斯くして胃や氣管内に入つて居た水が口や鼻からみんな出て了うたら、今度はそれを仰臥せしめ、胸を高く支へ、肩を低くし、兩手を頭上に伸して交叉せしめ、舌を出させて呼吸道を塞がぬやうにし、立膝の姿勢で溺者の上に跨り、兩手の掌を乳房の下部に、拇指を鳩尾に當て、指先きを開いて胸側に當て、徐々に力を極めて一番下の肋骨に沿ひ背の方を少しく上の方に壓し上げると。空氣は音を發し肺から追ひ出される。此間約三秒にして手を弛めると空氣は自ら鼻孔から肺中に入り込む。其際又三秒休んで胸を壓す。かういふ風にして一分間に十回位やる。同時に心臟部を輕く打ても宜しい。此方法は一時間位は是非共行はればならぬ。其他溺者の頸部及び肩胛部に衣服を捲いてあて、胸部を高くして仰臥せしめ、舌を引出さしめ、その頭部の方に立ちて兩肘關節を握り、兩手を強く擧げて頭上に伸ばさせ、三秒位で再び兩手を下させ、同時に胸の兩側を壓迫する方法もある。斯くすれば假死したものなら大抵蘇生する。溺者は一般に顏色が蒼白く變じ、容貌も恰度死人のやうに見えるが、極幽かでも心臟の鼓動が聞ゆる間は此方法を施せば屹度蘇生する。扨て急救法が功を奏して呼吸運動を回復したら、體温を回復する爲めに強く身體を摩擦し、次に温毛布で包み、火を以て身體を温め、酒若しくは葡萄酒等の興奮劑を與へる。

◎毒蟲に嚙まれし時の手當

夏季山中旅行などするは毒蟲の害にかゝり易い。甚だしきは之がために生命を害はるゝことさへある。害毒の最も恐るべきは蝮蛇、飯匙、などで之に次ぐのは蜈蚣、蜂、毛蟲などである。蚊蚋蚤なども毒蟲で之に螫れると或は刺戟性の物質が皮膚の中に入るから、其場所が赤くなり、痒くなり其處に炎症を起すのである。併し此等は別に甚だしき害を及さず速かに治癒するものであるから恐るゝに足らぬ。又蜂の針や毛蟲の毛は人體を刺すとき蟲の體より脱して人體内に入るものであるから、害はないまでも、早く抜き去る方がいゝ、刺された跡には中央に小さき孔を殘し周圍は赤色を呈して腫れ上り、堅くなる。人によりてはひどく感ずる人もあまり感じない人もある此の赤くなつた局處炎症は直ぐ消散するが、皮膚の小靜脈又は淋巴管等を刺される樣な事があると往々高熱を起すことがある、手當は其局部にうすめたアムモニア液を塗り、其上を冷水に浸したガーゼで巻いて置くのである、最も蝮蛇や飯匙の毒は非常に激しいもので嚙まれたが最後毒は直に脉管に入り、全身に蔓延するやうになり、嚙まれたる部分の周圍は赤く腫れ上り疼痛甚だしく、嘔吐を催し、呼吸困難となる、かゝる場合には直ちに其疵口に口を當て血液を吸ひ出し、局部を強く縛り、毒の全身にまはるのを防ぎ、疵口にアムモニア又は二十倍位の強い石炭酸水を塗抹し、腐蝕せしめるがいい、世人は是等の毒蟲に嚙まれると必ず死ぬものゝやうに思つて恐怖の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

餘り自ら病氣を重からしむるものもあるが、是れは甚だ愚である。早く以上の手當さへすれば決して恐るゝに及ばぬ、殊に近來毒蛇に對し血清療法を應用する事が發見され琉球の如き毒蛇多き國でも、それ以來死亡者數が非常に減少したといふ事である。

◎日射病の手當

暑氣の烈しい時無理に身體を使ふと、此病氣にかゝる最初に感ずるのは疲勞で發汗甚だしく顔面は赤色に變じ、頭痛と共に胸が苦しく、心氣亢進し言語不明となり、呼吸も困難になる、更に進むと發汗止み皮膚は乾燥して人事不省に陷り、はげしい痙攣を起し、體溫は四十度以上にも上る甚だ危險なる病氣である、尤も炎天の最中に外出し日光に直射されると誰れしも汗が出て顔色が赤くなり全身疲勞を感ずるのであるが、是れが一歩進むと身體に害を及ぼす樣になる、故に盛夏の日中には身體の弱き者は可成外出しない方がよい、若し此病氣に罹つたなら皮膚を冷すのが一番である、即ち冷靜なる日蔭に移し衣服を脫がせ胸部若しくは頭部に冷水を注ぎかけると忽ち爽快する、氷を以て脊髓部を摩擦すれば猶更利き目が早い、但し氷塊や冷水は體溫が常溫に復するまでゝ宜しい、日射病は素と體溫の變化によりて起るものであるから、暑氣烈しい時には體溫を調和せしむる爲め充分汗を出す方がいゝ、で日中外出する時に所々で水や茶を一杯位宛飲むと自然にそれがため發汗の媒となり日射病の豫防となるのである。

◎鵜飼

流れ川に鵜を放ちて鮎を捕ふる法は神代のむかしより行はれし漁業なりといふ、美濃長良川の鮎漁その名高し武藏多摩川、荒川など又有名なり、初夏の頃、鮎の稍々成長するを待ちて行ひ、盛夏の頃に至り尤も盛んなり、夜毎に月を厭ひ、暗に乘じて船を出し宵の頃、上流に登り居て、飼ひ下すなり、其鵜飼船は十二艘を一組とし各船には、鵜匠一人、中鵜使一人、船工二人乘り船の舳先に篝火を焚き、鵜を十六羽(中十二羽は鵜匠一人にて使ひ、四羽を鵜使の者使ふ)各其頸に繩をつなぎ、繩のもとをひとつに寄せて鵜匠の手に持ち、水中に放ち入る、此の時鵜匠は互に聲を揚げて勢をそふれば鵜は鮎を逐ふておのがむき〳〵水底に潜り入る縱横に行ちがひて鮎をさぐる、鵜匠は幾筋の手繩を操さばき、片手には鵜の呑みたる數尾の鮎を吐かせ、また水に追ひ入れ、舞の松を焚きそへなどして少しのすきもなく立働らく、其樣頗る壯快なり、その鵜匠の家には鳥舍を構へて常に鵜を養ひ置き冬春の間には、鯔などを喰はしめ、又時々河流に放ちて隨意に魚を捕らしむ、而してこの鵜は海濱島嶼に棲息するを捕へ來りて馴育したるものなりといふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

沈衰せる社會の好慰藉として 滑稽文（諷刺諧謔）募集

八月十日切

俗にをかしい事を形容して腹の皮がよれるといふその可笑味の度が段々昂進して最上級に達すると腹の底がデングリカヘルといふ、デングリカヘルとは轉覆する事、轉覆は革命の第一歩である、即ち滑稽趣味の波動が強く大きく最大速力を以て迫り來つた結果腹の底に一大革命を喚起したものと解釋してよいのである、滑稽の天職は主としてこの腹の底の革命を喚び起すべき尊き使命を齎らすものである、苟くもこの功德に依つて沈滯せる空氣を一掃し新たなる生命を扶植する事が出來るならば滑稽の力も亦偉大なるものであると或人は言つた、說の眞僞は知らず、編者は滑稽に就て破天荒の名文奇文の續々到らん事を希望するものであります。

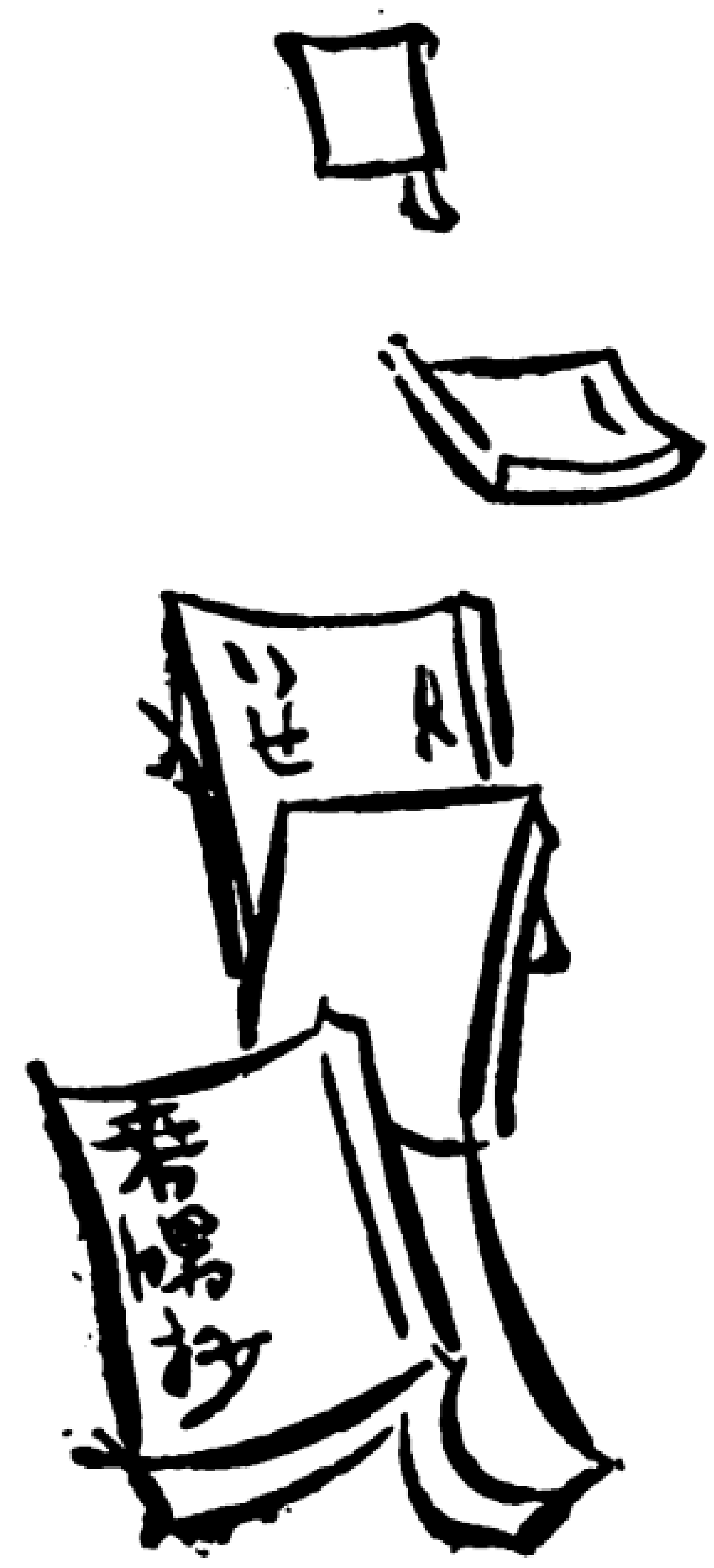
賞金

一等	金參拾圓
二等	金貳拾圓
三等	金拾圓
四等	金五圓

一、二、三等各一名四等十名

▲紙數は十枚以上を程度とす
▲當選の文は九月十五日增刊號に收む
▲賞金は發表の當日爲換券にて送呈の事
▲原稿は「滑稽文」と表記して女學世界宛の事

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



和歌

一等

○ひとたびは京のみやげのぬりげたの鈴の音にえむおとめなりしを

名古屋　千枝子

二等

○紫に紅あけぼのゝぬれ貝の小箱いだきて濱風にねむ

武藏　昌子

二等

○海神の夢のなごりかあけぼのゝ海路のはてに白雲なびく

東京　天野文子

三等

○我がそはにねむれるものをかとのへに泣きこゑすとてむねおとらしぬ

本所　高木すゑ子

三等

○おもはすも心ひかるゝあつまこと月に吹きよる笛竹の音に

後志　鈴木しげ子

三等

○五畿内は山みなまろし南の大象伏せる野の姿して

島根　長崎百合子

秀逸

○天の川なかれ落ちくとみるまでに雲よりおつる船の尾のたき

下谷　大木錦子

○戀すてゝ我頰の涙ひえし時花はくろきに咲くと思ひぬ

愛知　井口豊子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○高殿の笛の音やみて一しきり富士の早瀬の音おそろしう　京都　大石芳江

○御肌の香とぞかきぬれしみ〴〵と君來ます森のくちなしの花　牛込　平塚白百合

○弟は藥や貧の節まねて梅雨の我家は笑に滿ちぬ　東京　梅村咲子

○人こひし夕さり來れば笛吹きし其の人こひしらゆりの花　千葉　大野つね

○さつきやみ君待ちがてに吹く笛の緋房にかほるたちはなの風　千駄ヶ谷　木之本千代子

○狂ひおつる大瀧にしてそのなかのある靜けさはあまりに戀し　釜山　朱雀周子

○むかい家の小琴きこへてなつの夕君とわれとはかたらす笑みぬ　米國　前越光子

○一人住みの畫だくみおりて繪皿あらふ名なし川べり夕顔のはな　伊勢　下村靜代子

佳作

○ゆふがほの咲く棚もれて夕月はいれかれし兒の片頬照しぬ　伊勢　清水輝子

○まげのなりそと推して見つ雨染めて灯影にそむくうら若き人　大分　紫女

○わがつみし心の玉をとある宵鬼あまたきてこほちて去にぬ　豊後　中村空蟬子

○雨の宵を青蛙鰻釣りて驚きゝて旅に宿りし思びにありぬ　京都　木俣津夜子

○目とつれば五衣金襴のさゆらきの音ともきこゆ初夏の風　岩代　城田和子

○何者か夢見る我にそとよりて君が秘めごともらして去りぬ　大阪　ちどり

○夢ににし光の裾ほのかにもこすゑすへりぬ月かたぶきて　神田　花谷雪子

○かりそめにかけし小川の丸木橋うきて流るゝ五月雨のそら　秋田　佐々木濤子

○蓮葉の花の盛りの色見えてかほるも涼し池の夕風　東京　千鶴子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○　牛込　百合子
舞姫か袖のあたりにおのゝきて美しく見えぬ床の白百合

○　上總　天野とし子
兄待ちて大龜浮へ浦島の歸るとやうに海見てありぬ

○　埼玉　關口貞子
正邪分くる神のなさけにたのみしてしばししのばんこのぬれきぬを

○　攝津　和久かつ子
わが知らぬ人われおもひさめ〴〵と泣きてもあるか秋雨の夜

○　小石川　野ぎく
ふとかろき蜂の羽音にふる里の千棒つれる南縁おもふ

○　大阪　長谷川ふん子
むらさむきに花の香まよふ山かげの大和路さひし古塚のあめ

○　石川　高橋淵
露路ふみとりすゞしき木かげよりかすかにもるゝ法のともし火

○　築地　堀白萩子
つみのなきものかたりするおとめこのけふはいもとゝ喜ひてみぬ

○　本所　横田靜子
夕立のはれ行く峯の木末よりをちかへりなく蟬の初聲

○　長崎　不來花
笑みましぬ二つひらきしはらの花つみてたかひにかへし其の時

○　飛驒　堀木
さみたれにふりあらされし花そのにあはれ咲きけり朝がほの花

○　東京　小室花子
白雲の衣をぬきし青嶺のせまらぬ姿偉大いなるかな

○　信濃　吉川多美子
そら笑はつとめて泣くにいやまさる苦しきなれと別れて思ふ

○　牛込　平塚白百合
巫女ありてわかむひくからく〳〵のやうにあやつる十八の春

○　丹波　大石房江
春淺く雲またのこる夕まぐれひとり興する羽衣の曲

○　大阪　高野靜枝
谷ふかく分け入る程になつかしくにほひこぼるゝ姫ゆりの花

○　愛知　足立いと子
夕立の雨に濁れる川水に宿るもすゞし夏の夜の月

○　麴町　大江輝子
別れまつるその寂しみの中たに君にいひ得ぬ我かむかな

○　しづ子
月冴えて夜風凉しき夕暮は影つかまへし昔しのばる

○　周防　清水文子
逝きし妹か新奥津城の灯消えて時雨靜かに蟲啼きしきる

○　備後　平內華子
五月雨は夜の間に晴ぬときわきはみどりそへけり朝日のかけに

○　美作　松山女史
いくとせかたよりもとめて空仰くうらふれの子と君はしらすや

○　群馬　飯田ゆり子
雨すぎてにはの草葉の其上のかゝみにやどる夏の夜の月

○　千葉　加藤三千子
夏の青肉ひの丘の色紫草一ともとの根に椅子かりに行く

○　和歌山　橋本貞子
夕べの曇りむらさき色に漂よひて米とく人に細き雨しぬ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○　　　　小石川　藤掛凉子
母の乳むさぼり吸ひし音をばひたすらに戀ひひたすらに泣く

○　　　　京城　中尾鶴子
人知れず垣根によりてひた泣きぬ君に新妻きまする夕べ

○　　　　小石川　千代子
いとゞしく思ひせまりてたゝずめばくろき胡蝶の窓にとびきぬ

○　　　　伊勢　多田小あさ
いぢらしやいまだ眠らずいささかの思ひごとして雨の音をきく

○　　　　北海道　宮増好子
若竹の葉末につゆの玉見えて光すゞしき夏の夜の月

○　　　　長野　淺輪久子
淺茅生にゆかりの色の花すみれ夏の胡蝶の夢や通はん

○　　　　東京　木の葉
御神樂の歌もすがすがし夏山の稻荷のやしろ神さびにけり

○　　　　岐阜　傍島小枝子
朝日さす湖の岸に一列の家鴨ならびぬ初夏の濱

○　　　　京都　木俣津衣子
紺青の沼に百羽の白鳥の群らがるさまに白雲ながる

○　　　　伊賀　稻本登久子
地圖ひろげおのがおん父母いづこにとさめざめ泣きて孤兒われにいふ

○　　　　前橋　宮内りき子
ふみ學ぶ机に凭れ故鄕の母を夢みし五月雨の窓

○　　　　福岡　今村きた
たそがれのそゞろあるきの道の邊にもゝ草千ぐささき亂れけり

○　　　　大分　関山喜代
荒濱のとゞろとよする小島にもさなえとるべき小田はありけり

○　　　　備前　片山なほ子
うら若き己が姿あさましも見るにたへじなうらぶれの今

○　　　　埼玉　荻野くに子
朝つゆに色そふ庭のなでしこを一花つみてかざすちごまげ

○　　　　同　同
心さへうちしめりつゝ梅雨のふるさと忍ぶたびの夕ぐれ

○　　　　神戸　足立ゑい子
我をだにふり捨てさりし君が家をぬれても訪はん五月雨の頃

○　　　　神戸　足立あさ子
さゝがにの糸道かけて今宵こそ我待つ人は通ひ來ぬらめ

○　　　　長野　荻原ふく子
夕月夜青葉緑葉風そよぎ露ちる下を牛追ふ童子

○　　　　福岡　田中富士枝
いたつきの子をかいいだき外國の夫思ふ夜半に五月雨の降る

○　　　　四坂島　渡邊梅子
眠成らず夏の雨夜のむせあつうかがみし紅箏恨みこかりき

○　　　　牛込　北島愛子
ふるさとの母をこひしとおもひれのゆめにうれしくあひみつるかな

○　　　　熊本　矢野やなか
月の夜の茂き柳の下陰に物憂げに泣く蟲のこゑごゑ

○　　　　周防　橋本梅子
薄く濃く入江をつゝむ朝もやにきれぎれ舟子の歌きこえくる

○　　　　北見　信太英子
岸の邊に咲ける野菊の二つ三つ袖にみだるゝ露の多摩川

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○　　相模　津田沙汀女
若うして世にも人にもうみはてゝ心やゝ生く海にむかへば

○　　豊後　加納豊子
温室の中なる赤き夏花のごとく沈默(しじま)のさびしき君よ

○　　能登　栗倉一子
島夕べ胸のもだえのおさへかれはじめて世をばあやしみてみぬ

○　　名古屋　棚橋千枝子
夕雲に富士姫たてり大駿河裾野はしろきすゝき原にて

○　　山形　柳河静子
葉わけ月松がほづえにいやさえてはにふの宿の賤が女を照らす

○　　美作　性全紫女史
青麦静かに揺れて初夏の風なつかしき濱の宿かな

○　　宮城　大和田花子
傾きし夏の夕日にてらされて野田の長橋汽車わたり行く

○　　大阪　なやめる女
問はせます君が情はよろこべど打明かれし我思ひかな

○　　河内　中島麻子
星の子が利鎌にふれて山百合の花はむなしくちりにけるかな

○　　志太郡　兒玉ふゆ子
いざよいの月やあやふし雲の間にあはきすがたは見えつかくれつ

○　　美作　性全峯代
木の間洩る星かげ小さう白き花われまれくごと闇にゆらめく

○　　美作　性全千嘉子
うましらぬ郷におはすもおぼし出でよこの楼端に一人泣く子を

○　　香川　伊藤夏子
ふみもなく貝送りこし紫陽花に君の心をはかり憂ひぬ

○　　横濱　吉川香都子
我名よぶ君に似し音のなつかしと寵愛の鸚鵡いだきて泣きぬ

○　　徳島　西野恒子
乳母が家の障子にはりしほぐ紙に思出多き我一昔

○　　千葉　加瀬紀久子
君にとて涼しき花をえり取りて送りし夏の夕戀しき

○　　岡山　下野静江
岩の上に悄然として荒波の狂ふに似たる我身を思ふ

○　　松山　暁子
おゝみ神何処ゆくべき破れ路に夜も日も分かず悶ゆるこゝろ

○　　大阪　みどり
忘れじな三とせの昔月の夜に君と別れし明石の浜辺

○　　四谷　道子
いないなと心を遠くやりながら君の髪の香胸をそゝりぬ

○　　下總　月沖百合
ひなげしの花のくづるゝごとくにも君がみ胸になきくづをれぬ

○　　大阪　栗野光子
白露のこぼるゝばかり宿りたる野百合手折りて病みます友に

○　　大和　西田恵登子
今も尚血を吐く思ひほとゝぎすやまひの床はいれがてにして

○　　埼玉　荻野くに子
雨はれてくもまをいでし月影に涼しくにほふ夕顔の花

○　　牛込　山下静代
板庇ながら出でたる弘前の古街思ふ五月雨降れば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○ 大分 市丸いく
夕月の淡き光に仄浮ぶ島の漁火君懐かしき

○ 伊賀 河村てつ子
君に似しこの白百合の一片をいざや送らん露のひぬ間に

○ 青森 根岸たま子
さしのぼる月に夕べはなにとなく戀しく見ゆる故郷の空

○ 東京 古賀愛子
コスモスの花に雨ふり夕されば別るゝ如き哀愁のわく

○ 東京 大庭文子
病みまさる母君の身を思ひます君が心ぞ計り知らるゝ

○ 三河 鈴木まゆみ
かきつばた燃ゆる思をうたにして贈りし宵を雨細うふる

○ 上總 太田春江子
杜の朝日毎に我をうつすゆゑ石一つづゝ投げては歸る

○ 山口 立花いく子
白鍵のごとしときみを讃れども心なほゆく我まどひかな

○ 伊勢 藤田石子
ふるさとをつれなき人に聞かさばや歸れとつくる山ほとゝぎす

○ 豊橋 鶴よし子
我が胸の池に泳げる赤き魚色褪せそめぬ君失せし日ゆ

○ 京都 いく子
かの邸に暮れ行く庭の夏木立茂れるかげにあぢさいの花

○ 岐阜 小野定子
彼の月のなかにいさゝか黒き斑を見出しおもひ君をうたがふ

○ 青森 太田たま
卯のはなの匂ふ頃にはなりぬれど岩木の岸に殘る白ゆき

○ 豊後 江口かなり子
木の葉蟲の音絶えし木曾の夜を木枕佗ぶる京の旅人

○ 美濃 酒井とみ子
中垣もせぬ隣り家の紫陽花に朝の興やるふるさとの家

○ 長崎 一瀬みどり
崖に細く露もたはなる白百合の吹く松風に影ゆら〳〵と

○ 岐阜 井川松枝
夕立の名殘の後の雲まより折々通ふよひのいなづま

○ 相州 中田靜江
夕風にゆらぐ軒端の呉竹の葉末にやどる月影涼し

○ 本郷 田村波津子
橋に舟に思ひ〳〵の夕涼心心をてらす月影

○ 名古屋 松久あきしめ
打ちかへす二見の浦の波の音に調べあひたる磯の松風

○ 香川 豊田婦子
男浪女浪月の小磯にさゝやきぬ白き小さき貝まろがして

○ 下野 濱子
夏花の匂ひを送る夕風に青簾あけたる皐月野の家

○ 足尾 栗林清子
さみだるゝ旅路の空は暮れ初めて萬象かすみ郭公鳴く

○ 上野 石黒むめ子
露を含くみ一輪咲きてしほらしや摘み洩らされし畑の白百合

○ 美作 高畑みち子
木曾たかき深山の杣の呪しの鳥の叫びに山姫嫁く

○ 東京 千草
天つ神かろき御鞭をふるごとにたつかとぞ思ふ夏のそよ風

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



短文

（甲）　樂しき我家

牛込　百合子

朝起きると父樣や母樣や兄樣方のにこやかな御顏が見られます、先づ嬉しいのは「御早う御ざり升」と手をつくと「ハイ」とおツしやる時ですほんとに〳〵私はうれしい、それから髮をあげたり顏をふいたりしてゐる内に、ちやんと學校行きの着物に袴と靴下とを揃へて姿見の前へ置いてあり升、これは大がい母樣がして下さいます、靴をはく時母樣はいつも臙紅色の學校のつゝみを持つて白のパラソルを開いて待ツてゝ下さいます、學校から歸りますと、おいしい〳〵御八ツがちやんともツてあり升、くいしんぼうですが私は此時が一日中の一番嬉しい時です、いくら歸りがおそくなツても母樣は召し上らずに待ツてゐて下さいます、ほんとにおいしいのですよ、夕食後の運動時間にはいつも庭で母樣と（時には父樣も……）下女と兄樣とでテニスをします、ボールの見えなくなるまで……、雨の日は母樣のヴアイオリンと琴と合したりピンポンしたり……、夜は母樣の御しごとのそばで三時間程勉强します、そして日曜は必ず近くの田舎へ散歩に參ります、尤も雨天の折は親類の子供をあつめて茶話會をいたします、ほんとに〳〵樂しい幸福な家庭です。

（乙）　海上の月

濵寧野　菊

左手の漁村にいとかすかな燈火が三點五點、山も木も家も只まつ黑に靜かに眠つてゐる、甲板から見下すと、大きな波が船をも身をも呑まうとしてか、八方から、ドサリ、ドサリと船舷を叩く、夏とはいへ、海上の夜氣は身に浸み渡るやうだ、月の光は白い、雲の間からさして、波を黃金色に染めてゐる、自分はこの夜風に袂をひるがへし、鬢のほつれ毛をなぶらせながら、一人海の夜の月を眺めてゐるのであるが、どう云ふものか、斯かる景色に對すると、過去の樂しい追懷や悲しい思ひ出が、一時に胸に湧いてくる、船は今、淡路の沖を南して徐々と進行してゐるのである。

（丙）　薔薇

小櫻伊都子

古本屋で求めた昌子樣のみだれ髮を、徒然なるまゝ繰ると、ヒラリと落ちたものがある、何心なく取あげると紅ゐ褪せたばらの花びらへ、水莖の跡もやさしく薄墨の數行。

哀れな魂を抱いて、此夕暮の樣な淋しい道を、辿らなければならな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い私の運命は、アゝ夢、あゝすべて夢である、曾ては暮れゆく窓に立つて、若葉蔭の新星と無限の微笑を交はした事もあつたが、……
……あゝ……あゝ。
幾度そゝいだ涙のあとか、所々に墨さへにじんでゐる、もしやと裏をかへすと、たゞ、くみ子とばかり小さう。

夏の趣

埼玉　松本たか子

夏は夜とは古人の評ですが、私には矢張暑くてもかん／＼照りつける日の最中が夏らしくて趣味がある、ジーン／＼と云ふ蟬の聲斗りで四邊はヒツソリとした午後一二時頃、黄色い日影が地を燒く樣に照つて、庭のひまはりの花に虻などの來るのも面白く、又三時頃樹木やひさしのかげが黒くハツキリと地に印せられて、ひえ新苗賣りのこゑ、水玉風鈴賣が門を過ぐる水の樣な音等は私には得も言はれぬ趣がある。（秀逸）

あゝ我が家

愛知　小柳津靜子

風の強い夜に、物凄く半鐘が鳴り響いて、私の家と思ふ邊の空が眞赤に染め出されて、その色が北へ／＼と流れて行く、驚いて駈け出したが、女の身の悲さに、氣ばかりあせつて、足は思ふ樣には進まない、後から來る人にどん／＼追ひ越されて、もどかしくて／＼ならない、漸く近づいて見ると、燒けて居るのは確に私の家である、炎々と燃え上がる焔は渦卷いて、折柄吹き來る烈風につれて、恐ろしい叫びを發してゐる、見て居る群集の顏と云ふ顏は、たゞもう眞赤で、どうも助かりさうもありませんな此風ですから、などゝ口々に云ひ罵つてゐる。もうたまらなくなつて、氣がフラ／＼とした。（秀逸）

暮色

福井　福井澪子

鐘樓に上つた雛僧は、あたりを見まはした、今まで降りつゞいた五月雨が晴れて、西の方から濕つた風が吹いて來る、燕は僧の側をかすめて飛んだ、雛僧は氣がついた樣に撞木の綱を思ひきり後ろに引いた、そして放したと見ると鐘はゴーンと響く、刹那高い公孫樹の梢からバラ／＼と雨の雫が落れた、鐘の響は遠く／＼へと行く、慰め、悲み、喜びなどさまざまの感を含んで、暮色は次第に迫つて來た。（秀逸）

思出

岩代　武藤たみ子

垣根の卯の花は、夕月夜に白う輝いて雪のやう、空には、數知れぬ星が、私の顏をのぞいて居る、寂とした靜かな夜だ、恁うして月を眺めて居ると、何となく、死んだ姉樣が思ひ出される、『みちちやん女はつまらないわれ』つて、庭に立つて居た私の手を、ひしと握つて泣いたつけ、ちやうど今夜の樣な、蒼い月夜だつたとは、朧に覺えて居るけれど、姉樣の心はわからなかつた、その年の秋楠の葉と共に、散り果てた姉樣は、二十を一ツ越したばかり、私はまだ、十二だつた。（秀逸）

どんすの帶

四谷　櫻　子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

お花のけいこに行かうとして着物をきかえていつもの黄色の支那どんすの帯をしめてゐると、火鉢の前に坐つていらつしやるお祖母様が、つくづく自分の帯を眺めながら「ほんとにお前其どんすは古いものだよ、家の五代前の先祖が其時分、金にあかしてわざ〳〵支那からとりよせたのだもの、今はそんな品のいゝのは恐らく少ないだらう、それで夜具が二組できてゐたのだよ、ほんとにえらいものだつたねえ、それがお祖父様の時、店の改革で、もうそんなぜいたくはしてゐられないから、ほどいて帯にしたり、ふくさにしたり、いろ〳〵な物になつてしまつた、がそれも今は段々ちらばつて、家には、あの小ぶくさとお前の其帯とだけのこつてゐる、ほんとに落ちぶれるといふのは早いものだねえ、」としみじみおつしやる、あゝ先祖のお華の跡は自分の帯となつて僅かに残つてゐるのである。（秀逸）

雨後の庭

神奈川 國原かほる

シト〳〵降りの長雨がいつの間にか晴れて、赤い夕日が緑に一ぱいさした、涼しい風に庭の楓が葉末の露を打ちはらふのがゆら〳〵と障子に寫つて居る、氣高い様な花菖蒲、香ひゆかしき雨中のばら、もゆる様な美人草などが、とり〳〵に重たい首をしづかにふりながら、池の面にかわゆい姿をうかせてよろこばしげに暮の光に浴して居る、次郎と花子ははだしで池をかき廻して居たが、突然「夕日に色どる橋を渡し」と歌ひ始めた、仰げば池の上に五色の虹の橋。（秀逸）

長閑

靜岡 天野欣

草實が眞赤に咲いてゐる草屋の門前で、爺さんと孫さんとが藁仕事をしてゐると、爺さんの光つた頭へ蜻蛉が一疋ひら〳〵飛んで來てとまつた、孫さんが「爺さんお前の頭へ蜻蛉がとまつてゐるよ」と云ふと、爺さんは藁もつ手をおいて頭をさすつたが、その時はもう蜻蛉は居なかつたので、「孫さん俺を騙したな」とにつこり相手をにらまへた。（秀逸）

廢坑

牛込 平塚白百合

一時はトロツコ押してゆく坑夫の帽子につけた白い布が、スーツト勾配のついた道なんかを勢よく走ると、眞ひるのくるめきさうな日にヒラヒラまぶしくあをつたのであるが、今はもう廢坑になつて、レールも赤く錆び、白く乾いた土に這る顔が、面白く咲いてゐる、折角開けた町もたゞ立朽れにまかせて、夏草ぼう〳〵と思ひのまゝにはびこつてゐる、時鳥の名所はまた昔にかへつた。（秀逸）

船中の一夜

姫路 藻の花

慣れぬからかまた眼が覺いた、弱い光の洋燈が眞白な天井板と兩舷の内側にある淡茶色の塗板に幾分その灯を宿してゐる、死の國の如な寂寞をたゞ不斷に運轉する機關と推進器とが破つて、私の壽命の縮まる様に身に耿に響く、そつと盗むやうに頭を上げて見た、數時間以前まで耳の痛る程口々に罵り笑つてゐた室内の人々は、眞にそれが夢であつたかのやうに、種々の毛布に包つて皆すや〳〵とよく眠んでゐる、強いて私は目を閉ぢたが、何となく寢つかれぬ、汽船の動搖が一層激しくなつたので

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

もしや鳴門の潮尻にさしかゝつたのではないかと思つて、ある恐怖に襲はれた、妙に甲板に上りたくなつて、細い通路を徐に歩み、傾いて室内より通せる急傾斜な階段を上つて、私獨り甲板上の人となつた、さて眺めるとまあ何と形容しよう、島か山か、左舷の方遙にある陸地の上に、今し片破れ月が現れて、私の方向にゆらゆら長くその光を投げて、海原はたゞ暗黒である。（秀　逸）

天　使

大分　加納豊子

千代ちやんはお晝寢をして了つた、見ると、まん圓く太つた可愛い手に先刻の蝶をくゝつた絹糸をまだ緊く握つて居る。蝶は友禪の褥團の上に靜にそれを守つてゐる、吁、眠れる稚兒の夢はをだやかであらう白蝶が又ひとつヒラヒラと友のゆくゑを尋ねて來た。（秀　逸）

同窓會

東京　松岡みどり

赤い手柄の新奥様、束髪姿の學校先生、此の人達は皆理想よ望みよとさわぎ廻り、先生を取りまいては我儘を言ひ、試驗が來ると、眞青になつて騒ぎ込んだ連中である、學生時代にはかまはずやで知られて居た塚田様さへ今日は見まがふばかりに美しい、あんなに嫌つて居た白い物さへ顔にぬつて居られる、「マア貴女も隨分お美しくなつたわネー」といへば「ホヽヽ」と笑つて口にハンケチを當てられたが、指には金の指環がキラキラ光つてゐる。

夕　立

東京　若葉

「まあ、もつと此方へ御入りなさいまし、其處では御召がぬれますから」小間物の店先きに雨やみして居ると、御内儀さんが親切に云つて呉れた「ありがたう、御氣の毒様ね」と云ひながら少し奥に入れて貰つた、「いいえ、何ういたしまして、直きに止むでござんせう、其の傘ではとてもれ、え」と云ひながら私の持つて居る白い傘を一寸横目でにらむだ、早く止んでくれゝばいゝのにと思ひながら往來を眺めると、店を出しかけて居た商人が大急で片づけてゐる、かけ出す人、着物をまくる人、下駄をぬぐ人、人の家にとび込む人、大騷ぎである、雨は中々止みさうにもない、隣りの本屋では何處かの小僧が本の上に雫を落したと云つて亭主が大きな聲でどなつて居る。

里歸り

豐後　後月浩子

小石だらけな田舎道は容易に車が捗らぬ、氣計り焦燥つてやつと里の家の玄關に車が止まるか止まらぬに、最う奥から母様が出られて、手を引き上げんとせらるゝ側には父様が能く歸つたと嬉し相なお聲、戀ひしさ嬉しさが胸に迫つてお顔は能くも見えぬ、冷たい今の世に何處へ行たらこんなに喜んで呉れるだらう、此度の様に身に染みてうれしい事は初めてゞある里歸りも兩親のある内だと聞いてゐるが、二三日の後に亦見送られて此處を出なければならぬと思ふと情ない様な氣持がする。

日本海丸

青森　漁夫の妻

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

あゝ神様はなぜかうも、不公平でせう？、アゝ風がうらめしい、水がうらめしい、火がうらめしい、かぜさへ、水さへ火さへなかつたら、杖とも柱ともたのむわが夫は……、夫様は、かうも無情にはなられなかつたであらうに、おゝどうしよう、どうしたらよいでせう？……、私は、はかない女である、……逝きし漁夫の寡婦アゝ洋々たる太平洋の水よ、わがために涙の海となれ—…。三つになる無心の孤兒は、すや／＼とねむつてゐる、おゝいぢらしいこの子、……大きくなつても、漁夫の妻とはなるなよ——。

姉さん

京都　名なし草

「ほんとに君さんは幸福だ、女學校へまで上げてもらつて、私ももう三四年おそく生れてくればよかつた」。といつも姉さんは云ふ、そのくせご自分は勉强する氣は少しもなく、髮の結ひ樣がどうだとか、大學白粉の、御園白粉のと、おしやればかりして入らつしやる、そして時々片言まじりの妙な事を仰しやるから、私が鳥渡口をだすと、二言めには「君さんは學者ですから子」と仰つしやる、だけどもお祖母さんには私より姉さんの方がお氣に入りで、月々のお寺參りのお供はきつと姉さんだ。

墓參

中河内　西村千代子

今日は亡兄樣の御命日なのでお墓へ參つた、思へば四とせ昔の今日、月明らかな夜であつた、兄樣は「お母樣お身を大切に」と仰有つて靜かに眠るが如くにして逝つてしまはれた、光りなき西村家の前途を案じつゝ

あゝ兄樣の其時のお心持はどうであつたらうか、「兄樣、今は足らぬながらも不自由なく母上とくらして居りますから、どうぞ御安心なすつて……、あゝもう一度彼の優しいお聲で名を呼んで下さい」。と人なきお墓の前に泣きふした、遠くで鐘の聲がする　顏を上げると日は早や西に落ちかゝつて、名殘りの光を空に紅く投げてゐる、お墓の前に立てた線香の烟りが、お墓をめぐりめぐつて高く昇つて行く、あゝ亡兄樣はあの中に居らつしやるのではなからうか、あゝ。

銀行の控室

府下　美都子

八十五ばあん！、八十五番の方は有りませんか、と、支拂口の中天著の男が、高い脊を又高く延ばして群衆を見まはすと、皆な言ひ合せた樣に番札を見る、前の腰掛に居た、官吏風の男はびつくりした樣な大聲で返事して突然立ち上つて支拂口の方へ行く、右隣に居る十二三の小僧は、表を通る、市中音樂隊が合奏して行く節に足拍子を取つて口笛を合はせてゐる、サヤ／＼と絹ずれの音をさせて入つて來た十八九の婦人は右手にサリダ色のパラソルを持つて、はづかしさうに腰掛に付いたが退屈してゐた大勢は一斉に目をそゝいだ。

夏夜

靜岡　きく子

夜は靜かに暮れた、北條驛から家までは、さまで遠くはないので、車にも乘らず、母樣と二人凉しい夜風をうけながら靜かに歩みを、はこぶ、空にはぼつ／＼星の力ない瞬きを見る、蛙の聲、山風の音、お母樣の絹

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の音には螢が一匹青い美しい光りを、はなつて居る、母樣螢がまるでダイヤでもお入れ遊ばしたようと申上ると、ニッコリ輕く笑はれた。

夕の調べ

島根　小泉芳子

夕栄は影を收め、入相告ぐる鐘の音はいづこよりか響きて夕闇のうちに消え去りぬ、高き七本松のかなたには満月皎々と澄み渡り、たゝく水鶏の聲凉しく、夏の夜とも思ほえず、ことにかしこの森こゝの藪影に螢火の見えつかくれつするうちに、——いづこの人の調べならんまごとの音の或は、高くあるひは低く響くはゆかしともゆかし。

武士の娘

東京　徳永田鶴子

お祖母樣は武士氣質と云ふ風な人だから、御盆や祭禮などに近所の小娘たちが今日を晴れと著飾つて、あつちこつちと遊び歩く時などに、私もあの仲間へ入りたいといへば、町人の子と同じ樣に出歩いてはいけません」と一言の元に止められてしまう、其度に、なぜ私は商家か百姓の家に生れなかつたのだらうと子供心にかなしんだ事もあつたが、今は、薄暗い店の片隅にポツチンと終日客待ち顔に坐つて、浦の駄菓子屋のお神さんや隣りの板屋の小僧にまで「パン屋の姉さん」と呼ばれて甘んじて居る、あゝお祖母樣は草葉の陰で　どんな思ひで見て居られるであらうか。

露子

札幌　伊佐敷清子

露子は眞實に、琴が好きであつた、此琴を見る度に思ひだされる、世にあらば此年位は、初孫の顔を見る事も得たらんに、結納までもとりかはせし、芳夫樣にそひもせず、茶よ花よと習ひおぼえし、そがわざも、皆陰府路への土産となりし、口惜しさ、思ひ出さずに居らるべきか、雨は草木のためには、父母のめぐみの露といひけんも、我身のためにはいとど涙の水まさり、先き立ちゆきし、露子の面影、目に見る樣なり。

琵琶を聞く

熊本　澤井千代子

讀みかけの書物を、つと投つて、そつと窓を押して見た、若葉の匂は緩かに擴がつて胸に迫り、青桐の葉をすべる月の光りは淡い、つひ先の杉垣根に頭圓るめた黒い影が一つ、彈く手も哀れにとぎれ〳〵の冴えた琵琶の音妻戀ふ誰か子を思ふ曲か。

夕暮

群馬　柳澤花子

出發の前夜、二つになる弟の莚を抱いて、「明日は御別れ、坊もおとなしくして、今度姉樣が歸つて來る時には、大きくなつておいで」と、私が云つた時、そばにゐた、お母樣は何時にない淋しいお顔をして被入つたが、それからはもう一年經つた、龍澤院の鐘であらう、遠く響く、あゝあの雲間にまばゆくまたゝいて居る夕星を、故郷のお母樣も屹度見てゐらつしやるにちがひない、そして、遠く前橋の地に勉強して居る私の卒業を、指折りかぞへて待つてゐらつしやるであらう、又今宵あたりは莚がむつかつて、お困りなさるであらうのに、お一人の手で守りから水仕事まで、あゝ思へば私は遊んで居らるゝ身ではない、ならう事なら少しでも手助けがしたい、學問を中途で止めて歸つたと村の人には笑はれても私は戀しいお母樣の所へ歸りたい、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

笑話

○奇拔な應答

熊本　鈴木久子

或日女生徒が先生の前にやつてきて、

生徒「先生、私此間の裁縫の時に一尺指をなくしました、」

先生「さうですか、では貴女のはこれではないのですか、」

生徒「いゝえ、私のはも少し長かつた樣でございました、」（丙賞）

○良人の頓智

三河　靜子

新婦「あなた芝居は新がおすきですか舊ですか」夫「新にかぎるれ、」婦「アヽソー、今度不如歸の非常にいゝのがかゝるさうですよ」夫「ウムー、それは聞いたが……、あゝ泣かされるのもどもならんてれ」（丙賞）

○おうちは何處

深川　倉橋かつ子

教師「貴女のお家は何處ですか、」

新一年生「下谷です、」

教師「下谷のどこですか、」

新一年生「お豆腐屋の裏です、」（秀逸）

○子供の論理法

兵庫　みどり

母「坊や、これはナーニ？、」子「鼻、」母「これは？、」子「眼、」母「これは？、」子「口、」母「これは？、」子「耳、」母「これは？、」と眉をおさへた時、子供は暫く考へて居たが、やがて大聲で、子「眼の屋ー（秀逸）

○醉漢のつぶやき

廣島　田村靜代

醉漢が小石につまづいてばつたりころげ、ぶつぶつ云ひつゝ起き上つたが、又ごろりと横に倒れ、エー忌々しい、二度ころぶなら始めから起きなくもよかつたのだー、（秀逸）

○學生の名言

宮城　大槻くま子

女學校の先生秘藏の帽子を戴いてすまして道を歩んで行くと、計らず風に帽子を取られた、帽子は風に吹かれてコロコロ玉の如うに轉がつて行く、先生は一生懸命追かけてゐると後から來たハイカラの女學生、「先生、世が文明になると帽子まで獨身主義になりますれ、」

○日糖の影響

東京　夕しや

中元の贈物として、餘所から砂糖を貰ひましたら、昔氣質の祖母は、「砂糖など貰ってはならぬ、」と申しますから、其譯を聞きますと、「何でも砂糖の事で、えらい方が縛られたといふからさ、」

○誰だつて欲しい

伊勢　大崎欣子

或る奥樣が夜遅く呉服店へゆき、誤つて隣の家をたゝき、奥「もしもし、私は夏帶が欲しいのですが」と云へば、内より答へて、「誰だつて欲しいさ——、」

○一對の高慢

静岡　竹石はろ子

金の入齒したハイカラ婦人が齒をむき出して道を問ふ、

髮を美しく結つた女買けぬ氣で、是見よがしと頭のさきで、其方向をさす。

○ハイカラの意義

信濃　春子

行き過ぎた女學生を見て、女の兒「まあハイカラだこと」

母「ハイカラつて何のこと？」

女の兒「美しいことなの」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

讀者倶樂部

▲先日來カステーラを拵らへやう思つて、初に竈を炊付けてもらひ、やがてお湯が沸立つたので原料の入り居るブリキ鑵を挿入れ、さて四十分の後立派なカステーラが出來上つてゐる事と思つて蓋を取りて見れば、成程ふく浮いて居る、上出來々々々と一人悦びつゝ愈々取出して見れば、コハ如何に、浮いたと見えしは上がは三分通り、全く玉子丈けにて、あとは蒲鉾の板になつて居ました、どこの加減でせうか、お試めし遊ばしたお方はどうぞ御教へ示下さいまし(青森河村ちよ子)

▲私は十五歳から廿歳頃迄は人に褒られるのを寧五月蝿かつたほど多い多い髮の毛であつたのに、此頃は格別の病もせずに落ち細つて、終には坊主にでもなるか知らむと呆れる程の少ない毛髮になりました。勿論髮の衛生法も保護法も十分に施しては居ますが、呪ひほどの効驗もありません。それ故天然の美髮はもう思ひ諦めましたが、すると假髮より外ありません。假髮を(途中から入れ毛にあらず髮さしに毛を植ゑるかどうかして)精妙につくつて用ゐるは現に上流にたつ貴婦人の中に多くあつて、黑漆の如きふつくりとした髮づらを誰もお見事にと見事ります。某貴婦人のも、某侯爵夫人のも、皆之をつけていらつしやるのです。否寧白髮でいらつしやる方は少いのです。あれはどうしてなるのでせうか。實は此二三月之を知りたいと思ふて、諸方面の人にも訊れ、又女髮結にも問うて見ましたが、どうも明に分りません。世の中には私と同じ歎息を發せられる方も少くないと思ひますが、眞に手際のよい假髮の工夫があつたら、どうか秘密にせず御教へを願ひます。欲はるゝ者は私ばかりではありません。どうぞ〳〵皆さんの御研究の結果、又御存じの事どもを多く博く御示しを願ひます。(衣かつきの女)

▲橘子樣おなつかしいわれ、是非秋には種子を交換致しませう、御住所知らせて下さいましな、私ぢかに申上ますから。(小石川きん子)

▲私は此倶樂部は大層有益なものと存じます、どうかこれから皆樣方と共に盡力して、有益なる事の交換場と致さうではありませんか、私は二三年前から稽古の爲に家の經済をつかさどつて居ります、まだうぶな娘では御座いますが……、すると次第〳〵になれまして、殊に嫁してからの爲には大そうな助けになると思ひます、皆樣も御母樣に御願ひして御稽古さして御頂き遊ばしては如何で御座いますか。(牛込百合子)

▲夏のいと靜かなる鏡の様な大洋を航海する程おもしろいことはありません、播磨の小寺いさを樣はながらく香港に居られましたとやら、ナト誌上であちらの風俗、海の景色などの御話を聞かして頂戴な、妾の叔父は香港に居りますから、つひ思ひ出されてこんな御願をいたします(京都大槻さゐ)

▲小山鐵代子樣の御說の通り本當に女でも男でも字の下手なお方は御損で御座いますれ、拙い字が書いてあると其方にどうも重みがありません、また文章の下手なお方も其通です、同じお手紙を戴いても文章が流暢に形容などが巧く書いてありますと、讀んで居つても誠に心持が宜く、もう一度讀んで見やうか、と云ふ氣が起つて、又繰返して讀みますが、字が下手な上に文章が惡いとつひいや氣がさします。(大阪山田芳枝)

▲皆樣は一日中でどういふ時がお樂しみですか私は、先づ五時に起きまして、家の者總掛りで手分けでお座敷のお掃除やら、お臺所を致し、敎會の鐘が七時を告げる前後に、カラリとした八疊の茶の間で父樣が打水なすつた小やかな庭を眺めながら、庭の者も、奥の者も一緒に朝飯を戴く時、八時から、お裁縫へ行く六七町の道に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歌や文を考へる間、夕飯後、物見へ出て、諸り が暇くなるまで電燈、瓦斯に光り輝く大通りを見てゐる時、もう一つは、十時閉店、一同の寝靜まつた後、三十分乃至一時間位讀書する間が實に樂みで御座います、一點の邪心もありませぬ、皆さまはさぞ平凡な樂しみだとお思ひ遊ばすでせうが、然かも私はかうして、毎日愉快に暮してをります。（東京夕ぼし）

▲和歌欄で度々御名を拜見する越後の小林あき子樣、もしやあなたは一昨年仙臺の女學校を卒業なすつた小林さんぢやなくつて？、おなつかしいわ。（クラスメード）

▲私は花壇に蔬菜園藝を兼れて熱中して居ます且兄が農藝雜誌中で農業世界が一番宜しいと申つて頗る愛讀して居ますから、私も時々拜見して實地應用して居ますがなかく好成績です、同好の諸姉樣、どうか宿所をお知らせ下さい、拙堵の珍種奇根を割愛致しますから。（信濃恒子）

▲あのすみませんが皆樣に御願ひ申ます、私は時々鼻血が出て困りますが、さういふ時にどうしたら早く止むものでございませう、又以後出なくなるといふ事はないものでございませうか（羽後みよ子）

▲記者樣に御願します、懸賞一、二、三等御當選の方の御寫眞御掲載下さいますまいか。（一寸考へて見ます）懸賞の頁い文は、たとひ選者になりましても、投稿者巡首の慰藉として、其餘白に題名と氏名だけ御掲載叶ひますまいか。（それも考へて見ます）。懸賞外にも毎月色々投寄すれば、よいのは載せて下さいますか。（載せます）讀者の「實踐應答欄」をお設け下さいますまいか妾知き無學者はいろくお尋ねしたう御座いますから。（近々に設けるかも知れません）（福岡竹石はるよ）

▲毎號誌上で御才筆をお振ひ遊ばす内藤千代子樣を私は大變おなつかしう存じます、御したはしう存じます、こゝろの日記、霜月日記、さてはこの間の驚ろく手紙など、あなたの御空想によりあがかれたおすさびならばこの上の結構はありませんが、どうか御身を御自重遊ばしませ、あなたには御一人の御母樣が居らつしやるのですものを。（楠子）

△虎印羽車石鹼の特色

今回本所綠川四丁目芳誠舍にて製造せるホルマリン石鹼以下七種の化粧並に洗濯用の石鹼は最も原料を精撰し、純良なる香料を練入して製造したるものにて、其の効能は第一に皮膚を剌戟せずしてよく垢を落し、肌障り滑かにして使ひ心地よく、洗滌の後も永く芳香を放つ、これは專ら機械練器にて精製したるを以て石鹼の分子緻密なるが故なりといふ、種類はホルマリン、羽車麝香、虎印、浴室用ペリカン、浮石鹼、ムラサキ、花石鹼、羽車印絹綿等にて中に化粧品あり、洗濯用あり、大形小形いろくあり價は羽車麝香一ダース二圓四十錢

△故鄕　石丸梅外著

心に一點の濁りなき春萌ゆるが如き少年が塵の巷を去つて一時懷かしき我が故鄕の人となる樣に描きたるものなり、人生の春を以てこの悠悠たる自然の山河に遊ぶ、其快其樂、王公ともいへども又擾なる能はざるべし（定價五拾錢大阪積善館發行）

△女子音樂園夏季講習

下澁谷なる女子音樂園にては來る八月一日より向ふ二週間ピアノ、バイオリン、オルガン等の音樂の外、學習院女學部講師和久井氏の西洋料理の夏季講習を開き、科外として裲襠、下田兩女史の講演ある由なり、尙來る九月よりは品川妙華園主河瀨春太郎氏を聘して園藝の講習を開くと云ふ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

新刊紹介

△露伴叢書　幸田露伴著

明治年間に傑出せる文豪にして當代に稀なる一人格を以て稱せられたる理想派の泰斗幸田露伴氏がその靈妙にして深邃なる、高邁にして飄逸なる思想の泉より湧き出したる名作數十種を集め、これを前後二編の一大叢書として今度新たに本館より出でしものなり、前編の部は既發行せられたり卷頭の二日物語、ひげ男を始めとして小説に屬するもの十五種他は隨筆あり、日記文あり、紀行あり、雜筆あり、考證あり感想あり、大凡この文豪の筆に成りたる珍品は收めてこの中にあり、露伴氏近頃文理に筆をとる事稀なりといへども流石は活ける大作家なり、十數年の昔に出でたる一小片作といへどもこれを味へば今日猶新たなる光を放ちて讀者の心胸に活潑なる作用を致さしむるものあり、蓋しこの人の作が讀者を感覺し、啓發し薫化せしむる力の至大なるは天下既に公評あり、今一一これを言はず定價貳圓

△史劇十二曲　山崎紫紅著

著者の明治卅十年から同四十一年の末迄に作つた脚本を纏めて一册となしたもので、中に歌舞伎物語、その夜の石田、信玄最期、亂れ鉦、明智光秀等都合十二齣を取めてある、著者は新進脚本作家として既に定評あり、同好の人は看過すべからざる書であらう、定價金九十五錢、博文館發行、

△科學小説 空中戰爭　高田掌譯著

現今歐洲諸國に於て相競ふて考究中に屬する空中船、或は飛行機の將來の發達を考へ、之れによりて國際間に戰爭のありたる場合を假想して小説的に記述したもので、英國ウエルス氏の「空中戰爭」を骨子として作つたものとか、定價金四十錢、京橋區中橋廣小路梁江堂發行、

△子供の病氣と其手當　ドクトル 淺田榮太郎著

著者は小兒科專門のドクトルなり、小兒に特有せる數百種の病氣を各部類によつて說明し其の原因、容體と手當法とを詳述したるものにて小兒の病氣に就て必要なるは勿論これによつて家庭衞生一斑の知識を修得すべき良書なり、定價壹圓、日本橋本石町寳文館發行。

△算術倶樂部　後藤靜香著

數學は科學の根本にして專門家以外の人にあつては無味乾燥の感なきにあらざれどもこれを學修すれば常識を養ふの捷徑たるべし本書は普通算術書とは聊か類を異にし例題を成可く趣味多きものに取り學修者をして無味に飽かしめざる樣工夫したるものなり、定價四十五錢、寳文館發行。

△モーパッサン短編傑作集　三宅愛譯著

自然家小說家の巨擘と呼ばれたるモ氏の短編中最も優れたるもの數編を譯したるものなり、譯文は生硬の嫌なくすら〳〵として讀むに苦しまざれどところ〳〵惡感や恐怖の念を催さしむるふしあるはモ氏の特色なれば致し方なし、定價五十錢中橋廣小路梁江堂

△東海道旅の友 車窓の名勝觀　神谷有終著

今日は旅行は總れ汽車の便に依る事なれば設令眼前に如何なる名勝舊址があつても總て無意に過ぎて了ふのは甚だ遺憾な話だからといふので著はされたもので新橋より神戸に至る迄の間を汽車中に居て窓外を眺めながら、其の名勝舊跡を知る樣になつてゐると共に又下車して其等を訪れんとするもの丶爲には各驛每に其の附近の各地の案內者となり說明者となりて委しく記述してゐるから、遊覽旅行等を爲さんとする者などには一寸便利の本である、定價金四拾五錢博文館發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

讀者文藝 懸賞募集（〆切八月十五日）

▲婦人盛装の寫眞（結婚前後）

▲大家族の集合寫眞

▲婦人會婦人團體集合寫眞

▲才媛筆蹟（書翰文體の一節）

▲食卓日記

▲各地風俗の變遷

▲笑話▲短文▲和歌▲狂句

▲讀者倶樂部（投稿隨意）

投稿規則◎笑話、和歌、狂句、短文、讀者倶樂部は端書に限る但し一枚の端書に二種以上は採用せず◎筆蹟は書翰文の一節を示す事◎名宛は博文館内「女學世界」とし原稿に其種類を明記する事

▲賞品

△寫眞は甲參圓、乙貳圓、丙壹圓

△筆蹟は甲貳圓、乙壹圓、

△和歌、狂句、短文、笑話、讀者倶樂部――甲壹圓、乙七拾錢、丙五拾錢　秀逸參拾錢

△風俗の記事と食卓日記は特賞拾圓甲賞五圓乙賞參圓

每月一日發行

定價表

一冊（紙數二百八頁）……金二十錢
四冊（三ヶ月分）……前金七十五錢
八冊（半ヶ年分）……前金一圓四十五錢
十六冊（一ヶ年分）……前金二圓八十錢
内（定刊數……十二冊
　増刊四回……一、五、九、十一月價格同一）

郵税　一冊　二錢

廣告料

	特等	一等	二等	三等
廿四字詰一行	……	……	……	五十錢
四半頁	……	……	十圓	七圓半錢
半頁（卅二行）	……	廿三圓	十九圓	十四圓
一頁（六十四行）	五十五圓	四十五圓	三十八圓	二十八圓

▲等級の位置〆切日等御照會次第御報可致候

註文略規

●本館發行の圖書は都て前金の外送本せず
●前金相切れ候節は送本を停止す
●郵券代用は一割増にて五厘一錢の切手に限る
●總目錄御入用の方は二錢券相添申込あれ

不許複製

明治四十二年八月一日發行第九卷第拾號

編輯兼發行人　松原岩五郎
印刷人　山田英二
印刷所　博文館印刷所　東京市小石川區久堅町百八番地
發行所　東京日本橋區本町三丁目　博文館

電話番號　三百三　千十八
本局　二千六百二十番　三千二百廿九番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見よ数百萬の難病者を全治せしめたる旨

電氣帶發明者
サンデン博士之像



奇効可驚
主治効能
眼、耳、鼻、咽喉、船暈
頭痛ニ奇効を奏す
（説明書無代進呈）



登録商標

アクチナ

デンキークリーム

本**クリーム**は米國タウン化粧品會社の最近發明に係り顔面皮膚を艶美にし**キメ**を滑ならしめ且つ白粉代用として最好適品たること天下無比なり

定價（見本送料共八錢　大五拾錢　小參拾錢　送料八錢

サンデン電氣帶

主治効能

神經衰弱諸症—腦神經衰弱—不眠症—胃擴張—胃腸病—常習便秘—消化不良—生殖器衰弱及無氣力—遺精—夢精—早漏—遺尿—腎臟炎—糖尿病—其他一般內臟の衰弱—諸神經痛—坐骨神經痛—頭痛—顔面神經痛—腕部及腰部神經痛—リユーマチス—腰痛—脚氣—婦人諸病—ヒステリー—貧血症—月經不順—子宮病—憂鬱症—脊髓—中氣—產後及病後一般の衰弱症

●本具に依り慢性不治の難病を根治したる實證實に數百萬（説明書無代進呈）

定價

舶來品		
三號帶	附屬共	金八圓
四號帶	同	金拾五圓
五號帶	同	金貳拾圓
六號帶	同	金貳拾五圓
七號帶	同	金參拾圓
和製品		
戊號帶	附屬共	金五圓
丁號帶	同	金七圓
丙號帶	同	金九圓
乙號帶	同	金拾壹圓
甲號帶	同	金拾參圓

探見電燈



定價

大小四圓
形共參圓半
參圓

丙大形壹圓半
丙小形壹圓
送料十二錢

懷中電燈



定價

最上四圓
上等參圓半
並參圓

B形貳圓
替電池八十錢
送料十二錢

營業品目（電話、電鈴、表示器、電球電池其他電氣器具一式卸小賣）
○一丸式ハイローランプ◎凡て代金引換は前金貳割御送附を乞

◎本店（東京市京橋區尾張町二丁目銀座通東側　電話新橋四一二二振替口座東京一八四七三

●支店（大阪市東區心齋橋筋博勞町南入西側　橫濱市相生町四ノ六三　電話一九三一

サンデン電氣商會

女（後付の一）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

坪谷水哉君著

世界漫遊案内

曩に著者自ら歐米を漫遊し、多くの洋行者が行くべき所は勿論、滅多に本邦人の行かぬ所まで、脚達者に駈け廻つて、筆達者に書き記し、一ヶ年かゝつて出來たのが乃ち本書だ。兎もすれば無趣味に流れ易い案内記を、實際經驗の事實で潤色して、百餘種の寫眞をも挿み、親切の案内に正確の記事、見て面白く讀んで裨益多い、今後の洋行者には恰好の案内記で、前日の洋行者には懷想の好伴侶、また海外に往來せざる人々には、坐ながら各國の地理人情風俗を知るべく、娛樂にも研究にも、趣味と實益とを兼ね備へた新著である。

全一册

洋裝四六判特製美本
紙數約七百頁
石版地圖入
コロタイプ口繪四枚
寫眞版百二十餘個
正價金壹圓七十錢
郵稅十錢

文學博士姉崎嘲風君著

花つみ日記

全一册

洋裝四六判上製
美本紙數五百五十頁
正價壹圓參拾錢　郵稅十錢

南イタリアの美國、北スコットの山地、野邊には草花を摘み、古寺に美術の花を賞でし日記一篇その中には湖畔の佛誕會に異國の友を會して佛敎を語り、ロマの寺院に聖敎會の生命活動を視察し、南歐に北歐にあらゆる種類の交友に接したる跡を傳ふ。天然、美術の記錄、宗敎、文明の評論として江湖の一讀を薦む

東京日本橋本町三丁目　博文館　振替口座東京二四〇番

女(後付の二)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

故川上眉山君著

巖谷小波君
石橋思案君
校訂

武内桂舟畫伯裝釘

博文館發行

眉山全集

▼第一卷既刊
▽以下…近刊

全四册洋裝菊判
總クーロス上製頗美本
每卷紙數約八百五十頁

價各壹圓八拾錢
小包料各拾貳錢
全部價六圓廿錢
外に送料を要す

幽艶にして清適なる眉山氏の筆は、眞に明治の華文なり。況んや其想、おのづから當代の重きをなして、而も遒爾として迫らざる所、我文壇の重鎭たり。今や斯人亡くして、其著作單り金聲玉振の響を傳ふ。本書に收めたる諸篇は、孰れも當時文壇をして、眉山氏が絶倫の盛名を擅にせしめたるもの。實に之れ我讀書界に於る珍璧にして、而してまた明治文壇の異彩ある大作家が面影なり。

第一卷目次

▼雪折竹▼大盃▼奥樣▼いさゝ川
▼風流狂言記▼書記官▼船橋▼碧水志
▼お駒▼絃聲▼うらおもて▼柴栗▼逸樂篇
▼有明▼鹿の子絞▼うつせ貝▼黄昏
▼青葉▼島田くづし▼寢覺▼塵影

第二卷目次

▼梅紅葉▼野人▼二重帶▼鶴澤松▼三銃士
▼左卷▼行衞▼一軒百姓▼凡人界

第三卷目次

▼春宵▼荷葉▼綾小袖▼片影▼澪標
▼虚僞の價▼爪木折▼春潮▼相續三人男

第四卷目次

▼新家庭訓 前編▼萬樂▼希望▼裏座敷
▼妖艶▼小妾記▼明眸
▼同 後編▼弱氣質▼仙臺平

『眉山全集』は春陽堂と本館とに於て分割して刊行せる者にして其所載の項目も從て異なり本館發行の分のみにても眉山の大作を網羅せるも全集の名に對しては兩者を合せて完璧となす而して其釘裝も同一なれば之を同架に陳れて少しも外觀を損ふことなし

發兌元 東京市日本橋區本町三丁目 振替東京二四〇番 博文館

女(後付の三)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

小説十二人集

執筆せる所のものは皆之れ當代の名士、收むる所總て十二篇、各ゝ會心の佳什ならざるなく、紅紫錯綜、金碧相映じて、當に是れ名花十二客の妍を競ひ麗を鬪はすにも似たらんか。爰に盛裝して江湖の清鑒を竢つ。

全一册 菊判洋裝
上製美本紙數約四百頁
正價金八拾五錢
郵稅金拾錢

目次

▼子守博士……巖谷小波
▽放火……小栗風葉
▼重債……夏葉女史
▽鬼玄蕃……塚原澁柿
▼細君……柳川春葉
▽朝……德田秋聲
▼迫害……柴田流星
▽楠……岡本綺堂
▼彈正……篠山吟葉
▽はきちがひ……鈴木苔花
▼職業……落合浪雄
▽百花百草……武田櫻桃

發兌元 東京本町 博文館

女（後付の四）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

小山内薫君著

演劇新潮

俳優は讀め！興行主は讀め！好劇家は讀め！

この書は學問の書に非ず、議論の書に非ず、研究の書に非ず。舞臺の組織より俳優の技藝に及び、俳優の技藝より脚本の解剖に及び演劇一切の實際的新思潮を平明なる文章もて叙せる趣味の書なり。

年若き著者が鬱勃たる演劇革新の心願は十數葉の美しき挿畫と共にこの書の紙間に收めらる。

全一册

洋裝四六判總振假名
紙數三百九十頁
正價金五拾五錢
郵稅六錢

東京日本橋本町三丁目 博文館 振替口座東京二四〇番

山崎紫紅君著

史劇十二曲

全一册四六判　總布特製
頗美本　紙數五百四十頁
正價九拾五錢　郵稅八錢

最近二年間に於ける著者勞作の結晶物あり、上場せられて都下劇壇を賑かしたる『歌舞伎物語』『その夜の石田』『亂れ笹』『松一本』『信玄最後』『當流鉢木』『破戒曾我』外に『明智光秀』『戀の洞』『三七信考』その他二篇を收めたり、著者の脚本は所謂机上の臺帳にあらず、如かもまた清新の氣に富みて媚俗の態なし、劇に志ある諸君の一讀を乞ふ

東京市日本橋本町三 博文館 振替口座東京二四〇

(後付の五)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

治庖會本部主事　安西古満子女史著

四季 每日 三食料理法

全四册

菊判和装美本
紙数各二七〇頁
石版口畫入
正價各金五十錢
郵税八錢

(一)春の巻(二)夏の巻（以上既刊）

(三)秋の巻(四)冬の巻（以上近刊）

何れの家庭に於ても毎日三度の献立に就ては主婦が最も苦心する處ならん此の書は之が相談相手たらんがために安西先生が四星霜の間、苦心を以て衛生と經濟とに留意せられ一年三百六十五日毎日三度の豫定献立表をつくられ且つ其料理法は平易の文字を以て反覆叮嚀に記述せられたるものなれば親しく先生に就きて教を受くるに異ならず何人と雖も容易に會得することを得、實に各家庭にはもとより學校及び軍隊に於ても必要缺くべからざる珍書なり。

東京本町　博文館　振替口座東京二四〇番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

文學士 大町桂月君新著

關東の山水

全一册

洋裝四六判上製美本
紙數約五百五十頁
風景寫眞版卅餘圖挿入

正價金壹圓
郵税十錢

露を吮ひ霞を喰い飄々乎として行き悠々然として止まる高山の巓窮谷の底健脚到らぬ隈もなく靈筆縱横關八州の名所細大漏らさず文章山水渾然一致し高士紙表に躍動し雲烟机邊を撩繞し人をして遺世超俗の思あらしむ洵にこれ大町桂月先生獨特の文境加ふるに地圖あり數十葉の寫眞あり中村不折小杉未醒丸山晩霞高村眞夫先生の挿畫あり皆當代の逸品錦山花を添ふるの觀あらむ

今井柏浦君編纂
中村不折君挿畫

最新二萬句

▽俳壇空前の大集出づ△

中判横綴
裝幀雅麗
紙數七百五十頁

正價七拾錢
郵税拾錢

編者柏浦氏の俳諧における造詣頗る深くして別に一隻眼を具せるは世既に定論あり。故を以て曩年氏が『明治一萬句』を纂め『新撰一萬句』を編み、更に『新撰歳事記』を公にするや好評籍甚、何れも江湖の歡迎を博し、殆んど底止する處を知らざるの盛況を呈す。今又本書を公にして更に俳壇に貢献せんと期す、收むる處は最近三ケ年間に於ける所謂子規系に屬する同人の作に係る俳句中の精英優秀なる者、二萬句を蒐録せるもの、蓋し明治俳壇に於ける空前の大集にして眞に代表的唯一の句集也。

東京日本橋本町三丁目 博文館 振替口座東京二四〇番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

最新發明 肺病。肋膜

新藥に就きて

獨逸ドクトル 高平醫學博士（醫事週報二一七號報告再錄）

新治療劑主藥の諸結核による熱度下降は可驚著効あり四十度を示す熱は本藥應用後は常溫下に減じ患者は藥劑が無味なるを喜び之が服用を嫌忌せず食慾を增進す

右の外本劑の著効ある事は既に諸家の試驗報告及賞讚により明らかなれども今本院服藥患者につき其成績を左に報ぜん

●金森某（德義上住所姓名を秘す）**兩肺結核**に陷り咳嗽たん盜汗女子三年前發病途に末期重症の動悸呼吸不利。不眠。發熱激しく度々咯血し非常に羸痩す服藥壹週頑固なる熱を去り咳嗽咯痰を輕快す服藥貳週咯血やみ臥蓐せしもの屋外に出で日光に暖をとるに至る連用三十日病全く治し食慾進み體重を增加せり

●兵頭某卅一歲男**肋膜炎**（咯血無し肺病初期の疑あり）胸痛み食不振身體倦怠盜汗。咳嗽。頭痛あり身體羸痩を見る卅九度に至る發熱あり服藥五日奏効あり二週にして全治す僅々二週にて全治する如きは病輕症なるに因るとは云へいかに新治療劑が肺病。肋膜。肺炎。肺尖加答兒。氣管支加答兒。腹膜結核等の諸症に對し可驚効力ある全治藥なるを知らん以下病歷を細述する時は冗長に亘るを以て左の通略式とす

患者	性	病名	成績
三村	男	兩肺結核	全治
中川	男	肺尖加答兒	無効
松信	男	結核性肋膜及腹膜炎	全治
笠井	女	肋膜炎	全治
上野	男	右肺結核及腸結核	全治

患者	性	病名	成績
籠谷	男	兩肺結核末期	全治
宮本	女	結核性肋膜炎	全治
岡田	男	氣管支加答兒及肺炎	微効
阿崎	男	右肺結核及腹膜結核	全治
神村	男	肺結核初期	全治

斯の如き好成績は從來の藥物に於て見る能はず我國藥劑界名譽の發明藥として報告する義務あるを信ず本劑は元藥一ポンド六十圓の高價藥なるに關らず一週貳圓二週參圓九十錢參週五圓七拾錢四週七圓貳拾錢に經濟の許す限りの藥價を以て分藥する者にて利益專一の賣藥に非ず又効力多大にして從來の醫藥賣藥の如き長き服藥無して全治す殊に**咯血**と其豫防に可驚効あり又他藥と混服害なき故醫藥の傍ら服用妙ならん本藥入用患者は東京神田區大工町十三番地療養院製藥所**村尾明治堂**（振替口座東京壹四參壹九番）へ右料金添へ申込あらば至急送藥す吾人は病者に向つて新治療劑は現今に於て完全なる發明藥なるを紹介し安心服藥せん事を勸むると共に醫師は自家患者に本劑を投藥せん事を勸告す

●又服藥希望なき患者も遠慮なく送料郵券二錢添申込あらば新治療法の書を無代貰ひ受け是非一讀あれ益する處多からん

海賀變哲君編

新式小說辭典

全一冊　洋裝三六判　總布製金字入美本　紙數千〇十六頁

本書の內容は、遠くは春の家朧氏が書生氣質時代より、近くは二葉亭氏が平凡の時代に至るまでの間、千有餘の著作中より、當時傑作と稱せられたるもの三百餘篇を選み、絢爛の辭句、巧妙の敍事、輕快の會話等を拔萃し、之を容姿、扮裝、動作、會話、敍情、敍景、構造、敍事、怪異、滑稽の十門に分類したるものにして、且つ其の字句も、片言隻語に止まらず、短きも原作の二三行、長きは二三頁に亘りて拔萃し、所々に原作の梗概をも附記したれば、始めて小說をものせんとする者の、座右常に欠く可からざるは勿論、一の美文集として、各作家の作風を窺知するを得べき、近來の好辭典なり……

正價壹圓廿錢　郵稅拾貳錢

東京本町　博文館發行

女（後付の八）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎胃弱家夏の衛生を如何にすべきや

夏は人の胃が弱り筋力弛んで食進まず身體がダルクなる水アタリ食アタリ其他の流行病の多のは之が爲である今より胃の弱い人は醫界の大家が健胃劑の兩雄と推奨せらる、胃活及胃活錠を持藥として胃を強くし以て百病を未發に防ぎ玉へ

陸海軍醫五名

合議製劑

胃病新藥



●効能 胃弱・溜飲・胃痛・腹痛・胸痞・食傷・胃加答兒・消化不良・惡心嘔吐・宿醉・慢性胃弱等胃病一切に効あり

胃活錠は胃活を加減して目下歐米に流行する新式の錬劑となしたるものなり

●定價
胃活錠 ○壹圓 ○五拾錢 ○貳拾錢
胃活 ○壹圓○六拾五錢○四拾五錢○廿五錢○拾錢

(第一)(第二)

◎何ゼ此ンナ目藥ガ出來タカ

醫學と藥學は年々進歩して行くから後に出來た物は自然に善ひ物が出來る道理であります

後から出來た物は先に出來た物よりも善ひ物で無くては今日の世の中で競爭は出來ぬ

井上博士處方

大前藥學士督製



効能 のぼせ目、はやり目、**トラホーム**、ほし目、ち目、たゞれ目、つかれ目、こり目、かわき目、つき目、かすみ目、ごろごろする目、はれ目、めぼし、くもり目、ものもらい、黑玉たゞれ等に奇効あり但しそこひには効なし

特色 **ロート**眼藥には消毒したる布と新案の點眼器を添付しあり

定價 大瓶 廿錢 小瓶 十錢

發賣本舗 東京銀座一丁目廿三番地 大阪南久寶寺堺筋東 山田安民藥房

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女學世界

明治四十二年八月一日發行（毎月一回一日發行）

第九卷第拾號

明治卅三年十二月廿五日第三種郵便物認可

乳白化粧水

レート



「川風は格別だわネ」「川風も好いけど、朝や湯上りにレートつけると、清々して綺麗になるんで妾レートぐらゐ氣に入つたものなくツてよ」「さうよ恰で涼み船に居るやうな心地になることネ」

小林寫眞館撮影（禁轉載）

（定價金貳拾錢●郵税貳錢）

VOL. IX. （東京市日本橋區本町三丁目博文館發行） No.10

監修
小山静子　KOYAMA Shizuko
京都大学大学院教授

女学世界（じょがくせかい） 明治期復刻版⑥⑨
明治42年7月（第9巻第9号）、8月（第9巻第10号）

2009年12月10日　第1刷発行　　定価（本体20,000円+税）

監　修　小山静子
発行者　富澤凡子
発行所　柏書房株式会社
東京都文京区本駒込1-13-14（〒113-0021）
電話　03-3947-8251［営業］03-3947-8254［編集］
協　力　株式会社博文館新社
印　刷　株式会社友美社
製　本　有限会社青木製本

ISBN978-4-7601-3734-3　C3321

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

A 1,134,300

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN